

全員協議会提出議題

日時 令和6年1月19日（金）

本会議終了後

1 報告事項

- (1) 令和5年度厚木市民意識調査報告書について（資料1）

【広報課】

- (2) 工事請負契約の締結について（資料2）

【契約検査課】

- (3) EV（電気自動車）及びEVインフラ普及促進に係る協定の締結について（資料3）

【環境政策課】

- (4) 書家・金澤翔子展の実施結果について

- ・実施期間12月21日～26日、来場者数約1,700人

【文化生涯学習課】

- (5) 令和5年歳末火災特別警戒の実施結果について

- ・実施期間12月25日～31日、警戒期間中の火災発生件数0件

【警防課】

- (6) 令和6年厚木市はたちのつどいの実施結果について

- ・実施日1月8日、参加者数約1,600人

【青少年課】

- (7) 令和6年厚木市消防出初め式の実施結果について

- ・実施日1月14日、来場者数約400人

【警防課】

2 その他（資料配布のみ）

行事予定

- (1) あつぎ郷土博物館開館5周年記念事業の実施について（資料）

- ・実施期間 1月28日～2月25日

【文化財保護課】

- (2) 観光イベント（アツギアウトドアスタイル）の開催について（資料）

- ・実施日 2月17日

【観光振興課】

令和5年度 厚木市民意識調査報告書について

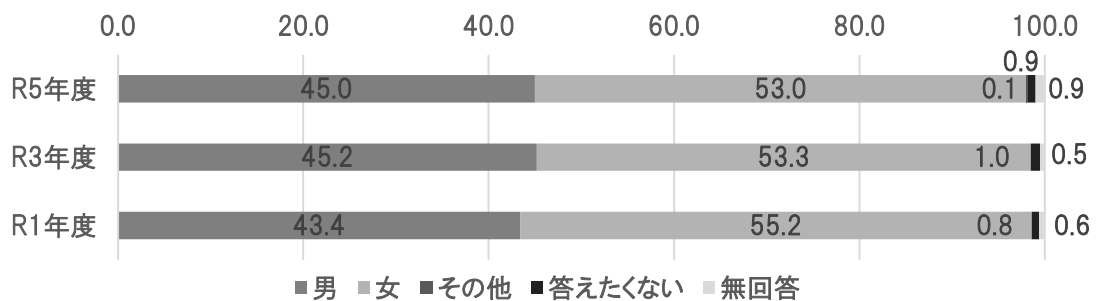
- 1 調査目的 市民の皆様のまちづくりに対する考えや生活に密着した事項について、市民の皆様の意識やニーズを的確に把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とすることを目的に実施しています（隔年で実施しています。）。
- 2 調査期間 令和5年7月1日（土）～7月20日（木）
- 3 調査方法 郵送配布・郵送回収又はインターネット回答
- 4 調査対象 無作為に抽出した18歳以上の市民（外国籍市民含む。）6,000人
- 5 回収結果 2,859人（47.7%）

調査票A：1,446人(48.2%) 郵送回収1,053人、インターネット回答393人
 調査票B：1,413人(47.1%) 郵送回収1,061人、インターネット回答352人

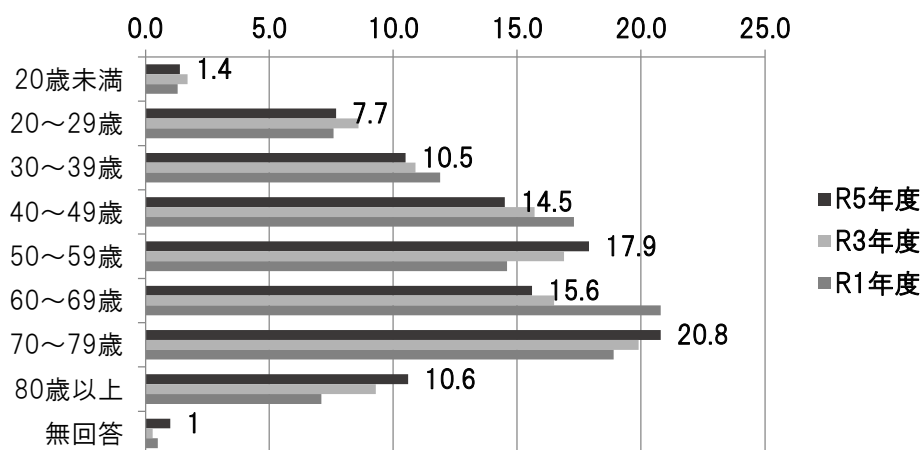
年度	対象者数	回収数	回収率
R5年度	6,000人	2,869人	47.7%
R3年度	6,000人	3,275人	54.6%
R1年度	6,000人	3,005人	50.1%

- 6 調査項目 15分野46問（AB調査票共通項目5問+A21問・B20問）
- 7 回答者の属性

（1）性別（令和5年度調査から「その他」を追加）



（2）年齢



厚木市民意識調査報告書

令和6年1月

厚木市

I. 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3
6 標本誤差	4
II. 回答者の属性	
1 回答者の属性	
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 家族構成	7
(4) 居住地区	8
(5) 住居形態	8
(6) 居住年数	9
(7) 職業	9
(8) 通勤（通学）先	10
(9) 最寄駅	10
III. 意識調査結果	
1 暮らしの状況	
(1) 定住意向	13
(2) 住み続けたい理由	17
(3) 市外に移りたい理由	20
2 市の現状と将来	
(1) 市の現在のイメージ	23
(2) 市の将来のイメージ	26
3 感染症	
(1) 感染症の影響下において心配・不安に思うこと	29
(2) 感染症の影響下において新たに取り組んだこと	32

目次

4	子育て・福祉・健康	
(1)	子どもを産み育てられる環境を整える取組	35
(2)	地域包括ケア社会の実現への取組	38
(3)	がん検診の受診状況	41
(4)	自殺予防の対策	44
(5)	かかりつけ医	46
5	安全・防災	
(1)	本厚木駅周辺の治安	48
(2)	防犯対策に効果的な取組	51
(3)	セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり	54
(4)	地域の防犯活動への参加	57
(5)	身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当	59
6	人権	
(1)	人権侵害を受けた経験	63
(2)	人権や差別に対する関心	65
7	国際交流	
(1)	国際交流の取組	68
8	教育・生涯学習・文化・スポーツ	
(1)	現在の教育への取組	71
(2)	文化芸術活動を充実させる取組	74
(3)	生涯学習活動に参加する上で支障になること	77
(4)	スポーツをする目的・頻度	80
(5)	開催してほしいスポーツイベント	88
9	環境	
(1)	地球温暖化防止への取組	91
(2)	資源とごみの分別	94
(3)	ごみの減量化・資源化の推進	96
(4)	河川整備への取組	99
10	観光	
(1)	観光の活性化への取組	103

11	まちづくり	
(1)	まちづくり全般の変化	106
(2)	日常利用する施設の場所	127
(3)	自宅周辺に必要な施設	131
(4)	本厚木駅周辺のイメージ	135
(5)	仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと	138
(6)	将来的なまちづくりで優先的に必要な取組	141
12	交通・道路	
(1)	本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段	144
(2)	本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	148
(3)	市内のバス交通への取組	149
(4)	市内の道路の現状	153
(5)	道路整備への取組	157
13	広報	
(1)	家庭で利用する情報機器	161
(2)	市の情報の入手方法	164
14	行政	
(1)	市の施設の利用料	167
(2)	行政サービスの情報化推進への取組	169
(3)	より良い市民サービスを維持していく取組	172
(4)	市に必要な施設	174
(5)	市の施設の利用状況	177
15	自由意見	
(1)	本調査や市に関する意見	179
IV.	調査票と集計結果	
1	調査票 (A)	187
2	調査票 (B)	199

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に密着した事項について、市民の意識や市民ニーズを把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- | | | |
|---------------|---------------------|------------|
| (1) 暮らしの状況 | (6) 人権 | (11) まちづくり |
| (2) 市の現状と将来 | (7) 国際交流 | (12) 交通・道路 |
| (3) 感染症 | (8) 教育・生涯学習・文化・スポーツ | (13) 広報 |
| (4) 子育て・福祉・健康 | (9) 環境 | (14) 行政 |
| (5) 安全・防災 | (10) 観光 | |

3 調査設計

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女（外国籍市民含む） |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：3,000人
調査票B：3,000人 総対象6,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法（年代及び居住地区は全体の構成比に基づく） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和5年7月1日～7月20日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|--|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：1,446人（郵送回収1,053人、インターネット回答393人）
調査票B：1,413人（郵送回収1,061人、インターネット回答352人）
総回収：2,859人（郵送回収2,114人、インターネット回答745人） |
| (2) 回収率 | 調査票A：48.2%
調査票B：47.1%
平均：47.7% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（Number of Casesの略）は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が20に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- (7) 集計結果の比率を考察する上では、割合表現を以下のとおりとした。ただし複数の選択肢または年代などの項目をまとめて考察する場合は必ずしもこの限りではない。

回答の比率（例）	割合表現	回答の比率（例）	割合表現
20.0%	2割	24.0%～25.9%	2割半ば
20.1%～20.9%	約2割	26.0%～27.4%	2割半ばを超え
21.0%～22.4%	2割を超え	27.5%～28.9%	3割近く
22.5%～23.9%	2割半ば近く	29.0%～29.9%	約3割

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団（厚木市全域に住む満18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 （厚木市の満18歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 p = 回答の比率（%）

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。（この表の計算式の信頼度は95%）

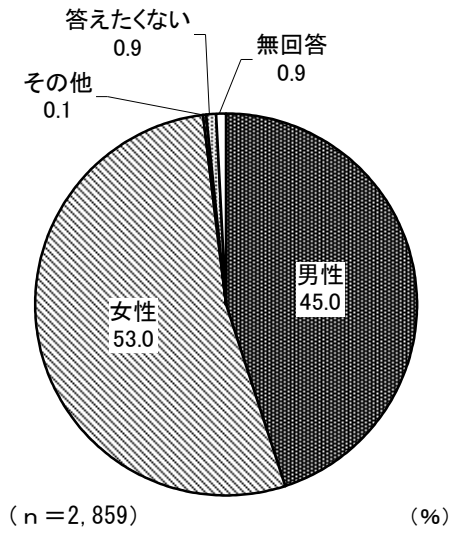
n (基数)	回答比率				
	90%または10%	80%または20%	70%または30%	60%または40%	50%
2,859票	±1.10	±1.47	±1.68	±1.80	±1.83
1,446票	±1.55	±2.06	±2.36	±2.53	±2.58
1,413票	±1.56	±2.09	±2.39	±2.55	±2.61
1,000票	±1.86	±2.48	±2.84	±3.04	±3.10
500票	±2.63	±3.51	±4.02	±4.29	±4.38
300票	±3.39	±4.53	±5.19	±5.54	±5.66
100票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

例えば、問1の「厚木市に住み続けたいですか。」という質問に対して、「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた『転出意向』のある人は、2,859人のうち8.4%であった。回答者数が2,859人、回答率が10%前後のときの標本誤差は、上の表では±1.10%であるから、『転出意向』のある人は、厚木市在住の18歳以上の男女全体（母集団）の7.30%から9.50%の間にあると推定できる。（信頼度が95%のため、この推定は95%の確率で正しいといえる。）

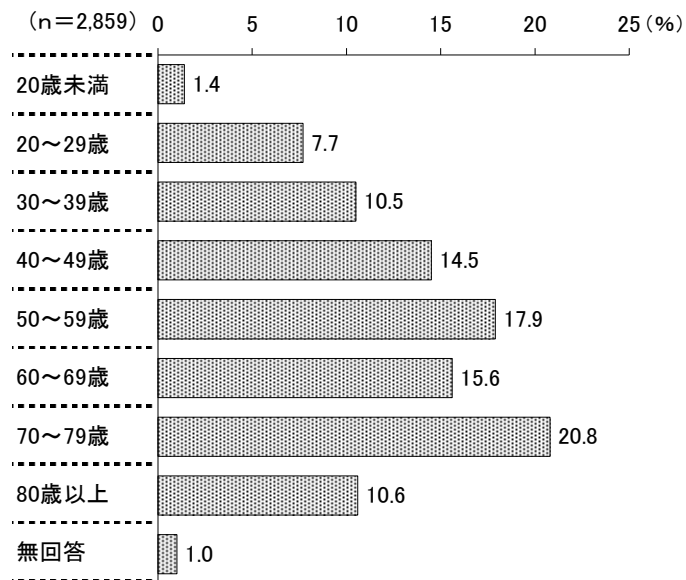
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

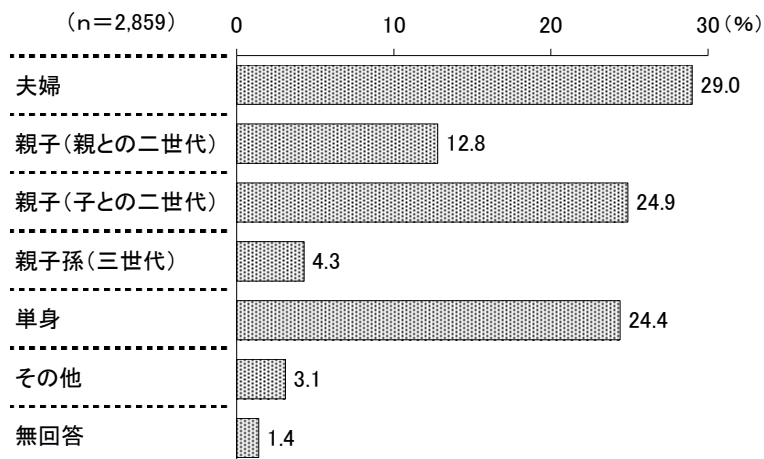
(1) 性別



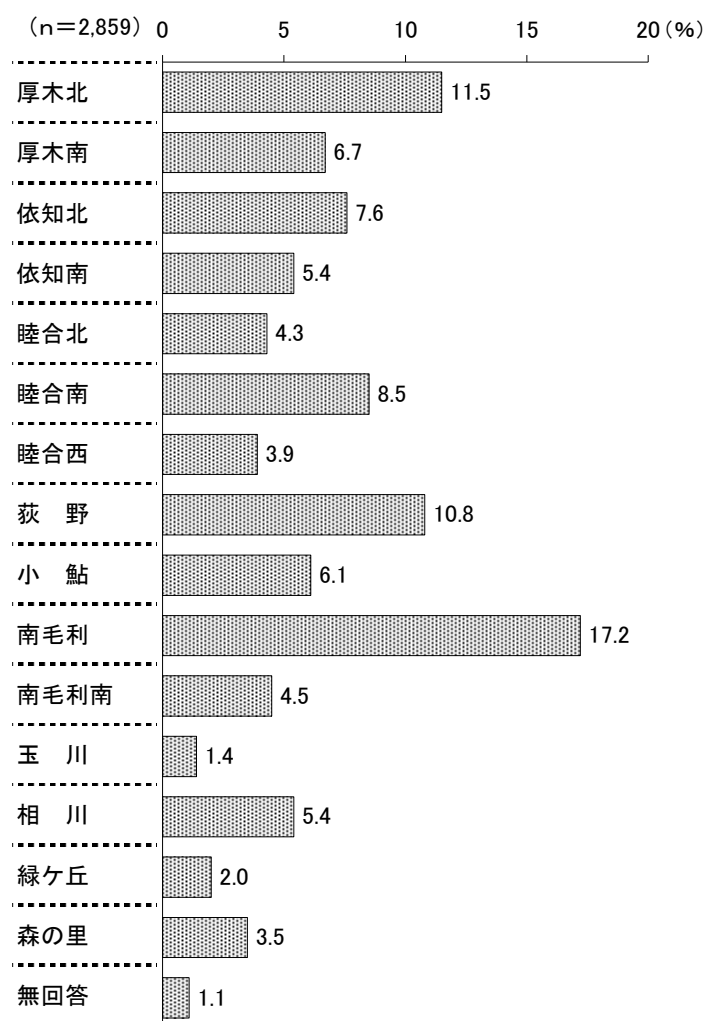
(2) 年齢



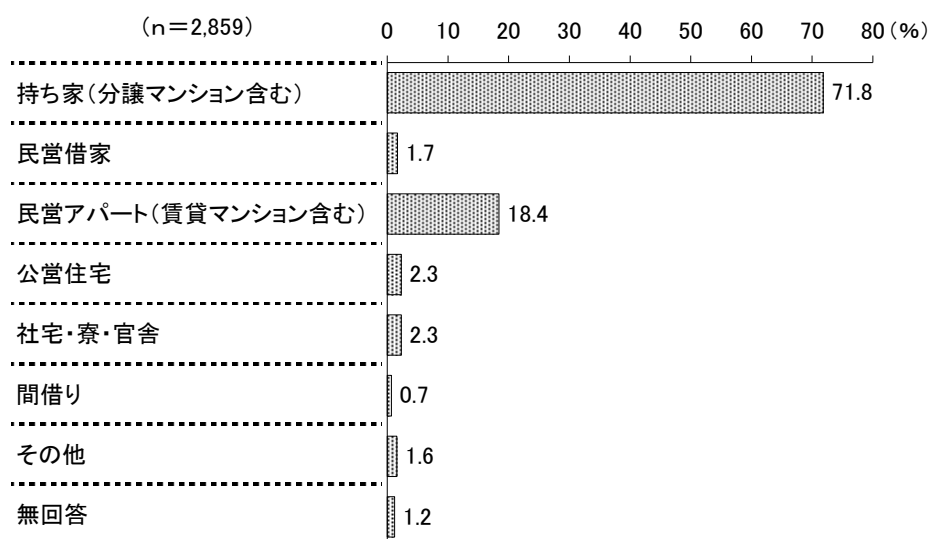
(3) 家族構成



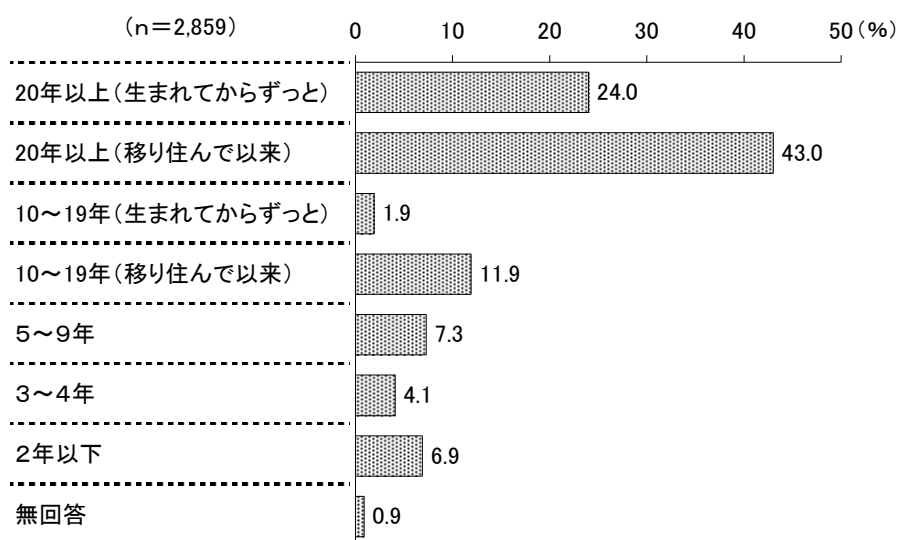
(4) 居住地区



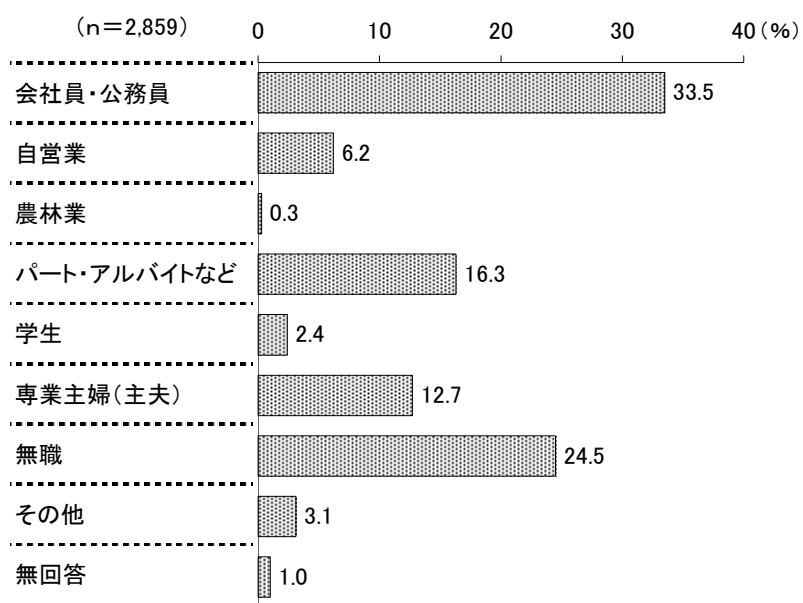
(5) 住居形態



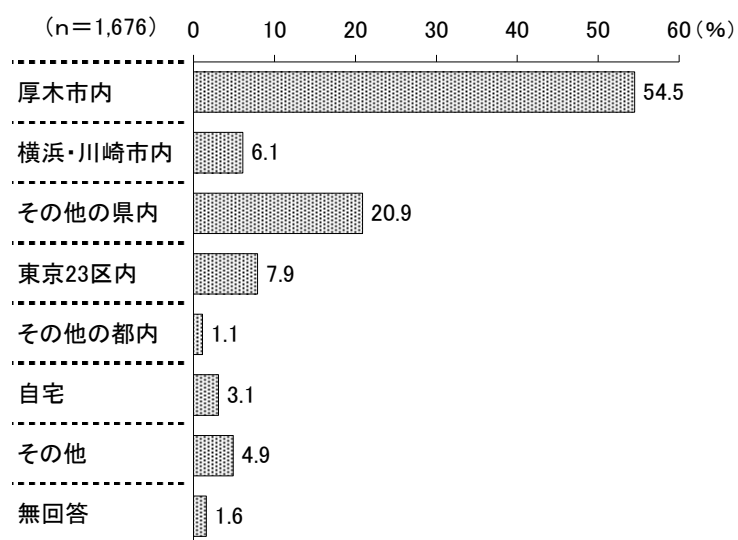
(6) 居住年数



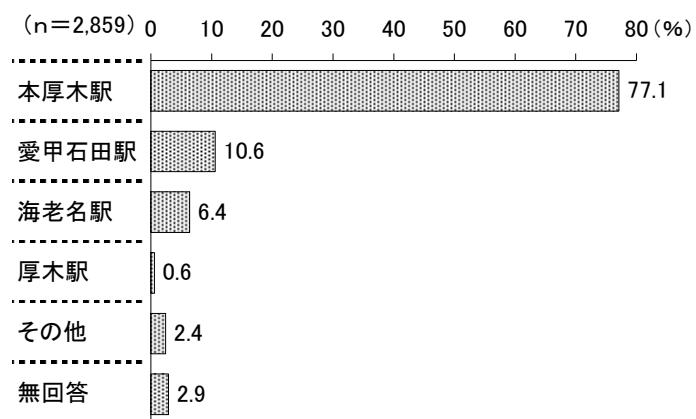
(7) 職業



(8) 通勤（通学）先



(9) 最寄駅



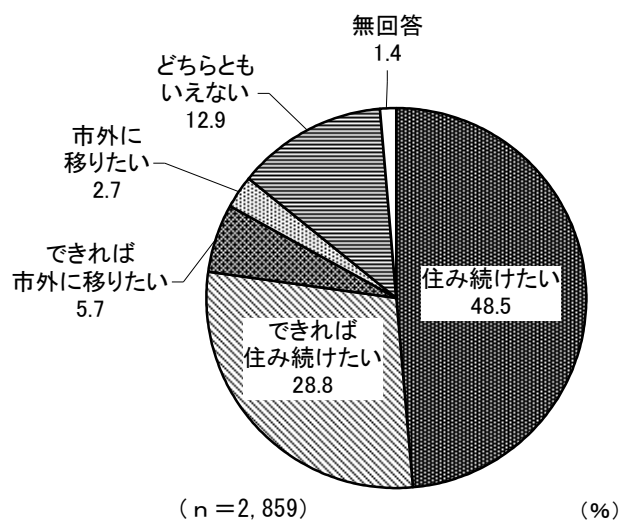
Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)

問. 厚木市に住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)

図1-1-1 定住意向



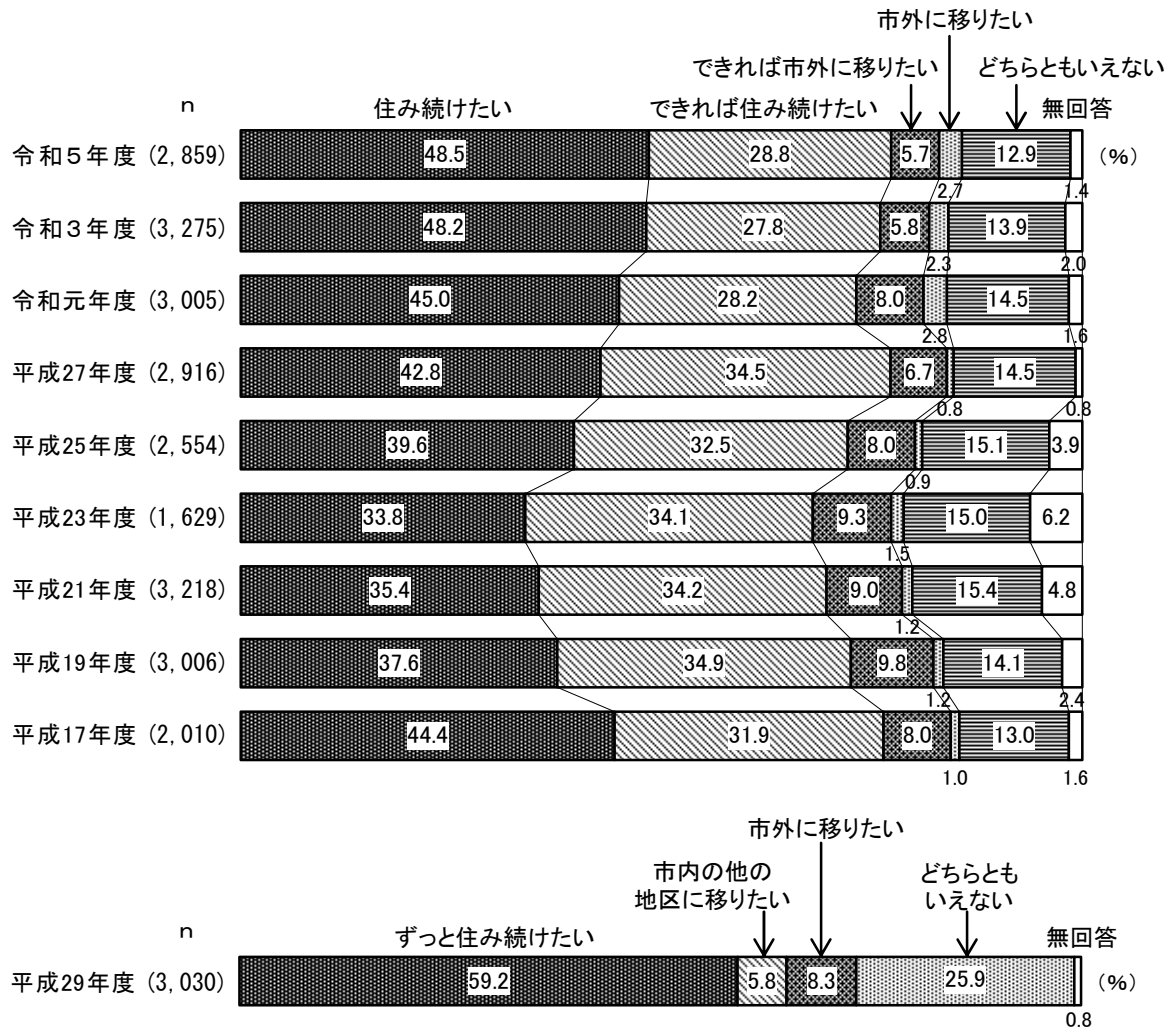
【全体】

厚木市への定住意向について聞いたところ、「住み続けたい」(48.5%)と「できれば住み続けたい」(28.8%)の2つを合わせた『定住意向』(77.3%)が7割半ばを超えて高くなっている。一方、「できれば市外に移りたい」(5.7%)と「市外に移りたい」(2.7%)の2つを合わせた『転出意向』(8.4%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図1-1-2 定住意向—経年変化



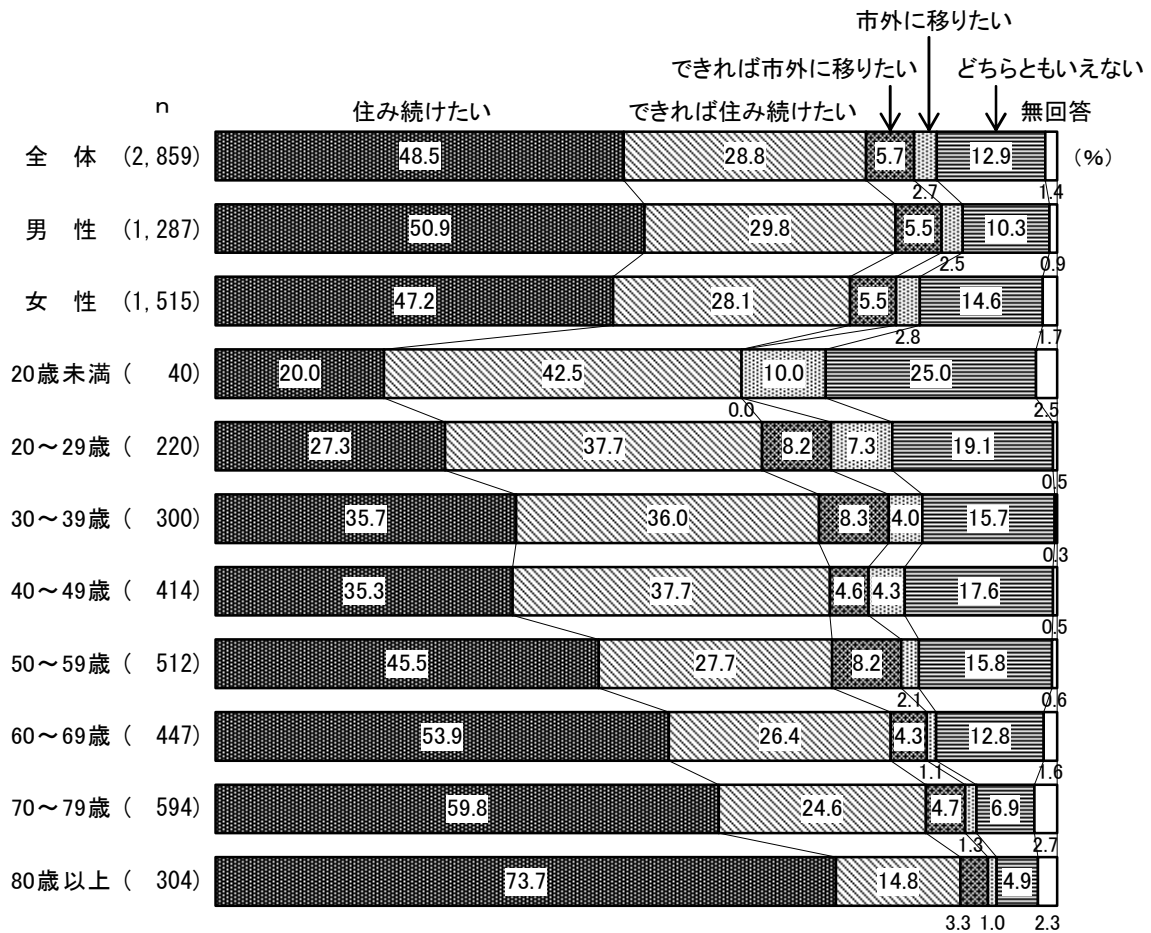
(注)平成29年度調査では、「現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)」と質問しており、選択肢を「ずっと住み続けたい」、「市内の他の地区に移りたい」、「市外に移りたい」、「どちらともいえない」としていたため、平成29年度の調査結果は参考掲載とする。

【属性別】

性別で見ると、男性では『定住意向』（80.7%）が女性（75.3%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『定住意向』は80歳以上（88.5%）で9割近く、70～79歳（84.4%）で8割半ば、60～69歳（80.3%）で約8割と高くなっている。

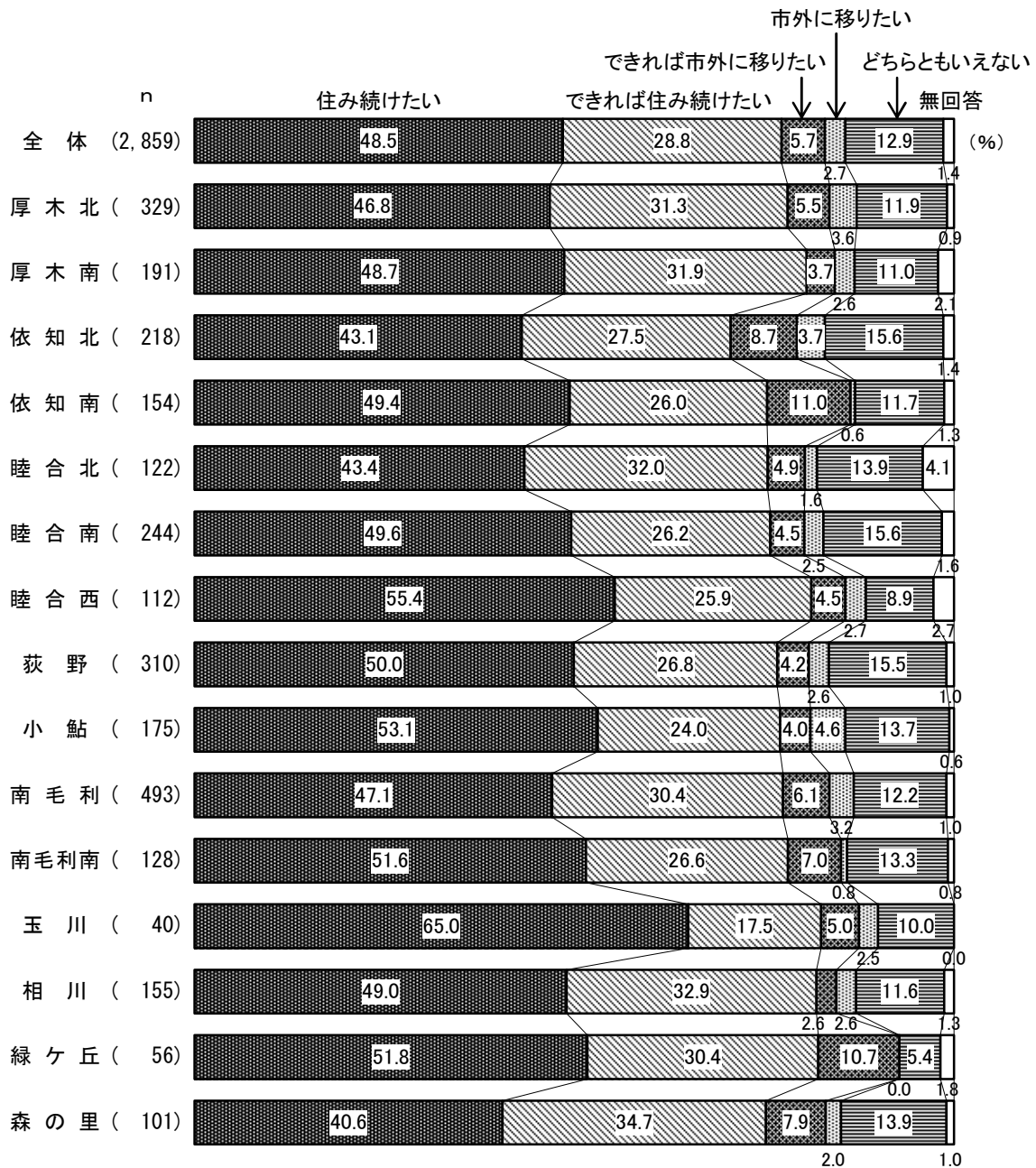
図1-1-3 定住意向—性別、年齢別



【属性別】

居住地区別で見ると、『定住意向』は玉川（82.5%）で8割半ば近くと最も高く、次いで緑ヶ丘（82.2%）で8割を超えている。一方、依知北（70.6%）では約7割にとどまっている。

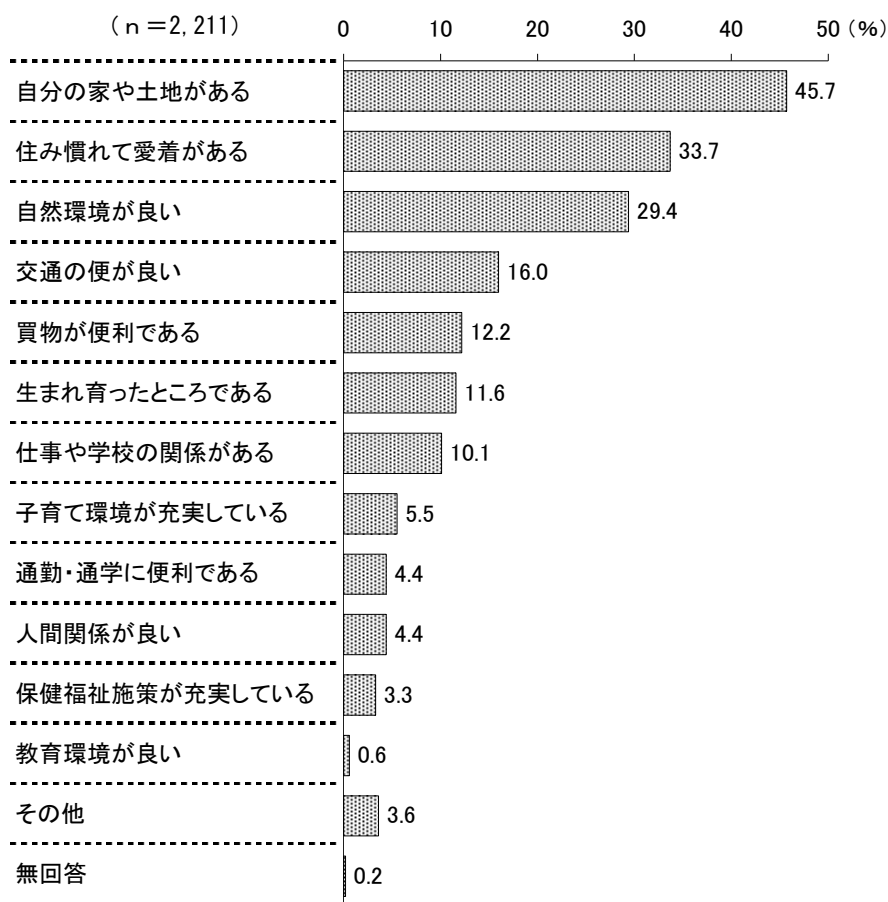
図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B:問2)

問.「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。
(2つまで選んでください)

図1-2-1 住み続けたい理由



【全体】

厚木市に「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と答えた2,211人に、住み続けたい理由について聞いたところ、「自分の家や土地がある」(45.7%)が4割半ばで最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(33.7%)、「自然環境が良い」(29.4%)、「交通の便が良い」(16.0%)、「買物が便利である」(12.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位4項目は令和3年度調査と同じ順位となっており、「自然環境が良い」(29.4%)は令和3年度調査(32.7%)より3.3ポイント減少している。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

調査年	n	(%)													
		自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	生まれ育ったところである	仕事や学校の関係がある	子育て環境が充実している	通勤・通学に便利である	人間関係が良い	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
令和5年度	2,211	45.7	33.7	29.4	16.0	12.2	11.6	10.1	5.5	4.4	4.4	3.3	0.6	3.6	0.2
令和3年度	2,492	43.3	33.2	32.7	16.2	10.9	11.6	9.0	6.9	4.1	4.6	4.0	1.2	3.3	0.3
令和元年度	2,201	46.8	35.5	26.4	15.5	9.8	12.7	10.1	6.7	5.0	4.7	3.5	1.3	3.2	0.3
平成29年度	1,793	45.2	32.3	29.7	18.5	11.7	11.5	6.4	4.0	4.4	7.3	3.1	1.1	2.3	0.4
平成27年度	2,253	48.9	33.5	27.9	14.0	8.6	14.4	9.5	8.5	3.6	5.6	2.5	0.6	2.9	1.0
平成25年度	1,842	44.1	32.2	32.0	15.0	9.9	13.4	9.3	5.1	4.5	5.3	3.5	0.5	3.3	0.8
平成23年度	1,106	52.8	33.4	31.0	12.6	6.6	13.5	9.0	4.4	5.2	6.1	2.9	0.4	3.4	2.3
平成21年度	2,237	54.7	35.0	29.8	12.5	7.3	14.9	9.4	-	3.6	5.7	2.8	1.2	2.0	0.7
平成19年度	2,178	53.9	35.2	30.9	10.1	9.1	15.2	8.3	-	2.9	7.0	3.4	0.6	1.7	2.2
平成17年度	1,534	53.4	42.6	27.4	11.3	8.7	25.2	6.4	-	2.4	5.3	2.4	0.7	1.0	0.3

(注1) 平成29年度調査では、現在住んでいる地区に「ずっと住み続けたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が充実している」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「住み慣れて愛着がある」(36.3%)が男性(31.3%)より5.0ポイント高くなっている。一方、男性では「自然環境が良い」(31.3%)が女性(27.9%)より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自分の家や土地がある」は60～69歳(54.6%)と70～79歳(56.5%)で5割台と高くなっている。「住み慣れて愛着がある」は70～79歳(38.7%)で4割近くと高くなっている。「生まれ育ったところである」は20歳未満(44.0%)で4割半ばと高くなっている。

居住年数別で見ると、「自分の家や土地がある」は20年以上(移り住んで以来)(54.4%)で5割半ばと高くなっている。「住み慣れて愛着がある」は20年以上(移り住んで以来)(43.5%)で4割半ば近くと高くなっている。「自然環境が良い」は5～9年(33.1%)で3割半ば近くと高くなっている。「生まれ育ったところである」は20年以上(生まれてからずっと)(34.7%)で3割半ばと高くなっている。

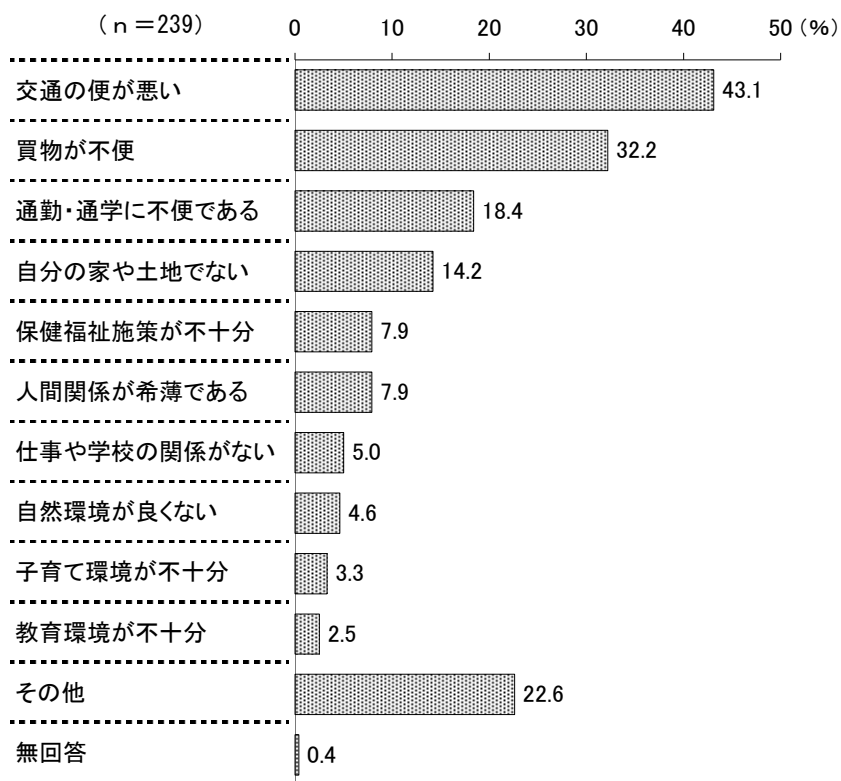
表1-2-2 住み続けたい理由一性別、年齢別、居住年数別

		n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	生まれ育ったところである	仕事や学校の関係がある	子育て環境が充実している	通勤・通学に便利である	人間関係が良い	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
全体		2,211	45.7	33.7	29.4	16.0	12.2	11.6	10.1	5.5	4.4	4.4	3.3	0.6	3.6	0.2
性別	男性	1,039	45.0	31.3	31.3	16.7	10.9	12.7	10.1	3.8	5.6	3.6	3.6	0.6	4.6	0.2
	女性	1,141	46.4	36.3	27.9	15.3	13.3	10.5	10.3	7.0	3.2	5.0	3.2	0.7	2.6	0.2
年齢別	20歳未満	25	20.0	32.0	24.0	16.0	8.0	44.0	16.0	4.0	8.0	12.0	4.0	0.0	4.0	0.0
	20～29歳	143	18.2	33.6	16.8	16.8	22.4	20.3	21.0	15.4	11.2	3.5	3.5	0.7	0.7	0.0
	30～39歳	215	33.0	29.3	19.1	21.9	12.6	12.6	16.7	21.4	9.3	2.3	0.5	0.9	3.7	0.5
	40～49歳	302	41.7	25.8	29.5	18.5	12.3	12.9	18.2	11.9	7.0	2.0	1.0	1.3	3.6	0.0
	50～59歳	375	43.7	32.8	25.6	17.1	11.2	13.3	16.8	2.7	5.6	3.7	2.1	0.3	4.0	0.0
	60～69歳	359	54.6	36.5	28.4	16.2	10.0	8.9	8.1	0.6	2.5	4.2	4.2	0.6	4.2	0.3
	70～79歳	501	56.5	38.7	37.5	12.2	10.4	8.6	0.8	0.6	0.8	5.0	4.8	0.0	3.2	0.2
	80歳以上	269	49.1	36.1	36.1	13.4	13.8	8.6	0.4	0.4	0.7	7.8	5.9	1.5	4.5	0.0
居住年数別	20年以上(生まれてからずっと)	574	49.3	35.0	24.2	10.8	6.3	34.7	7.7	4.4	1.6	3.8	2.3	0.9	2.1	0.2
	20年以上(移り住んで以来)	986	54.4	43.5	31.4	15.3	10.8	2.9	5.6	1.9	2.6	4.8	3.4	0.4	3.0	0.2
	10～19年(生まれてからずっと)	38	34.2	31.6	21.1	7.9	13.2	28.9	15.8	5.3	0.0	5.3	5.3	0.0	10.5	0.0
	10～19年(移り住んで以来)	242	37.2	27.3	31.0	19.4	13.6	3.7	19.0	11.2	7.4	4.5	3.3	1.2	4.5	0.0
	5～9年	145	26.2	11.7	33.1	24.8	24.8	1.4	15.2	15.2	8.3	4.1	4.1	0.7	4.1	0.7
	3～4年	82	20.7	13.4	30.5	28.0	23.2	1.2	20.7	13.4	11.0	3.7	2.4	1.2	8.5	0.0
	2年以下	120	20.0	4.2	30.0	24.2	23.3	2.5	26.7	11.7	17.5	2.5	6.7	0.0	7.5	0.0

(3) 市外に移りたい理由 (A・B:問3)

問.「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。(2つまで選んでください)

図1-3-1 市外に移りたい理由



【全体】

「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた239人に、市外に移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(43.1%)が4割半ば近くで最も高く、次いで「買物が不便」(32.2%)、「通勤・通学に不便である」(18.4%)、「自分の家や土地でない」(14.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位4項目は令和3年度調査と同じ順位となっている。

表1-3-1 市外に移りたい理由—経年変化

調査年	n												(%)
		交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	保健福祉施策が不十分	人間関係が希薄である	仕事や学校の関係がない	自然環境が良くない	子育て環境が不十分	教育環境が不十分	その他	無回答
令和5年度	239	43.1	32.2	18.4	14.2	7.9	7.9	5.0	4.6	3.3	2.5	22.6	0.4
令和3年度	264	40.5	31.1	18.2	12.5	6.1	6.8	6.8	4.5	1.1	1.9	27.3	0.8
令和元年度	322	47.5	32.3	27.6	9.9	7.5	7.1	3.7	6.8	1.2	6.5	21.1	0.3
平成29年度	427	44.7	39.1	16.4	14.1	7.5	6.6	4.0	8.0	2.1	1.9	21.8	1.4
平成27年度	217	39.2	31.3	20.3	11.1	6.5	12.4	6.0	8.3	6.5	4.6	24.4	0.5
平成25年度	227	38.3	31.3	19.4	14.1	5.3	11.9	4.0	3.5	1.3	3.1	30.8	0.0
平成23年度	177	41.2	29.4	22.0	14.1	6.2	8.5	5.6	8.5	7.9	6.2	22.6	2.8
平成21年度	329	45.0	33.1	19.5	10.6	8.5	10.3	5.2	12.2	-	10.6	18.5	0.3
平成19年度	331	42.3	25.4	26.0	10.0	9.1	7.6	5.4	12.4	-	10.9	23.6	0.3
平成17年度	182	45.1	33.5	28.0	3.8	9.3	6.0	7.1	12.6	-	8.8	23.6	0.0

(注1) 平成29年度調査では、現在住んでいる地区から「市内の他の地区に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が不十分」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「交通の便が悪い」（47.2％）が男性（37.9％）より9.3ポイント、「買物が不便」（36.2％）が男性（30.1％）より6.1ポイント高くなっている。一方、男性では「自分の家や土地でない」（17.5％）が女性（12.6％）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「交通の便が悪い」は70～79歳（61.1％）で6割を超えて高くなっている。「買物が不便」は70～79歳（50.0％）で5割と高くなっている。「通勤・通学に不便である」は20～29歳（50.0％）で5割と高くなっている。

居住年数別で見ると、「交通の便が悪い」は20年以上（移り住んで以来）（51.7％）で5割を超えて高くなっている。「買物が不便」は20年以上（移り住んで以来）（44.9％）で4割半ばと高くなっている。「通勤・通学に不便である」は20年以上（生まれてからずっと）（26.2％）で2割半ばを超えて高くなっている。「自分の家や土地でない」は2年以下（29.6％）で約3割と高くなっている。

表1-3-2 市外に移りたい理由—性別、年齢別、居住年数別

			(%)											
		n	交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	保健福祉施策が不十分	人間関係が希薄である	仕事や学校の関係がない	自然環境が良くない	子育て環境が不十分	教育環境が不十分	その他	無回答
全 体		239	43.1	32.2	18.4	14.2	7.9	7.9	5.0	4.6	3.3	2.5	22.6	0.4
性別	男 性	103	37.9	30.1	18.4	17.5	5.8	6.8	1.9	3.9	1.9	1.0	29.1	0.0
	女 性	127	47.2	36.2	18.1	12.6	9.4	9.4	7.1	4.7	3.9	2.4	17.3	0.8
年齢別	20 歳 未 満	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	20 ～ 29 歳	34	35.3	5.9	50.0	11.8	0.0	2.9	14.7	2.9	5.9	0.0	17.6	2.9
	30 ～ 39 歳	37	35.1	24.3	16.2	24.3	2.7	2.7	2.7	5.4	8.1	0.0	32.4	0.0
	40 ～ 49 歳	37	37.8	18.9	18.9	21.6	5.4	5.4	5.4	2.7	2.7	8.1	24.3	0.0
	50 ～ 59 歳	53	47.2	41.5	11.3	7.5	15.1	9.4	1.9	3.8	3.8	1.9	18.9	0.0
	60 ～ 69 歳	24	41.7	37.5	4.2	12.5	16.7	12.5	12.5	4.2	0.0	0.0	25.0	0.0
	70 ～ 79 歳	36	61.1	50.0	13.9	11.1	5.6	13.9	0.0	5.6	0.0	2.8	25.0	0.0
	80 歳 以上	13	38.5	69.2	0.0	15.4	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0
居住年数別	20年以上(生まれてからずっと)	42	50.0	19.0	26.2	11.9	7.1	7.1	11.9	4.8	0.0	2.4	21.4	0.0
	20年以上(移り住んで以来)	89	51.7	44.9	14.6	7.9	10.1	9.0	2.2	2.2	2.2	2.2	18.0	1.1
	10～19年(生まれてからずっと)	4	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10～19年(移り住んで以来)	36	38.9	25.0	25.0	22.2	11.1	5.6	11.1	5.6	2.8	5.6	16.7	0.0
	5 ～ 9 年	26	30.8	26.9	19.2	15.4	3.8	11.5	0.0	3.8	7.7	0.0	38.5	0.0
	3 ～ 4 年	15	46.7	40.0	0.0	13.3	6.7	0.0	6.7	6.7	13.3	0.0	26.7	0.0
	2 年 以 下	27	14.8	25.9	14.8	29.6	3.7	7.4	0.0	11.1	3.7	3.7	33.3	0.0

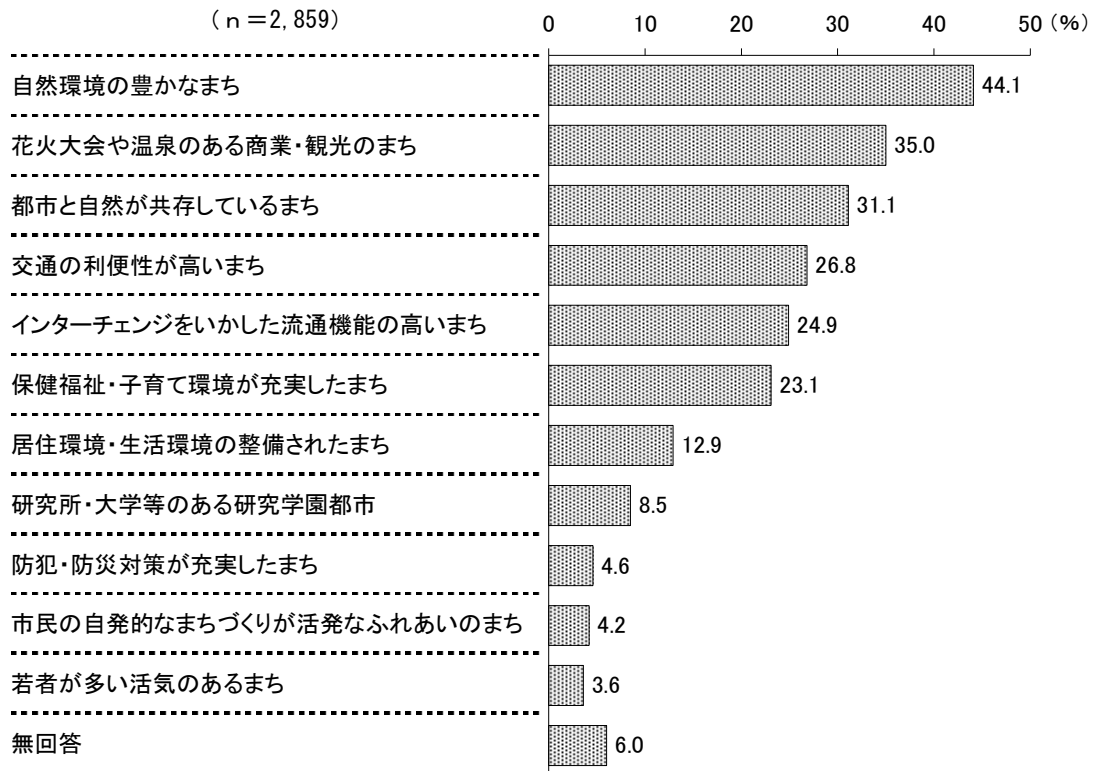
2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問4①)

問. 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-1-1 市の現在のイメージ



【全体】

市の現在のイメージについて聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(35.0%)、「都市と自然が共存しているまち」(31.1%)、「交通の利便性が高いまち」(26.8%)、「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」(24.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自然環境の豊かなまち」は令和3年度調査に引き続き第1位となっている。「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(35.0%)は令和3年度調査(30.8%)より4.2ポイント増加しており、「都市と自然が共存しているまち」(31.1%)は令和3年度調査(34.1%)より3.0ポイント減少している。

表2-1-1 市の現在のイメージ経年変化(上位5項目)

順位	令和5年度 (n=2,859)	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)
1	自然環境の豊かなまち 44.1	自然環境の豊かなまち 44.0	自然環境の豊かなまち 43.6	自然環境の豊かなまち 44.0	自然環境の豊かなまち 50.9	自然環境の豊かなまち 48.7	自然環境の豊かなまち 42.4	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 45.7	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 46.5
2	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 35.0	都市と自然が共存しているまち 34.1	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 38.0	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 37.9	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 28.5	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 30.1	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 41.0	恵まれた自然環境をもつまち 41.1	恵まれた自然環境をもつまち 42.9
3	都市と自然が共存しているまち 31.1	花火大会や温泉のある商業・観光のまち 30.8	都市と自然が共存しているまち 28.1	都市と自然が共存しているまち 26.8	都市と自然が共存しているまち 28.2	都市と自然が共存しているまち 24.7	都市と自然が共存するまち 24.7	都市と自然が共存するまち 22.6	都市と自然が共存するまち 23.3
4	交通の利便性が高いまち 26.8	交通の利便性が高いまち 28.7	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 26.9	交通の利便性が高いまち 24.0	交通の利便性が高いまち 24.7	交通の利便性が高いまち 23.6	交通の利便性が高いまち 19.3	交通の利便性が高いまち 16.4	交通の利便性が高いまち 17.6
5	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 24.9	保健福祉・子育て環境が充実したまち 28.5	交通の利便性が高いまち 24.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 23.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち 20.3	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 18.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 17.0	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.7	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.2

(注1)「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」としていた。

(注2)「市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち」は、平成27年度調査～平成19年度調査では「自治活動の活発なふれあいのまち」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(28.2%)が男性(17.5%)より10.7ポイント、「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(38.3%)が男性(31.2%)より7.1ポイント高くなっている。一方、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」(30.3%)が女性(20.7%)より9.6ポイント、「交通の利便性が高いまち」(31.1%)が女性(23.3%)より7.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境の豊かなまち」は70～79歳(49.7%)で約5割と高くなっている。「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は20歳未満(40.0%)と50～59歳(40.2%)で4割台と高くなっている。「交通の利便性が高いまち」は20～29歳(35.0%)で3割半ばと高くなっている。「保健福祉・子育て環境が充実したまち」は30～39歳(34.3%)で3割半ばと高くなっている。

表2-1-2 市の現在のイメージ性別、年齢別

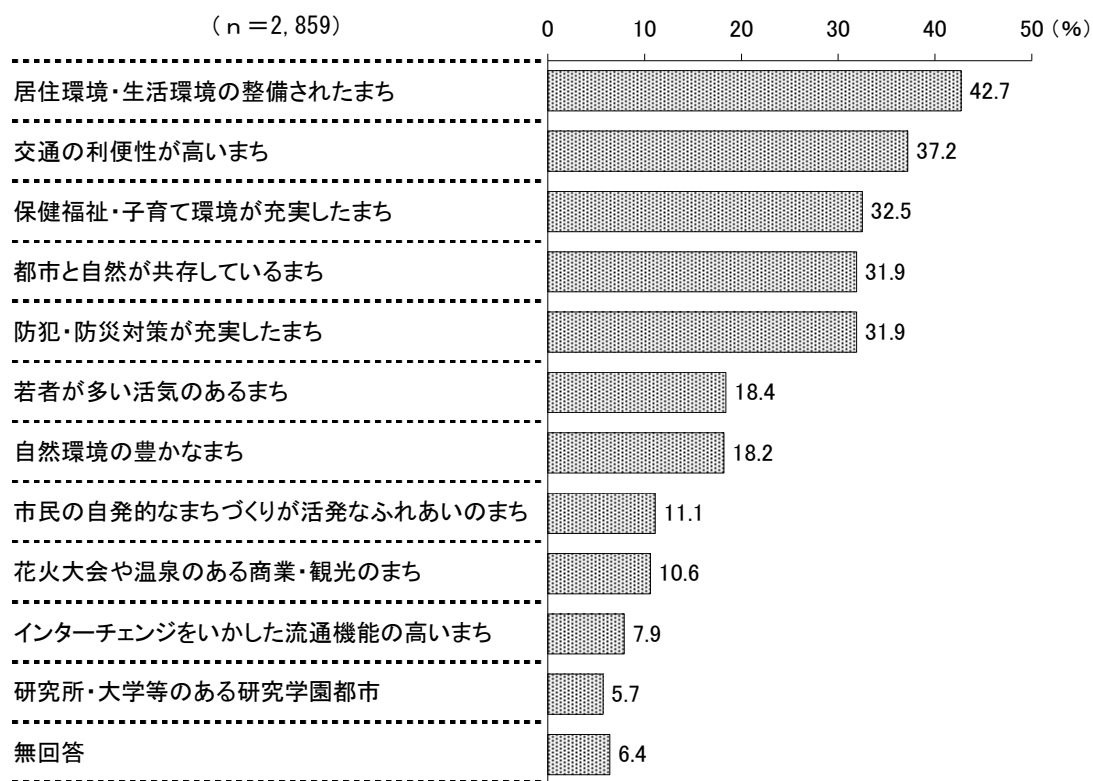
		(%)												
		n	自然環境の豊かなまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	研究所・大学等のある研究学園都市	防犯・防災対策が充実したまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	若者が多い活気のあるまち	無回答
全 体		2,859	44.1	35.0	31.1	26.8	24.9	23.1	12.9	8.5	4.6	4.2	3.6	6.0
性別	男 性	1,287	42.7	31.2	33.8	31.1	30.3	17.5	13.9	10.2	5.1	3.2	4.7	5.8
	女 性	1,515	45.1	38.3	28.8	23.3	20.7	28.2	11.9	6.9	4.1	5.0	2.8	6.0
年 齢 別	20歳未満	40	35.0	40.0	25.0	25.0	5.0	22.5	12.5	7.5	0.0	5.0	17.5	2.5
	20～29歳	220	36.4	29.1	27.3	35.0	19.1	29.5	12.7	7.3	1.8	3.6	6.8	4.1
	30～39歳	300	35.0	37.3	32.0	29.3	22.0	34.3	10.7	5.3	2.7	3.0	3.7	3.3
	40～49歳	414	40.8	37.7	33.3	27.8	25.6	27.3	11.8	5.6	2.2	3.1	2.9	3.4
	50～59歳	512	46.9	40.2	31.4	26.6	30.7	21.9	9.4	8.8	3.7	2.9	3.7	3.9
	60～69歳	447	46.3	37.8	29.5	24.6	30.6	18.6	11.6	7.8	3.1	4.9	2.2	8.5
	70～79歳	594	49.7	31.6	31.1	23.7	26.1	20.7	16.2	11.3	7.9	5.1	2.5	7.4
80歳以上	304	44.7	26.6	32.2	27.3	14.5	15.8	17.4	11.2	9.2	6.6	4.6	10.9	

(2) 市の将来のイメージ (A・B:問4②)

問. 厚木市が将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-2-1 市の将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(42.7%)が4割半ば近くで最も高く、次いで「交通の利便性が高いまち」(37.2%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(32.5%)、「都市と自然が共存しているまち」と「防犯・防災対策が充実したまち」(ともに31.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」は令和3年度調査に引き続き第1位、「交通の利便性が高いまち」は令和3年度調査に引き続き第2位となっている。

表2-2-1 市の将来のイメージ経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和5年度 (n=2,859)	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)
1	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 44.8	居住環境・生活環境の整備されたまち 43.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.3	都市と自然が共存しているまち 39.0	自然環境の豊かな都市 56.3	自然環境の豊かな都市 61.3
2	交通の利便性が高いまち 37.2	交通の利便性が高いまち 34.6	防犯・防災対策が充実したまち 37.6	交通の利便性が高いまち 36.7	交通の利便性が高いまち 36.5	交通の利便性が高いまち 33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 49.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 52.3
3	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	防犯・防災対策が充実したまち 34.2	交通の利便性が高いまち 37.5	防犯・防災対策が充実したまち 34.8	保健福祉・子育て環境が充実したまち 36.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	交通の利便性が高いまち 34.5	防犯・防災対策が充実したまち 47.3	防犯・防災対策が充実したまち 47.3
4	都市と自然が共存しているまち /防犯・防災対策が充実したまち	都市と自然が共存しているまち 31.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 33.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.1	都市と自然が共存しているまち 33.0	都市と自然が共存しているまち 31.9	防犯・防災対策が充実したまち 32.5	保健福祉都市 23.2	保健福祉都市 26.4
5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.9	保健福祉・子育て環境が充実したまち 30.9	都市と自然が共存しているまち 28.1	都市と自然が共存しているまち 28.8	防犯・防災対策が充実したまち 32.1	防犯・防災対策が充実したまち 30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.4	若者が多い活気のあるまち 20.4	若者が多い活気のあるまち 17.7

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(36.2%)が男性(28.2%)より8.0ポイント高くなっている。一方、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」(10.3%)が女性(5.9%)より4.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」は40～49歳(48.3%)と60～69歳(48.8%)で5割近くと高くなっている。「交通の利便性が高いまち」は20歳未満(50.0%)で5割と高くなっている。「保健福祉・子育て環境が充実したまち」は30～39歳(42.0%)で4割を超えて高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別

		(%)												
		n	居住環境・生活環境の整備されたまち	交通の利便性が高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	都市と自然が共存しているまち	防犯・防災対策が充実したまち	若者が多い活気のあるまち	自然環境の豊かなまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	観光のまち 花火大会や温泉のある商業・	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	都市研究所・大学等のある研究学園	無回答
全 体		2,859	42.7	37.2	32.5	31.9	31.9	18.4	18.2	11.1	10.6	7.9	5.7	6.4
性別	男 性	1,287	43.7	36.4	28.2	34.0	30.4	19.7	18.6	10.0	10.6	10.3	6.4	5.9
	女 性	1,515	41.8	37.8	36.2	30.5	33.4	17.6	17.6	11.9	10.6	5.9	4.9	6.7
年齢別	20歳未満	40	25.0	50.0	30.0	20.0	25.0	32.5	17.5	7.5	15.0	5.0	7.5	5.0
	20～29歳	220	40.0	42.3	38.6	25.0	30.0	21.8	14.1	10.5	15.5	6.4	4.1	2.3
	30～39歳	300	45.0	39.3	42.0	30.0	33.7	16.7	11.3	6.7	15.3	8.3	6.0	2.7
	40～49歳	414	48.3	39.9	36.0	31.6	32.9	17.9	13.8	12.3	12.6	8.5	6.3	2.9
	50～59歳	512	42.6	40.8	27.9	33.8	33.4	15.4	18.9	9.4	15.0	9.6	5.3	3.7
	60～69歳	447	48.8	33.3	35.3	37.8	33.8	19.7	17.9	10.1	7.4	6.9	5.4	7.2
	70～79歳	594	39.9	35.2	29.0	34.2	32.0	19.5	21.7	13.0	5.2	8.2	5.6	9.8
	80歳以上	304	33.6	30.3	26.0	25.0	26.0	18.8	26.0	15.1	6.9	6.3	6.6	13.8

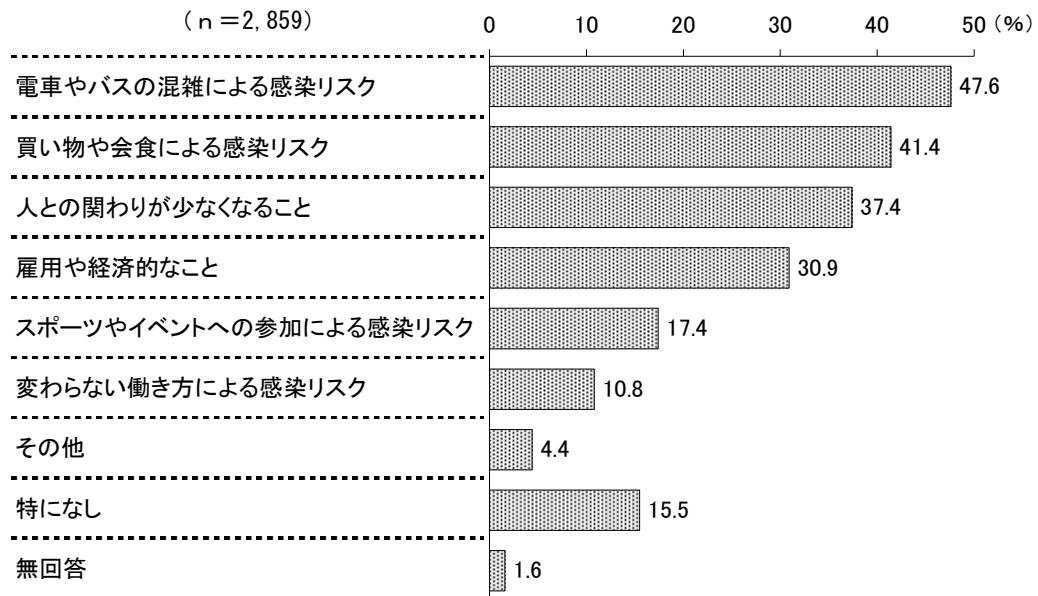
3 感染症

(1) 感染症の影響下において心配・不安に思うこと (A・B：問5①)

問. 感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。

(3つまで選んでください)

図3-1-1 感染症の影響下において心配・不安に思うこと



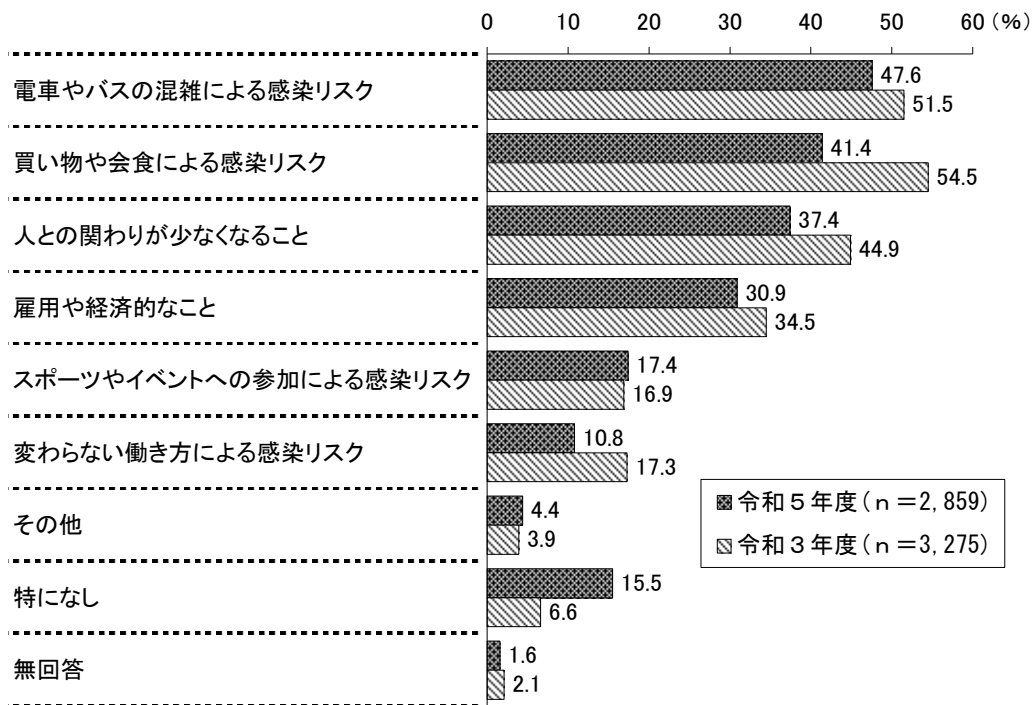
【全体】

感染症の影響下において心配・不安に思うことを聞いたところ、「電車やバスの混雑による感染リスク」(47.6%)が5割近くで最も高く、次いで「買い物や会食による感染リスク」(41.4%)、「人との関わりが少なくなること」(37.4%)、「雇用や経済的なこと」(30.9%)、「スポーツやイベントへの参加による感染リスク」(17.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「特になし」(15.5%)は令和3年度調査(6.6%)より8.9ポイント増加している。一方、「買い物や会食による感染リスク」(41.4%)は令和3年度調査(54.5%)より13.1ポイント、「人との関わりが少なくなること」(37.4%)は令和3年度調査(44.9%)より7.5ポイント減少している。

図3-1-2 感染症の影響下において心配・不安に思うこと—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「電車やバスの混雑による感染リスク」(51.6%)が男性(43.4%)より8.2ポイント高くなっている。一方、男性では「雇用や経済的なこと」(33.6%)が女性(28.3%)より5.3ポイント、「特になし」(18.3%)が女性(13.1%)より5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「電車やバスの混雑による感染リスク」は30～39歳(52.0%)と40～49歳(50.2%)で5割台と高くなっている。「買い物や会食による感染リスク」は70～79歳(56.6%)で5割半ばを超えて高くなっている。「人との関わりが少なくなること」は70～79歳(53.2%)と80歳以上(56.6%)で5割台と高くなっている。

表3-1-1 感染症の影響下において心配・不安に思うこと一性別、年齢別

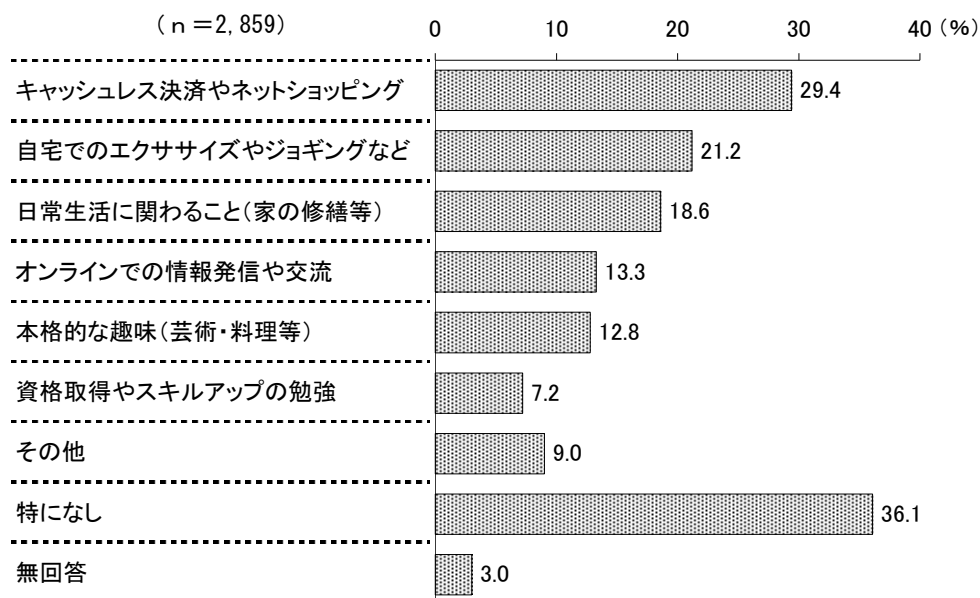
		(%)									
		n	電車やバスの混雑による感染リスク	買い物や会食による感染リスク	人との関わりが少なくなること	雇用や経済的なこと	スポーツやイベントへの参加による感染リスク	変わらない働き方による感染リスク	その他	特になし	無回答
全 体		2,859	47.6	41.4	37.4	30.9	17.4	10.8	4.4	15.5	1.6
性別	男 性	1,287	43.4	40.2	36.4	33.6	17.2	10.7	4.6	18.3	1.8
	女 性	1,515	51.6	42.6	38.5	28.3	17.6	10.9	4.1	13.1	1.4
年 齢 別	20歳未満	40	47.5	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	5.0	35.0	0.0
	20～29歳	220	45.9	18.2	21.8	35.0	6.8	15.9	3.6	29.1	0.9
	30～39歳	300	52.0	33.7	24.7	37.0	16.3	19.7	3.0	19.0	0.3
	40～49歳	414	50.2	31.6	26.6	41.5	13.5	14.7	3.1	17.4	0.2
	50～59歳	512	49.6	38.5	30.7	40.2	15.2	13.5	4.7	15.0	1.4
	60～69歳	447	48.8	47.2	38.7	28.9	20.8	8.7	4.5	14.1	1.8
	70～79歳	594	47.6	56.6	53.2	21.9	22.7	5.1	5.4	8.6	1.7
	80歳以上	304	37.8	49.0	56.6	13.8	18.1	3.3	4.9	13.5	4.6

(2) 感染症の影響下において新たに取り組んだこと (A・B：問5②)

問. 感染症の影響下において、新たに取り組んだことはありますか。

(3つまで選んでください)

図3-2-1 感染症の影響下において新たに取り組んだこと



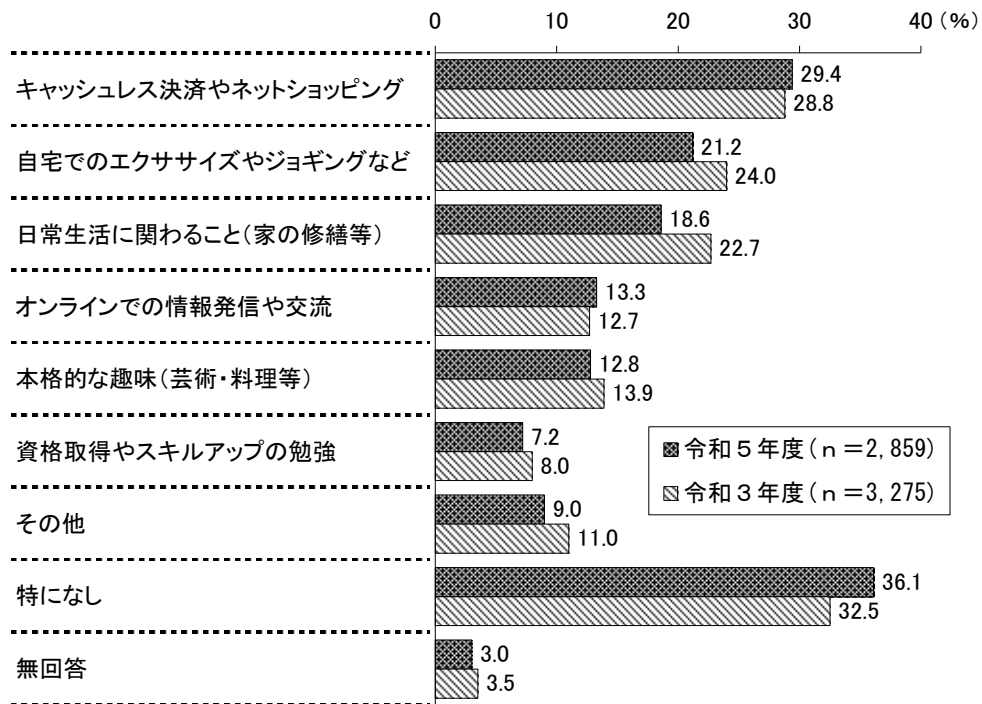
【全体】

感染症の影響下において新たに取り組んだことを聞いたところ、「キャッシュレス決済やネットショッピング」(29.4%)が約3割で最も高く、次いで「自宅でのエクササイズやジョギングなど」(21.2%)、「日常生活に関わること(家の修繕等)」(18.6%)、「オンラインでの情報発信や交流」(13.3%)となっている。一方、「特になし」(36.1%)は3割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「特になし」(36.1%)は令和3年度調査(32.5%)より3.6ポイント増加している。一方、「日常生活に関わること(家の修繕等)」(18.6%)は令和3年度調査(22.7%)より4.1ポイント減少している。

図3-2-2 感染症の影響下において新たに取り組んだこと—経年変化



【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「キャッシュレス決済やネットショッピング」は40～49歳以下の年代で4割台と高くなっている。「自宅でのエクササイズやジョギングなど」は70～79歳（24.6%）で2割半ばと高くなっている。「日常生活に関わること（家の修繕等）」は60～69歳（24.6%）で2割半ばと高くなっている。

表3-2-1 感染症の影響下において新たに取り組んだことー性別、年齢別

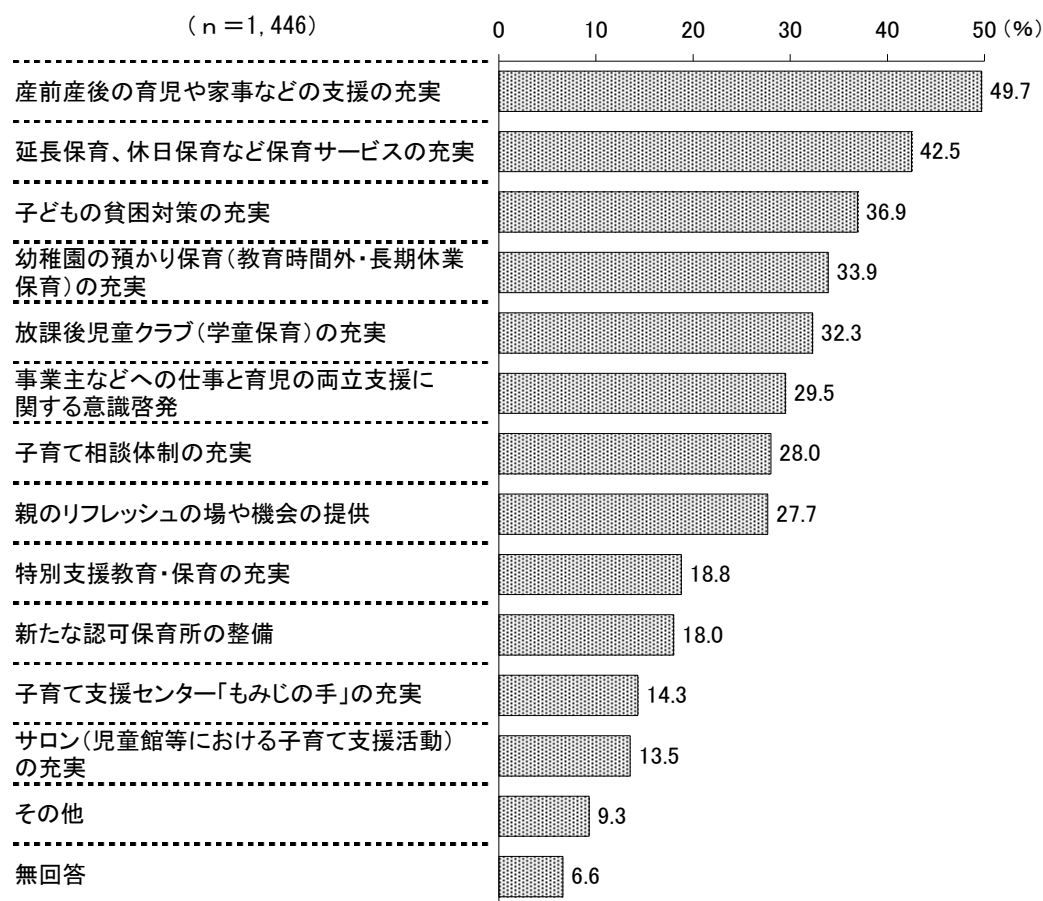
		n	キャッシュレス決済やネットショッピング	自宅でのエクササイズやジョギングなど	日常生活に関わること（家の修繕等）	オンラインでの情報発信や交流	本格的な趣味（芸術・料理等）	資格取得やスキルアップの勉強	その他	特になし	無回答
全 体		2,859	29.4	21.2	18.6	13.3	12.8	7.2	9.0	36.1	3.0
性別	男 性	1,287	27.9	21.4	18.9	14.7	13.7	7.8	10.3	37.5	3.0
	女 性	1,515	30.8	20.8	18.5	11.9	12.3	6.6	8.0	35.0	2.8
年齢別	20歳未満	40	40.0	15.0	5.0	17.5	10.0	12.5	10.0	32.5	0.0
	20～29歳	220	40.0	19.1	11.4	17.7	16.8	13.2	9.1	29.5	1.8
	30～39歳	300	41.3	21.3	16.0	17.3	16.3	12.3	5.3	32.3	0.3
	40～49歳	414	42.0	22.0	15.0	18.4	9.4	9.9	6.5	30.7	1.0
	50～59歳	512	34.6	18.0	15.2	16.6	12.1	8.6	6.4	36.3	1.6
	60～69歳	447	29.3	20.6	24.6	10.1	13.0	5.4	11.2	34.9	2.9
	70～79歳	594	16.7	24.6	23.1	8.1	13.6	3.2	12.1	40.2	4.9
	80歳以上	304	8.9	21.7	20.7	7.6	11.2	2.0	10.9	45.7	7.9

4 子育て・福祉・健康

(1) 子どもを産み育てられる環境を整える取組（A：問6）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（5つまで選んでください）

図4-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組



【全体】

子どもを産み育てられる環境を整える取組について聞いたところ、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（49.7%）が約5割で最も高く、次いで「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」（42.5%）、「子どもの貧困対策の充実」（36.9%）、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（33.9%）、「放課後児童クラブ（学童保育）の充実」（32.3%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位4項目は令和3年度調査と同じ順位となっており、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」(49.7%)は令和3年度調査(44.7%)より5.0ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表4-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)
1	産前産後の育児や家事などの支援の充実 49.7	産前産後の育児や家事などの支援の充実 44.7	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 46.4	延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実 50.0	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 54.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 56.7	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 67.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 64.6
2	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 42.5	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 40.3	産前産後の育児や家事などの支援の充実 45.5	産前産後の育児や家事などの支援の充実 42.8	子ども医療費助成制度の充実 49.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 49.9	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実 49.0	小児医療体制(小児救急医療などの整備)の充実 59.6
3	子どもの貧困対策の充実 36.9	子どもの貧困対策の充実 35.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 37.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 34.9	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 36.6	子ども医療費助成制度の充実 49.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 42.2	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 41.0
4	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 33.9	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 31.8	子育て相談体制の充実 35.8	子どもの貧困対策の充実 34.5	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 36.4	産前産後における育児や家事などの支援の充実 44.6	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 40.0	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 35.6
5	放課後児童クラブ(学童保育)の充実 32.3	子育て相談体制の充実 30.2	子どもの貧困対策の充実 35.3	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.8	産前産後における育児や家事などの支援の充実 34.7	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 37.8	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.9	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保 29.7

(注1)「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」は、平成29年度調査では「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」としていた。

(注2)「放課後児童クラブ(学童保育)の充実」は、平成29年度調査以前では「放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実」としていた。

(注3)「特別支援教育・保育の充実」は、平成27年度調査では「特別支援教育の充実」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注4)平成27年度調査以前では、「子ども医療費助成の充実」、「経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援」、「健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進」、「父親の育児参加に関する意識啓発」、「ファミリー・サポート・センター(会員相互による育児の援助活動)の充実」、「子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「特別支援教育・保育の充実」(21.8%)が男性(15.6%)より6.2ポイント、「子育て相談体制の充実」(30.5%)が男性(26.0%)より4.5ポイント高くなっている。一方、男性では「幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実」(36.7%)が女性(31.6%)より5.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」は20歳未満(80.0%)で8割と高くなっている。「子どもの貧困対策の充実」は20歳未満(45.0%)と60～69歳(41.0%)で4割台と高くなっている。「幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実」は30～39歳(45.4%)で4割半ばと高くなっている。

表4-1-2 子どもを産み育てられる環境を整える取組一性別、年齢別

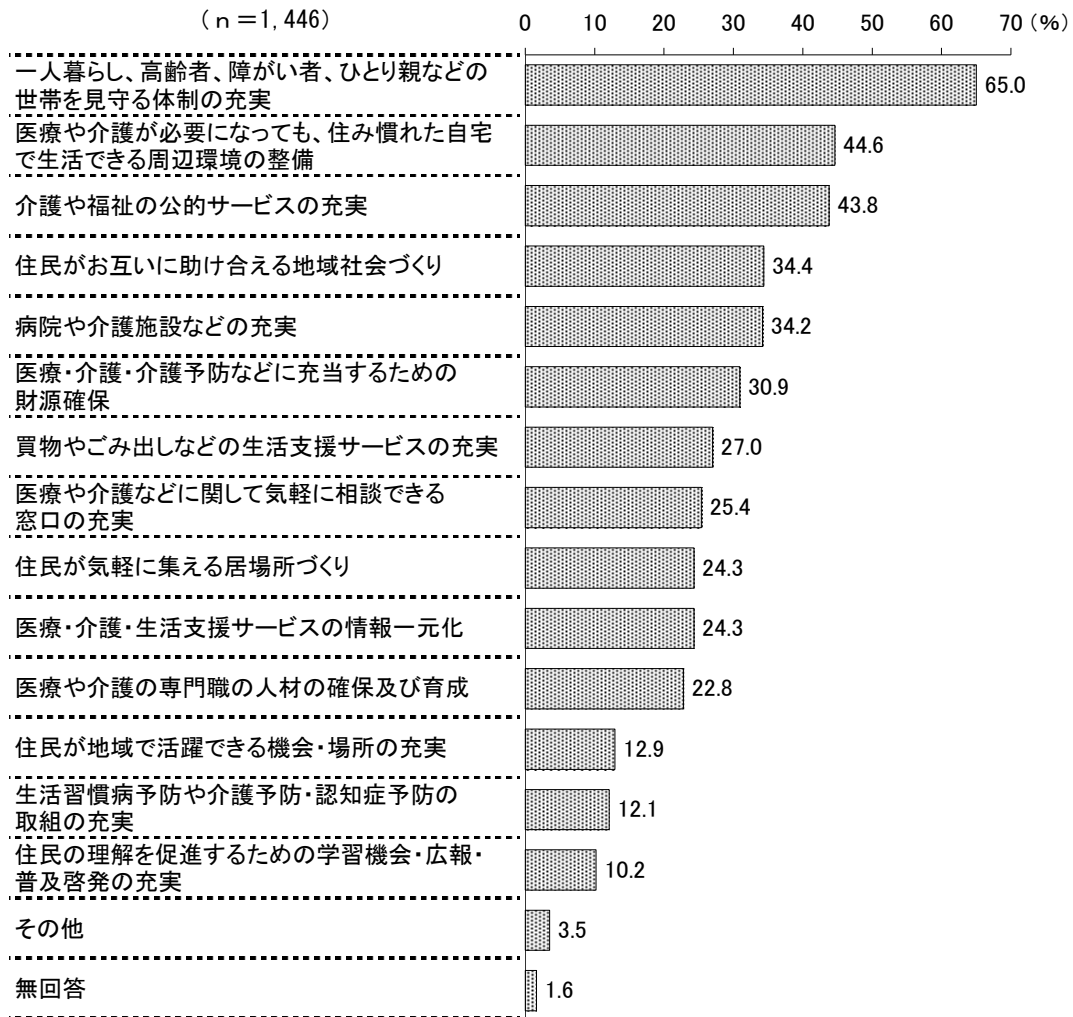
		(%)														
		n	産前産後の育児や家事などの支援の充実	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	子どもの貧困対策の充実	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	放課後児童クラブ(学童保育)の充実	事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	子育て相談体制の充実	親のフレキシブルな働き方や機会の提供	特別支援教育・保育の充実	新たな認可保育所の整備	子育て支援センター「もみじの手」の充実	サロン(児童館等)における子育て支援活動の充実	その他	無回答
全体		1,446	49.7	42.5	36.9	33.9	32.3	29.5	28.0	27.7	18.8	18.0	14.3	13.5	9.3	6.6
性別	男性	665	50.7	43.2	38.2	36.7	30.7	28.9	26.0	25.7	15.6	18.2	15.5	12.8	10.5	5.3
	女性	748	48.7	42.6	35.4	31.6	34.0	30.3	30.5	29.8	21.8	17.6	12.8	14.2	8.4	7.5
年齢別	20歳未満	20	80.0	45.0	45.0	30.0	15.0	20.0	15.0	55.0	20.0	25.0	25.0	5.0	5.0	0.0
	20～29歳	113	71.7	41.6	38.9	37.2	33.6	27.4	22.1	33.6	15.9	23.9	15.0	15.0	8.0	0.0
	30～39歳	152	62.5	46.7	30.9	45.4	32.2	24.3	22.4	39.5	17.8	19.7	13.8	12.5	9.2	0.7
	40～49歳	215	44.7	47.0	32.6	35.3	30.7	27.9	31.2	24.7	20.5	21.9	8.8	11.6	12.6	4.2
	50～59歳	254	42.9	47.6	37.8	33.9	33.5	29.5	28.3	26.4	18.1	18.5	12.2	13.8	12.6	2.4
	60～69歳	229	48.5	48.0	41.0	32.3	36.7	33.6	29.7	27.1	21.8	17.5	16.6	12.7	9.6	3.9
	70～79歳	310	45.8	36.5	39.7	31.3	31.3	31.6	31.3	25.2	18.1	16.1	17.1	14.5	6.1	13.2
80歳以上	140	43.6	28.6	32.1	25.0	29.3	30.7	27.1	21.4	17.9	10.0	13.6	15.7	7.9	18.6	

(2) 地域包括ケア社会の実現への取組 (A:問7)

問. 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会 (地域包括ケア社会) の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください)

図4-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組



【全体】

地域包括ケア社会の実現への取組について聞いたところ、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」(65.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(44.6%)、「介護や福祉の公的サービスの充実」(43.8%)、「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」(34.4%)、「病院や介護施設などの充実」(34.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実」(27.0%)は令和3年度調査(23.2%)より3.8ポイント増加している。一方、「医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実」(25.4%)は令和3年度調査(30.7%)より5.3ポイント、「病院や介護施設などの充実」(34.2%)は令和3年度調査(38.0%)より3.8ポイント、「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(44.6%)は令和3年度調査(48.0%)より3.4ポイント減少している。

表4-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組—経年変化

調査年	n	(%)															
		一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	介護や福祉の公的サービスの充実	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	病院や介護施設などの充実	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	住民が気軽に集える居場所づくり	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	育成	医療や介護の専門職の確保及び	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他
令和5年度	1,446	65.0	44.6	43.8	34.4	34.2	30.9	27.0	25.4	24.3	24.3	22.8	12.9	12.1	10.2	3.5	1.6
令和3年度	1,603	64.7	48.0	46.4	36.2	38.0	32.8	23.2	30.7	21.6	-	20.6	10.5	14.5	8.5	2.6	2.2
令和元年度	1,467	65.4	47.0	47.9	36.2	39.1	38.5	25.2	29.0	23.6	-	25.7	13.4	17.0	9.3	3.5	1.7
平成29年度	1,480	62.2	45.6	46.6	38.6	40.7	37.2	22.1	31.1	23.3	-	22.8	12.0	19.5	7.2	2.1	3.1

(注1) 今回調査から、「医療・介護・生活支援サービスの情報一元化」の選択肢を追加している。

(注2) 令和3年度調査以前では、「医療や介護の専門職同士の連携強化」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実」(30.2%)が男性(20.8%)より9.4ポイント、「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(47.3%)が男性(41.7%)より5.6ポイント高くなっている。一方、男性では「医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保」(34.0%)が女性(27.5%)より6.5ポイント、「住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実」(12.5%)が女性(8.3%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」は80歳以上(72.1%)で7割を超えて高くなっている。「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」は50～59歳(52.4%)と80歳以上(51.4%)で5割を超えて高くなっている。「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」は20歳未満(50.0%)で5割と高くなっている。

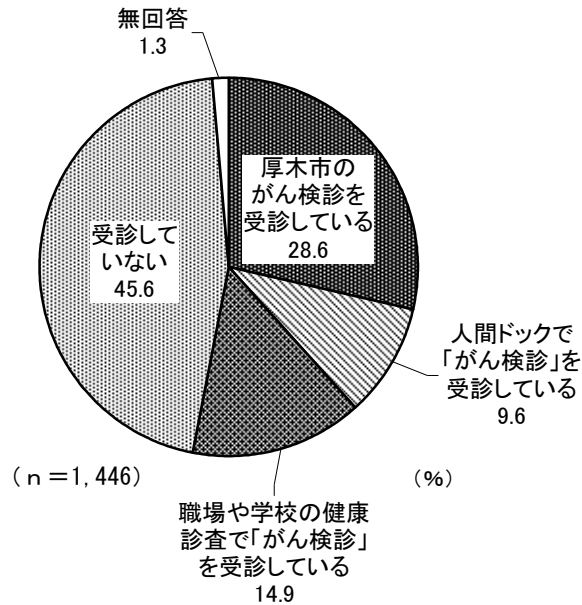
表4-2-2 地域包括ケア社会の実現への取組一性別、年齢別

		(%)																
		n	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	介護や福祉の公的サービスの充実	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	病院や介護施設などの充実	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	住民が気軽に集える居場所づくり	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他	無回答
全 体		1,446	65.0	44.6	43.8	34.4	34.2	30.9	27.0	25.4	24.3	24.3	22.8	12.9	12.1	10.2	3.5	1.6
性別	男 性	665	62.9	41.7	43.6	32.8	35.0	34.0	25.9	20.8	22.7	24.1	22.3	15.0	12.9	12.5	5.3	1.4
	女 性	748	68.0	47.3	44.5	35.2	33.2	27.5	27.7	30.2	25.5	24.7	22.7	11.1	11.8	8.3	1.9	1.7
年 齢 別	20歳未満	20	65.0	40.0	35.0	50.0	5.0	30.0	25.0	10.0	30.0	20.0	15.0	15.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	20～29歳	113	51.3	37.2	30.1	35.4	31.0	28.3	31.9	21.2	19.5	16.8	30.1	15.9	14.2	18.6	5.3	0.0
	30～39歳	152	61.8	36.8	40.8	24.3	29.6	21.7	39.5	15.1	21.7	20.4	25.7	15.1	7.9	12.5	4.6	0.0
	40～49歳	215	61.9	41.9	45.1	28.4	38.1	32.1	33.0	28.8	18.1	19.5	24.2	14.9	11.2	9.3	4.2	1.9
	50～59歳	254	66.9	52.4	46.1	31.9	40.2	33.1	26.4	22.8	18.9	25.2	20.1	13.0	10.6	10.2	3.1	0.4
	60～69歳	229	67.2	44.5	48.5	35.4	36.2	31.9	20.1	24.5	27.9	29.7	26.2	14.8	12.2	10.0	2.6	0.9
	70～79歳	310	68.1	43.9	48.4	36.8	31.0	33.2	20.6	29.7	30.0	31.6	20.0	9.7	13.9	6.8	3.5	3.2
	80歳以上	140	72.1	51.4	37.9	45.7	33.6	30.0	25.0	35.7	30.7	16.4	16.4	7.9	15.0	10.7	1.4	3.6

(3) がん検診の受診状況 (A:問8)

問. がん検診を受診していますか。(1つだけ選んでください)

図4-3-1 がん検診の受診状況



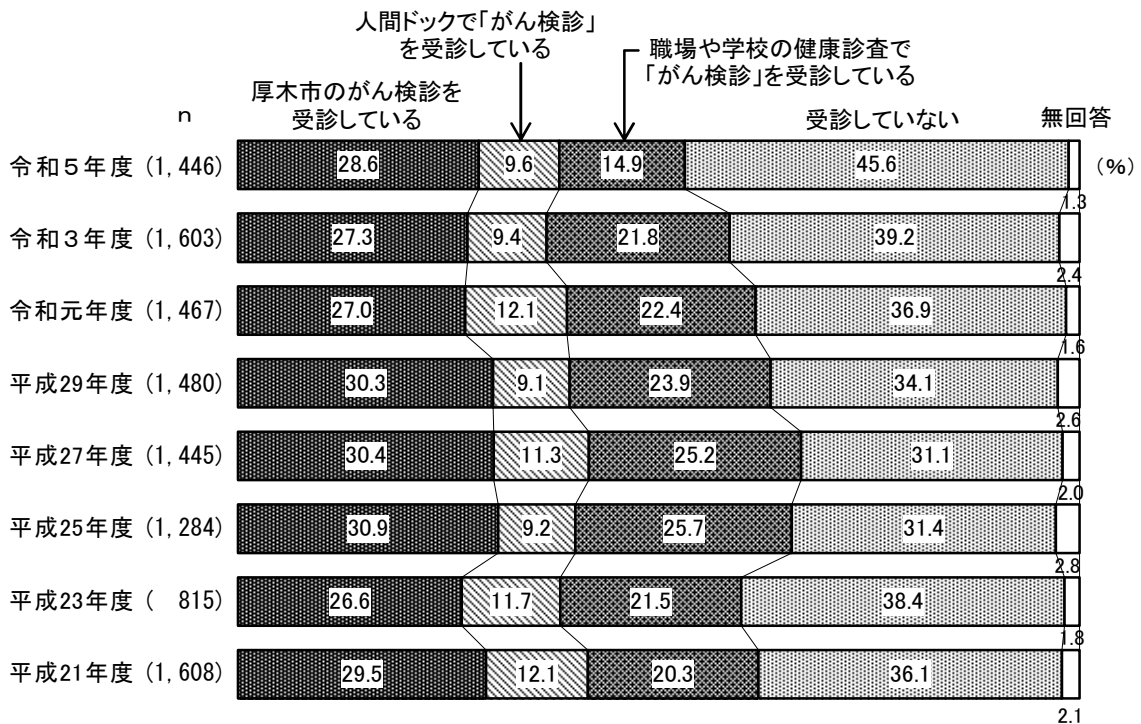
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(28.6%)が3割近く、「人間ドックで『がん検診』を受診している」(9.6%)が約1割、「職場や学校の健康診査で『がん検診』を受診している」(14.9%)が1割半ばで、この3つを合わせた『受診している』(53.1%)は5割半ば近くとなっている。一方、「受診していない」(45.6%)は4割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「受診していない」（45.6％）は令和3年度調査（39.2％）より6.4ポイント増加しており、平成27年度調査（31.1％）以降増加傾向にある。一方、「職場や学校の健康診査で『がん検診』を受診している」（14.9％）は令和3年度調査（21.8％）より6.9ポイント減少している。

図4-3-2 がん検診の受診状況—経年変化



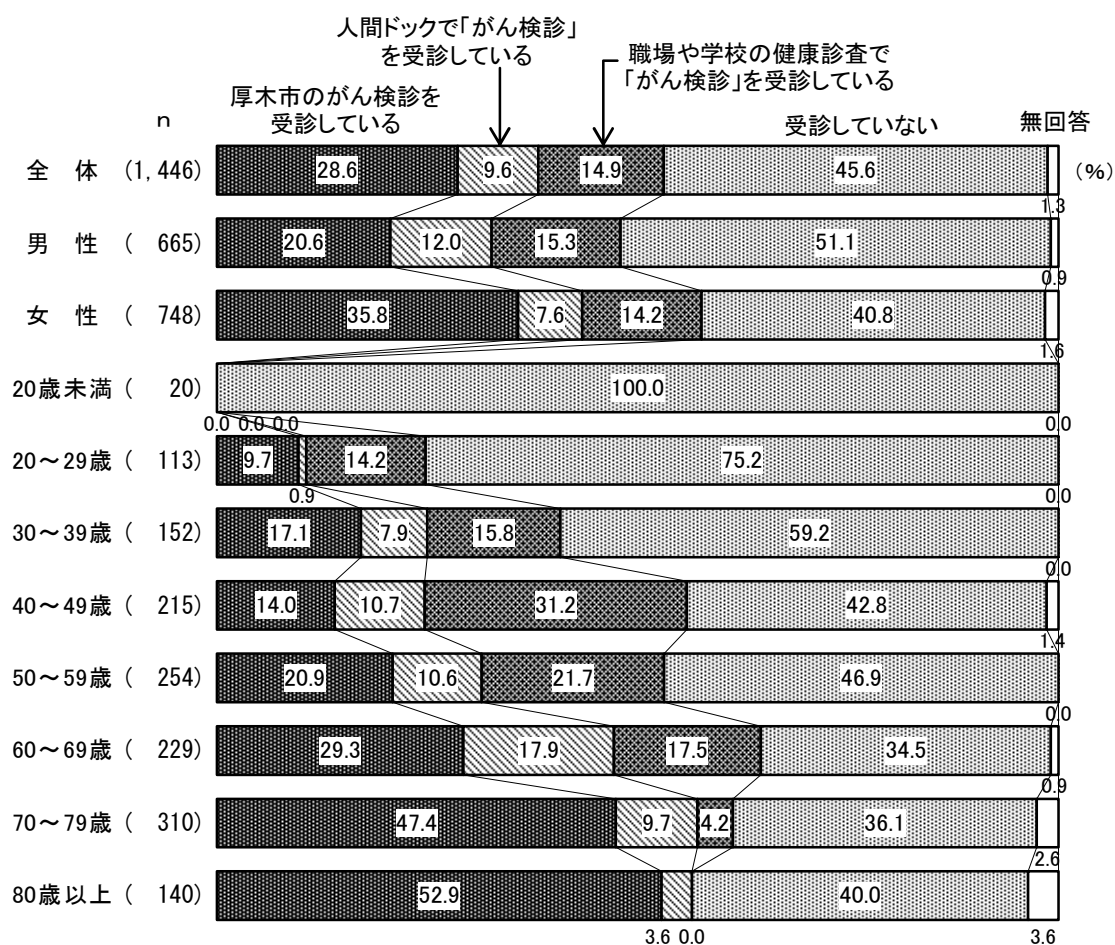
- (注1) 「人間ドックで『がん検診』を受診している」は、令和3年度調査以前では「人間ドックを受診している」としていた。
- (注2) 「職場や学校の健康診査で『がん検診』を受診している」は、令和3年度調査以前では「職場や学校の健康診査を受診している」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では『受診している』（57.6%）が男性（47.9%）より9.7ポイント高くなっており、その内、「厚木市のがん検診を受診している」（35.8%）が男性（20.6%）より15.2ポイント高くなっている。一方、男性では「受診していない」（51.1%）が女性（40.8%）より10.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『受診している』は60～69歳（64.7%）で6割半ば、70～79歳（61.3%）で6割を超えて高くなっている。「厚木市のがん検診を受診している」は80歳以上（52.9%）で5割半ば近く、70～79歳（47.4%）で4割半ばを超えて高くなっている。

図4-3-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別

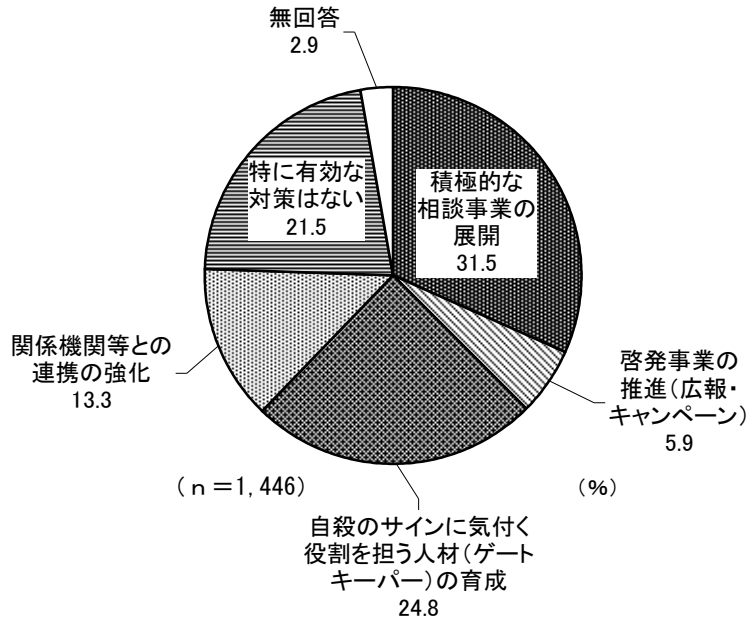


(4) 自殺予防の対策 (A:問9)

問. 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図4-4-1 自殺予防の対策



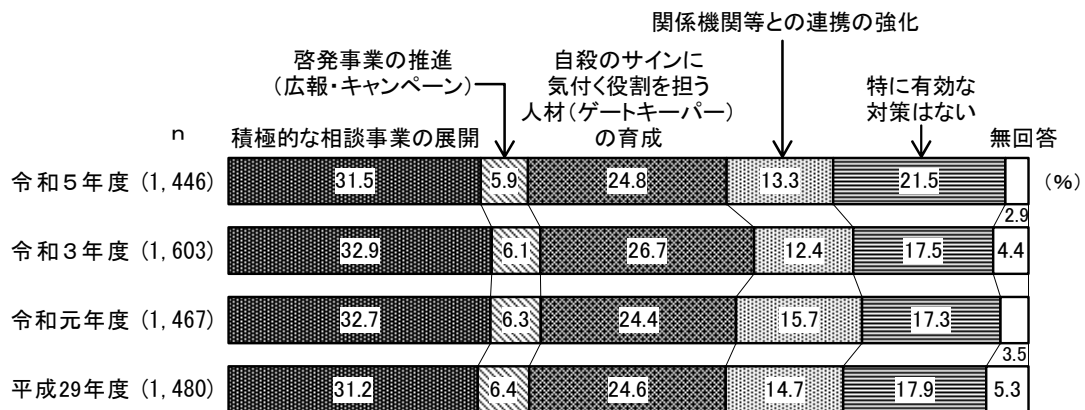
【全体】

自殺予防の対策について聞いたところ、「積極的な相談事業の展開」(31.5%)が3割を超えて最も高く、次いで「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」(24.8%)、「関係機関等との連携の強化」(13.3%)、「啓発事業の推進(広報・キャンペーン)」(5.9%)となっている。一方、「特に有効な対策はない」(21.5%)は2割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「特に有効な対策はない」(21.5%)は令和3年度調査(17.5%)より4.0ポイント増加している。

図4-4-2 自殺予防の対策—経年変化



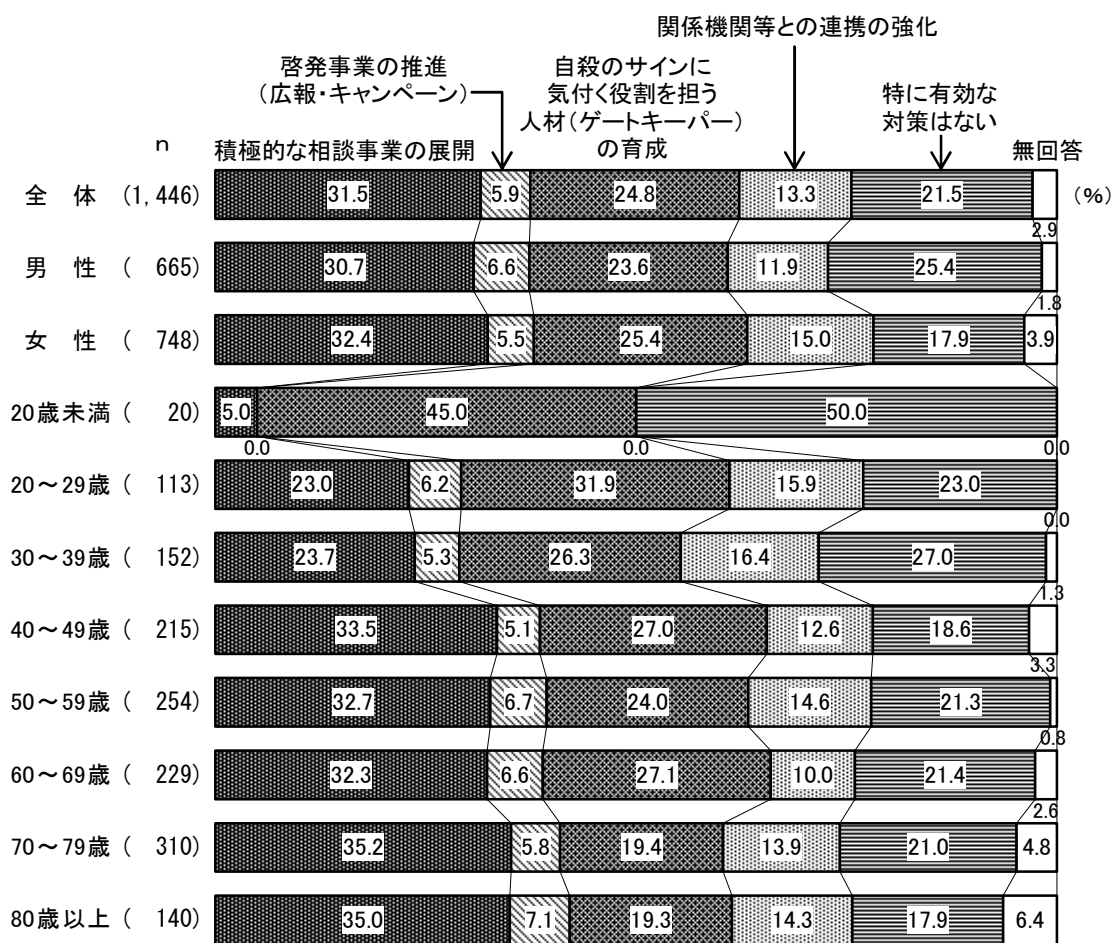
(注)「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」は、令和元年度調査以前では「自殺のサインに気付く役割を担う人材の育成」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「特に有効な対策はない」(25.4%)が女性(17.9%)より7.5ポイント高くなっている。一方、女性では「関係機関等との連携の強化」(15.0%)が男性(11.9%)より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「積極的な相談事業の展開」は70～79歳(35.2%)と80歳以上(35.0%)で3割半ばと高くなっている。「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」は20歳未満(45.0%)で4割半ばと高くなっている。

図4-4-3 自殺予防の対策—性別、年齢別

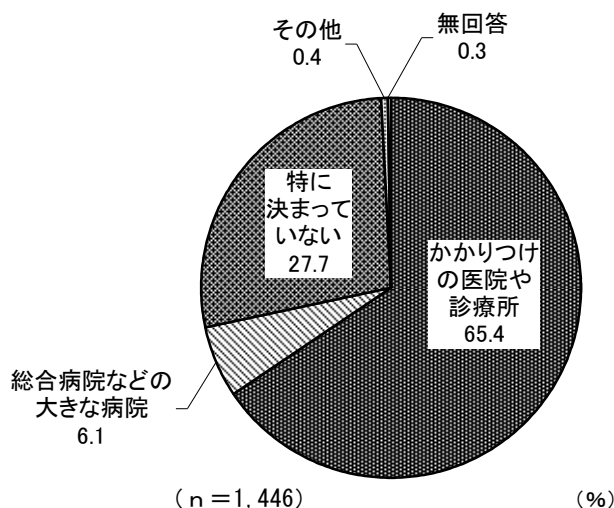


(5) かかりつけ医 (A: 問10)

問. 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください)

図4-5-1 かかりつけ医



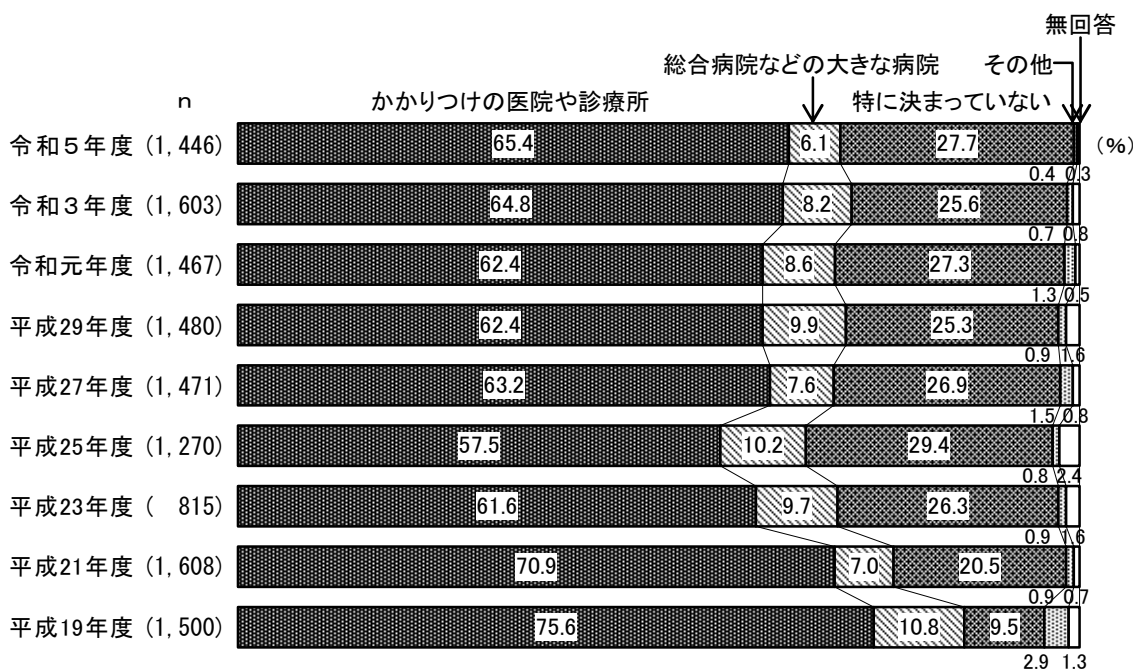
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関について聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(65.4%)が6割半ばで最も高くなっている。「総合病院などの大きな病院」(6.1%)は1割未満で、「特に決まっていない」(27.7%)は3割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図4-5-2 かかりつけ医—経年変化

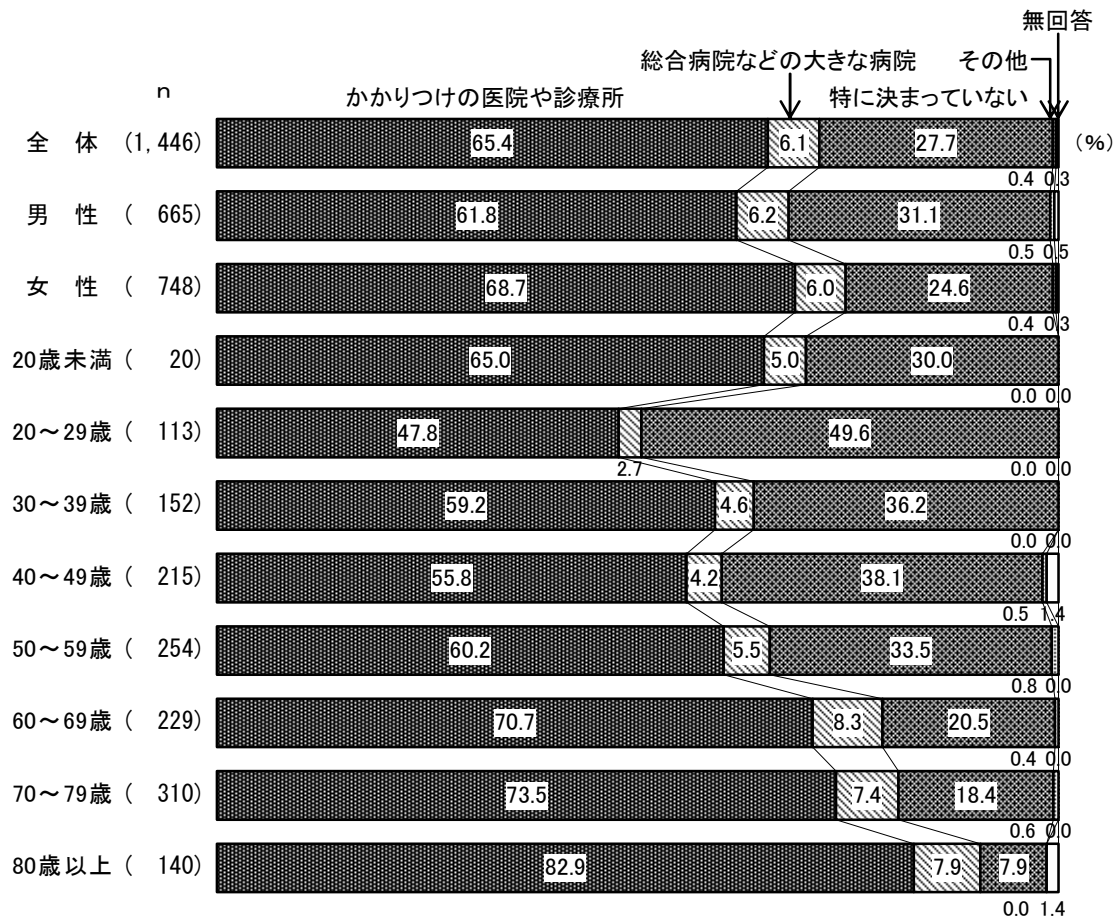


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」(68.7%)が男性(61.8%)より6.9ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」(31.1%)が女性(24.6%)より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「かかりつけの医院や診療所」は80歳以上(82.9%)で8割半ば近くと高くなっている。「特に決まっていない」は20~29歳(49.6%)で約5割と高くなっている。

図4-5-3 かかりつけ医—性別、年齢別



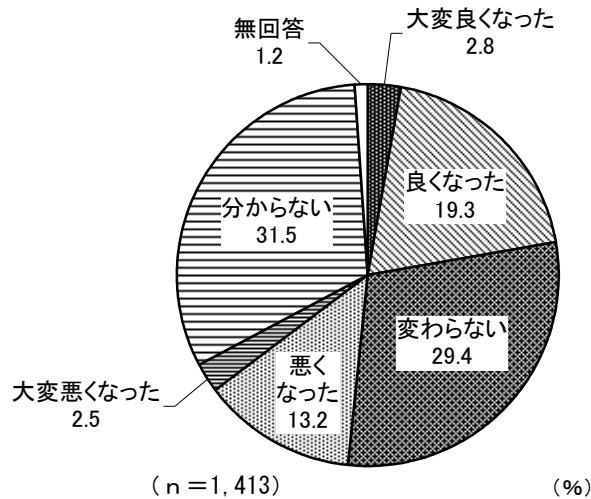
5 安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (B:問6)

問. 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください)

図5-1-1 本厚木駅周辺の治安



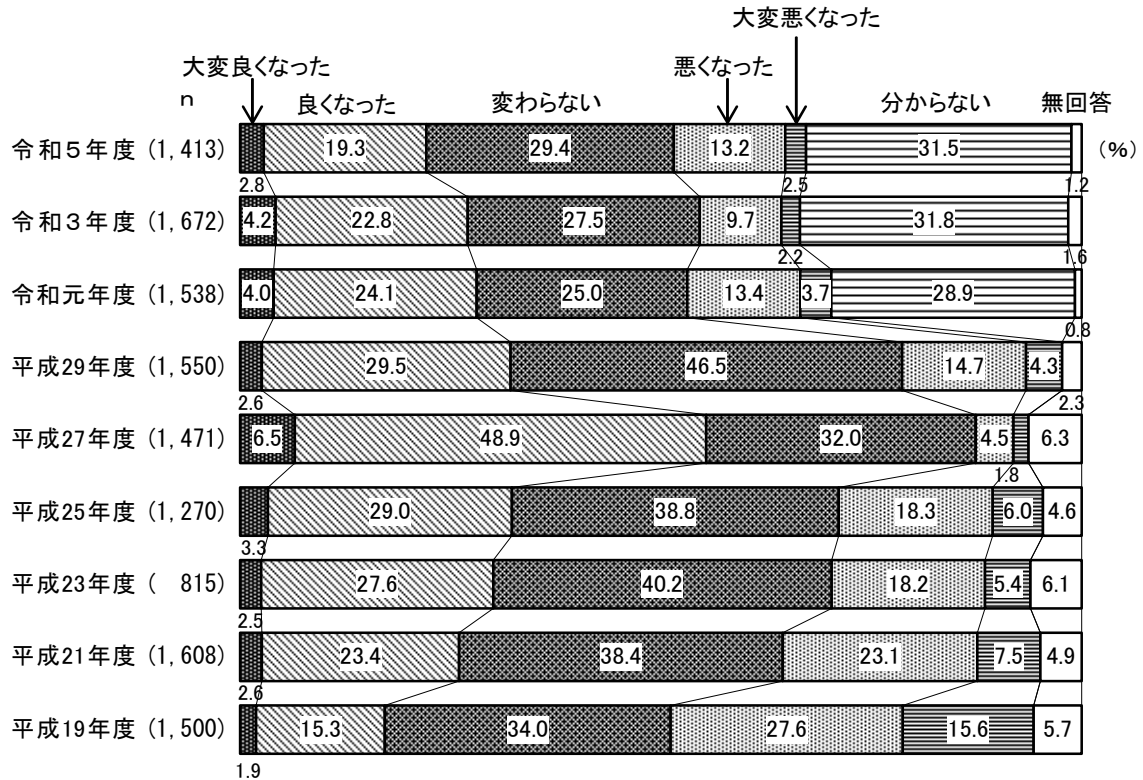
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなった」(2.8%)と「良くなった」(19.3%)の2つを合わせた『改善した』(22.1%)が2割を超えている。「変わらない」(29.4%)は約3割で、「悪くなった」(13.2%)と「大変悪くなった」(2.5%)の2つを合わせた『悪化した』(15.7%)は1割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『悪化した』(15.7%)は令和3年度調査(11.9%)より3.8ポイント増加している。一方、『改善した』(22.1%)は令和3年度調査(27.0%)より4.9ポイント減少している。

図5-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化



(注1) 令和元年度調査から「分からない」の選択肢を追加している。

(注2) 平成29年度調査および平成25年度以前の調査では、「現在の本厚木駅周辺の治安について、どのように感じますか。(1つだけ選んでください)」と質問していた。

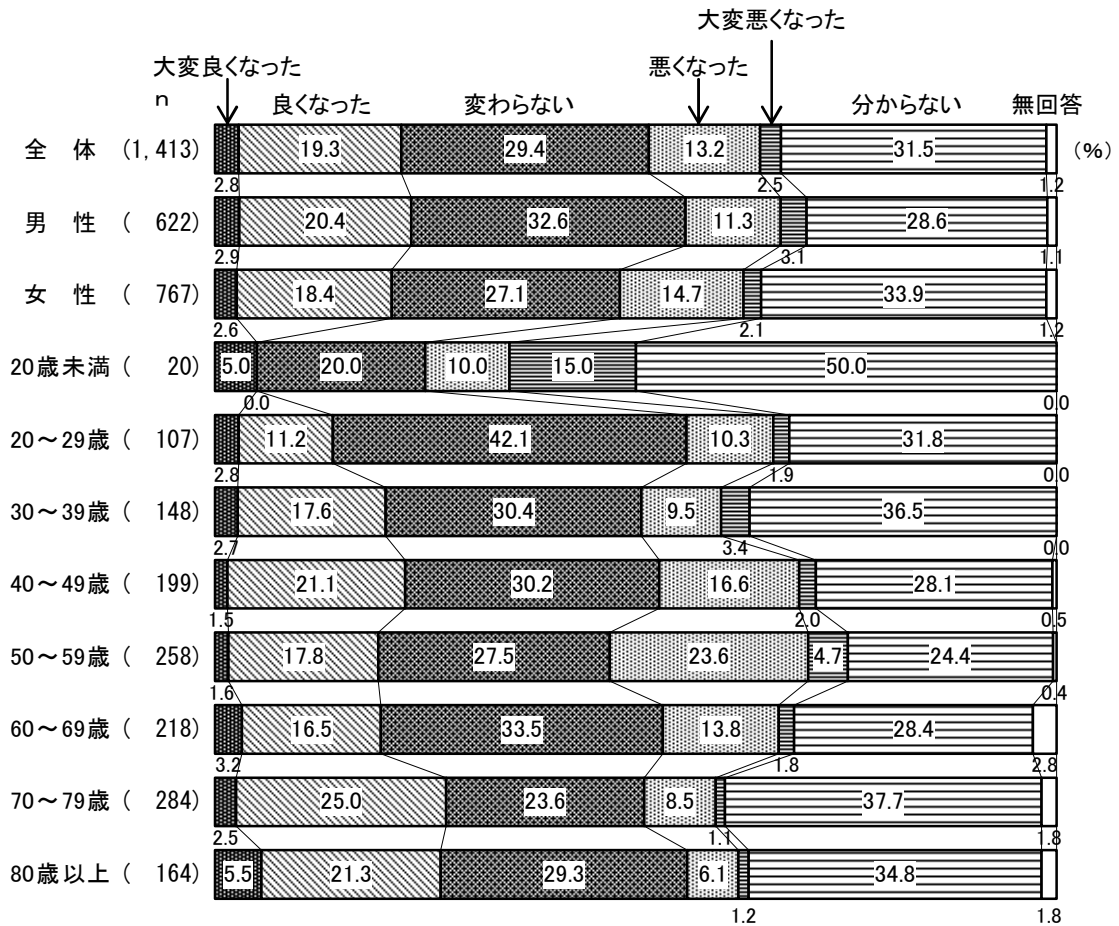
(注3) 平成27年度調査では、「本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「変わらない」(32.6%)が女性(27.1%)より5.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『改善した』は70~79歳(27.5%)で3割近くと高くなっている。一方、『悪化した』は50~59歳(28.3%)で3割近くと高くなっている。

図5-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別

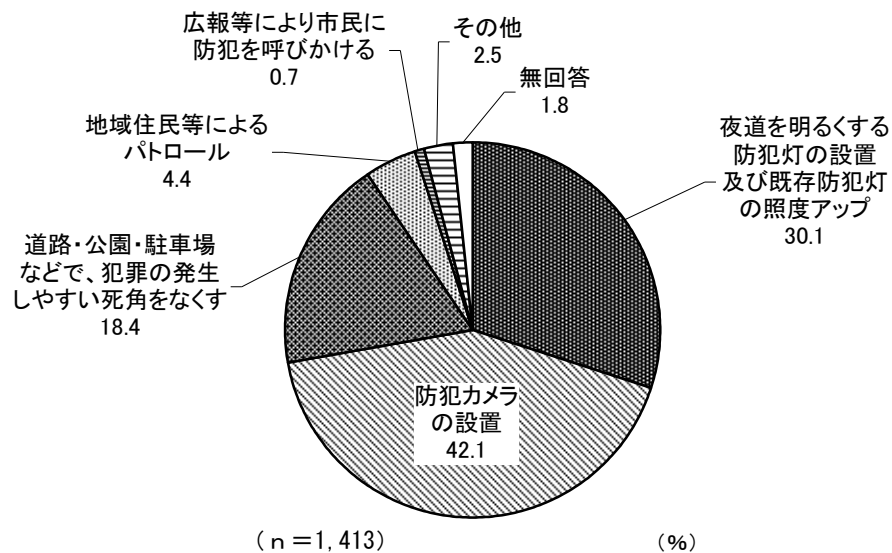


(2) 防犯対策に効果的な取組 (B: 問7)

問. 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図5-2-1 防犯対策に効果的な取組



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「防犯カメラの設置」(42.1%)が4割を超えて最も高く、次いで「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(30.1%)、「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(18.4%)、「地域住民等によるパトロール」(4.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「防犯カメラの設置」(42.1%)は令和3年度調査(38.7%)より3.4ポイント増加している。

表5-2-1 防犯対策に効果的な取組—経年変化

調査年	n	防犯カメラの設置	夜の道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の追加	道路・公園・駐車場の死角をなくす	道路・公園・駐車場の死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広報等により市民に防犯を呼びかける	その他	無回答
令和5年度	1,413	42.1	30.1	18.4	4.4	0.7	2.5	1.8	
令和3年度	1,672	38.7	29.1	21.1	5.8	1.1	2.5	1.7	
令和元年度	1,538	38.0	31.4	20.8	5.4	1.7	1.9	0.8	
平成29年度	1,550	33.4	31.6	22.4	7.2	1.5	3.1	0.8	
平成27年度	1,471	-	41.7	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6	
平成25年度	1,270	-	41.9	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3	
平成23年度	815	-	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2	
平成21年度	1,608	-	72.7	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2	
平成19年度	1,500	-	67.1	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5	

(注1) 平成29年度調査以降では、「防犯カメラの設置」の選択肢を追加している。

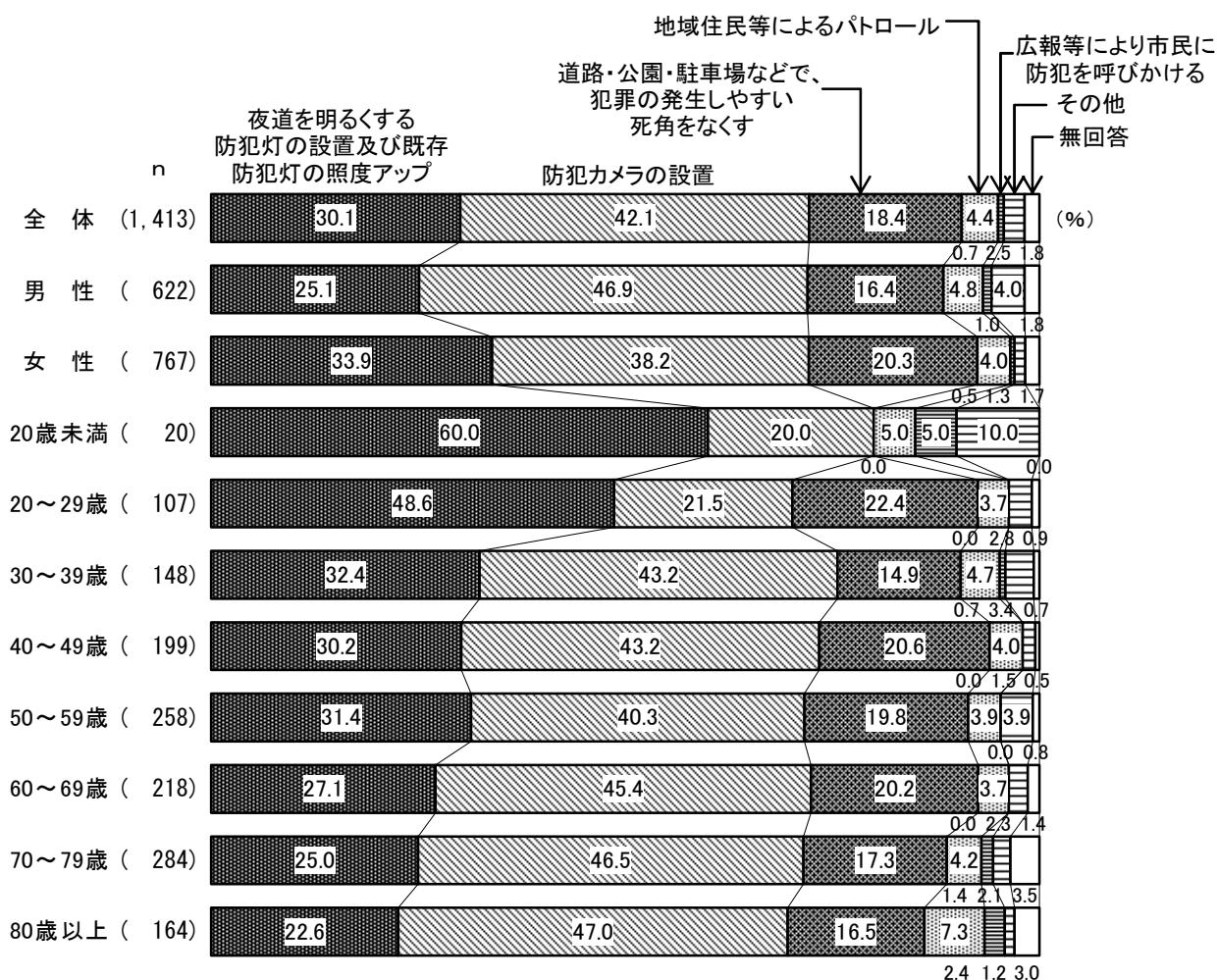
(注2) 平成23年度調査以前では、複数回答で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「防犯カメラの設置」(46.9%)が女性(38.2%)より8.7ポイント高くなっている。一方、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(33.9%)が男性(25.1%)より8.8ポイント、「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(20.3%)が男性(16.4%)より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」は20歳未満(60.0%)で6割と高くなっている。「防犯カメラの設置」は70~79歳(46.5%)と80歳以上(47.0%)で4割半ばを超えて高くなっている。「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」は20~29歳(22.4%)で2割を超えて高くなっている。

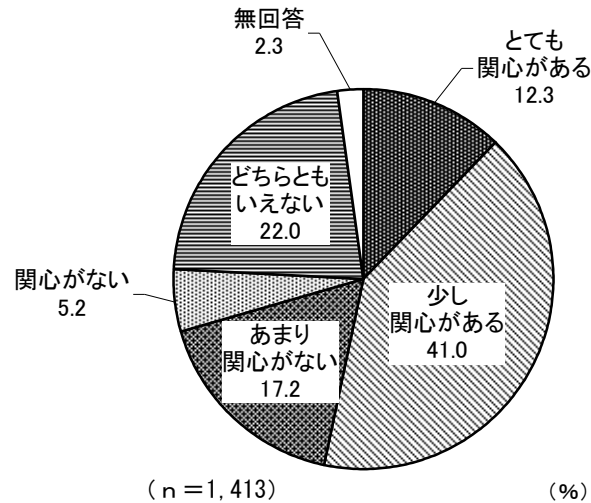
図5-2-2 防犯対策に効果的な取組—性別、年齢別



(3) セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり (B:問8)

問. セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに、関心がありますか。
(1つだけ選んでください)

図5-3-1 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり



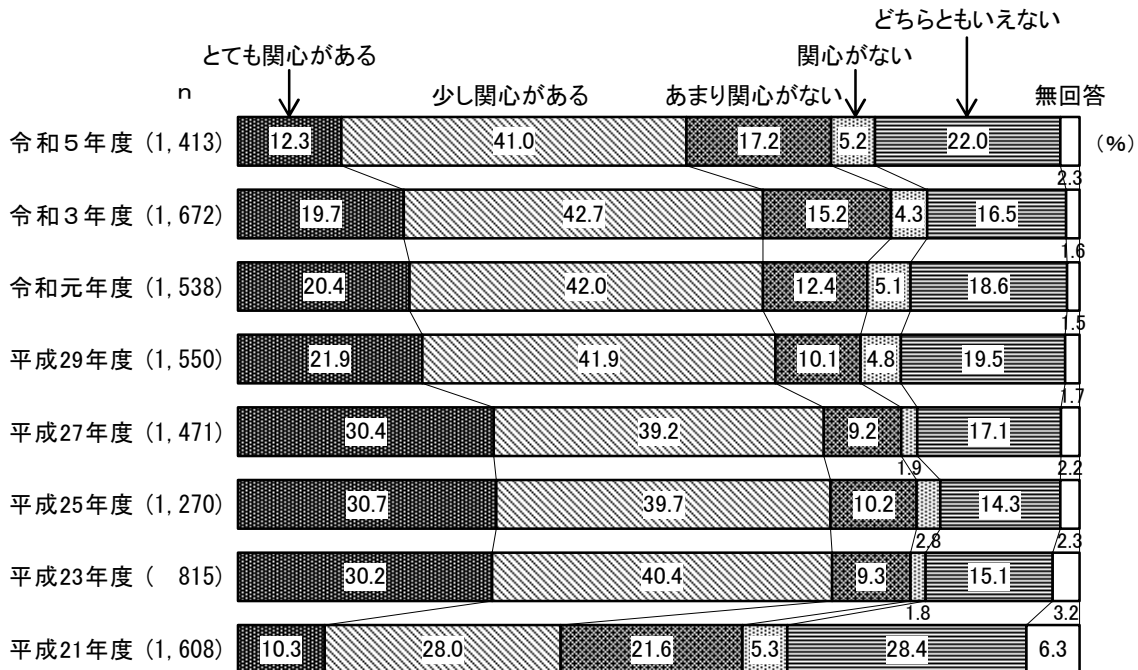
【全体】

セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに関心があるかについて聞いたところ、「とても関心がある」(12.3%)と「少し関心がある」(41.0%)の2つを合わせた『関心あり』(53.3%)が5割半ば近くで高くなっている。「どちらともいえない」(22.0%)は2割を超え、「あまり関心がない」(17.2%)と「関心がない」(5.2%)の2つを合わせた『関心なし』(22.4%)は2割を超えている。

【経年変化】

経年による変化は、質問文が異なっているため、参考記載とする。

図5-3-2 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり—経年変化



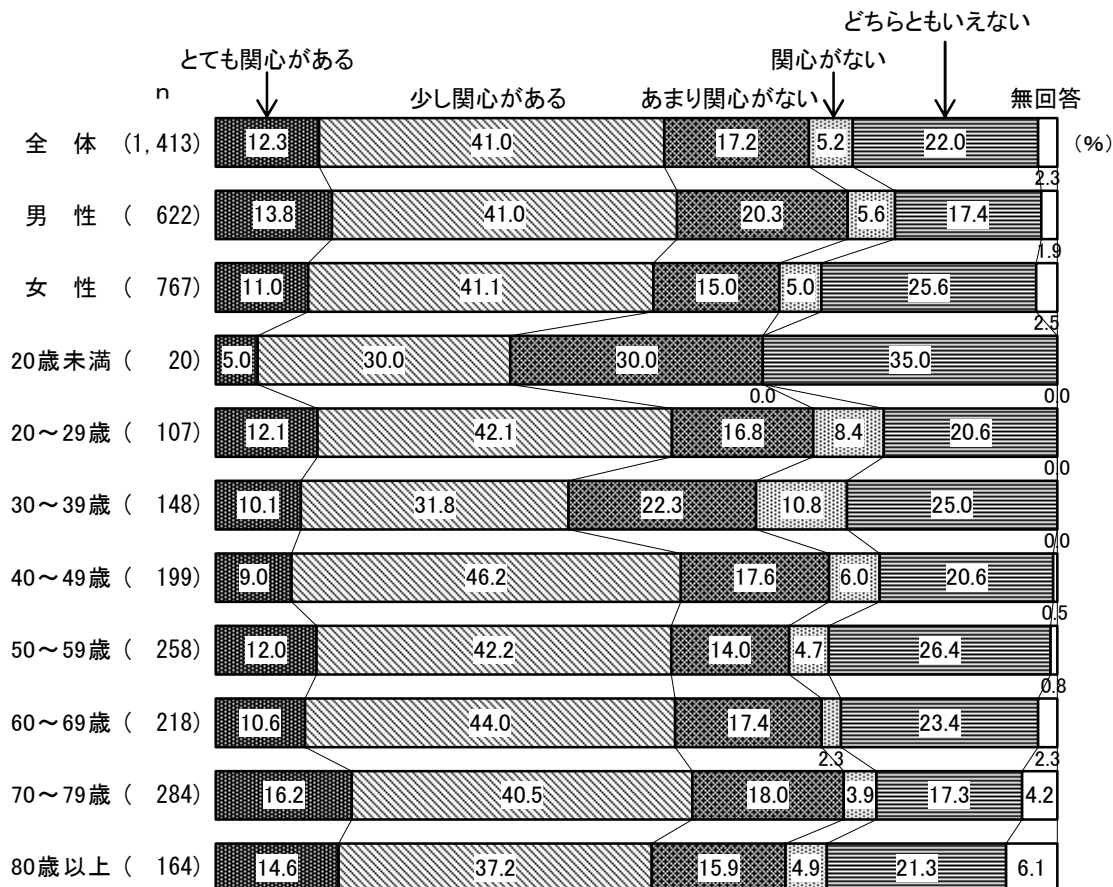
(注) 令和3年度調査～平成29年度調査では、「市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。」、平成27年度調査～平成23年度調査では、「厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「どちらともいえない」(25.6%)が男性(17.4%)より8.2ポイント高くなっている。一方、男性では『関心なし』(25.9%)が男性(20.0%)より5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『関心あり』は70~79歳(56.7%)で5割半ばを超えて高くなっている。一方、『関心なし』は30~39歳(33.1%)で3割半ば近くと高くなっている。

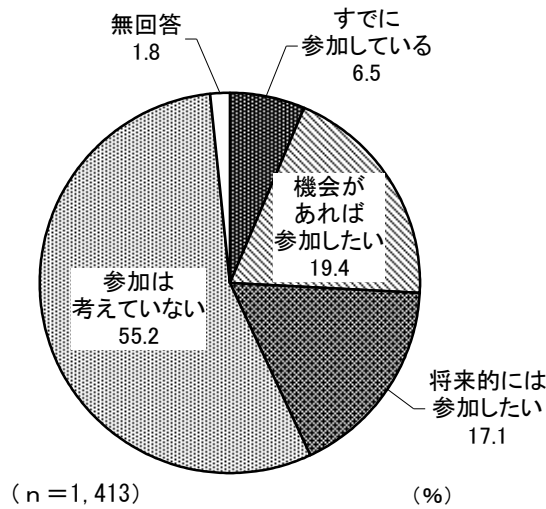
図5-3-3 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり—性別、年齢別



(4) 地域の防犯活動への参加 (B:問9)

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加したいと思いますか。
(1つだけ選んでください)

図5-4-1 地域の防犯活動への参加



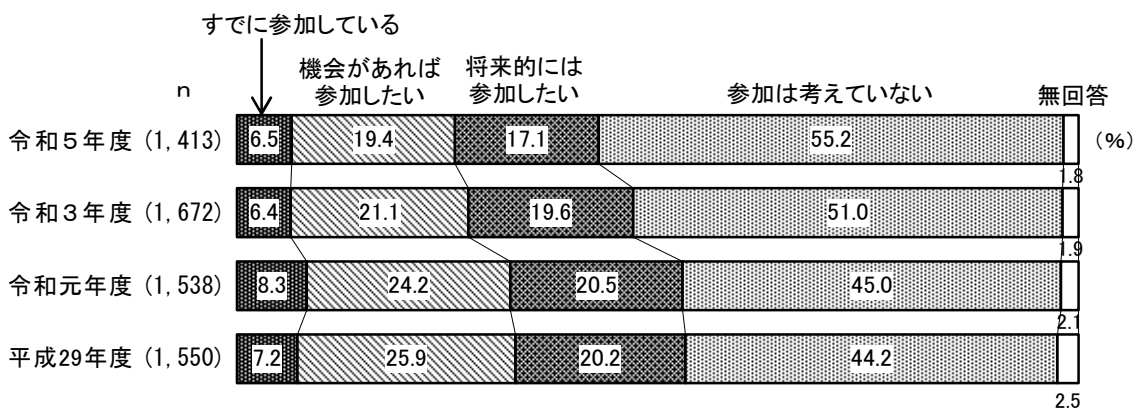
【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「すでに参加している」(6.5%)は1割未満となっている。「機会があれば参加したい」(19.4%)は約2割、「将来的には参加したい」(17.1%)は1割半ばを超え、「不参加を希望しない」(55.2%)は5割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「不参加を希望しない」(55.2%)は令和3年度調査(51.0%)より4.2ポイント増加している。

図5-4-2 地域の防犯活動への参加—経年変化

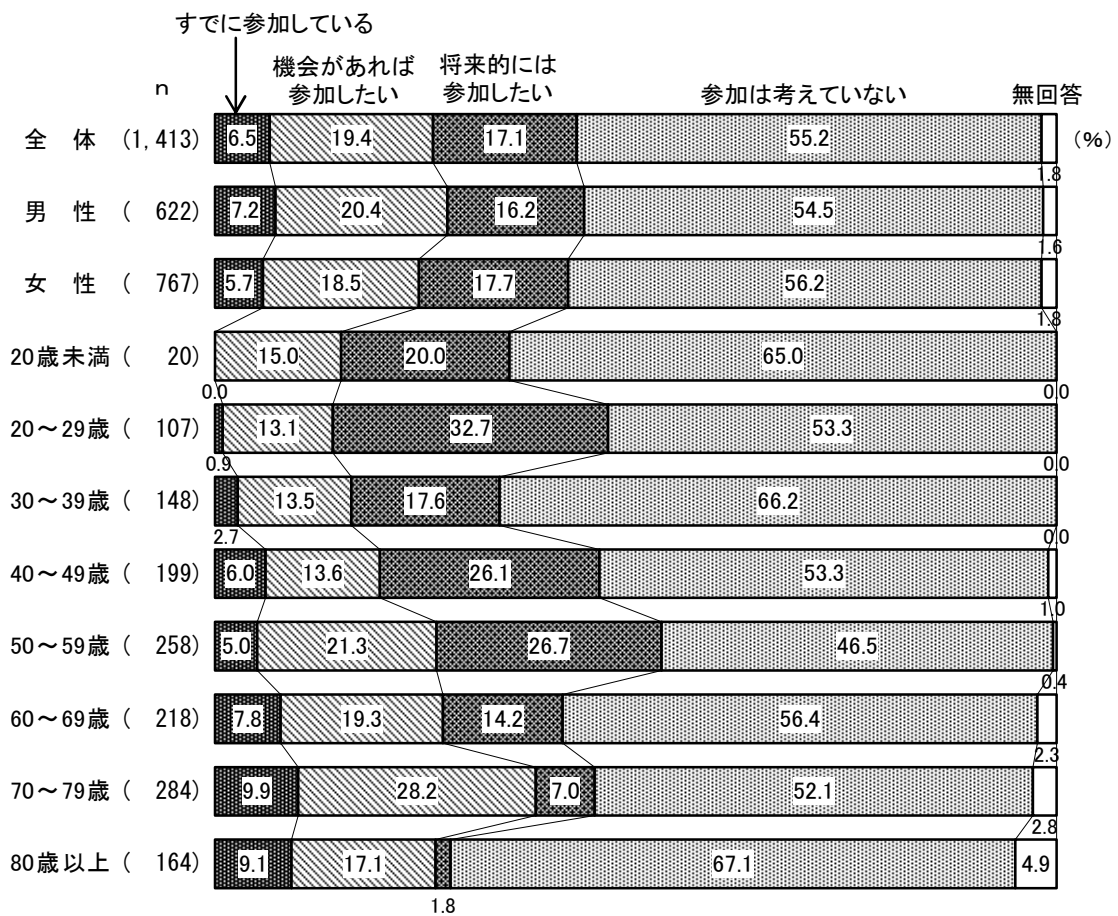


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「機会があれば参加したい」は70～79歳（28.2%）で3割近くと高くなっている。「将来的には参加したい」は20～29歳（32.7%）で3割半ば近くと高くなっている。「参加は考えていない」は30～39歳（66.2%）と80歳以上（67.1%）で6割半ばを超えて高くなっている。

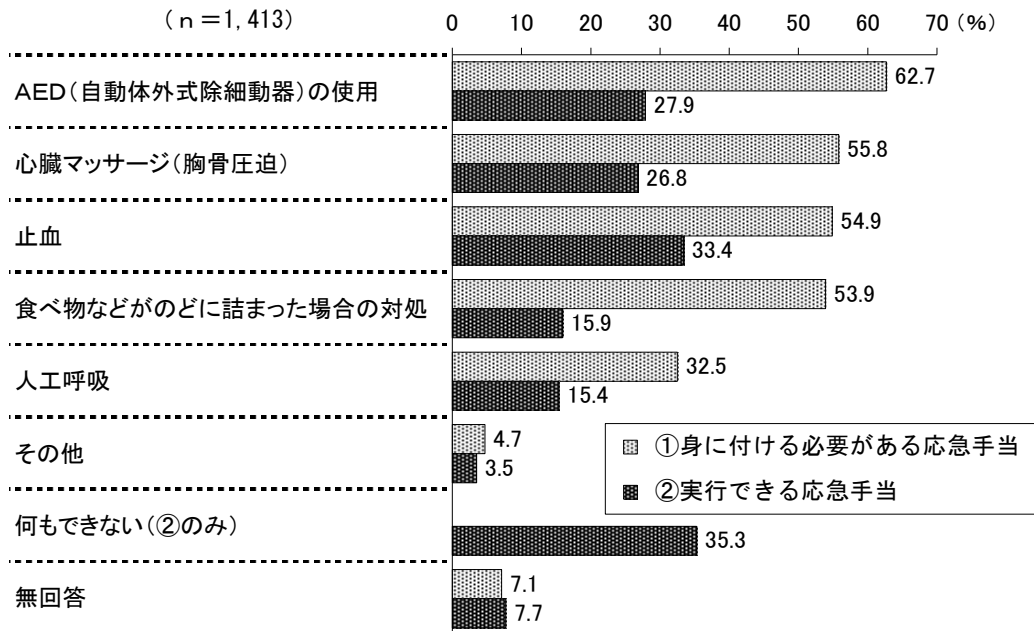
図5-4-3 地域の防犯活動への参加—性別、年齢別



(5) 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当 (B: 問10)

問. いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。また、どのような応急手当ができますか。(①~②について、いくつでも選んでください)

図5-5-1 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当



【全体】

①身に付ける必要がある応急手当について聞いたところ、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(62.7%)が6割半ば近くで最も高く、次いで「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(55.8%)、「止血」(54.9%)、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(53.9%)、「人工呼吸」(32.5%)となっている。

②実行可能な応急手当について聞いたところ、「止血」(33.4%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「AED(自動体外式除細動器)の使用」(27.9%)、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(26.8%)、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(15.9%)、「人工呼吸」(15.4%)となっている。また、「何もできない」(35.3%)は3割半ばとなっている。

【経年変化】

①身に付ける必要がある応急手当について経年による変化を見ると、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（55.8%）は令和3年度調査（52.3%）より3.5ポイント増加している。

表5-5-1 ①身に付ける必要がある応急手当—経年変化

調査年	n	(%)						
		AEDの使用	心臓マッサージ（胸骨圧迫）	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	人工呼吸	その他	無回答
令和5年度	1,413	62.7	55.8	54.9	53.9	32.5	4.7	7.1
令和3年度	1,672	60.2	52.3	53.8	53.9	31.8	4.7	8.9
令和元年度	1,538	60.3	53.3	55.5	49.0	37.3	4.7	10.4
平成29年度	1,550	58.5	51.3	53.4	51.1	37.9	5.9	10.8

【経年変化】

②実行可能な応急手当について経年による変化を見ると、「人工呼吸」(15.4%)は平成25年度調査(21.3%)以降減少傾向にある。

表5-5-2 ②実行可能な応急手当—経年変化

調査年	n	(%)							
		止血	AED(自動体外式除細動器)の使用	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
令和5年度	1,413	33.4	27.9	26.8	15.9	15.4	3.5	35.3	7.7
令和3年度	1,672	34.2	28.9	25.7	15.6	17.6	3.9	34.9	8.3
令和元年度	1,538	33.5	26.5	26.9	14.6	18.1	3.2	35.0	8.8
平成29年度	1,550	35.0	25.6	25.0	16.0	19.2	2.8	32.1	10.3
平成27年度	1,445	35.2	25.5	26.7	-	20.1	-	3.0	1.0
平成25年度	1,284	34.0	21.4	26.9	-	21.3	-	5.8	0.9

(注1) 平成29年度調査以降では、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」と「その他」の選択肢を追加している。

(注2) 平成27年度調査以前では、「119番に通報する」、「周囲の人に助けを求める」、「車などで近くの病院に運ぶ」の選択肢を追加していた(グラフには非表示)。

【属性別】

①身に付ける必要がある応急手当について性別で見ると、女性では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(60.5%)が男性(45.7%)より14.8ポイント、「止血」(57.1%)が男性(52.3%)より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「人工呼吸」(34.1%)が女性(30.8%)より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「AED(自動体外式除細動器)の使用」は40~49歳(82.4%)で8割を超えて高くなっている。「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」は20歳未満(80.0%)で8割と高くなっている。

②実行可能な応急手当について性別で見ると、男性では「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(32.8%)が女性(22.0%)より10.8ポイント、「人工呼吸」(21.4%)が女性(10.7%)より10.7ポイント、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(31.4%)が女性(24.9%)より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「止血」は20歳未満(55.0%)で5割半ばと高くなっている。「AED(自動体外式除細動器)の使用」は20歳未満(55.0%)で5割半ば、20~29歳(49.5%)で約5割と高くなっている。

表5-5-3 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当一性別、年齢別

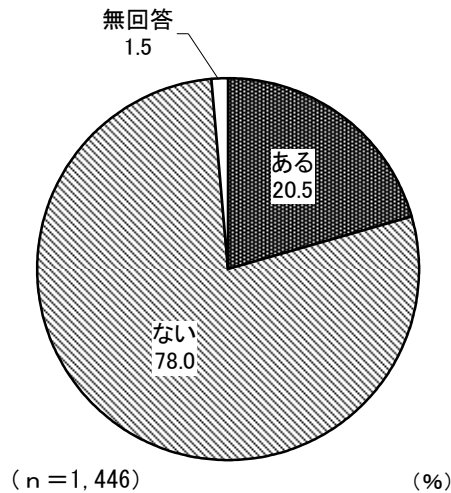
		①身に付ける必要がある応急手当							②実行できる応急手当								
		n	AEDの使用	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	人工呼吸	その他	無回答	止血	AEDの使用	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	人工呼吸	その他	何もしない	無回答
全体		1,413	62.7	55.8	54.9	53.9	32.5	4.7	7.1	33.4	27.9	26.8	15.9	15.4	3.5	35.3	7.7
性別	男性	622	63.3	54.8	52.3	45.7	34.1	5.3	7.1	32.2	31.4	32.8	14.0	21.4	4.8	31.7	7.1
	女性	767	62.1	56.7	57.1	60.5	30.8	4.2	7.0	34.4	24.9	22.0	17.7	10.7	2.5	37.9	8.2
年齢別	20歳未満	20	65.0	80.0	75.0	50.0	20.0	0.0	5.0	55.0	55.0	55.0	25.0	25.0	5.0	35.0	0.0
	20~29歳	107	70.1	70.1	56.1	51.4	43.0	11.2	2.8	42.1	49.5	44.9	26.2	23.4	7.5	19.6	2.8
	30~39歳	148	70.3	65.5	58.8	59.5	40.5	6.8	4.1	37.2	38.5	33.1	27.0	27.0	4.1	32.4	0.7
	40~49歳	199	82.4	62.8	61.8	53.8	35.2	5.0	1.5	34.7	26.1	26.1	19.1	14.1	3.0	40.2	1.5
	50~59歳	258	72.9	62.8	58.9	56.2	34.5	4.7	4.7	34.5	33.3	28.7	12.8	14.3	3.1	36.8	5.0
	60~69歳	218	63.8	57.3	53.7	57.3	32.1	5.0	7.8	27.1	24.3	26.1	12.8	13.8	4.6	39.9	8.3
	70~79歳	284	49.6	44.4	51.8	51.4	29.6	2.5	10.6	32.4	20.8	20.8	12.0	10.6	2.5	34.2	14.4
	80歳以上	164	32.3	34.1	40.2	47.0	19.5	3.0	16.5	27.4	9.8	14.0	9.8	12.2	1.8	37.2	17.1

6 人権

(1) 人権侵害を受けた経験 (A: 問11)

問. 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(1つだけ選んでください)

図6-1-1 人権侵害を受けた経験



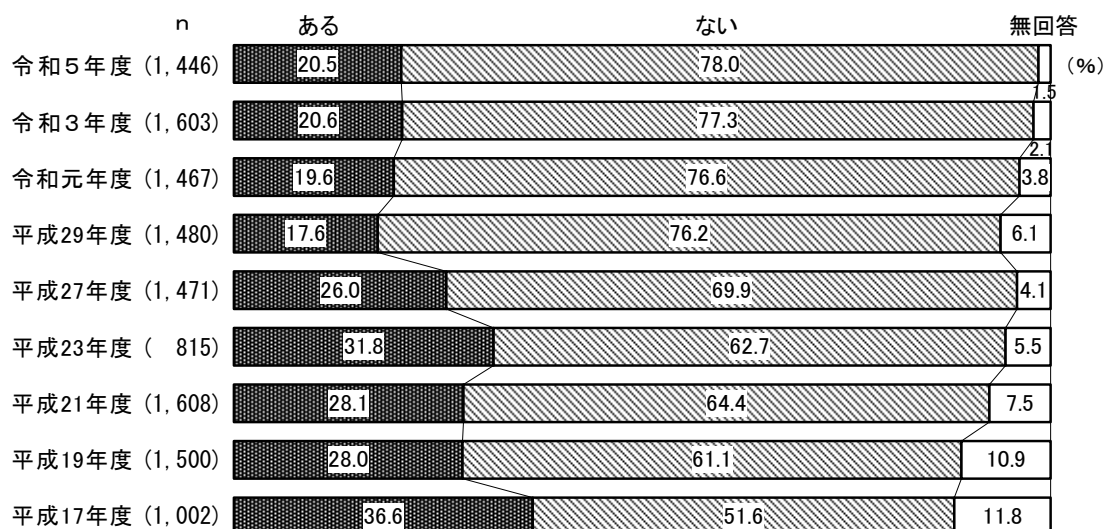
【全体】

人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ある」(20.5%)は約2割で、「ない」(78.0%)は8割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図6-1-2 人権侵害を受けた経験—経年変化

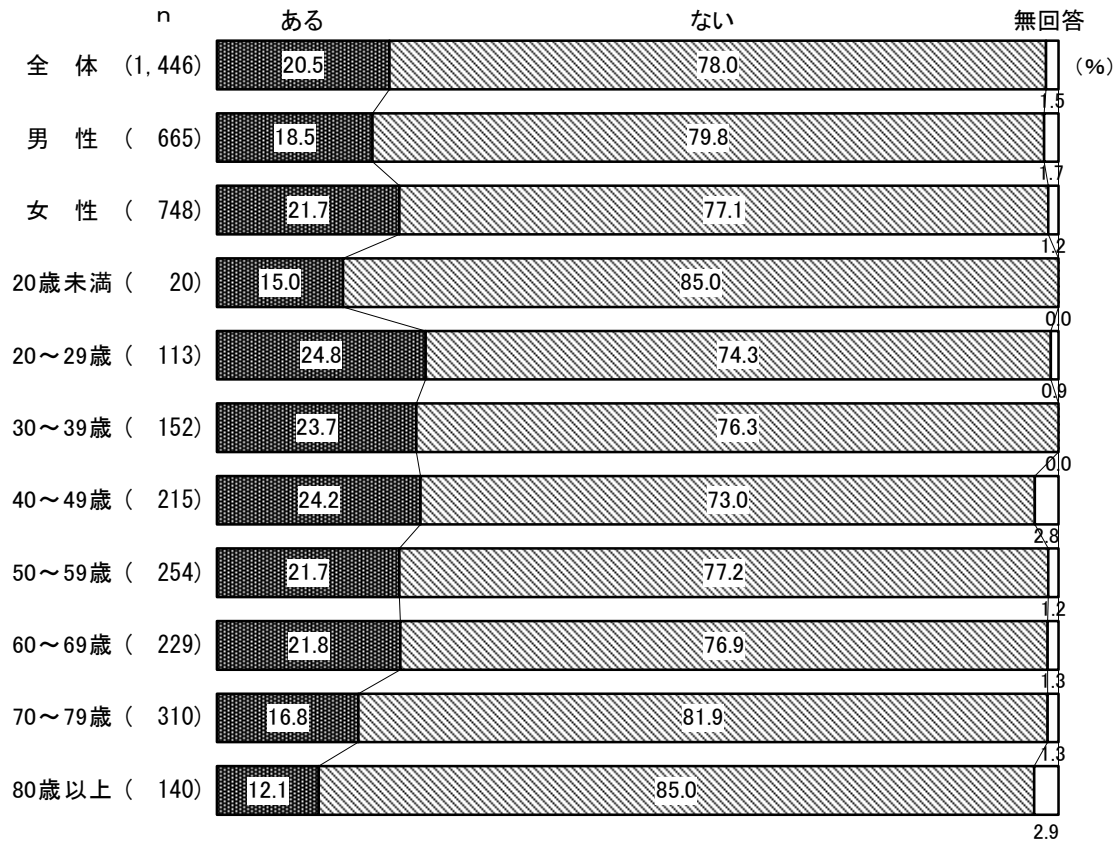


(注) 平成23年度調査以前では、「自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。ある場合、それはどのような人権侵害ですか。(ある場合はいくつでも)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「ある」(21.7%)が男性(18.5%)より3.2ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、「ある」は20～29歳(24.8%)と40～49歳(24.2%)で2割半ばと高くなっている。一方、「ない」は20歳未満と80歳以上(ともに85.0%)で8割半ばと高くなっている。

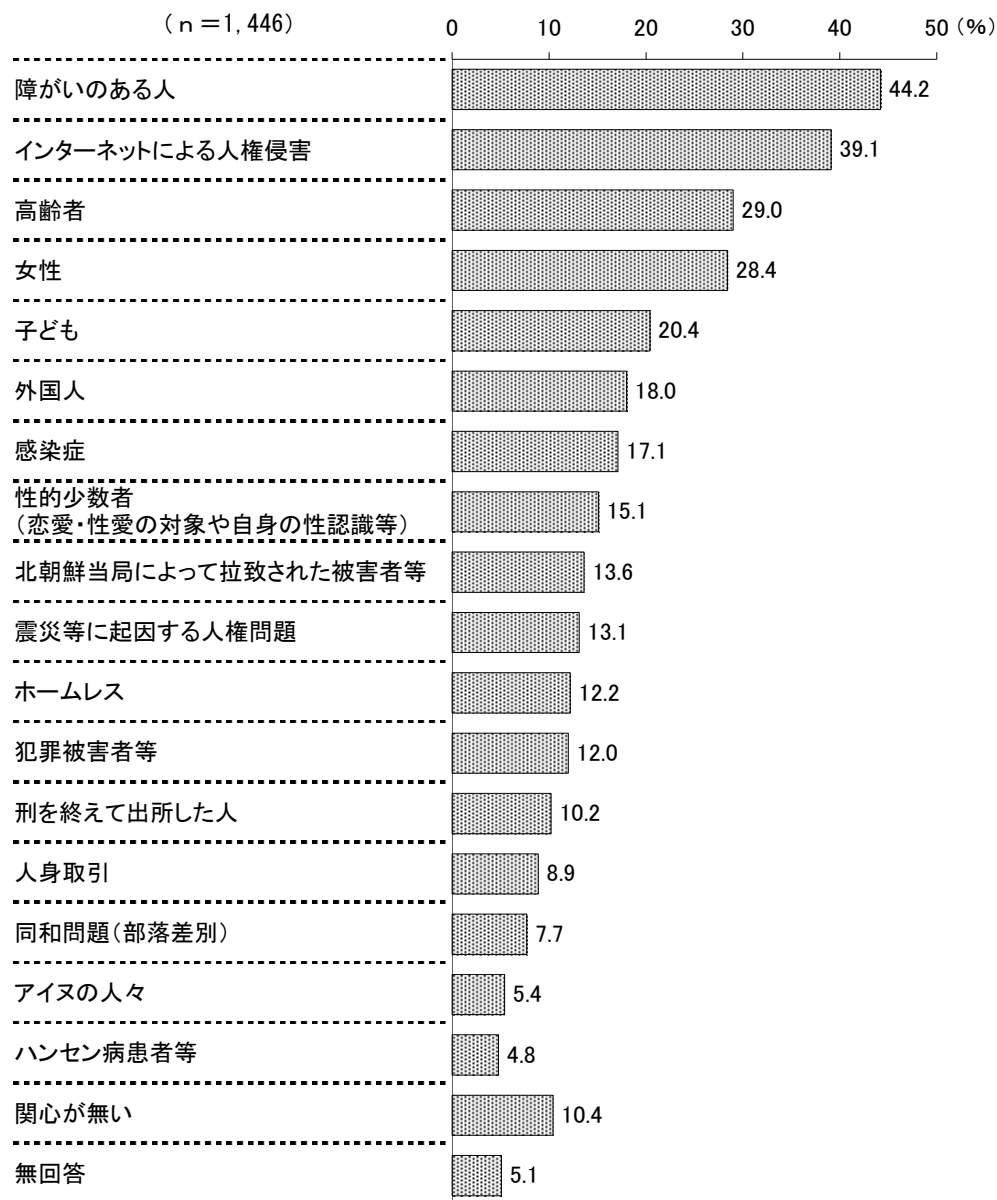
図6-1-3 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別



(2) 人権や差別に対する関心 (A: 問12)

問. どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。(いくつでも選んでください)

図6-2-1 人権や差別に対する関心



【全体】

人権や差別に対する関心について聞いたところ、「障がいのある人」(44.2%) が4割半ばで最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」(39.1%)、「高齢者」(29.0%)、「女性」(28.4%)、「子ども」(20.4%)、「外国人」(18.0%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和3年度調査と同じ順位となっている。

表6-2-1 人権や差別に対する関心—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,417)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	障がいの ある人 44.2	障がいの ある人 46.5	障がいの ある人 46.4	障がい者 に対する問題 42.3	障がい者 に対する問題 37.3	子ども に対する問題 31.7	高齢者 に対する問題 30.0	高齢者 に対する問題 29.4
2	インターネット による人権 侵害 39.1	インターネット による人権 侵害 41.8	インターネット による人権 侵害 35.7	インターネット を悪用した 問題 36.1	子ども に対する問題 33.0	障がい者 に対する問題 31.4	障がい者 に対する問題 29.4	障がい者 に対する問題 27.8
3	高齢者 29.0	女性 28.1	高齢者 29.4	高齢者 に対する問題 36.0	高齢者 に対する問題 /インターネット を悪用した 問題 31.3	インターネット を悪用した 問題 25.3	子ども に対する問題 27.3	子ども に対する問題 26.4
4	女性 28.4	高齢者 26.1	女性 27.5	東日本大震災 の被害者 に対する問題 28.9	31.3	高齢者 に対する問題 23.8	北朝鮮当局 による人権 侵害問題 25.4	インターネット を悪用した 問題 23.1
5	子ども 20.4	子ども 20.8	子ども 23.4	子ども に対する問題 27.6	女性 に対する 問題 26.0	女性 に対する 問題 16.9	インターネット を悪用した 問題 24.9	北朝鮮当局 による人権 侵害問題 19.2

- (注1) 令和元年度調査から法務省の分類に準じて整理し、「刑を終えて出所した人」「犯罪被害者等」「人身取引」「アイヌの人々」の選択肢を追加した。
- (注2) 「インターネットによる人権侵害」は、平成29年度調査以前では「インターネットを悪用した問題」としていた。
- (注3) 「震災等に起因する人権問題」は、令和3年度調査～令和元年度調査では「東日本大震災に起因する人権問題」、平成29年度調査では「東日本大震災の被害者に対する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。
- (注4) 「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」は、平成29年度調査以前では「北朝鮮当局による人権侵害問題」としていた。
- (注5) 「性的少数者（恋愛・性愛の対象や自身の性認識等）」は、平成29年度調査では「LGBT（性的指向・性同一性障がい等）に関する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。
- (注6) 「ハンセン病患者等」は、令和3年度調査～令和元年度調査では「HIV感染者・ハンセン病患者等」、平成29年度調査以前では「HIV（エイズウイルス）感染者やハンセン病患者などに対する問題」としていた。
- (注7) 「同和問題（部落差別）」は、平成29年度調査以前では「同和関係者に対する問題」としていた。
- (注8) 平成29年度調査では「ヘイトスピーチに関する問題」の選択肢を加えていた。
- (注9) 今回調査から、「感染症」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「女性」(34.2%)が男性(22.0%)より12.2ポイント、「障がいのある人」(47.9%)が男性(40.2%)より7.7ポイント高くなっている。一方、男性では「外国人」(21.5%)が女性(14.7%)より6.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「障がいのある人」は20歳未満(60.0%)で6割と高くなっている。「インターネットによる人権侵害」は60～69歳(47.6%)で5割近くと高くなっている。「高齢者」は70～79歳(43.5%)と80歳以上(42.1%)で4割台と高くなっている。

表6-2-2 人権や差別に対する関心—性別、年齢別

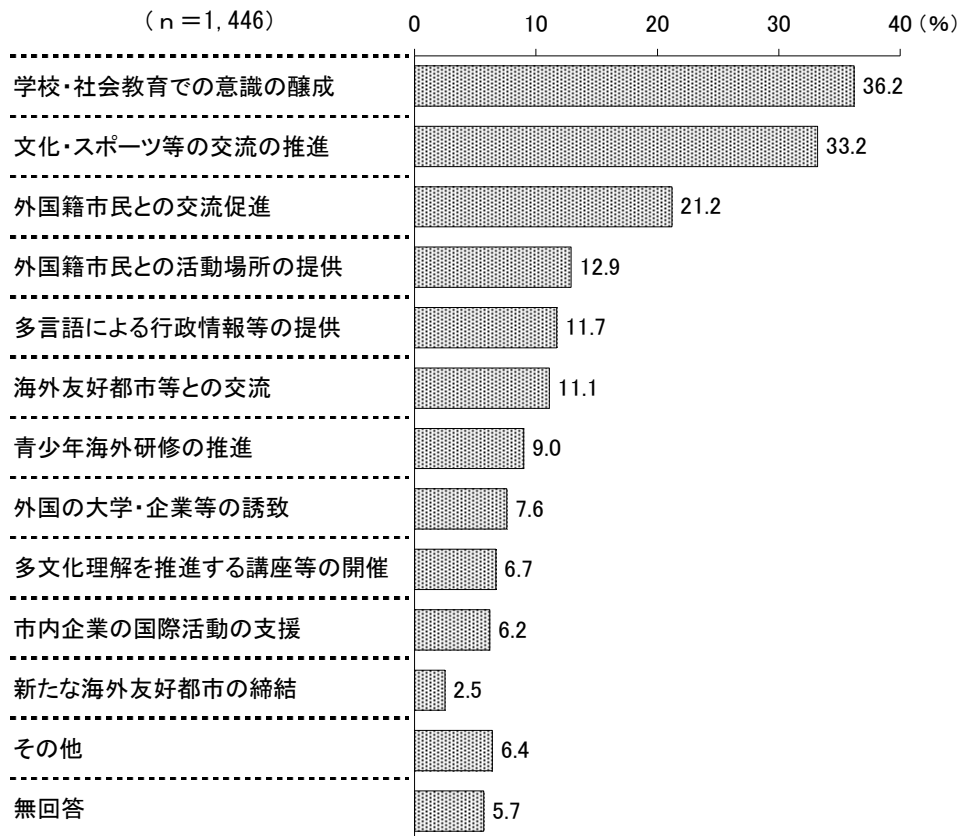
		n	障がいのある人	インターネットによる人権侵害	高齢者	女性	子ども	外国人	感染症	性的少数者 (恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	震災等に起因する人権問題	ホームレス	犯罪被害者等	刑を終えて出所した人	人身取引	同和問題(部落差別)	アイヌの人々	ハンセン病患者等	関心が無い	無回答
全 体		1,446	44.2	39.1	29.0	28.4	20.4	18.0	17.1	15.1	13.6	13.1	12.2	12.0	10.2	8.9	7.7	5.4	4.8	10.4	5.1
性別	男 性	665	40.2	40.5	26.8	22.0	20.8	21.5	18.2	13.5	14.9	14.3	12.9	12.8	9.0	9.9	8.1	5.7	4.5	12.3	4.4
	女 性	748	47.9	38.8	30.3	34.2	19.9	14.7	16.4	16.0	12.7	11.9	11.4	11.0	11.1	7.8	7.0	4.8	4.4	8.4	5.9
年 齢 別	20歳未満	20	60.0	40.0	20.0	35.0	25.0	25.0	10.0	40.0	0.0	20.0	15.0	5.0	10.0	0.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	20～29歳	113	41.6	39.8	12.4	39.8	23.9	31.0	17.7	25.7	3.5	8.0	21.2	7.1	13.3	11.5	9.7	9.7	4.4	16.8	0.0
	30～39歳	152	38.2	46.7	14.5	43.4	36.2	28.3	11.8	19.7	5.9	12.5	7.9	13.2	11.8	9.9	6.6	3.9	3.3	11.8	0.7
	40～49歳	215	44.2	38.6	19.5	28.8	26.0	21.4	16.7	19.5	7.9	12.6	10.7	15.3	9.3	8.8	6.5	6.5	6.0	7.9	2.8
	50～59歳	254	44.9	46.9	23.6	27.6	16.5	18.1	15.4	15.7	12.2	14.6	12.2	14.6	10.6	9.4	7.9	5.1	5.9	11.0	3.5
	60～69歳	229	49.8	47.6	33.6	27.9	20.1	14.4	17.9	15.7	15.7	13.1	10.9	13.1	9.2	8.7	4.8	6.1	5.2	9.2	4.8
	70～79歳	310	41.9	33.2	43.5	21.6	14.5	11.6	19.7	8.1	22.9	15.8	10.6	10.0	8.7	8.1	8.1	4.8	3.9	10.0	10.6
	80歳以上	140	46.4	19.3	42.1	20.0	12.1	10.7	20.7	6.4	20.0	10.0	17.1	9.3	12.9	8.6	12.9	2.9	4.3	9.3	9.3

7 国際交流

(1) 国際交流の取組 (A: 問13)

問. 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図7-1-1 国際交流の取組



【全体】

国際交流の取組について聞いたところ、「学校・社会教育での意識の醸成」(36.2%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「文化・スポーツ等の交流の推進」(33.2%)、「外国籍市民との交流促進」(21.2%)、「外国籍市民との活動場所の提供」(12.9%)、「多言語による行政情報等の提供」(11.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表7-1-1 国際交流の取組—経年変化

調 査 年	n	(%)												
		学校・社会教育での意識の醸成	文化・スポーツ等の交流の推進	外国籍市民との交流促進	外国籍市民との活動場所の提供	多言語による行政情報等の提供	海外友好都市等との交流	青少年海外研修の推進	外国の大学・企業等の誘致	多文化理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	新たな海外友好都市の締結	その他	無回答
令和5年度	1,446	36.2	33.2	21.2	12.9	11.7	11.1	9.0	7.6	6.7	6.2	2.5	6.4	5.7
令和3年度	1,603	36.9	31.6	19.7	11.7	12.3	12.5	10.3	6.4	9.2	6.3	3.4	5.8	5.4
令和元年度	1,467	38.7	38.1	20.0	11.0	15.8	11.7	10.1	7.3	9.8	6.1	2.6	4.5	4.4
平成29年度	1,480	37.6	38.2	18.6	12.6	11.7	10.9	12.6	6.8	6.7	5.6	3.6	4.1	6.7
平成27年度	1,445	-	36.6	28.2	-	14.1	10.9	15.4	10.8	10.4	6.4	4.8	4.4	8.2
平成25年度	1,270	-	30.2	24.7	-	15.6	10.1	17.7	13.4	9.6	9.2	3.9	4.0	9.8
平成23年度	815	-	38.5	25.8	-	11.4	12.6	16.3	11.4	9.1	7.4	4.7	4.3	5.2
平成21年度	1,608	-	44.1	22.6	-	12.3	15.0	15.3	9.1	11.4	7.2	-	5.6	5.3
平成19年度	1,500	-	40.1	21.6	-	13.7	11.0	14.7	7.5	9.7	4.5	-	2.9	12.3
平成17年度	1,002	-	44.3	25.4	-	14.9	13.5	17.4	11.9	16.1	6.3	-	3.1	7.8

(注1)「外国籍市民との交流促進」は、平成29年度調査以前では「市内外国籍市民との交流促進」として
いた。

(注2)「新たな海外友好都市の締結」は、平成29年度調査以前では「新たな友好都市の締結」として
いた。また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注3)「多文化理解を推進する講座等の開催」は、平成29年度調査以前では「国際理解を推進する講座等
の開催」としていた。

(注4)平成29年度調査以降では、「学校・社会教育での意識の醸成」、「外国籍市民との活動場所の提供」
の選択肢を追加している。

(注5)「多言語による行政情報等の提供」は、平成27年度調査以前では「市のパンフレット、道路標識等
の外国語表示の整備」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「学校・社会教育での意識の醸成」(39.4%)が男性(32.5%)より6.9ポイント高くなっている。一方、男性では「多言語による行政情報等の提供」(13.5%)が女性(9.9%)より3.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「学校・社会教育での意識の醸成」は60～69歳(50.2%)で約5割と高くなっている。「文化・スポーツ等の交流の推進」は20歳未満(40.0%)と20～29歳(42.5%)で4割台と高くなっている。「外国籍市民との交流促進」は60～69歳(27.5%)で3割近くと高くなっている。

表7-1-2 国際交流の取組—性別、年齢別

			(%)												
		n	学校・社会教育での意識の醸成	文化・スポーツ等の交流の推進	外国籍市民との交流促進	外国籍市民との活動場所の提供	多言語による行政情報等の提供	海外友好都市等との交流	青少年海外研修の推進	外国の大学・企業等の誘致	多文化理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	新たな海外友好都市の締結	その他	無回答
全 体		1,446	36.2	33.2	21.2	12.9	11.7	11.1	9.0	7.6	6.7	6.2	2.5	6.4	5.7
性別	男 性	665	32.5	35.3	21.5	14.9	13.5	10.2	7.7	9.6	6.5	6.6	2.4	8.0	3.9
	女 性	748	39.4	31.8	21.4	11.4	9.9	11.8	10.0	6.1	6.4	5.9	2.5	4.9	7.2
年齢別	20歳未満	20	25.0	40.0	20.0	10.0	20.0	10.0	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0
	20～29歳	113	32.7	42.5	16.8	12.4	15.0	12.4	6.2	12.4	1.8	8.0	2.7	5.3	0.9
	30～39歳	152	34.9	32.9	21.1	13.8	17.1	15.1	7.9	8.6	3.9	5.3	1.3	5.9	1.3
	40～49歳	215	34.9	26.0	23.3	17.2	13.0	9.8	7.4	12.1	9.3	6.0	1.9	7.4	2.3
	50～59歳	254	33.5	35.0	22.0	12.6	10.2	13.4	7.1	6.3	6.3	6.7	4.3	9.8	4.3
	60～69歳	229	50.2	28.8	27.5	13.1	12.7	5.2	7.9	5.2	9.2	6.1	1.3	3.5	3.1
	70～79歳	310	34.2	35.5	19.0	11.9	8.7	9.0	11.9	6.1	6.1	7.4	2.6	5.2	12.6
	80歳以上	140	32.1	34.3	15.7	9.3	7.9	17.1	12.1	5.7	7.1	3.6	3.6	7.9	10.0

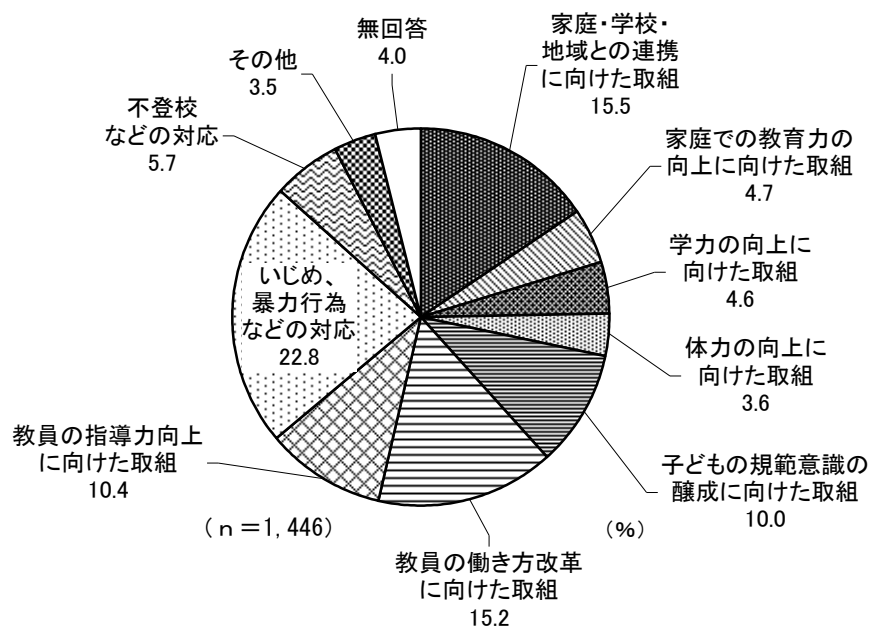
8 教育・生涯学習・文化・スポーツ

(1) 現在の教育への取組 (A: 問14)

問. 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図8-1-1 現在の教育への取組



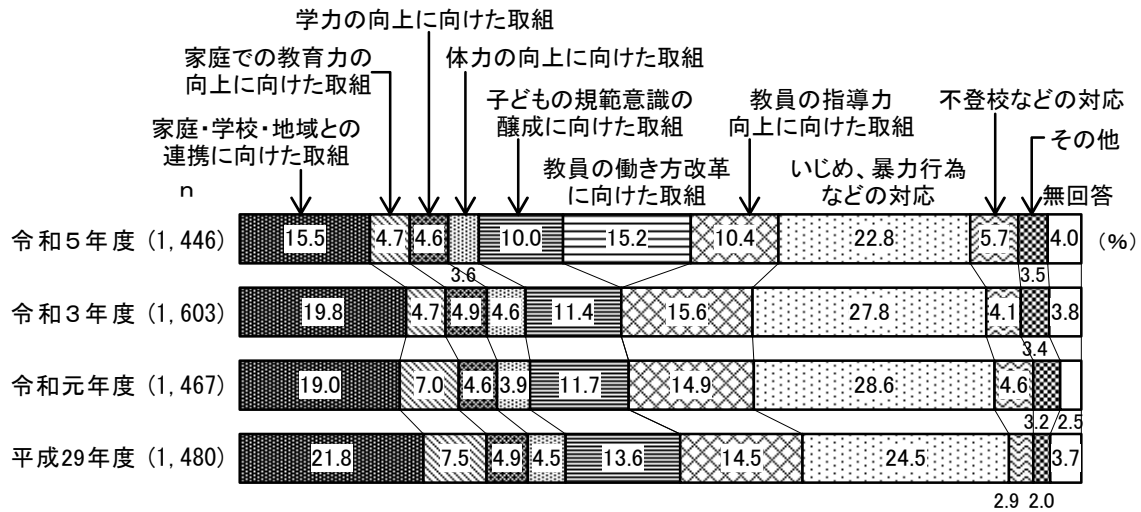
【全体】

現在の教育において、どのような取組が重要であるかについて聞いたところ、「いじめ、暴力行為などの対応」(22.8%)が2割半ば近くで最も高く、次いで「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(15.5%)、「教員の働き方改革に向けた取組」(15.2%)、「教員の指導力向上に向けた取組」(10.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「教員の指導力向上に向けた取組」(10.4%)は令和3年度調査(15.6%)より5.2ポイント、「いじめ、暴力行為などの対応」(22.8%)は令和3年度調査(27.8%)より5.0ポイント、「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(15.5%)は令和3年度調査(19.8%)より4.3ポイント減少している。

図8-1-2 現在の教育への取組—経年変化



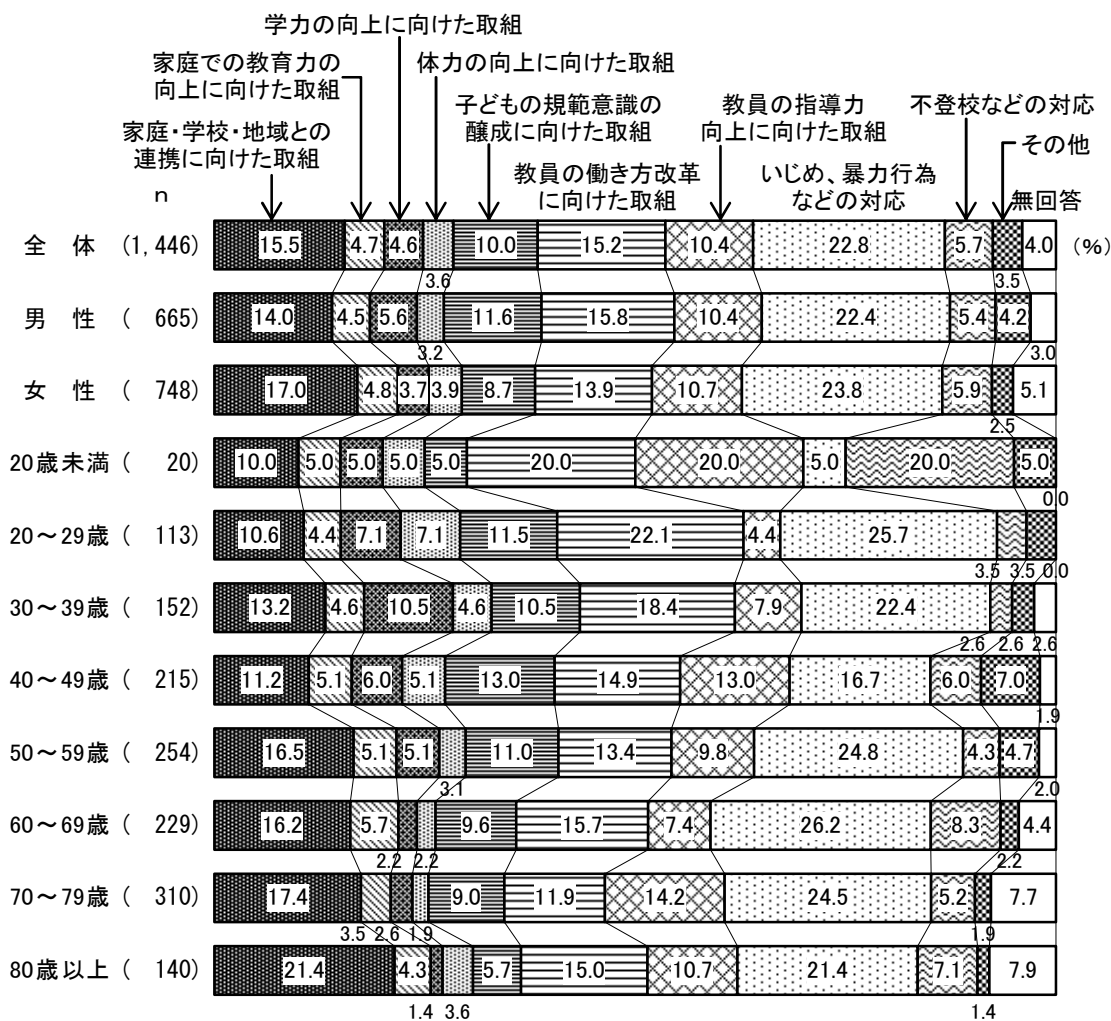
(注) 今回調査から、「教員の働き方改革に向けた取組」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(17.0%)が男性(14.0%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」は80歳以上(21.4%)で2割を超えて高くなっている。「教員の働き方改革に向けた取組」は20～29歳(22.1%)で2割を超えて高くなっている。「いじめ、暴力行為などの対応」は60～69歳(26.2%)で2割半ばを超えて高くなっている。

図8-1-3 現在の教育への取組—性別、年齢別

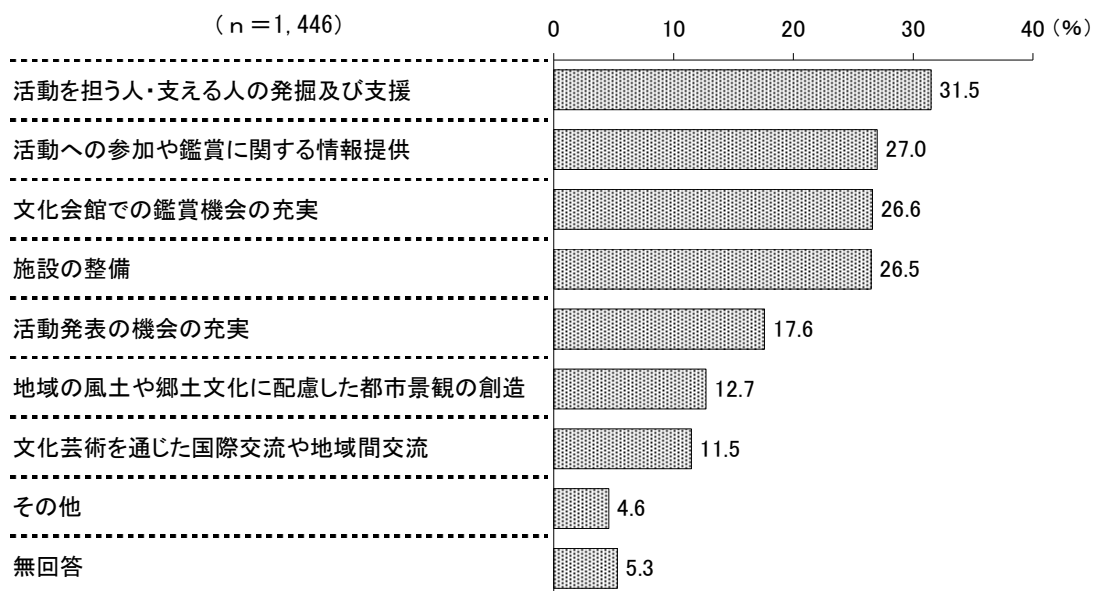


(2) 文化芸術活動を充実させる取組 (A: 問15)

問. 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図8-2-1 文化芸術活動を充実させる取組



【全体】

文化芸術活動を充実させる取組について聞いたところ、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」(31.5%)が3割を超えて最も高く、次いで「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(27.0%)、「文化会館での鑑賞機会の充実」(26.6%)、「施設の整備」(26.5%)、「活動発表の機会の充実」(17.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和3年度調査と同じ順位となっており、「施設の整備」(26.5%)は令和3年度調査(21.2%)より5.3ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8-2-1 文化芸術活動を充実させる取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)
1	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.5	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.1	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 32.9	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 32.6	文化芸術活動 や鑑賞活動など の情報提供 37.0	文化芸術活動 や鑑賞活動など の情報提供 34.3	芸術文化活動 や鑑賞活動など の情報提供 34.5	芸術文化活動 や鑑賞活動など の情報提供 33.2
2	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 27.0	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 27.2	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.1	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 32.4	魅力ある都市 景観の創造 33.1	魅力ある都市 景観の創造 32.9	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.7	魅力ある都市 景観の創造 30.8
3	文化会館での 鑑賞機会の 充実 26.6	文化会館での 鑑賞機会の 充実 23.7	文化会館での 鑑賞機会の 充実 26.1	文化会館での 鑑賞機会の 充実 24.6	文化会館での 鑑賞機会の 充実 31.5	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.1	魅力ある都市 景観の創造 29.4	文化会館での 鑑賞機会の 充実 30.5
4	施設の整備 26.5	施設の整備 21.2	施設の整備 23.0	施設の整備 20.7	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 27.7	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 26.5	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 25.3	学校や福祉施 設など、文化会 館以外での鑑 賞機会の充実 26.7
5	活動発表の 機会の充実 17.6	活動発表の 機会の充実 18.4	活動発表の 機会の充実 16.1	地域の風土や 郷土文化に配 慮した都市景 観の創造 15.3	市街地での文 化芸術イベント の充実 26.4	市街地での文 化芸術イベント の充実 22.8	市街地での文 化芸術イベント の充実 22.9	文化財や伝統 芸能などの保 存・継承 20.1

(注) 平成29年度調査以降では、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」と「活動発表の機会の充実」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(28.7%)が男性(24.4%)より4.3ポイント高くなっている。一方、男性では「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」(33.5%)が女性(29.3%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」は60～69歳(38.0%)で4割近くと高くなっている。「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」は40～49歳(30.7%)で約3割と高くなっている。「施設の整備」は20歳未満(40.0%)と30～39歳(40.1%)で4割台と高くなっている。

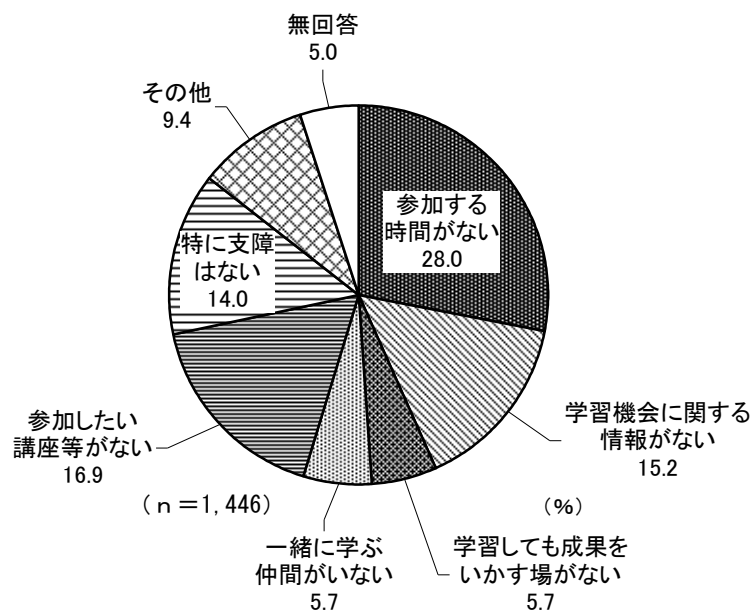
表8-2-2 文化芸術活動を充実させる取組—性別、年齢別

		n	活動及び支援を担う人・支える人の発掘	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	文化会館での鑑賞機会の充実	施設の整備	活動発表の機会の充実	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	その他	無回答
全 体		1,446	31.5	27.0	26.6	26.5	17.6	12.7	11.5	4.6	5.3
性別	男 性	665	33.5	26.2	24.4	27.5	18.5	14.1	11.3	5.7	4.5
	女 性	748	29.3	28.2	28.7	25.5	17.4	11.6	11.9	3.2	6.1
年 齢 別	20歳未満	20	25.0	25.0	30.0	40.0	5.0	15.0	10.0	5.0	0.0
	20～29歳	113	34.5	28.3	27.4	37.2	11.5	11.5	7.1	4.4	1.8
	30～39歳	152	30.3	21.7	26.3	40.1	19.1	15.1	8.6	3.9	2.6
	40～49歳	215	27.4	30.7	25.1	26.0	21.4	13.0	9.8	6.5	1.9
	50～59歳	254	28.3	28.0	22.8	27.6	20.9	13.0	11.8	5.1	3.5
	60～69歳	229	38.0	27.1	23.6	24.5	20.5	10.5	13.5	2.6	5.7
	70～79歳	310	31.3	26.1	31.3	18.7	12.6	13.5	13.5	4.8	10.6
	80歳以上	140	32.9	27.9	28.6	19.3	18.6	11.4	12.9	4.3	7.9

(3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A: 問16)

問. 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください)

図8-3-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



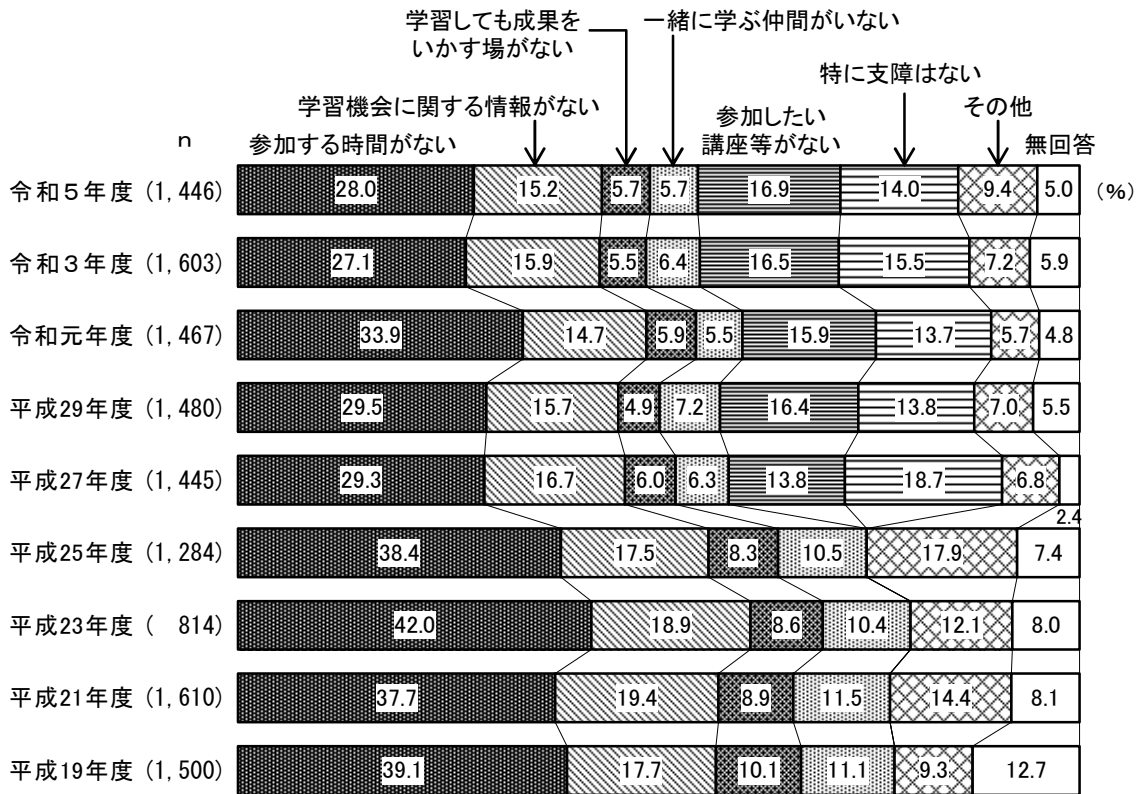
【全体】

生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(28.0%)が3割近くで最も高く、次いで「参加したい講座等がない」(16.9%)、「学習機会に関する情報がない」(15.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。
 なお、平成25年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考掲載とする。

図8-3-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化



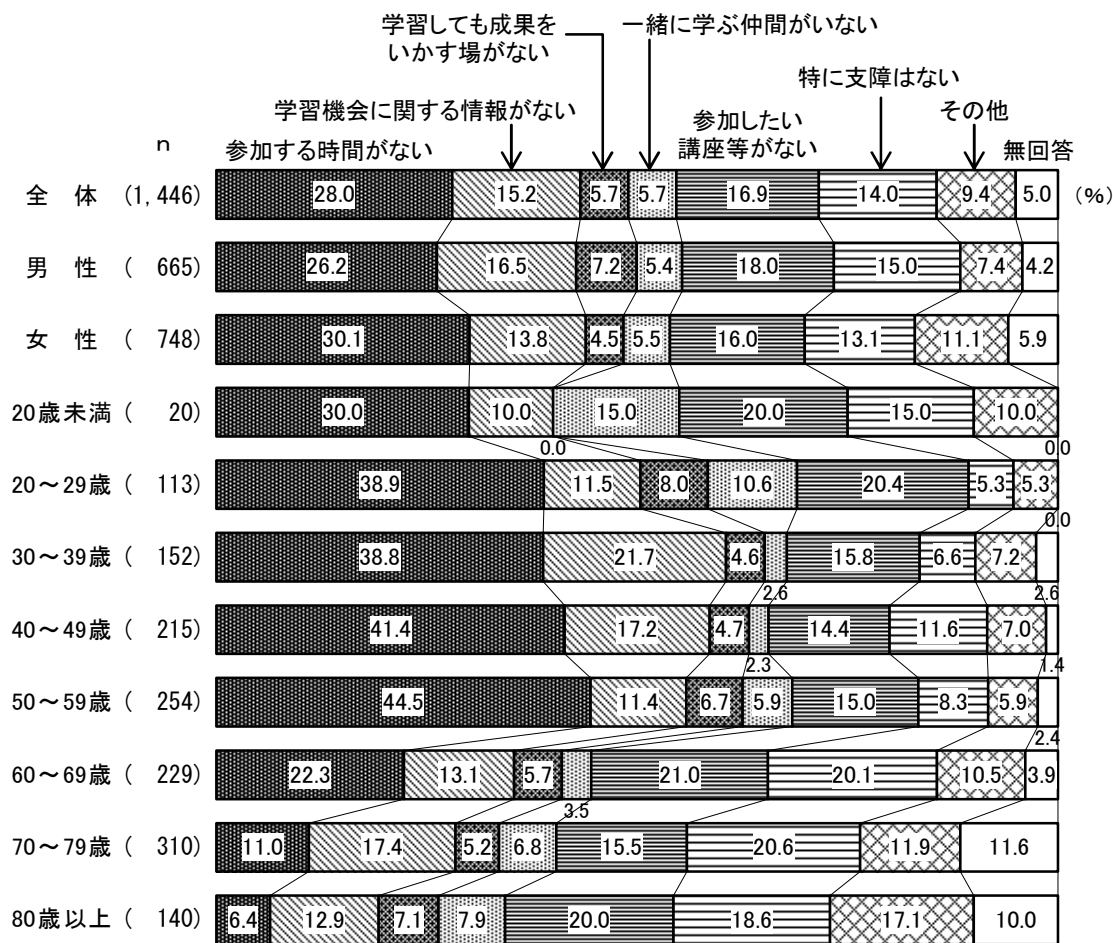
(注) 平成27年度調査以降では、「参加したい講座等がない」と「特に支障はない」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「参加する時間がない」(30.1%)が男性(26.2%)より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「参加する時間がない」50～59歳(44.5%)で4割半ばと高くなっている。「学習機会に関する情報がない」は30～39歳(21.7%)で2割を超えて高くなっている。「参加したい講座等がない」は60～69歳(21.0%)で2割を超えて高くなっている。

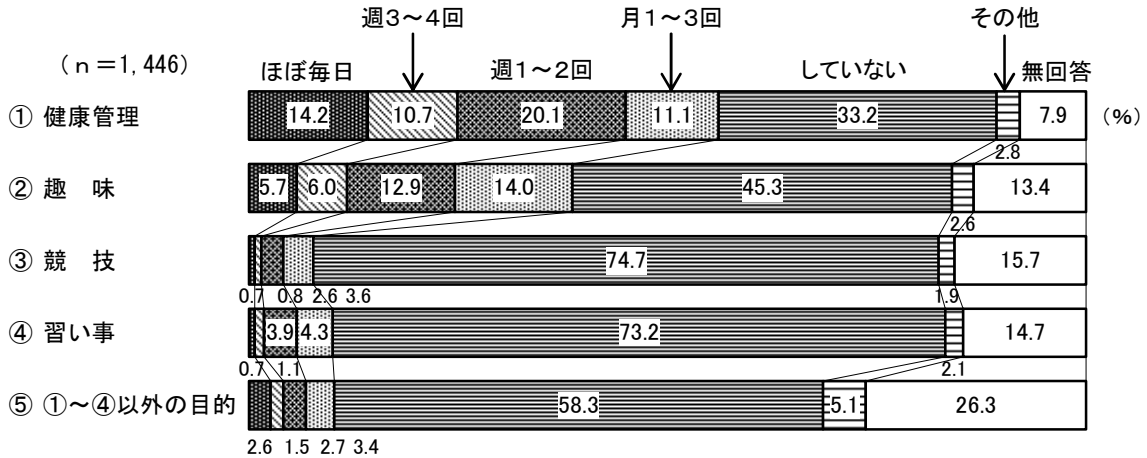
図8-3-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること—性別、年齢別



(4) スポーツをする目的・頻度 (A: 問17)

問. 運動(スポーツ)をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。
 (①～⑤について、それぞれ1つだけ選んでください)

図8-4-1 スポーツをする目的・頻度



【全体】

スポーツをする目的・頻度について、5つの目的別に頻度を聞いたところ、①健康管理では、「週1～2回」(20.1%)が約2割で最も高く、次いで「ほぼ毎日」(14.2%)、「月1～3回」(11.1%)、「週3～4回」(10.7%)となっている。

②趣味では、「月1～3回」(14.0%)が1割半ばとなっており、次いで「週1～2回」(12.9%)、「週3～4回」(6.0%)、「ほぼ毎日」(5.7%)となっている。

③競技では、「ほぼ毎日」(0.7%)と「週3～4回」(0.8%)、「週1～2回」(2.6%)、「月1～3回」(3.6%)の4つを合わせた『している』(7.7%)は1割未満となっている。

④習い事では、『している』(10.0%)は1割となっている。

⑤ ①～④以外の目的では、『している』(10.2%)は約1割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、全ての目的で『している』の割合は令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図8-4-2 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—経年変化

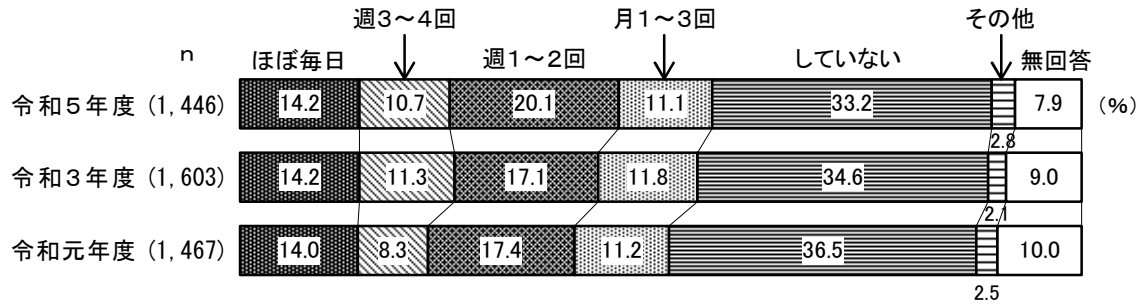


図8-4-3 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—経年変化

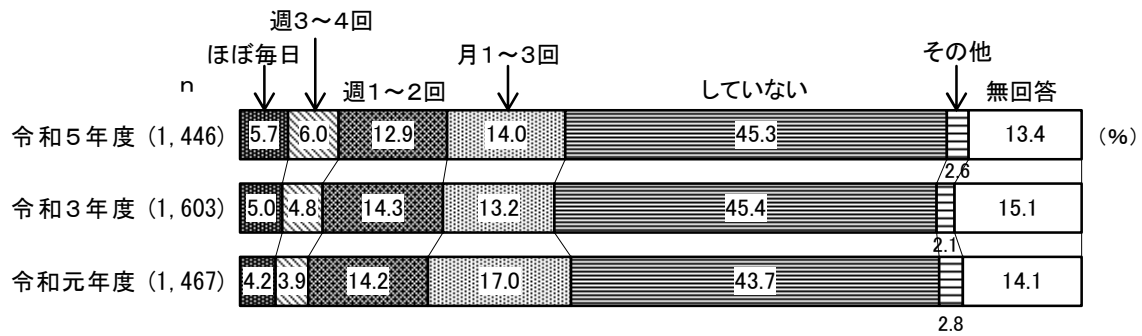


図8-4-4 スポーツをする目的・頻度 ③競技—経年変化

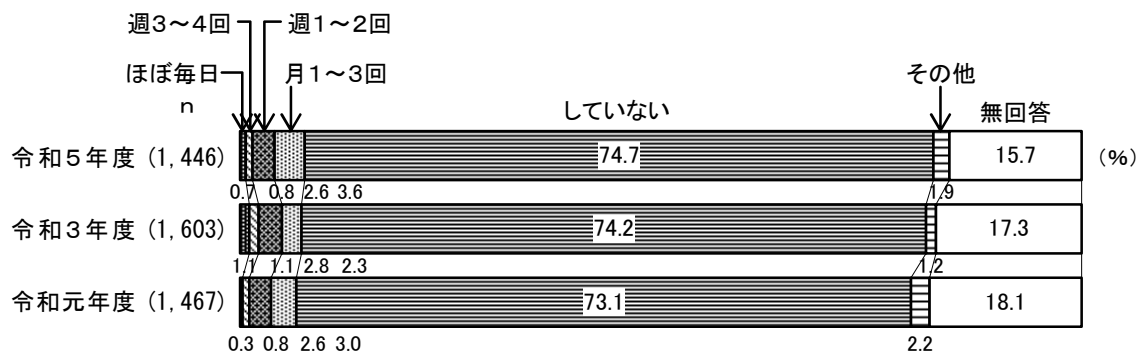


図8-4-5 スポーツをする目的・頻度 ④習い事—経年変化

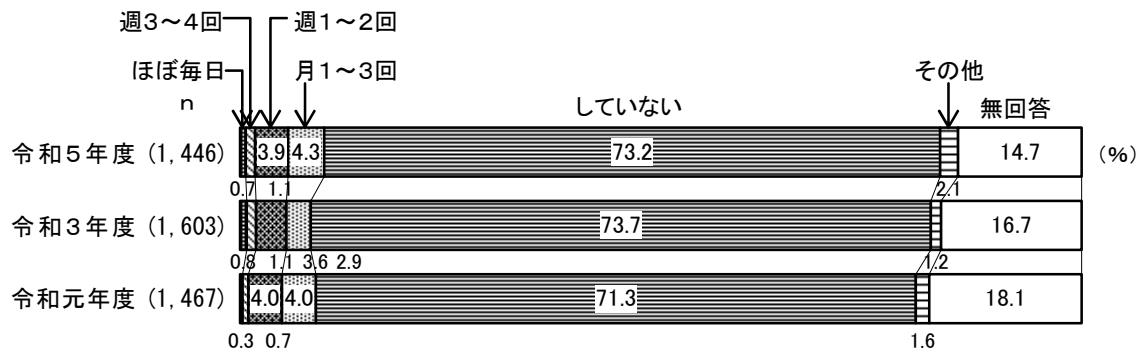
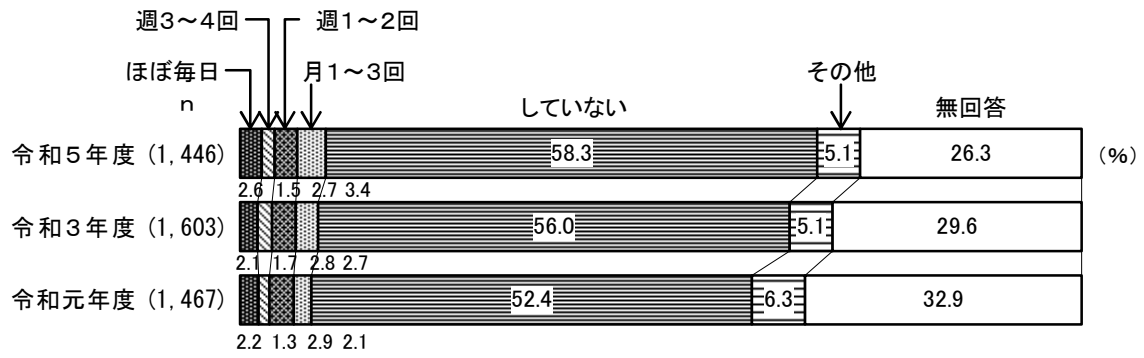


図8-4-6 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①~④以外の目的—経年変化

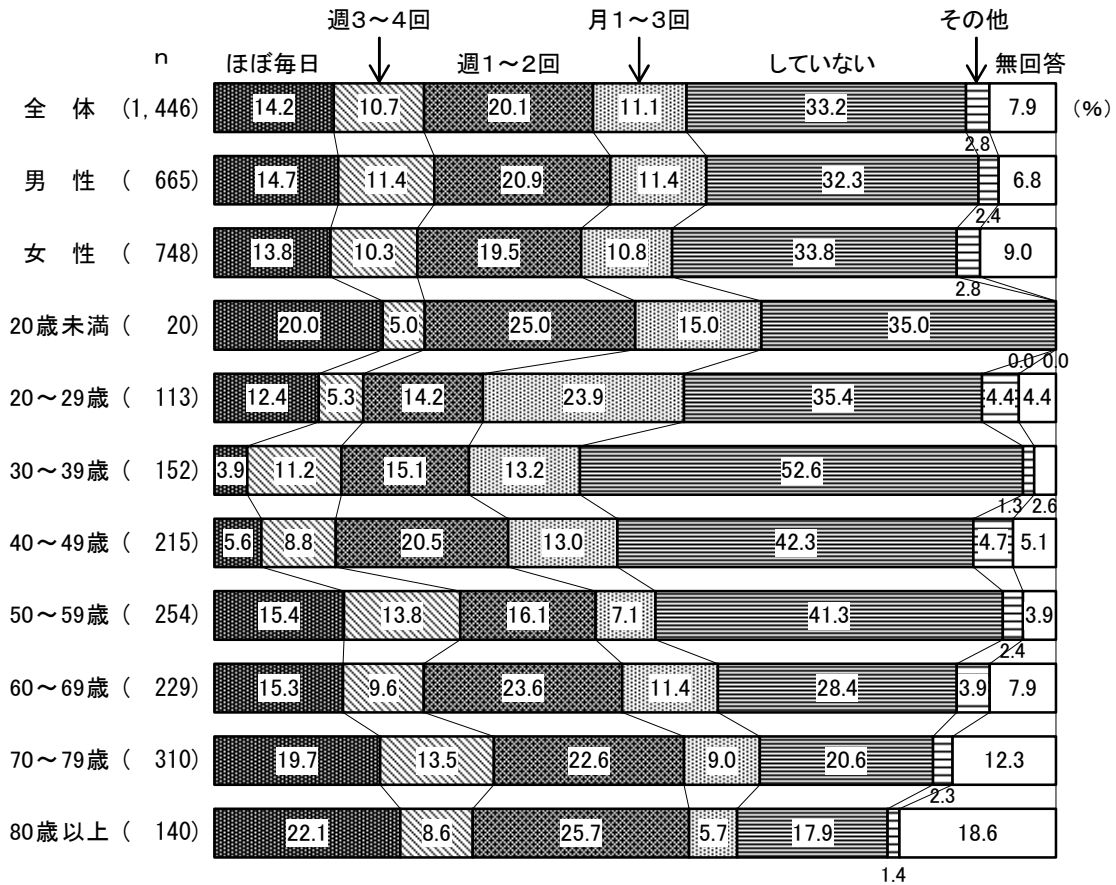


【属性別】①健康管理

①健康管理について性別で見ると、男性では『している』(58.4%)が女性(54.4%)より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満(65.0%)と70~79歳(64.8%)で6割半ばと高くなっている。一方、「していない」は30~39歳(52.6%)で5割半ば近くと高くなっている。

図8-4-7 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—性別、年齢別

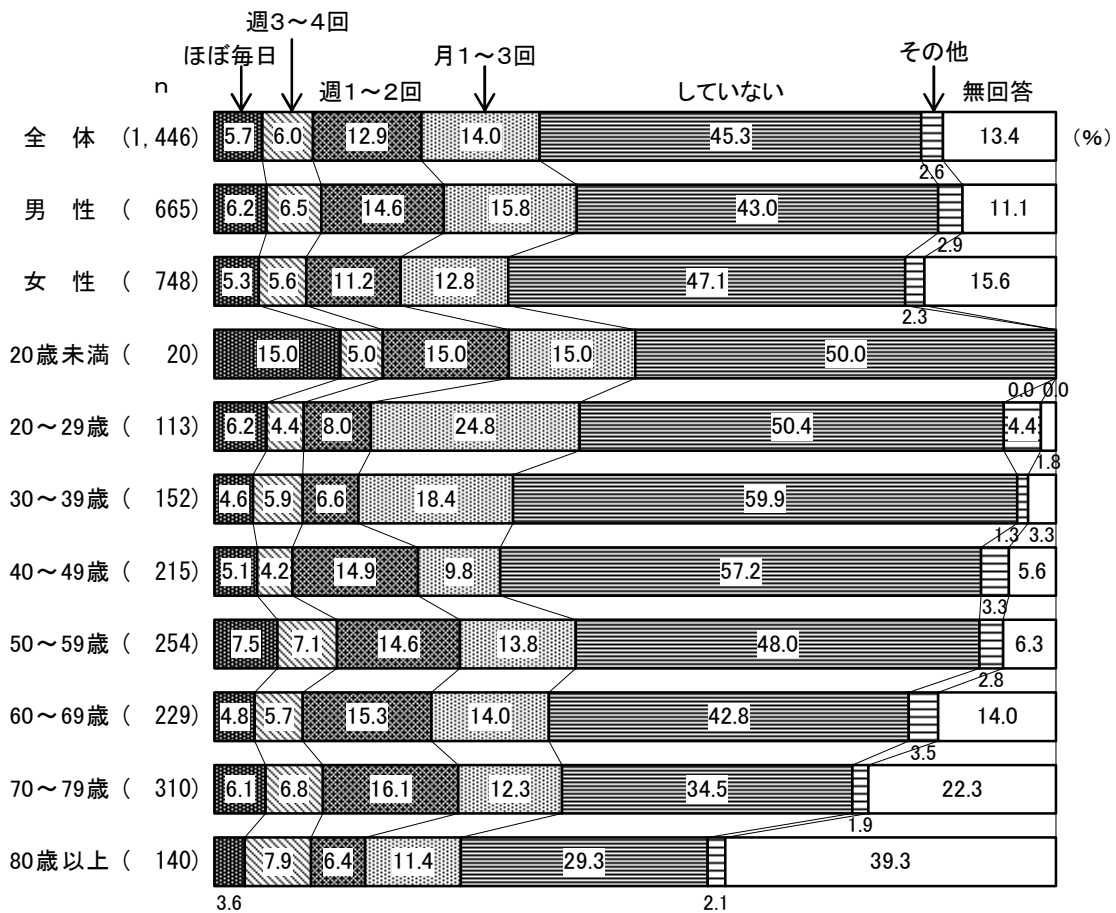


【属性別】②趣味

②趣味について性別で見ると、男性では『している』（43.1%）が女性（34.9%）より8.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満（50.0%）で5割と高くなっている。一方、「していない」は30～39歳（59.9%）で約6割と高くなっている。

図8-4-8 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—性別、年齢別

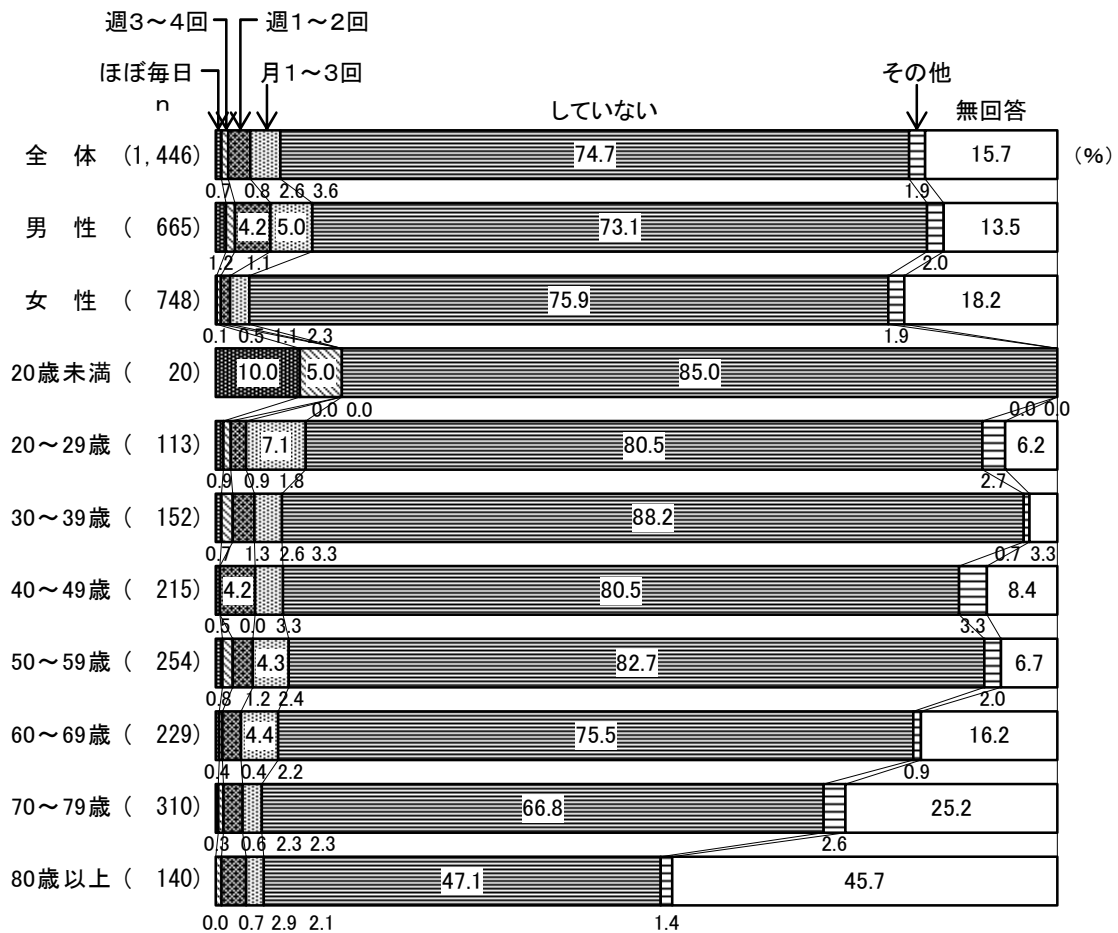


【属性別】③競技

③競技について性別で見ると、男性では『している』（11.5%）が女性（4.0%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満（15.0%）で1割半ばとなっている。一方、「していない」は30～39歳（88.2%）で9割近くと高くなっている。

図8-4-9 スポーツをする目的・頻度 ③競技—性別、年齢別

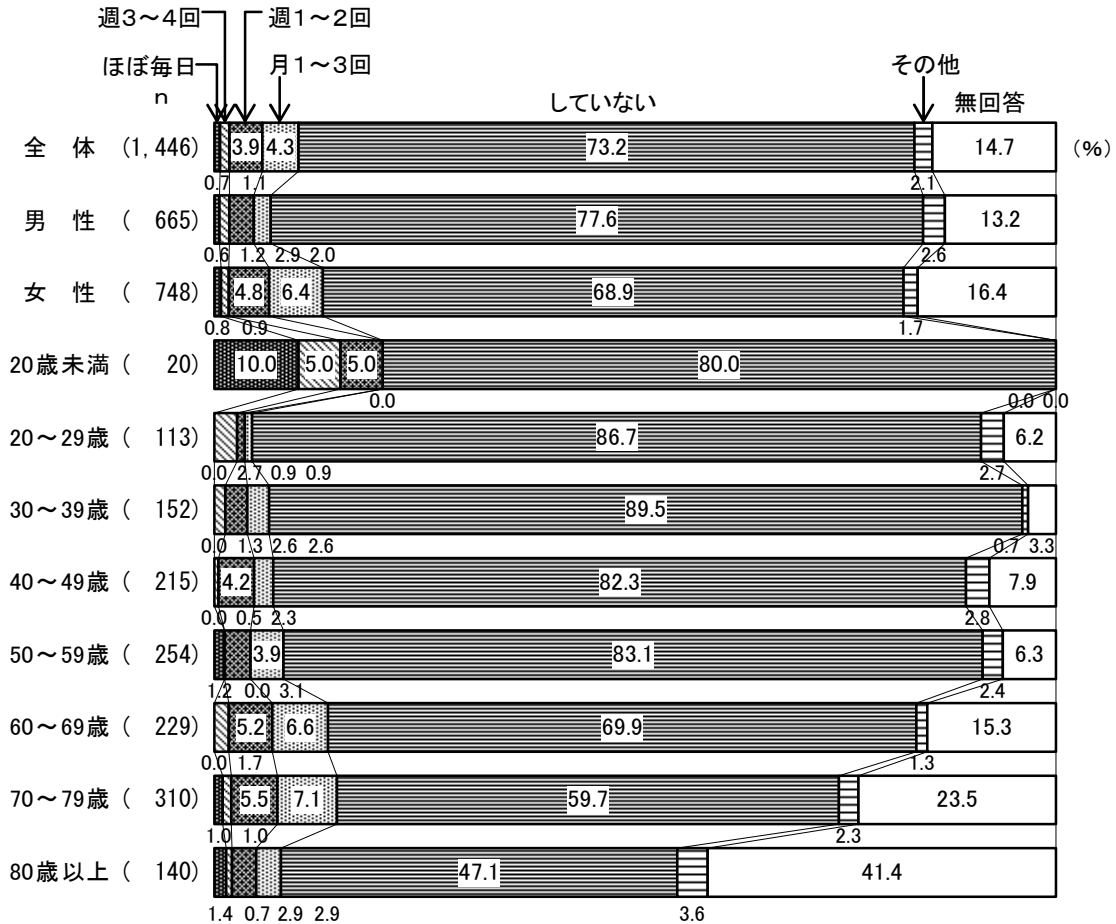


【属性別】④習い事

④習い事について性別で見ると、女性では『している』(12.9%)が男性(6.7%)より6.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満(20.0%)で2割と高くなっている。一方、「していない」は30~39歳(89.5%)で約9割と高くなっている。

図8-4-10 スポーツをする目的・頻度 ④習い事-性別、年齢別

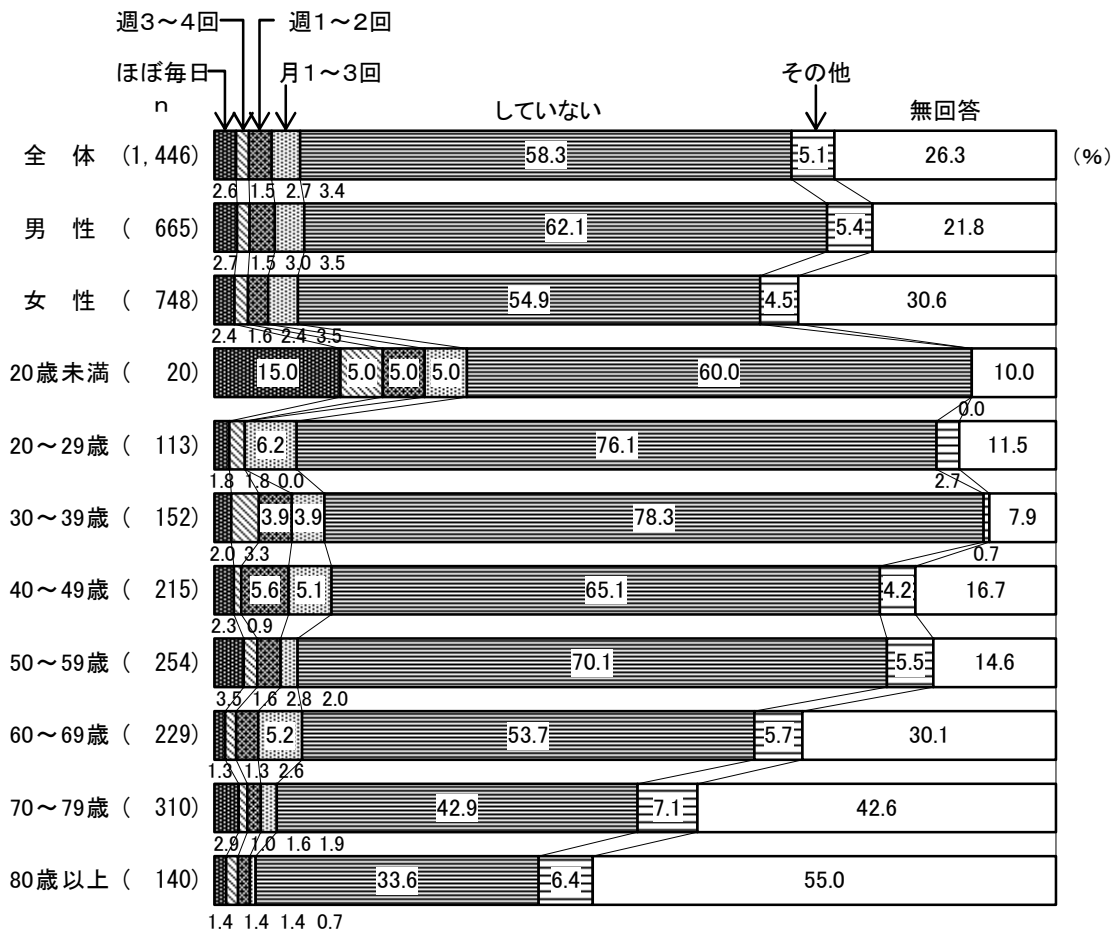


【属性別】⑤ ①～④以外の目的

⑤ ①～④以外の目的について性別で見ると、男性では「していない」(62.1%)が女性(54.9%)より7.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20歳未満(30.0%)で3割と高くなっている。一方、「していない」は30～39歳(78.3%)で8割近くと高くなっている。

図8-4-11 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①～④以外の目的一性別、年齢別

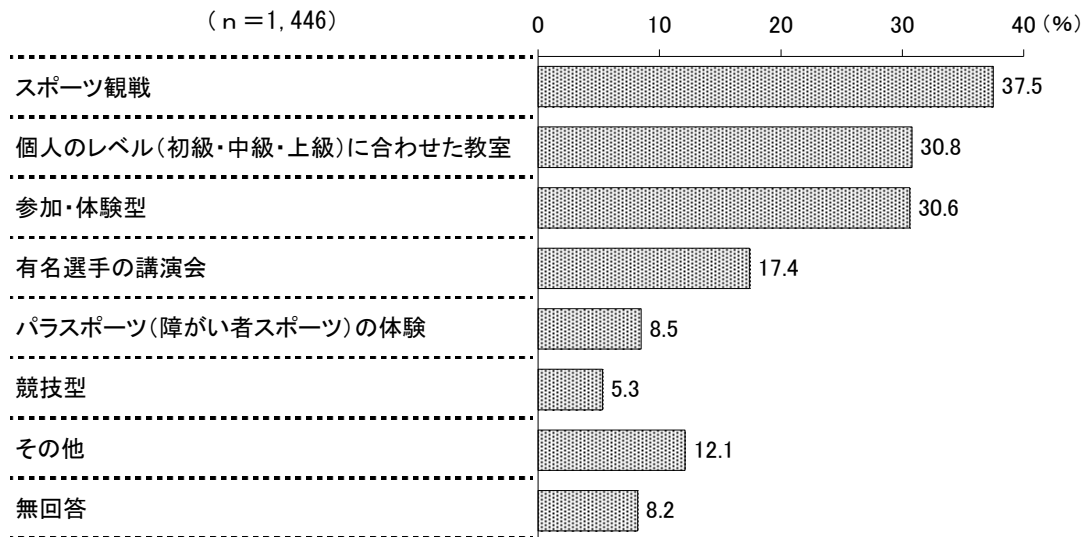


(5) 開催してほしいスポーツイベント (A: 問18)

問. 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください)

図8-5-1 開催してほしいスポーツイベント



【全体】

開催してほしいスポーツイベントについて聞いたところ、「スポーツ観戦」(37.5%)が4割近くで最も高く、次いで「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」(30.8%)、「参加・体験型」(30.6%)、「有名選手の講演会」(17.4%)、「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験」(8.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和3年度調査と同じ順位となっており、「スポーツ観戦」(37.5%)は令和3年度調査(33.9%)より3.6ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、質問文及び選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8-5-1 開催してほしいスポーツイベントー経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)
1	スポーツ観戦 37.5	スポーツ観戦 33.9	スポーツ観戦 40.8	スポーツ観戦 35.5	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 28.9	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 24.1	参加型の大会 やイベント 24.4	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5
2	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 30.8	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 32.3	参加・体験型 34.2	参加・体験型 33.8	参加型の大会 やイベント 25.9	参加型の大会 やイベント 18.1	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5	参加型の大会 やイベント 18.8
3	参加・体験型 30.6	参加・体験型 31.9	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 29.4	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 31.7	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 20.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 16.6	有名スポ ーツ選手 を招いて の講演会 やスポ ーツ教室 、イベ ント 18.8	有名スポ ーツ選手 を招いて の講演会 やスポ ーツ教室 、イベ ント 18.3
4	有名選手の 講演会 17.4	有名選手の 講演会 15.9	有名選手の 講演会 18.1	有名選手の 講演会 16.5	有名スポ ーツ選手 を招いて の講演会 やスポ ーツ教室 、イベ ント 19.9	有名スポ ーツ選手 を招いて の講演会 やスポ ーツ教室 、イベ ント 13.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 15.0	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 14.2
5	パラスポ ーツ(障 がい者 スポ ーツ)の 体験 8.5	パラスポ ーツ(障 がい者 スポ ーツ)の 体験 7.2	パラスポ ーツ(障 がい者 スポ ーツ)の 体験 10.0	パラスポ ーツ(障 がい者 スポ ーツ)の 参加・体験 7.8	順位を競 う大会 やイベ ント 6.6	順位を競 う大会 やイベ ント 4.0	順位を競 う大会 やイベ ント 4.3	順位を競 う大会 やイベ ント 4.5

(注1)「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験」は、平成29年度調査では「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の参加・体験」としていた。

(注2)平成27年度調査以前では、「今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。」(複数回答)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「スポーツ観戦」(40.8%)が女性(35.3%)より5.5ポイント、「競技型」(8.0%)が女性(2.5%)より5.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スポーツ観戦」は20歳未満(45.0%)で4割半ばと高くなっている。「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」は20～29歳(37.2%)で3割半ばを超えて高くなっている。「参加・体験型」は20歳未満(50.0%)で5割と高くなっている。

表8-5-2 開催してほしいスポーツイベントー性別、年齢別

		(%)								
		n	スポーツ観戦	個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室	参加・体験型	有名選手の講演会	パラスポーツ(障がい者スポーツ)の体験	競技型	その他	無回答
全 体		1,446	37.5	30.8	30.6	17.4	8.5	5.3	12.1	8.2
性別	男 性	665	40.8	29.2	31.6	18.6	7.4	8.0	12.6	7.2
	女 性	748	35.3	32.0	29.9	16.4	9.4	2.5	11.2	9.0
年 齢 別	20歳未満	20	45.0	20.0	50.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0
	20～29歳	113	39.8	37.2	40.7	14.2	8.0	12.4	7.1	0.9
	30～39歳	152	40.1	34.2	37.5	18.4	7.9	8.6	13.2	2.0
	40～49歳	215	40.0	33.0	43.3	18.1	13.5	6.0	10.7	2.8
	50～59歳	254	42.5	29.1	27.2	17.7	8.7	3.9	16.1	3.1
	60～69歳	229	34.5	34.1	34.1	16.6	9.2	4.4	10.5	6.6
	70～79歳	310	33.2	28.1	22.3	18.7	7.1	2.9	11.3	17.4
80歳以上	140	33.6	23.6	13.6	14.3	3.6	2.1	15.0	20.7	

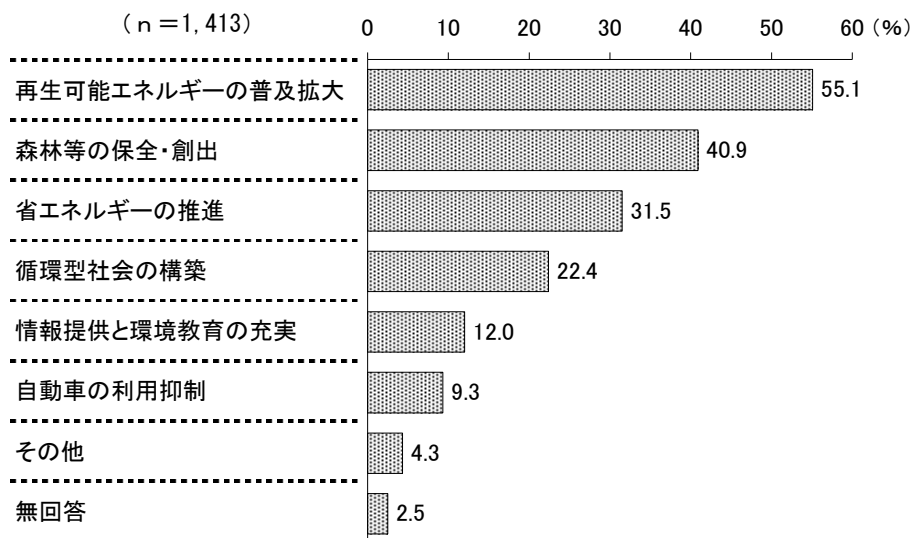
9 環境

(1) 地球温暖化防止への取組 (B:問11)

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図9-1-1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」(55.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「森林等の保全・創出」(40.9%)、「省エネルギーの推進」(31.5%)、「循環型社会の構築」(22.4%)、「情報提供と環境教育の充実」(12.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和元年度調査から同じ順位となっている。
 なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表9-1-1 地球温暖化防止への取組—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 55.1	再生可能エネルギーの普及拡大 55.6	再生可能エネルギーの普及拡大 52.5	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6	各家庭や企業における省エネルギーの推進 80.8
2	森林等の保全・創出 40.9	森林等の保全・創出 41.1	森林等の保全・創出 39.6	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 48.3
3	省エネルギーの推進 31.5	省エネルギーの推進 31.4	省エネルギーの推進 34.8	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.6
4	循環型社会の構築 22.4	循環型社会の構築 19.9	循環型社会の構築 20.9	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.5
5	情報提供と環境教育の充実 12.0	情報提供と環境教育の充実 13.3	情報提供と環境教育の充実 14.5	情報提供と環境教育の充実 14.6					

(注) 平成27年度調査以前では、表9-1-1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「循環型社会の構築」(25.7%)が女性(19.8%)より5.9ポイント高くなっている。一方、女性では「省エネルギーの推進」(33.5%)が男性(29.3%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「再生可能エネルギーの普及拡大」は20～29歳(61.7%)と60～69歳(60.1%)で6割台と高くなっている。「森林等の保全・創出」は20歳未満(55.0%)で5割半ばと高くなっている。「省エネルギーの推進」は30～39歳(39.9%)で約4割と高くなっている。「循環型社会の構築」は20歳未満(40.0%)で4割と高くなっている。

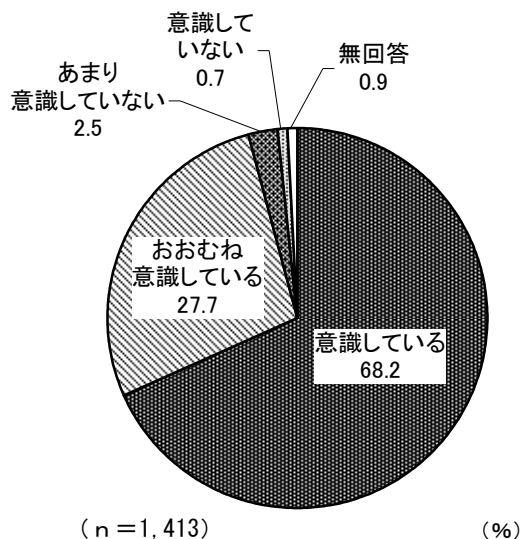
表9-1-2 地球温暖化防止への取組—性別、年齢別

		(%)								
		n	再生可能エネルギーの普及拡大	森林等の保全・創出	省エネルギーの推進	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,413	55.1	40.9	31.5	22.4	12.0	9.3	4.3	2.5
性別	男 性	622	54.8	40.0	29.3	25.7	12.1	10.6	4.5	1.8
	女 性	767	55.1	41.3	33.5	19.8	12.3	8.3	4.0	3.0
年 齢 別	20歳未満	20	40.0	55.0	25.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	20～29歳	107	61.7	25.2	37.4	29.0	17.8	8.4	1.9	0.0
	30～39歳	148	43.9	38.5	39.9	18.2	13.5	11.5	8.1	0.0
	40～49歳	199	53.8	38.7	27.6	25.1	15.1	7.5	5.5	1.0
	50～59歳	258	56.6	41.1	31.8	24.0	11.2	9.3	5.0	1.2
	60～69歳	218	60.1	45.0	25.2	18.3	9.6	11.9	4.1	2.3
	70～79歳	284	59.9	42.3	33.1	22.2	10.9	6.7	2.1	4.9
	80歳以上	164	46.3	45.7	32.3	18.9	11.0	12.8	3.7	5.5

(2) 資源とごみの分別 (B: 問12)

問. 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください)

図9-2-1 資源とごみの分別



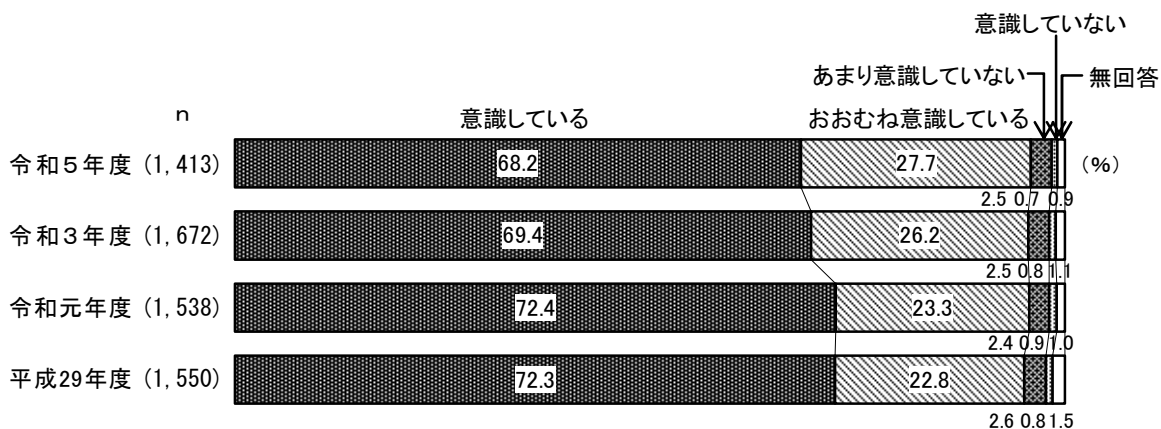
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」(68.2%)と「おおむね意識している」(27.7%)の2つを合わせた『意識あり』(95.9%)が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」(2.5%)と「意識していない」(0.7%)の2つを合わせた『意識なし』(3.2%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図9-2-2 資源とごみの分別—経年変化

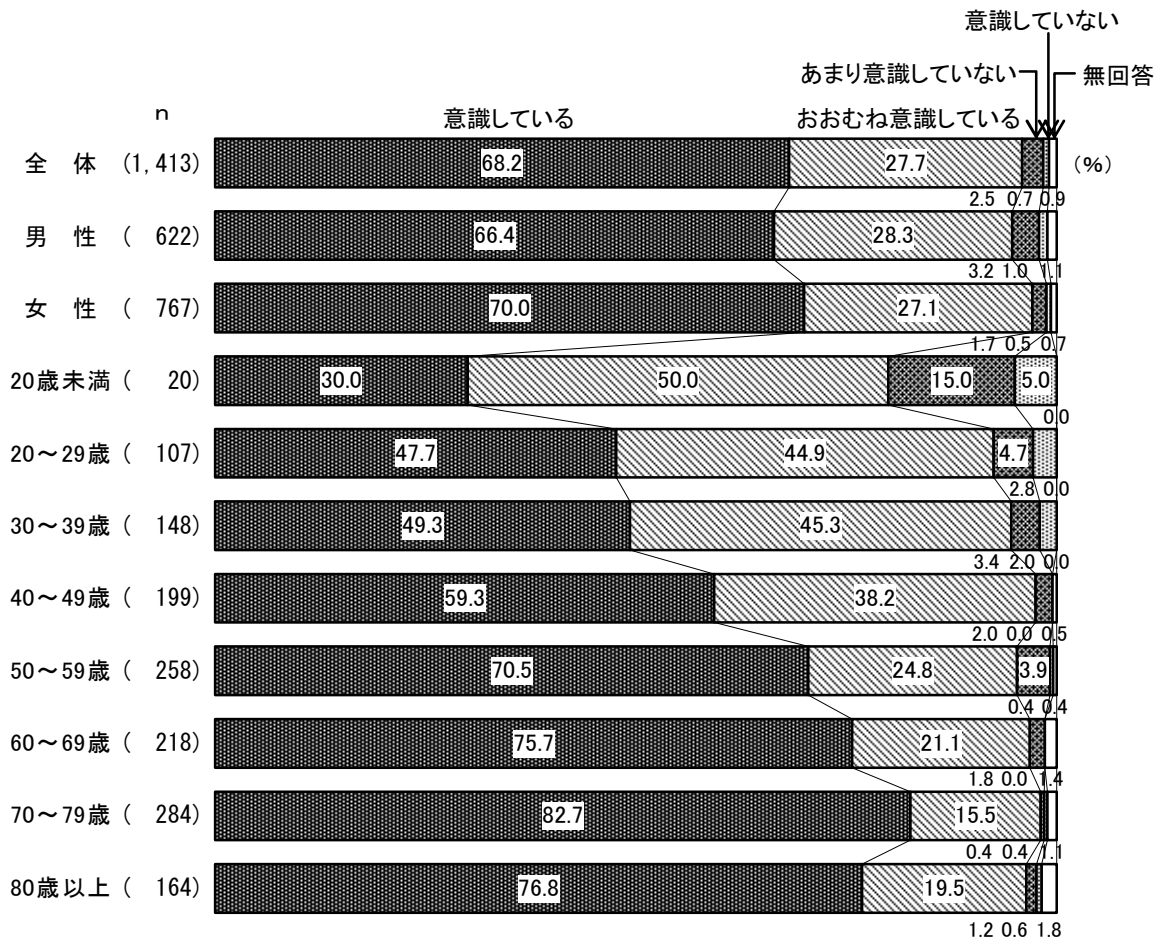


【属性別】

性別で見ると、女性では「意識している」(70.0%)が男性(66.4%)より3.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「意識している」は70~79歳(82.7%)で8割半ば近くと高くなっている。『意識あり』は40~49歳(97.5%)と70~79歳(98.2%)で10割近くと高くなっている。

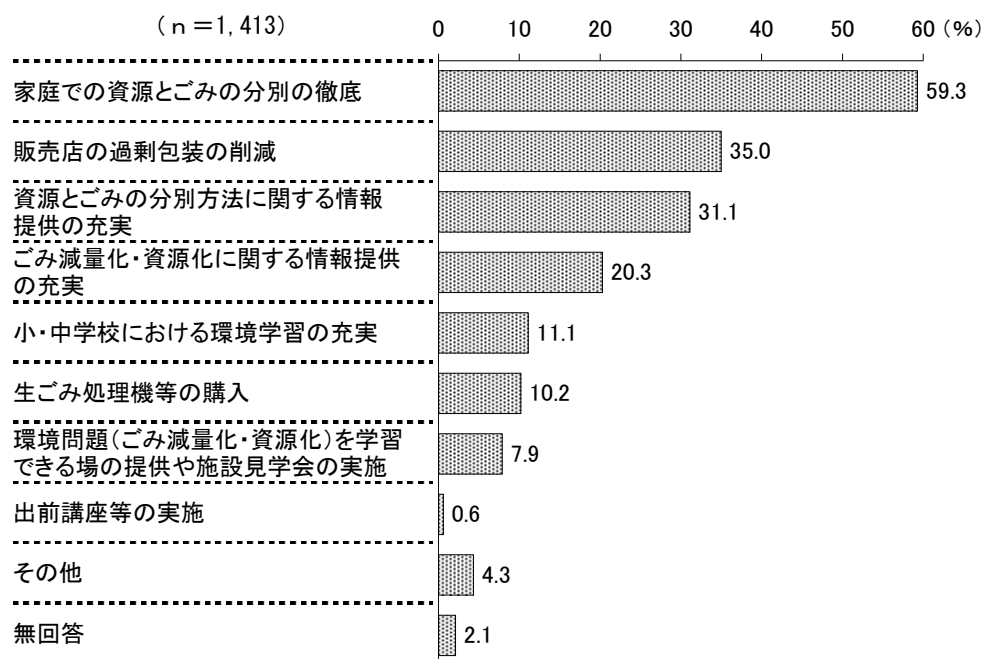
図9-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別



(3) ごみの減量化・資源化の推進 (B:問13)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要だと思いますか。
(2つまで選んでください)

図9-3-1 ごみの減量化・資源化の推進



【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(59.3%)が約6割で最も高く、次いで「販売店の過剰包装の削減」(35.0%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(31.1%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(20.3%)、「小・中学校における環境学習の充実」(11.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(31.1%)は令和3年度調査(24.3%)より6.8ポイント、「販売店の過剰包装の削減」(35.0%)は令和3年度調査(28.9%)より6.1ポイント、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(20.3%)は令和3年度調査(15.7%)より4.6ポイント増加している。

表9-3-1 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化

調査年	n	(%)									
		徹底家庭での資源とごみの分別の	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場場の提供や施設見学会の実施	出前講座等の実施	その他	無回答
令和5年度	1,413	59.3	35.0	31.1	20.3	11.1	10.2	7.9	0.6	4.3	2.1
令和3年度	1,672	58.7	28.9	24.3	15.7	9.6	8.1	8.3	-	4.6	2.5
令和元年度	1,538	55.9	36.6	20.6	15.3	11.4	8.4	7.8	-	2.9	1.3
平成29年度	1,550	58.5	34.6	21.4	16.1	13.7	8.6	8.1	-	3.7	1.4
平成27年度	1,471	60.8	25.5	28.7	20.6	15.1	6.7	9.0	-	-	1.6
平成25年度	1,270	50.9	28.8	24.4	20.2	16.7	10.4	13.9	-	-	3.1
平成23年度	815	54.1	31.8	24.0	18.9	13.5	10.2	10.6	-	-	2.8

(注1) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

(注2) 今回調査から、「出前講座等の実施」の選択肢を追加している。

(注3) 令和3年度調査以前では、「買い物袋の持参」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「販売店の過剰包装の削減」(38.3%)が男性(30.9%)より7.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭での資源とごみの分別の徹底」は80歳以上(73.8%)で7割半ば近くと高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」は20～29歳(46.7%)で4割半ばを超えて高くなっている。「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」は30～39歳(36.5%)で3割半ばを超えて高くなっている。

表9-3-2 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

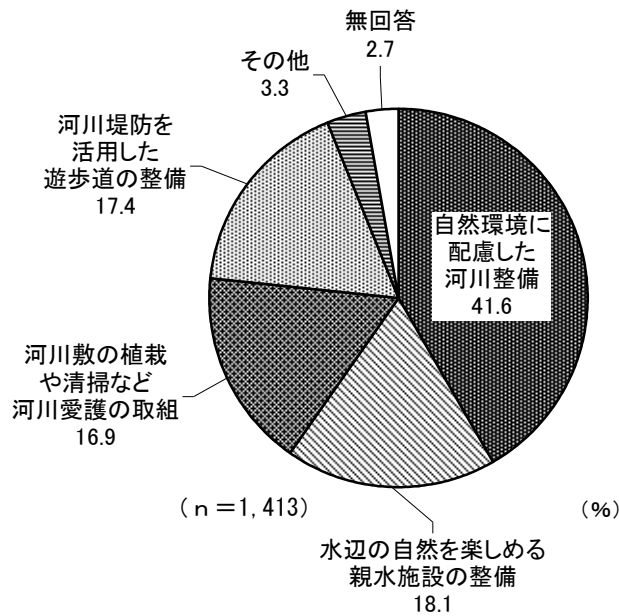
		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	出前講座等の実施	その他	無回答
全 体		1,413	59.3	35.0	31.1	20.3	11.1	10.2	7.9	0.6	4.3	2.1
性別	男 性	622	59.5	30.9	31.0	21.5	11.7	9.3	8.7	0.5	5.1	2.3
	女 性	767	59.5	38.3	31.2	19.4	10.8	10.7	7.4	0.7	3.3	2.0
年齢別	20歳未満	20	30.0	45.0	20.0	25.0	20.0	5.0	15.0	0.0	10.0	0.0
	20～29歳	107	49.5	46.7	35.5	15.0	12.1	11.2	8.4	0.0	3.7	0.0
	30～39歳	148	55.4	39.9	36.5	16.9	10.8	8.8	4.1	0.0	5.4	2.0
	40～49歳	199	52.3	43.2	29.1	15.1	12.1	15.6	8.5	0.0	7.5	0.0
	50～59歳	258	57.0	34.1	33.3	19.0	10.5	10.9	6.6	0.8	6.2	1.6
	60～69歳	218	61.5	30.7	31.2	20.6	15.1	9.2	9.2	0.0	1.4	3.7
	70～79歳	284	65.1	29.9	31.7	25.0	9.5	8.5	8.8	0.7	2.8	2.8
80歳以上	164	73.8	27.4	22.0	26.2	6.7	7.3	8.5	2.4	2.4	3.7	

(4) 河川整備への取組 (B:問14)

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図9-4-1 河川整備への取組



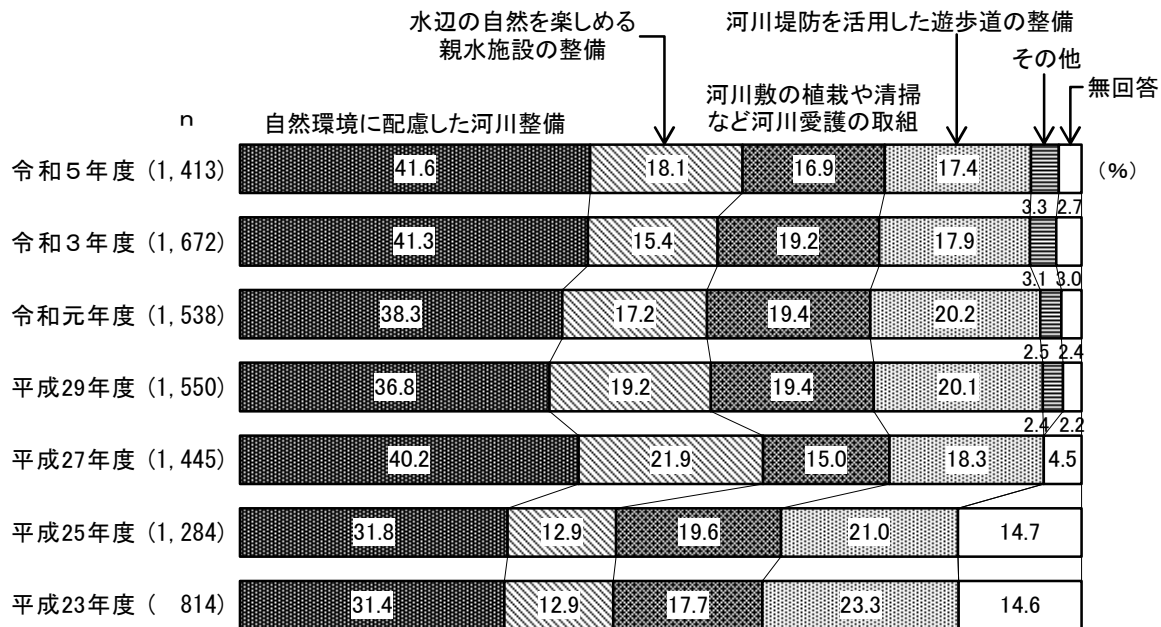
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(41.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「水辺の自然を楽しむる親水施設の整備」(18.1%)、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(17.4%)、「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(16.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図9-4-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」(20.7%)が女性(16.0%)より4.7ポイント高くなっている。一方、女性では「自然環境に配慮した河川整備」(43.3%)が男性(39.5%)より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境に配慮した河川整備」は70～79歳(47.2%)で4割半ばを超えて高くなっている。「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」は20歳未満(45.0%)で4割半ばと高くなっている。「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は20～29歳(23.4%)と30～39歳(23.6%)で2割半ば近くと高くなっている。

図9-4-3 河川整備への取組一性別、年齢別

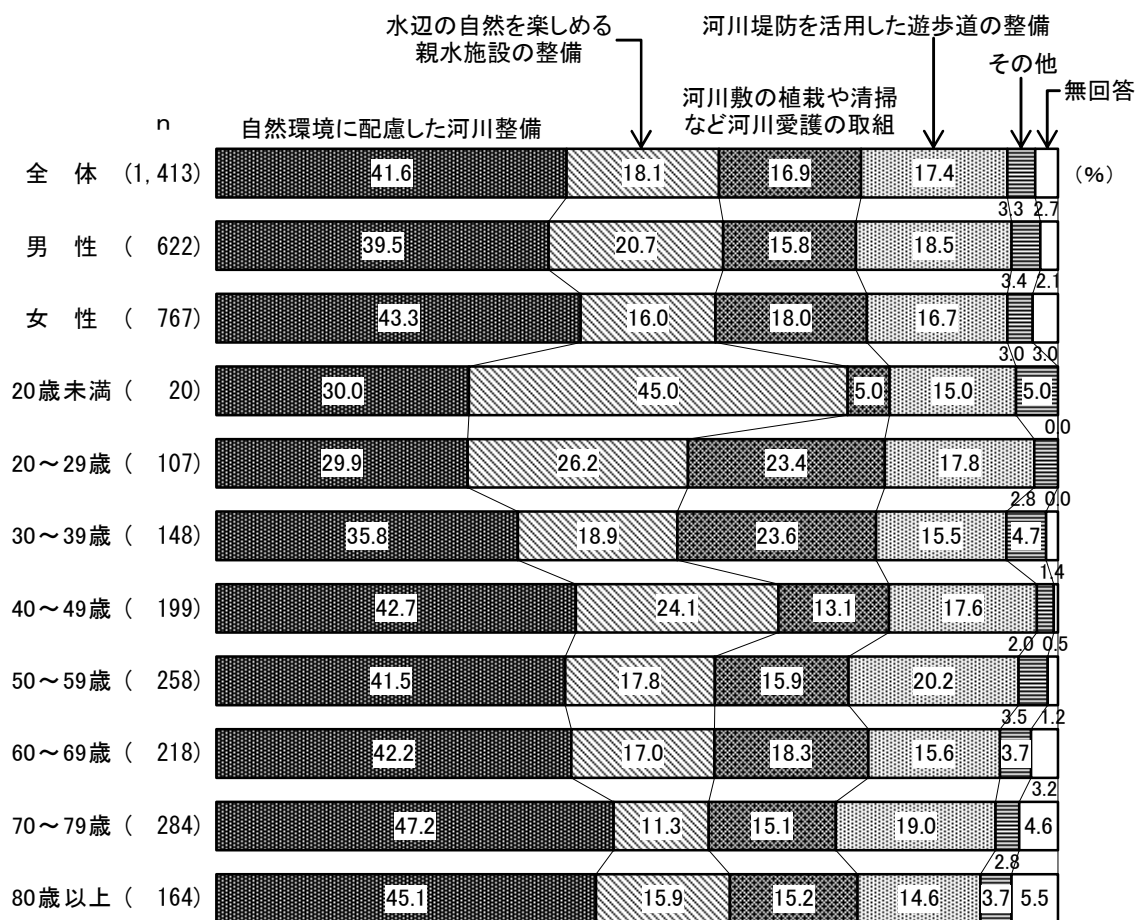
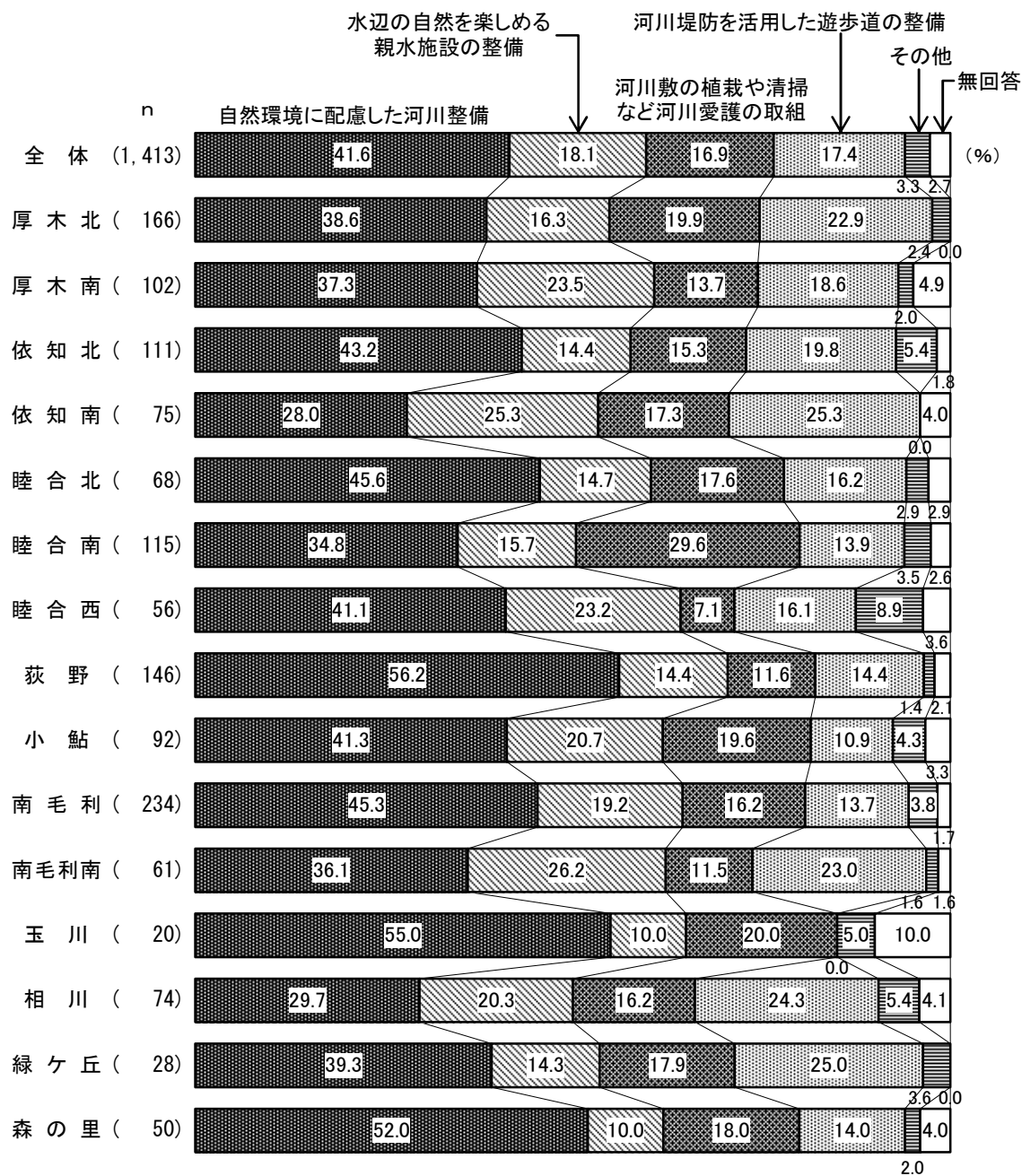


図9-4-4 河川整備への取組—居住地区別



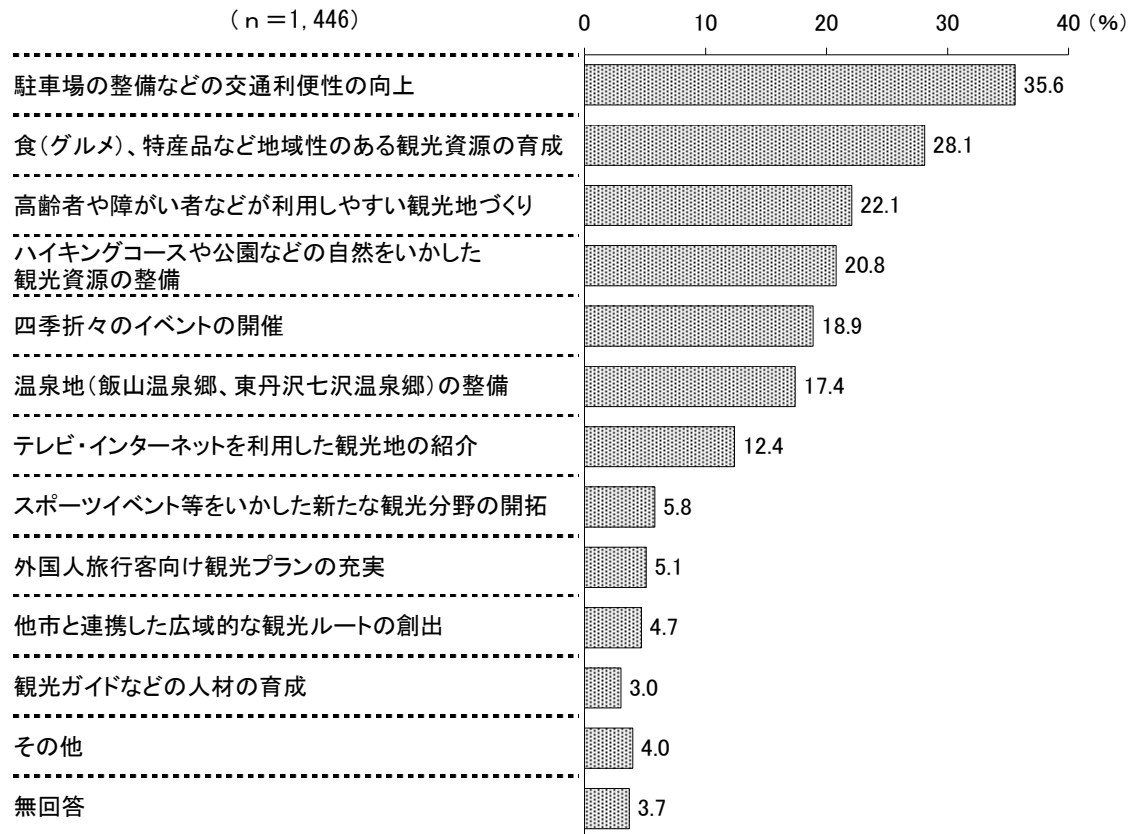
10 観光

(1) 観光の活性化への取組 (A:問19)

問. 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図10-1-1 観光の活性化への取組



【全体】

観光の活性化への取組について聞いたところ、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(35.6%)が3割半ばで最も高く、次いで「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(28.1%)、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(22.1%)、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(20.8%)、「四季折々のイベントの開催」(18.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介」（12.4％）は令和3年度調査（15.5％）より3.1ポイント減少している。

表10-1-1 観光の活性化への取組—経年変化

(%)

調査年	n	駐車場の整備などの交通利便性の向上	食（グルメ）のある観光資源の育成	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	自然をいかした観光資源の整備	ハイキングコースや公園などの整備	四季折々のイベントの開催	温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	新たな観光分野の開拓	外国人旅行者向け観光プランの充実	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	観光ガイドなどの人材の育成	その他	無回答
令和5年度	1,446	35.6	28.1	22.1	20.8	18.9	17.4	12.4	5.8	5.1	4.7	3.0	4.0	3.7	
令和3年度	1,603	36.0	26.6	22.0	23.0	16.7	17.2	15.5	4.7	3.3	5.6	2.8	3.7	3.1	
令和元年度	1,467	36.9	23.9	20.2	19.1	19.4	19.8	13.4	7.4	6.4	5.8	4.5	4.4	3.2	
平成29年度	1,480	36.6	23.2	22.0	22.0	19.4	17.8	12.2	7.3	5.3	5.7	4.9	3.1	3.6	
平成27年度	1,471	24.9	23.3	24.1	19.0	21.0	19.7	21.6	7.9	5.8	10.0	3.5	3.1	3.7	
平成25年度	1,270	22.0	20.5	25.8	23.8	22.0	18.3	24.8	6.8	4.6	11.8	3.2	2.1	2.3	

【属性別】

性別で見ると、女性では「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(26.9%)が男性(16.8%)より10.1ポイント、「四季折々のイベントの開催」(20.5%)が男性(17.0%)より3.5ポイント高くなっている。一方、男性では「テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介」(16.5%)が女性(9.2%)より7.3ポイント、「他市と連携した広域的な観光ルートの創出」(6.3%)が女性(3.3%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」は20～29歳(42.5%)で4割半ば近くと高くなっている。「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」は20～29歳(42.5%)と30～39歳(42.8%)で4割半ば近くと高くなっている。「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」は80歳以上(40.7%)で約4割と高くなっている。

表10-1-2 観光の活性化への取組—性別、年齢別

		n	の 駐 車 場 の 整 備 な ど の 交 通 利 便 性 の 向 上	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	や 高 齢 者 や 障 が い 者 な ど が 利 用 し や す い 観 光 地 づ く り	自 然 を い か し た 観 光 資 源 の 整 備	四 季 折 々 の イ ベ ン ト の 開 催	温 泉 地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	テ レ ビ ・ イ ン タ ー ネ ッ ト を 利 用 し た 観 光 地 の 紹 介	ス ポ ー ツ イ ベ ン ト 等 を い か し た 新 た な 観 光 分 野 の 開 拓	充 実 外 国 人 旅 行 客 向 け 観 光 プ ラ ン の	ル ー ト の 創 出 他 市 と 連 携 し た 広 域 的 な 観 光	観 光 ガ イ ド な ど の 人 材 の 育 成	そ の 他	無 回 答
全 体		1,446	35.6	28.1	22.1	20.8	18.9	17.4	12.4	5.8	5.1	4.7	3.0	4.0	3.7
性 別	男 性	665	35.2	28.0	16.8	20.5	17.0	18.3	16.5	7.1	5.4	6.3	3.3	5.3	4.2
	女 性	748	36.1	28.1	26.9	21.1	20.5	16.2	9.2	4.9	4.8	3.3	2.7	2.7	3.5
年 齢 別	20 歳 未 満	20	40.0	30.0	5.0	10.0	30.0	25.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	113	42.5	42.5	7.1	12.4	17.7	22.1	16.8	7.1	4.4	4.4	1.8	3.5	0.9
	30 ～ 39 歳	152	36.2	42.8	7.2	18.4	18.4	25.7	13.8	6.6	8.6	3.9	1.3	2.0	0.7
	40 ～ 49 歳	215	36.3	30.7	12.6	20.5	17.7	20.9	12.6	7.9	7.4	2.8	2.3	6.5	1.9
	50 ～ 59 歳	254	41.7	33.5	22.4	19.3	15.0	17.3	12.2	5.1	4.7	3.5	4.3	5.5	1.2
	60 ～ 69 歳	229	34.5	23.1	22.7	24.5	21.8	14.4	11.8	5.7	6.6	7.4	3.1	1.3	4.8
	70 ～ 79 歳	310	32.6	18.4	32.6	23.5	23.2	11.3	11.6	5.5	2.9	5.2	3.9	2.6	6.8
	80 歳 以 上	140	25.7	16.4	40.7	21.4	14.3	17.1	10.7	2.9	2.1	6.4	2.1	7.9	9.3

11 まちづくり

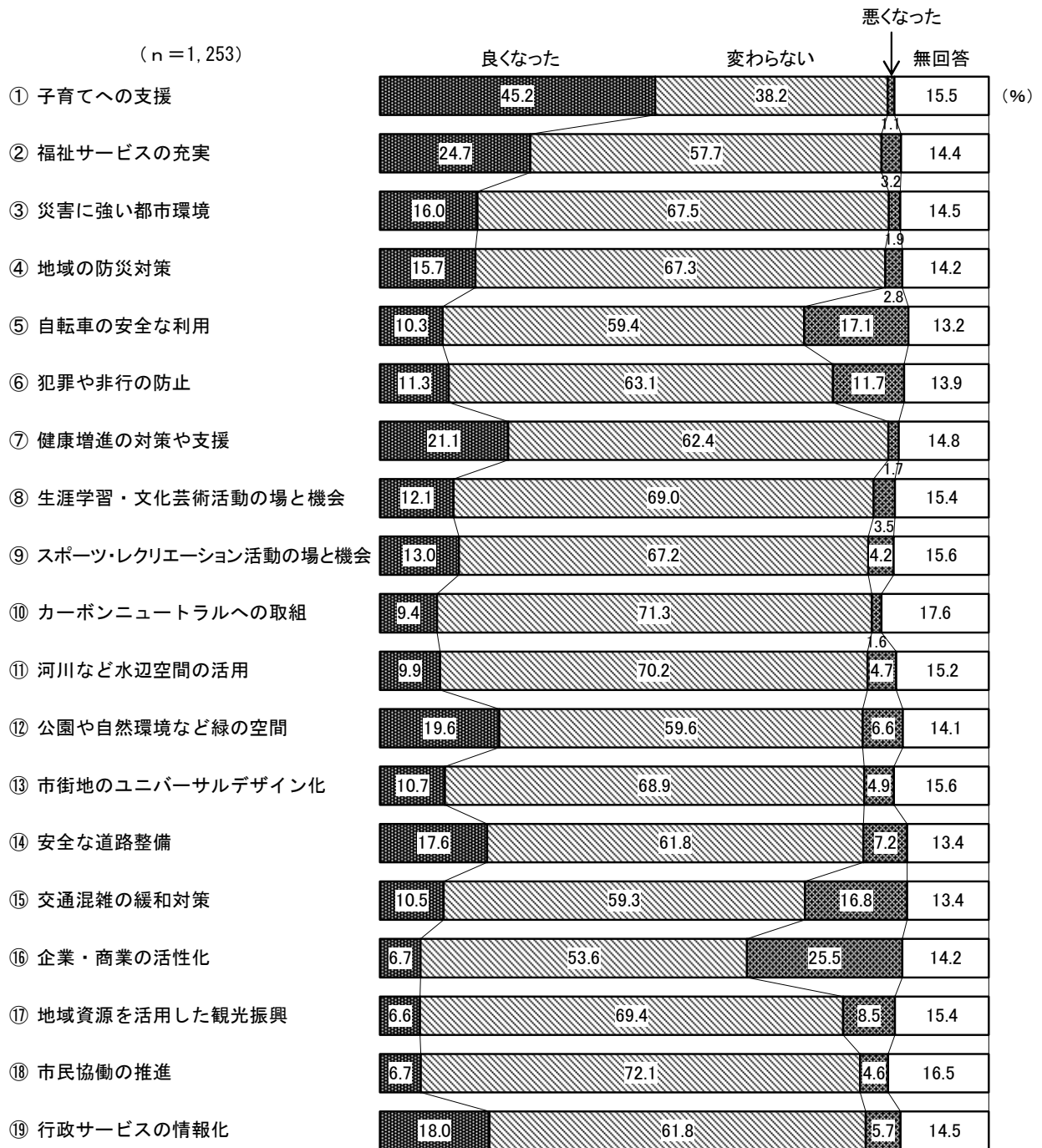
(1) まちづくり全般の変化 (B:問15)

問. まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑱について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。

図11-1-1 まちづくり全般の変化



【全体】

厚木市内に5年以上住んでいると答えた1,253人に、5年前と比べたまちづくり全般の変化について19項目に分けて聞いたところ、「良くなった」が最も高いのは「①子育てへの支援」(45.2%)で4割半ばとなっており、次いで「②福祉サービスの充実」(24.7%)、「⑦健康増進の対策や支援」(21.1%)、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(19.6%)、「⑲行政サービスの情報化」(18.0%)となっている。

一方、「悪くなった」が最も高いのは「⑯企業・商業の活性化」(25.5%)で2割半ばとなっており、次いで「⑤自転車の安全な利用」(17.1%)、「⑮交通混雑の緩和対策」(16.8%)、「⑥犯罪や非行の防止」(11.7%)、「⑰地域資源を活用した観光振興」(8.5%)となっている。

また、「変わらない」が最も高いのは「⑱市民協働の推進」(72.1%)が7割を超え、次いで「⑩カーボンニュートラルへの取組」(71.3%)、「⑪河川など水辺空間の活用」(70.2%)、「⑰地域資源を活用した観光振興」(69.4%)、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(69.0%)となっている。

表11-1-1 まちづくり全般の変化－良くなったもの、変わらないもの、悪くなったもの
(上位5項目)

(n=1,253)

(%)

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
1	①子育てへの支援	45.2	⑱市民協働の推進	72.1	⑯企業・商業の活性化	25.5
2	②福祉サービスの充実	24.7	⑩カーボンニュートラルへの取組	71.3	⑤自転車の安全な利用	17.1
3	⑦健康増進の対策や支援	21.1	⑪河川など水辺空間の活用	70.2	⑮交通混雑の緩和対策	16.8
4	⑫公園や自然環境など 緑の空間	19.6	⑰地域資源を活用した観光振興	69.4	⑥犯罪や非行の防止	11.7
5	⑲行政サービスの情報化	18.0	⑧生涯学習・文化芸術活動の 場と機会	69.0	⑰地域資源を活用した観光振興	8.5

【経年変化】

経年による変化を見ると、「変わらない」は、⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会（69.0%）で令和3年度調査（65.8%）より3.2ポイント増加している。

図11-1-2 まちづくり全般の変化 ①子育てへの支援—経年変化

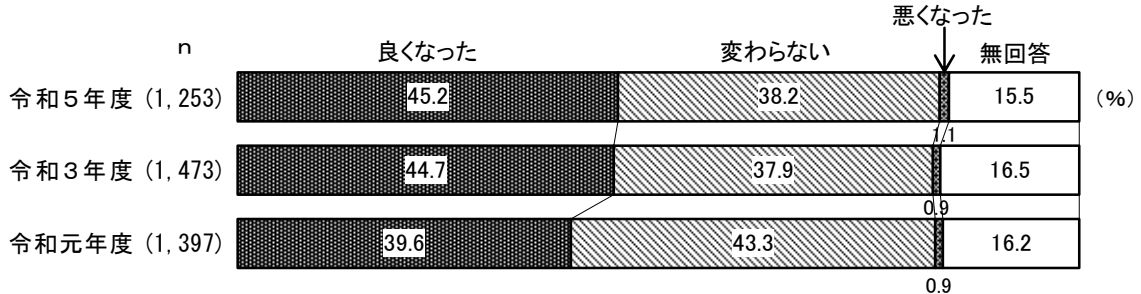


図11-1-3 まちづくり全般の変化 ②福祉サービスの充実—経年変化

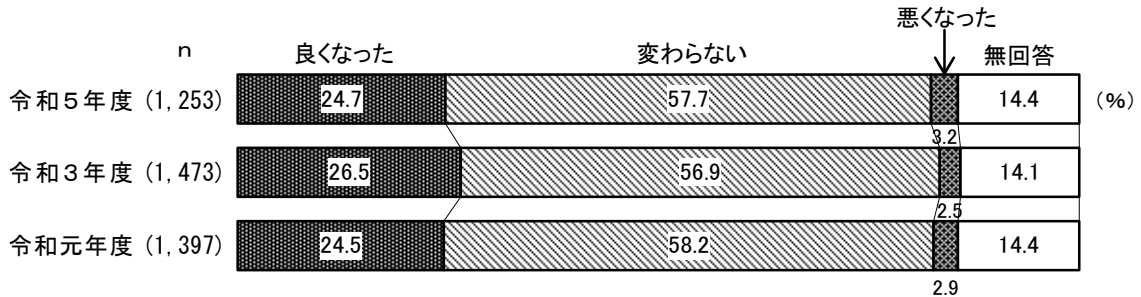


図11-1-4 まちづくり全般の変化 ③災害に強い都市環境—経年変化

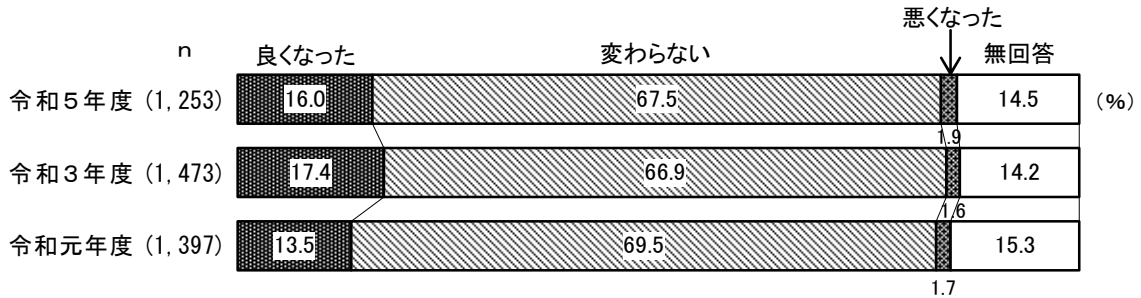


図11-1-5 まちづくり全般の変化 ④地域の防災対策—経年変化

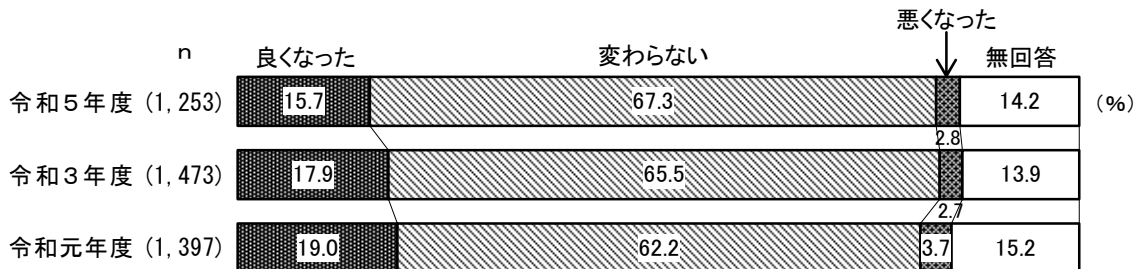
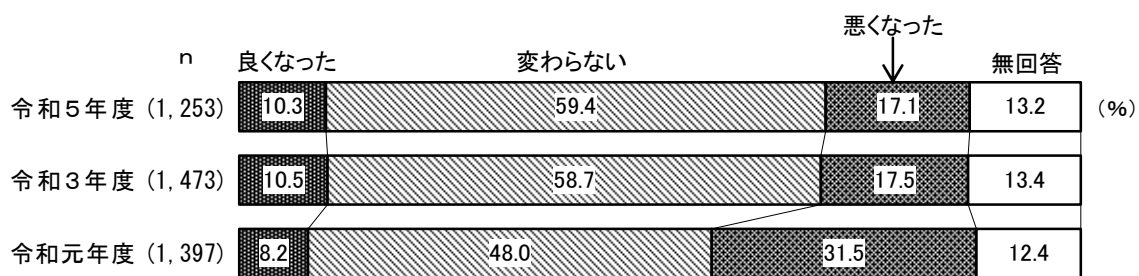


図11-1-6 まちづくり全般の変化 ⑤自転車の安全な利用一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「自転車のマナー」として質問していた。

図11-1-7 まちづくり全般の変化 ⑥犯罪や非行の防止一経年変化

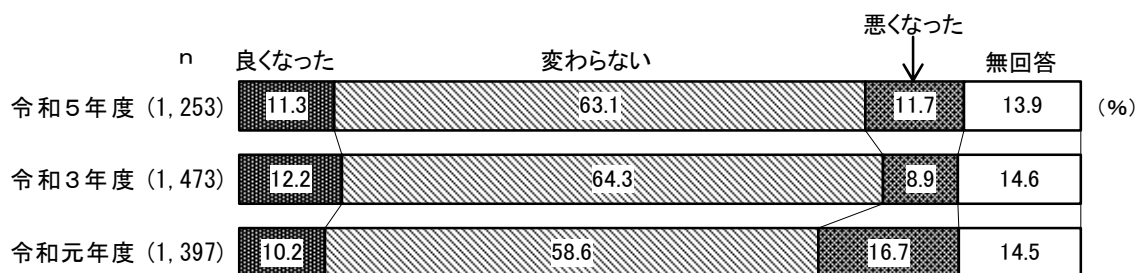


図11-1-8 まちづくり全般の変化 ⑦健康増進の対策や支援一経年変化

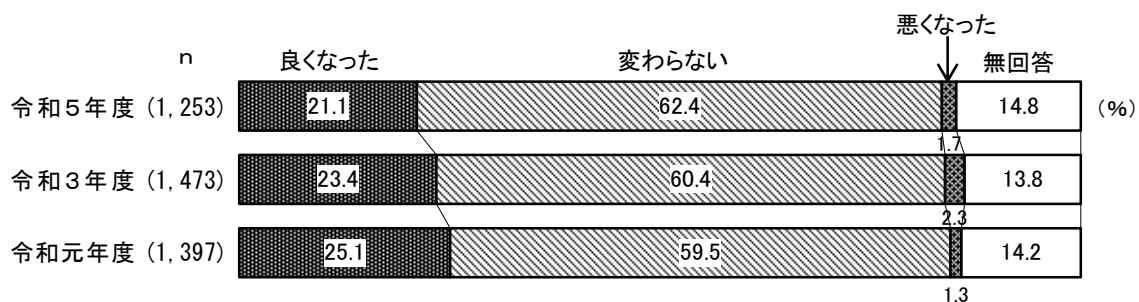


図11-1-9 まちづくり全般の変化 ⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会一経年変化

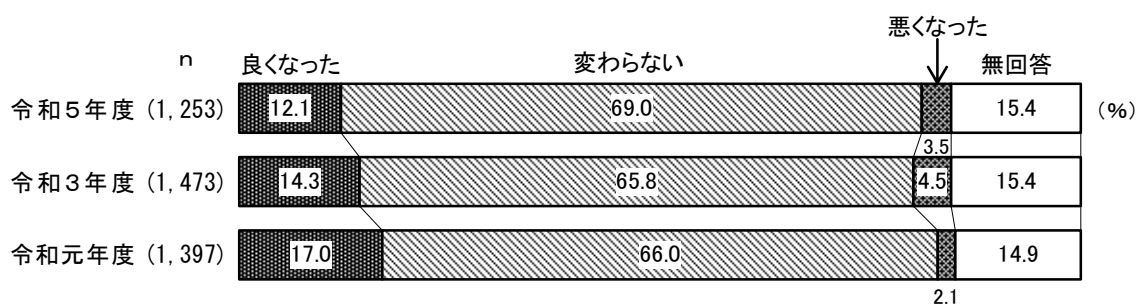


図11-1-10 まちづくり全般の変化 ⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会一経年変化

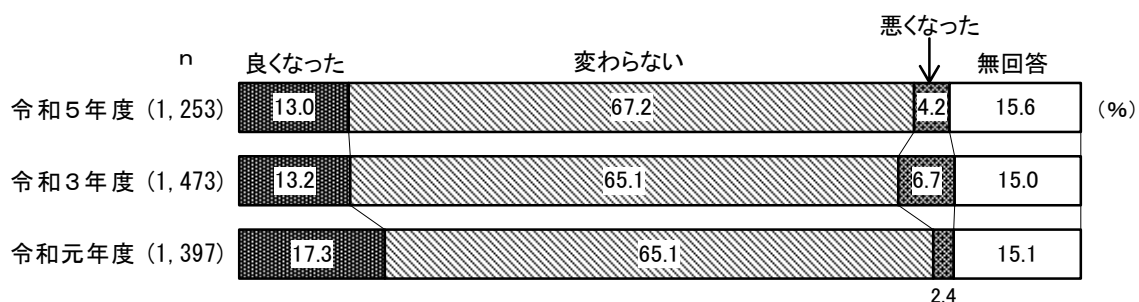


図11-1-11 まちづくり全般の変化 ⑪河川など水辺空間の活用一経年変化

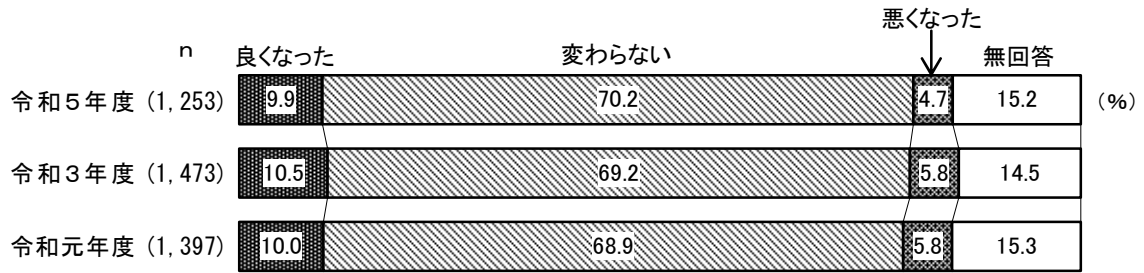


図11-1-12 まちづくり全般の変化 ⑫公園や自然環境など緑の空間一経年変化

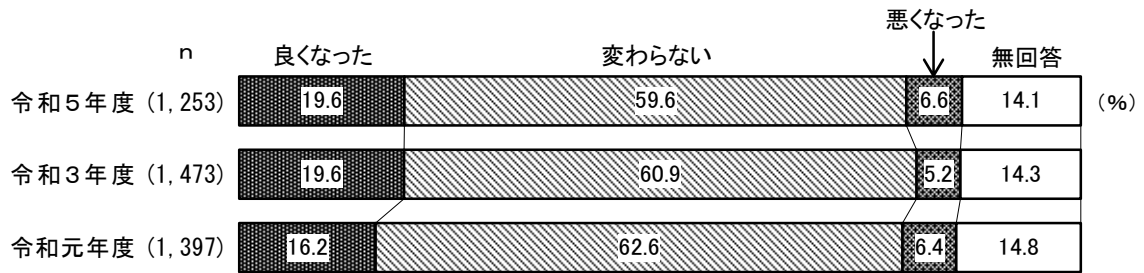


図11-1-13 まちづくり全般の変化 ⑬市街地のユニバーサルデザイン化一経年変化

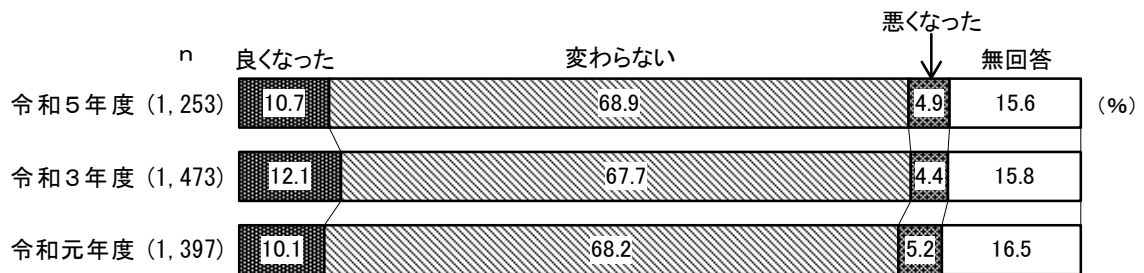


図11-1-14 まちづくり全般の変化 ⑭安全な道路整備一経年変化

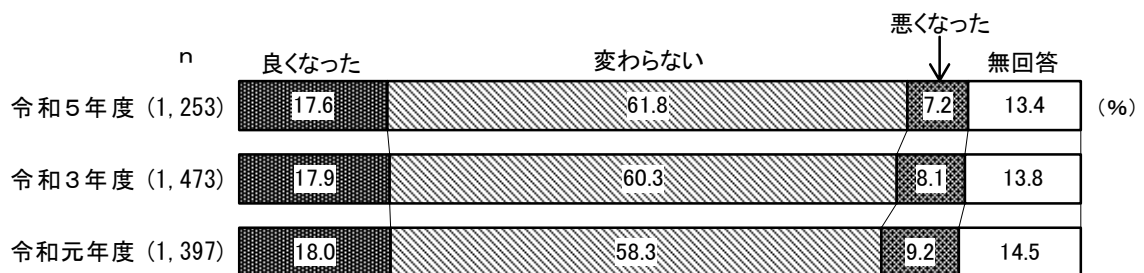
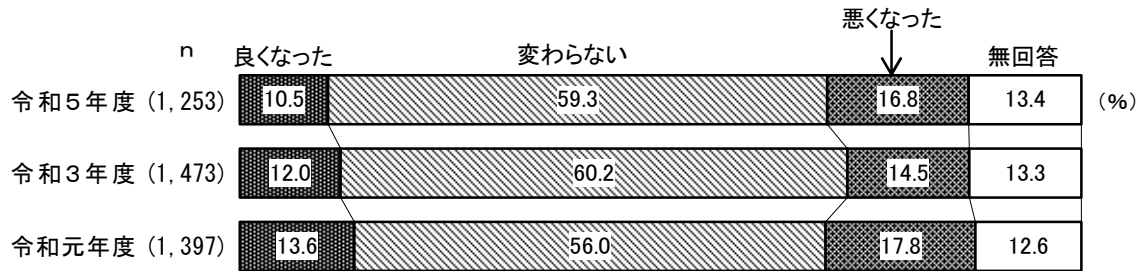


図11-1-15 まちづくり全般の変化 ⑮交通混雑の緩和対策一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「交通渋滞の緩和対策」として質問していた。

図11-1-16 まちづくり全般の変化 ⑯企業・商業の活性化一経年変化

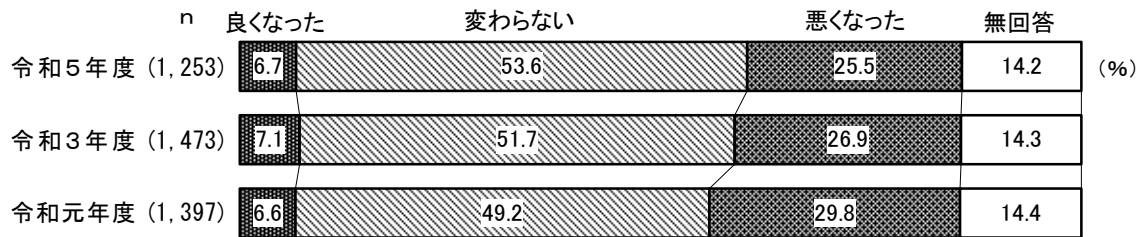


図11-1-17 まちづくり全般の変化 ⑰地域資源を活用した観光振興一経年変化

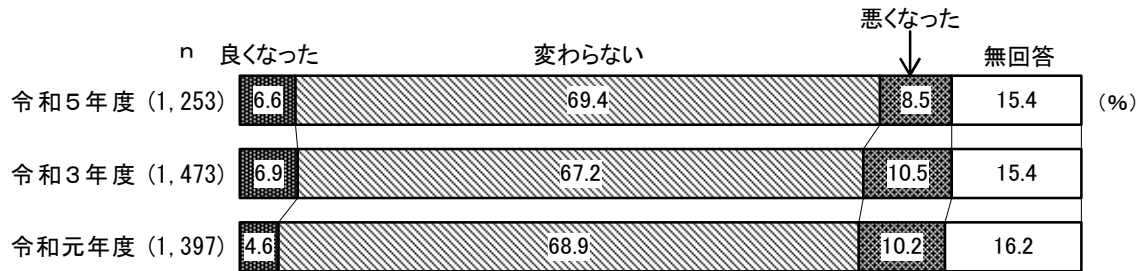


図11-1-18 まちづくり全般の変化 ⑱市民協働の推進一経年変化

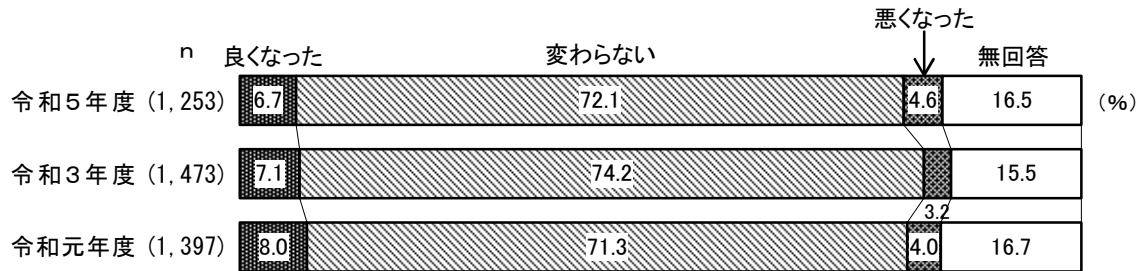
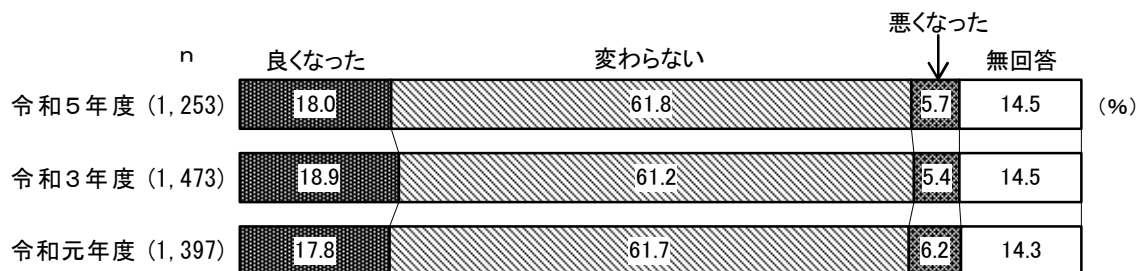


図11-1-19 まちづくり全般の変化 ⑲行政サービスの情報化一経年変化

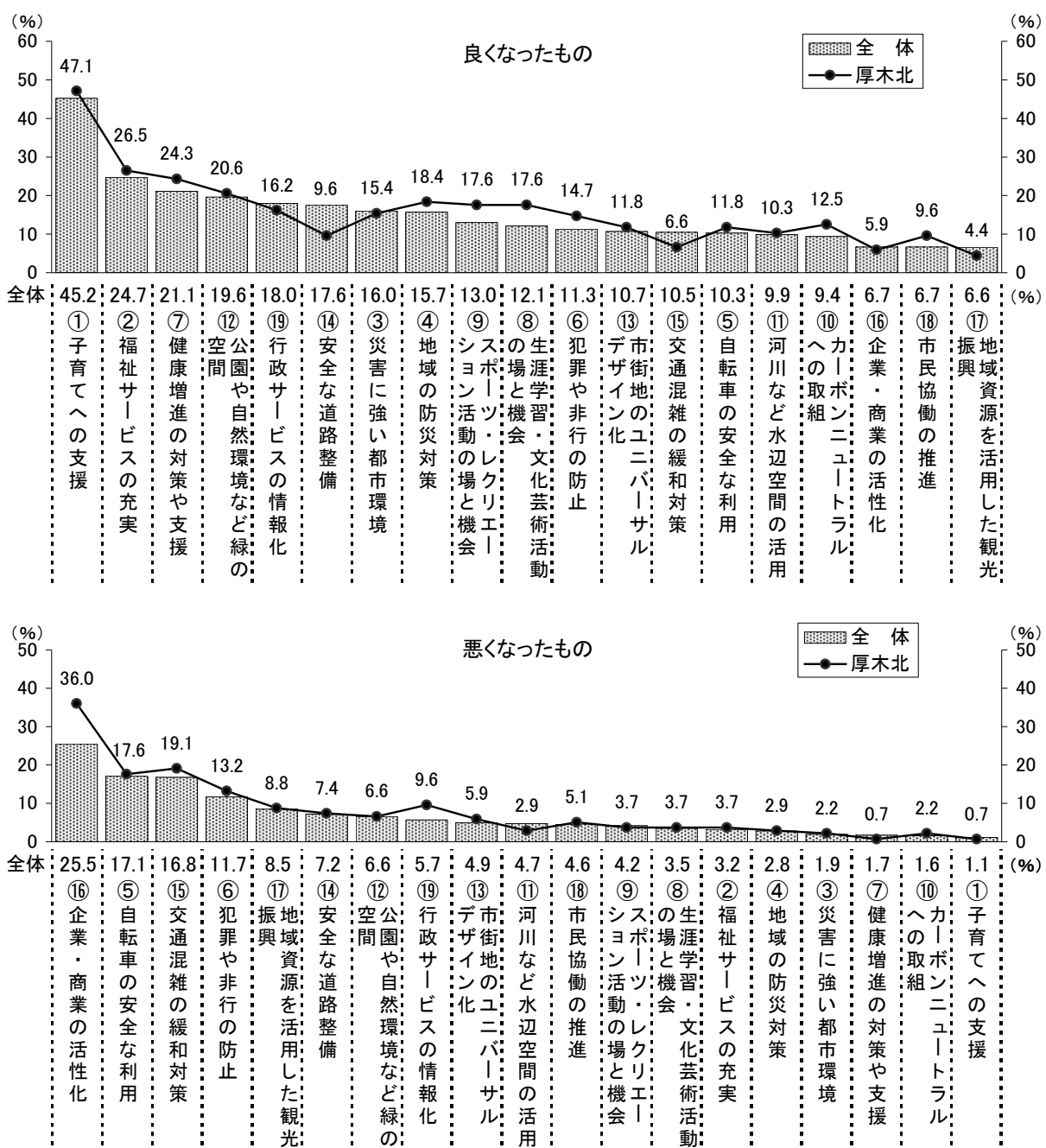


【地区ごとの傾向】〔厚木北地区〕

「良くなったもの」では、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(17.6%)が全体(12.1%)と比べて5.5ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(17.6%)が全体(13.0%)と比べて4.6ポイント高くなっている。一方、「⑭安全な道路整備」(9.6%)が全体(17.6%)と比べて8.0ポイント低くなっている

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(36.0%)が全体(25.5%)と比べて10.5ポイント高くなっている。

図11-1-20 まちづくり全般の変化－厚木北地区

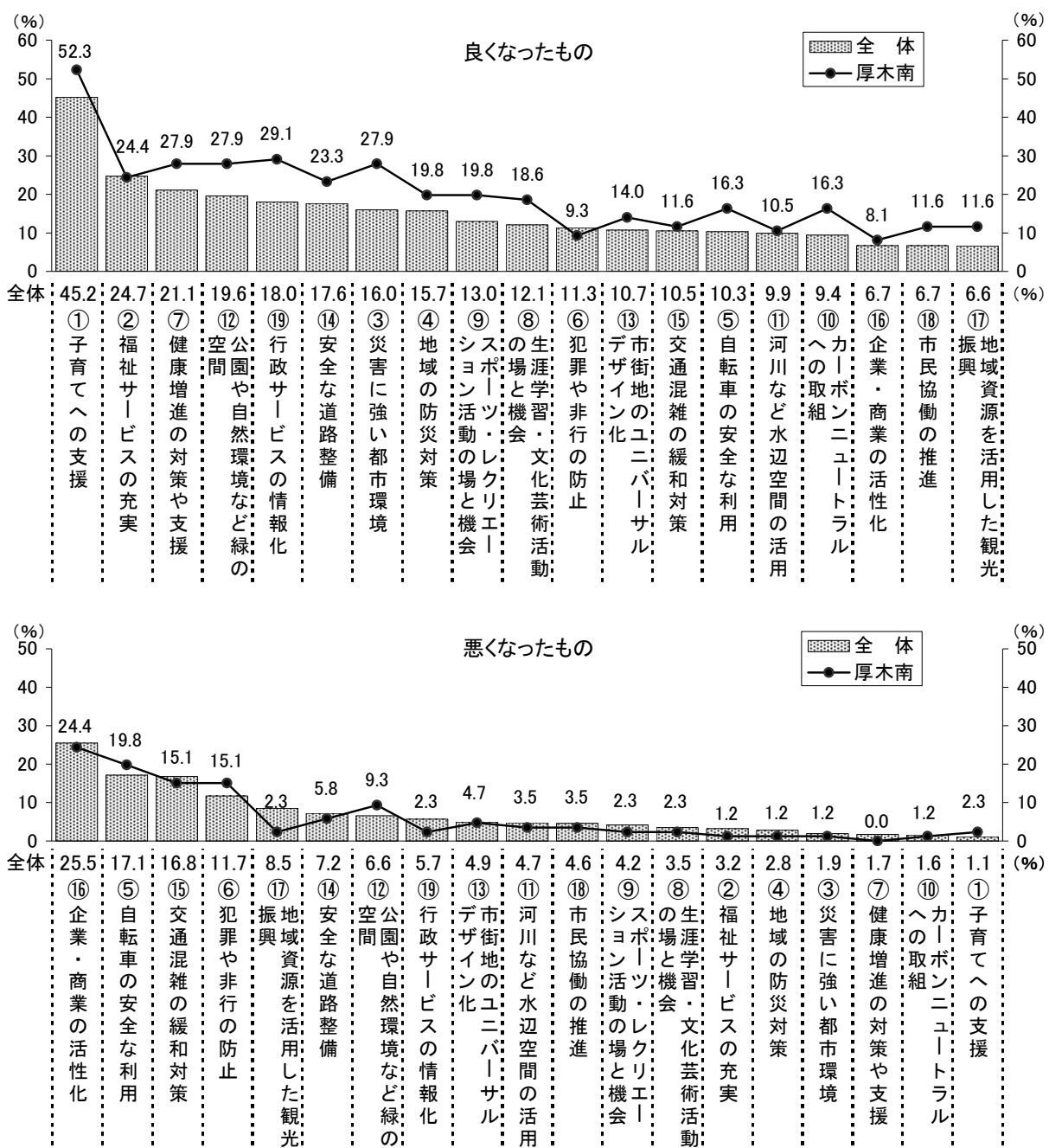


【地区ごとの傾向】〔厚木南地区〕

「良くなったもの」では、「③災害に強い都市環境」(27.9%)が全体(16.0%)と比べて11.9ポイント、「⑩行政サービスの情報化」(29.1%)が全体(18.0%)と比べて11.1ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(27.9%)が全体(19.6%)と比べて8.3ポイント、「①子育てへの支援」(52.3%)が全体(45.2%)と比べて7.1ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(15.1%)が全体(11.7%)と比べて3.4ポイント高くなっている。

図11-1-21 まちづくり全般の変化－厚木南地区

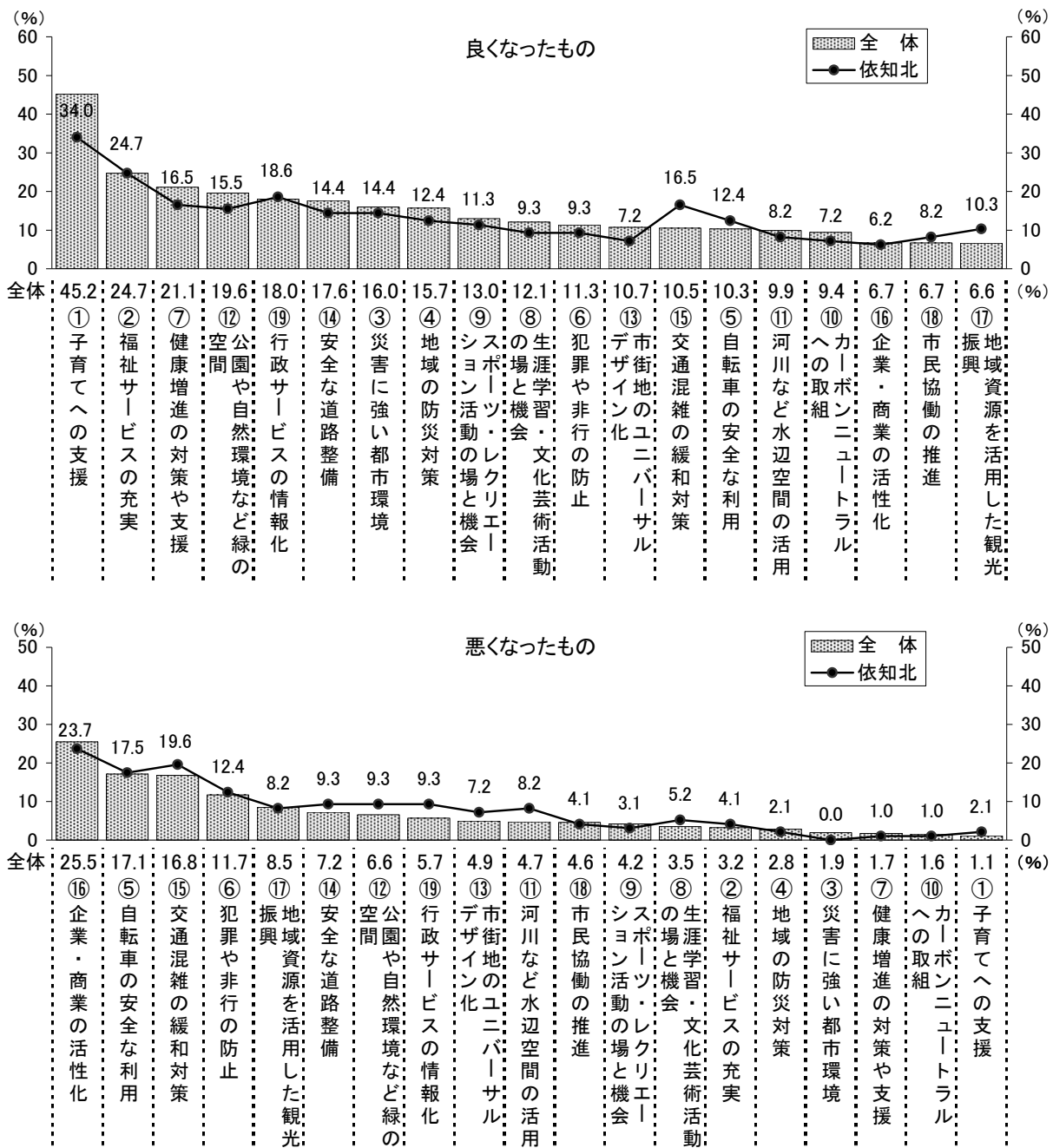


【地区ごとの傾向】〔依知北地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(16.5%)が全体(10.5%)と比べて6.0ポイント高くなっている。一方、「①子育てへの支援」(34.0%)が全体(45.2%)と比べて11.2ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(16.5%)が全体(21.1%)と比べて4.6ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(15.5%)が全体(19.6%)と比べて4.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑱行政サービスの情報化」(9.3%)が全体(5.7%)と比べて3.6ポイント高くなっている。

図11-1-22 まちづくり全般の変化－依知北地区

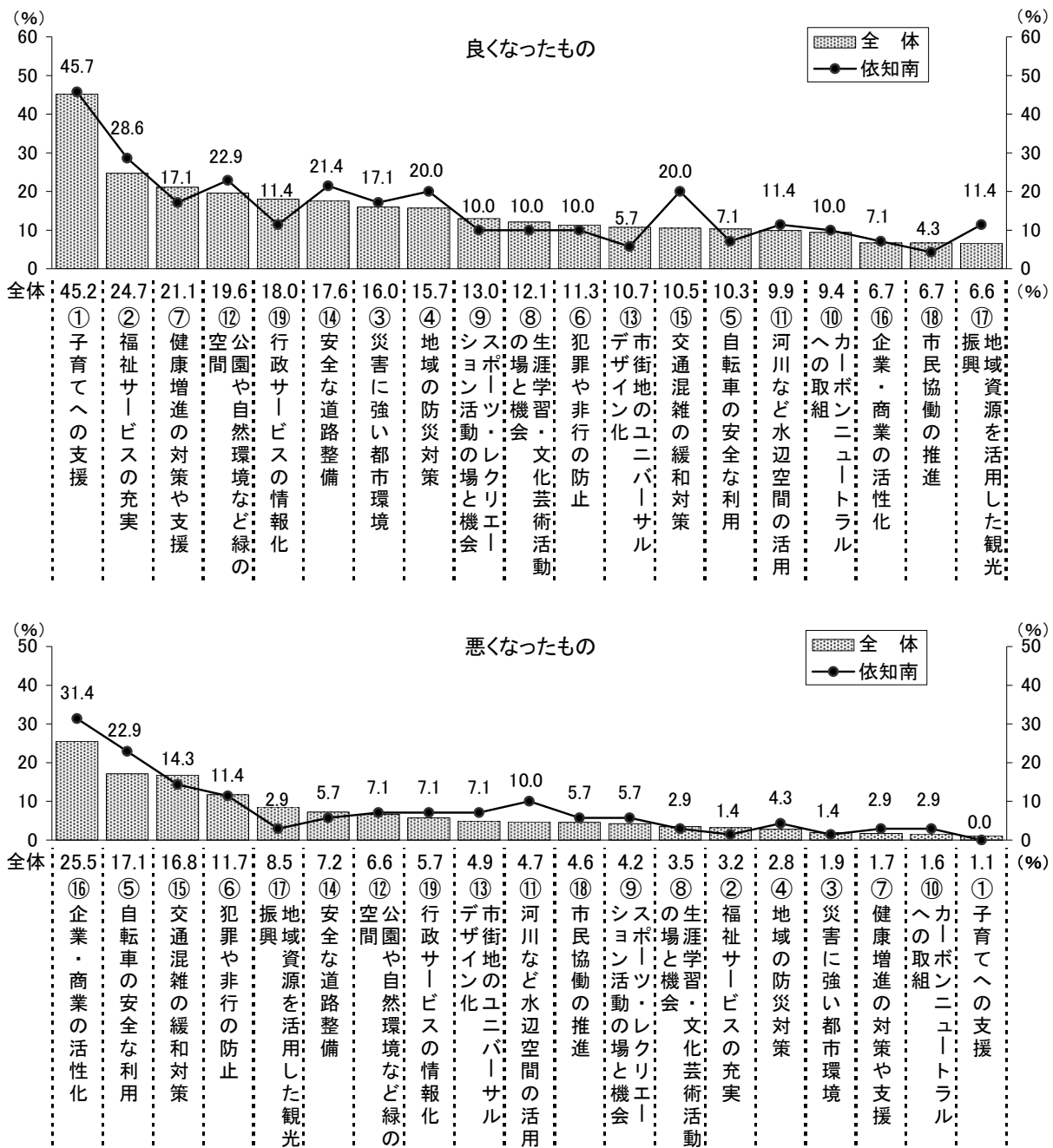


【地区ごとの傾向】〔依知南地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(20.0%)が全体(10.5%)と比べて9.5ポイント、「⑰地域資源を活用した観光振興」(11.4%)が全体(6.6%)と比べて4.8ポイント、「④地域の防災対策」(20.0%)が全体(15.7%)と比べて4.3ポイント高くなっている。一方、「⑱行政サービスの情報化」(11.4%)が全体(18.0%)と比べて6.6ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(5.7%)が全体(10.7%)と比べて5.0ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(17.1%)が全体(21.1%)と比べて4.0ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(31.4%)が全体(25.5%)と比べて5.9ポイント、「⑤自転車の安全な利用」(22.9%)が全体(17.1%)と比べて5.8ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(10.0%)が全体(4.7%)と比べて5.3ポイント高くなっている。

図11-1-23 まちづくり全般の変化―依知南地区

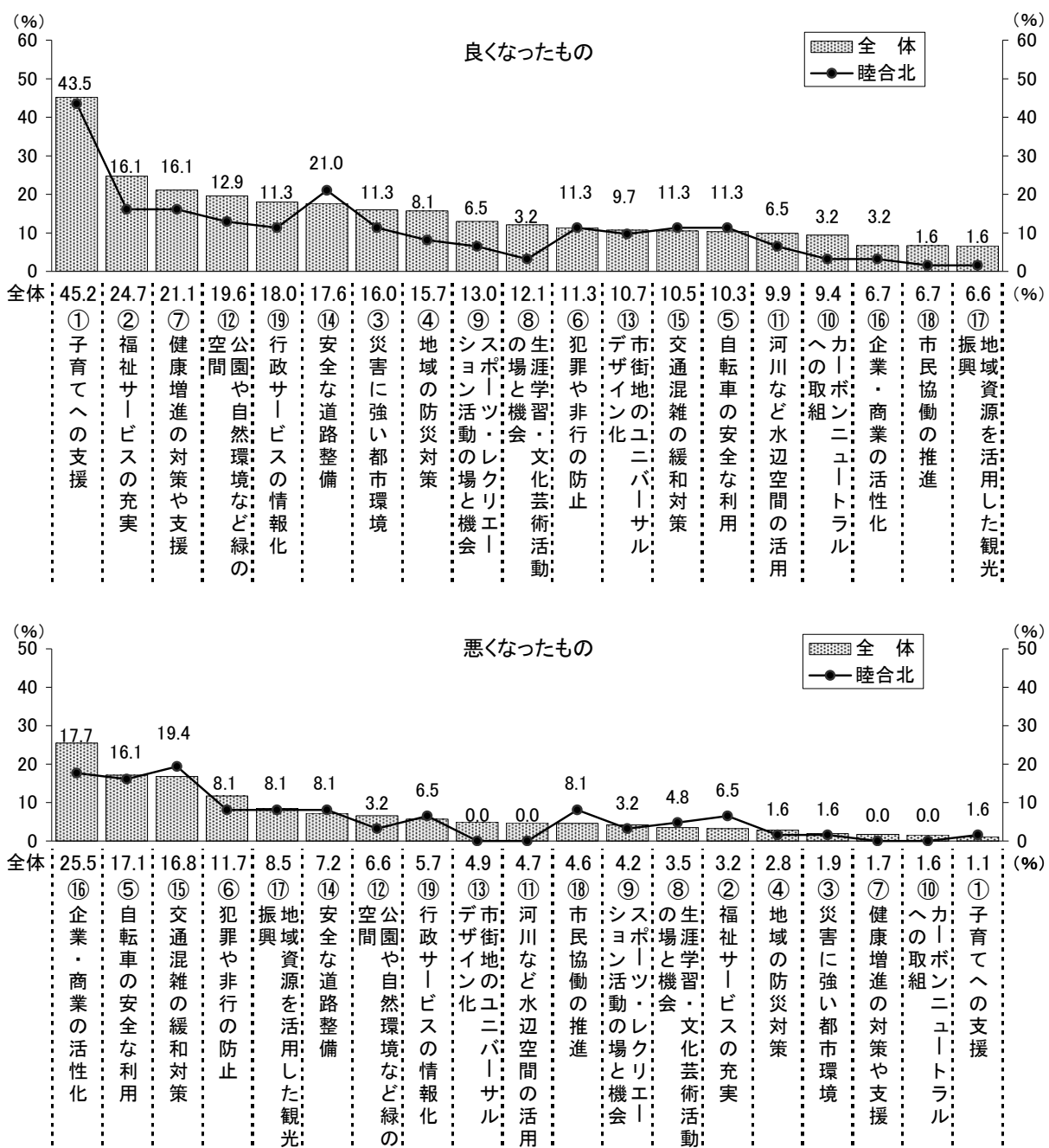


【地区ごとの傾向】〔睦合北地区〕

「良くなったもの」では、「⑭安全な道路整備」(21.0%)が全体(17.6%)と比べて3.4ポイント高くなっている。一方、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(3.2%)が全体(12.1%)と比べて8.9ポイント、「②福祉サービスの充実」(16.1%)が全体(24.7%)と比べて8.6ポイント、「④地域の防災対策」(8.1%)が全体(15.7%)と比べて7.6ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑱市民協働の推進」(8.1%)が全体(4.6%)と比べて3.5ポイント高くなっている。

図11-1-24 まちづくり全般の変化―睦合北地区

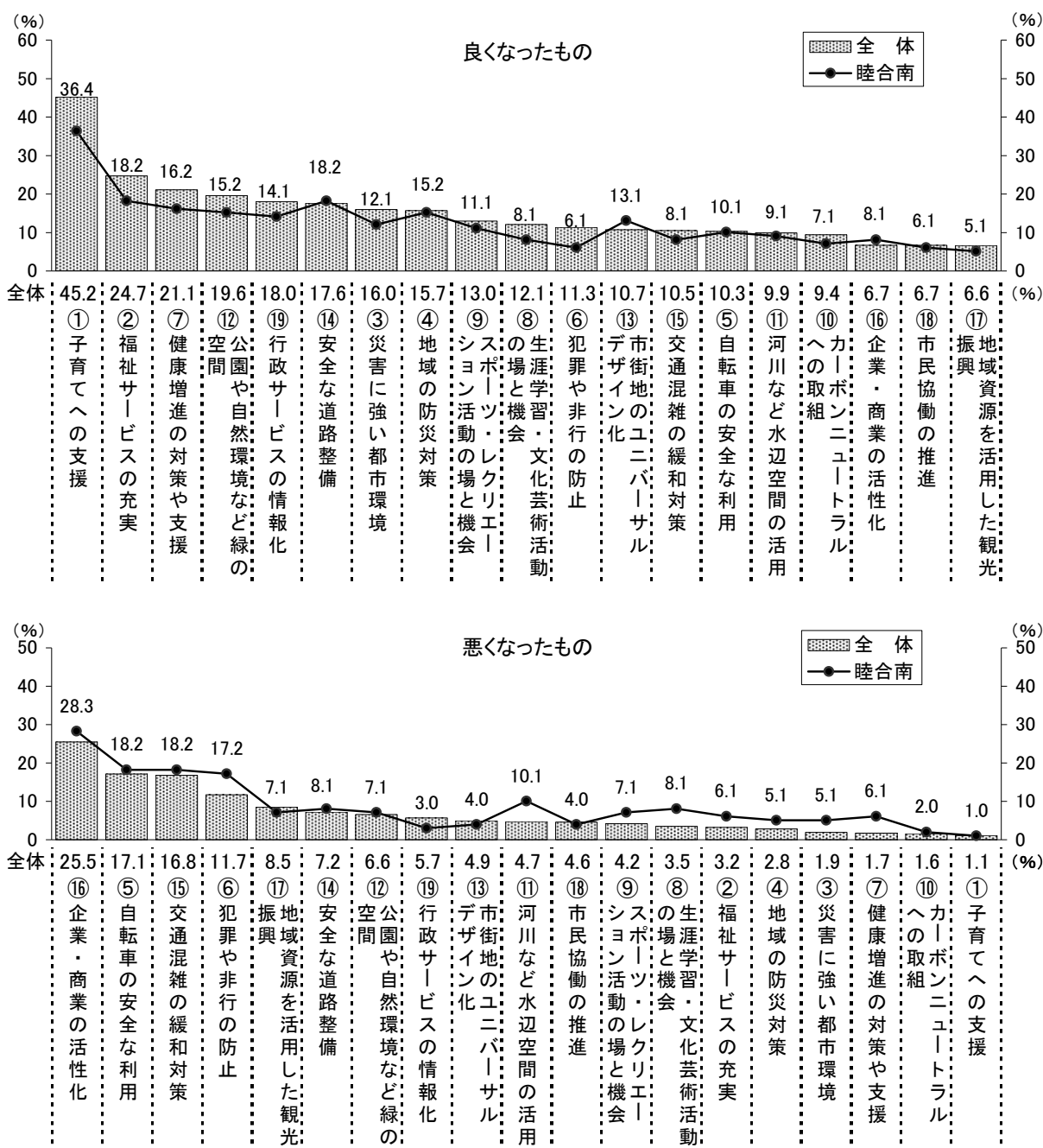


【地区ごとの傾向】〔睦合南地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(36.4%)が全体(45.2%)と比べて8.8ポイント、「②福祉サービスの充実」(18.2%)が全体(24.7%)と比べて6.5ポイント、「⑥犯罪や非行の防止」(6.1%)が全体(11.3%)と比べて5.2ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(17.2%)が全体(11.7%)と比べて5.5ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(10.1%)が全体(4.7%)と比べて5.4ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(8.1%)が全体(3.5%)と比べて4.6ポイント高くなっている。

図11-1-25 まちづくり全般の変化―睦合南地区

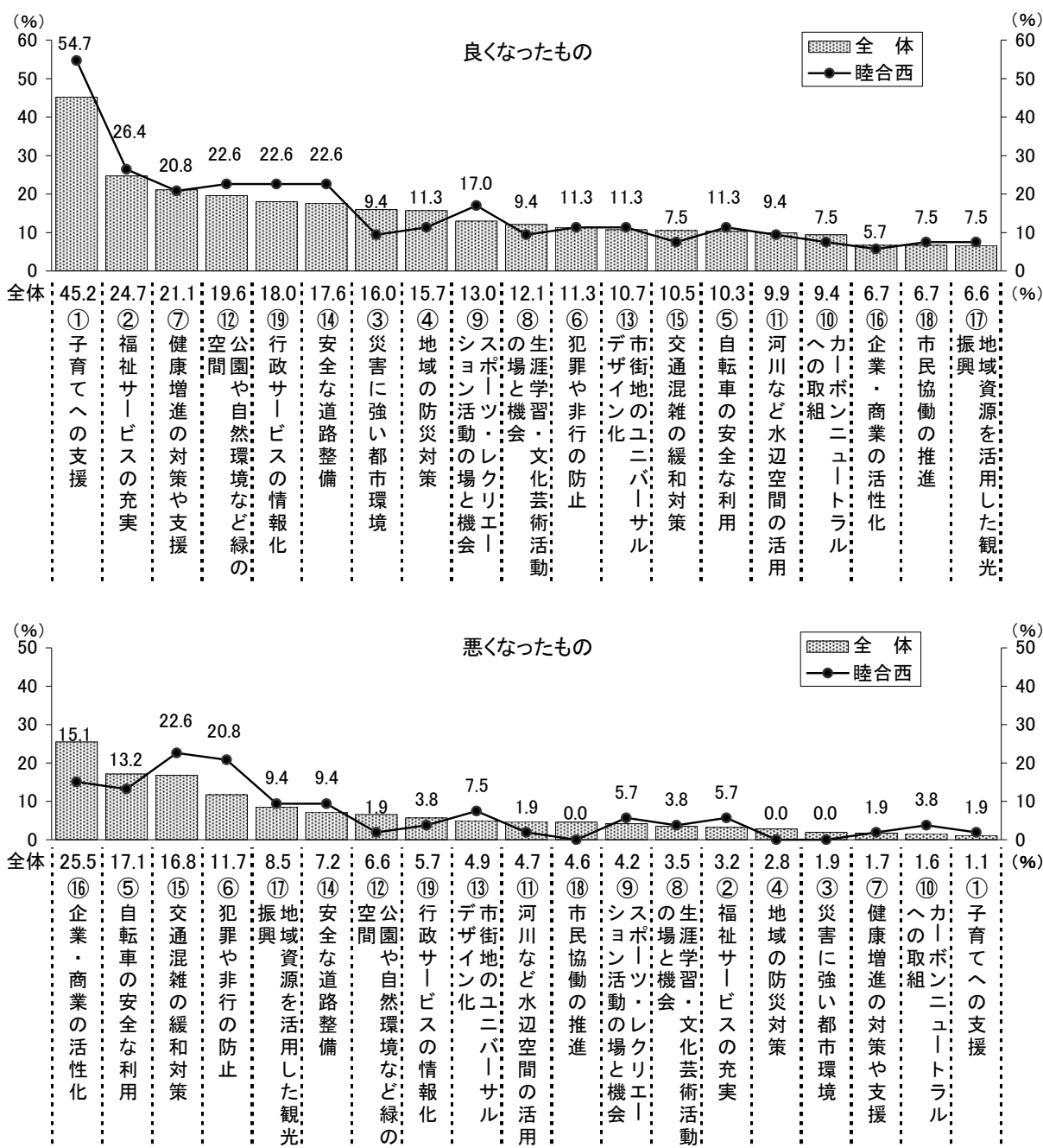


【地区ごとの傾向】〔睦合西地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(54.7%)が全体(45.2%)と比べて9.5ポイント、「⑭安全な道路整備」(22.6%)が全体(17.6%)と比べて5.0ポイント、「⑲行政サービスの情報化」(22.6%)が全体(18.0%)と比べて4.6ポイント高くなっている。一方、「③災害に強い都市環境」(9.4%)が全体(16.0%)と比べて6.6ポイント、「④地域の防災対策」(11.3%)が全体(15.7%)と比べて4.4ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(20.8%)が全体(11.7%)と比べて9.1ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(22.6%)が全体(16.8%)と比べて5.8ポイント高くなっている。

図11-1-26 まちづくり全般の変化―睦合西地区

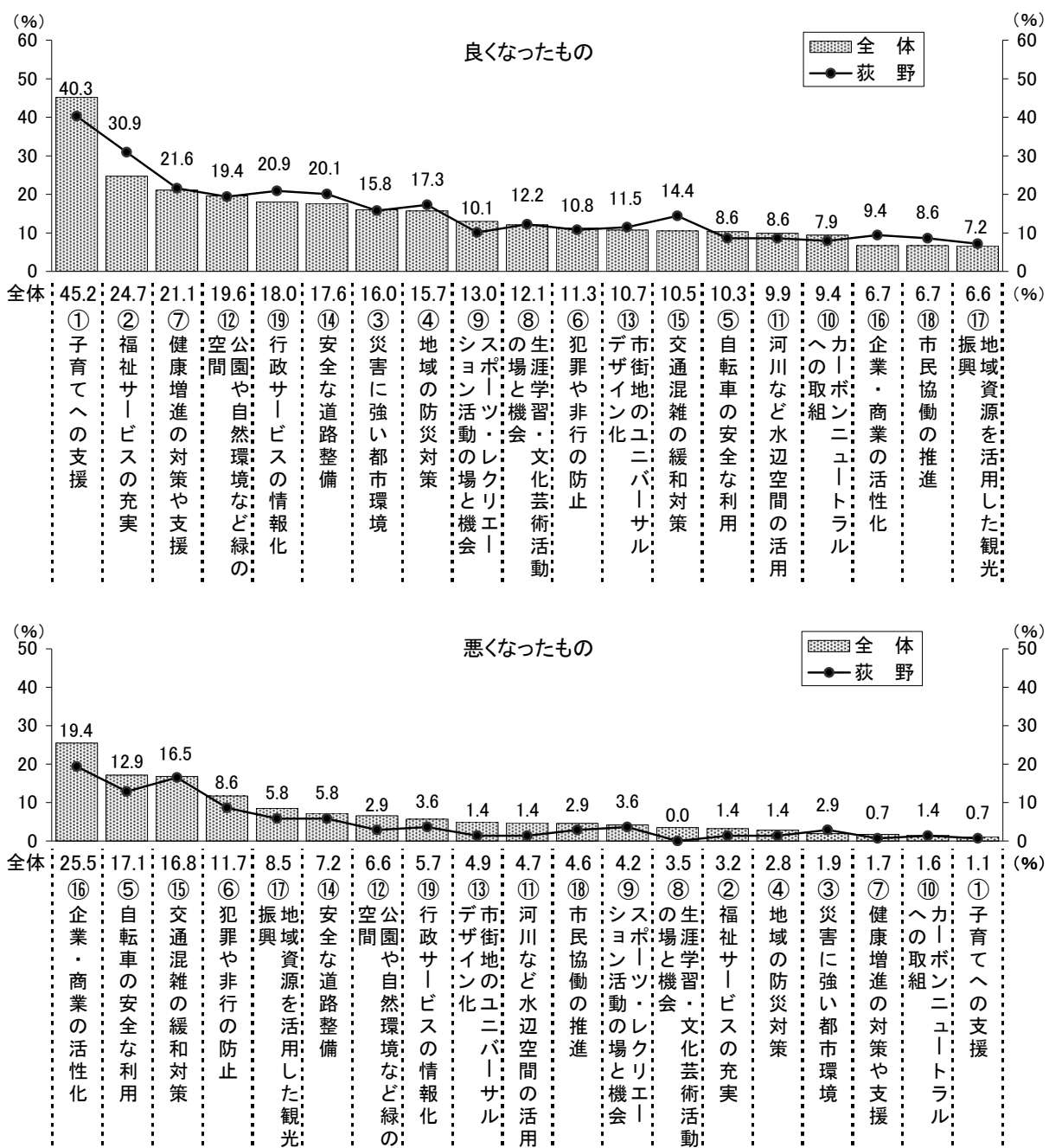


【地区ごとの傾向】〔荻野地区〕

「良くなったもの」では、「②福祉サービスの充実」(30.9%)が全体(24.7%)と比べて6.2ポイント高くなっている。一方、「①子育てへの支援」(40.3%)が全体(45.2%)と比べて4.9ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(19.4%)が全体(25.5%)と比べて6.1ポイント低くなっている。

図11-1-27 まちづくり全般の変化—荻野地区

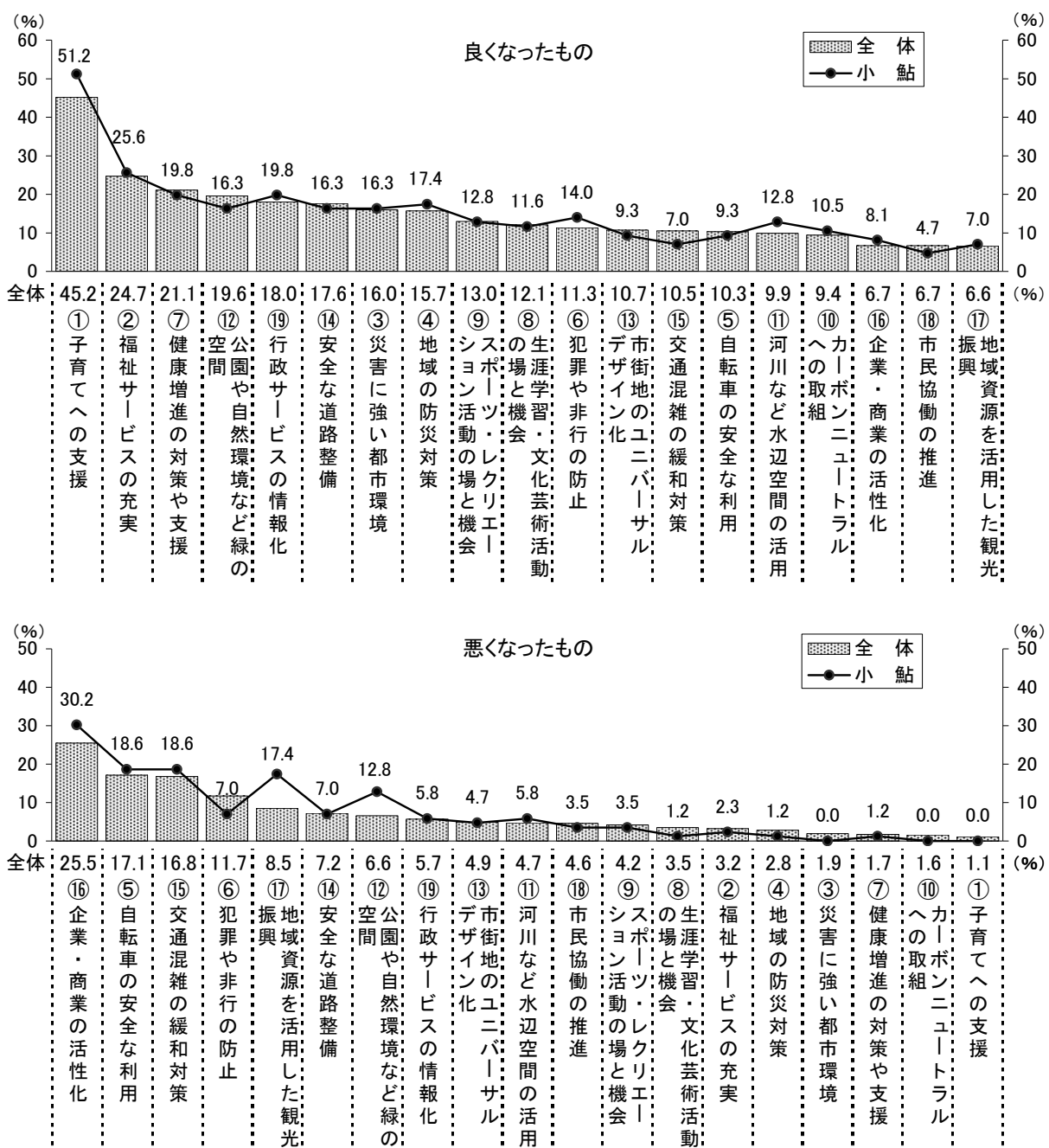


【地区ごとの傾向】〔小鮎地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(51.2%)が全体(45.2%)と比べて6.0ポイント高くなっている。一方、「⑮交通混雑の緩和対策」(7.0%)が全体(10.5%)と比べて3.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑰地域資源を活用した観光振興」(17.4%)が全体(8.5%)と比べて8.9ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(12.8%)が全体(6.6%)と比べて6.2ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(30.2%)が全体(25.5%)と比べて4.7ポイント高くなっている。

図11-1-28 まちづくり全般の変化—小鮎地区

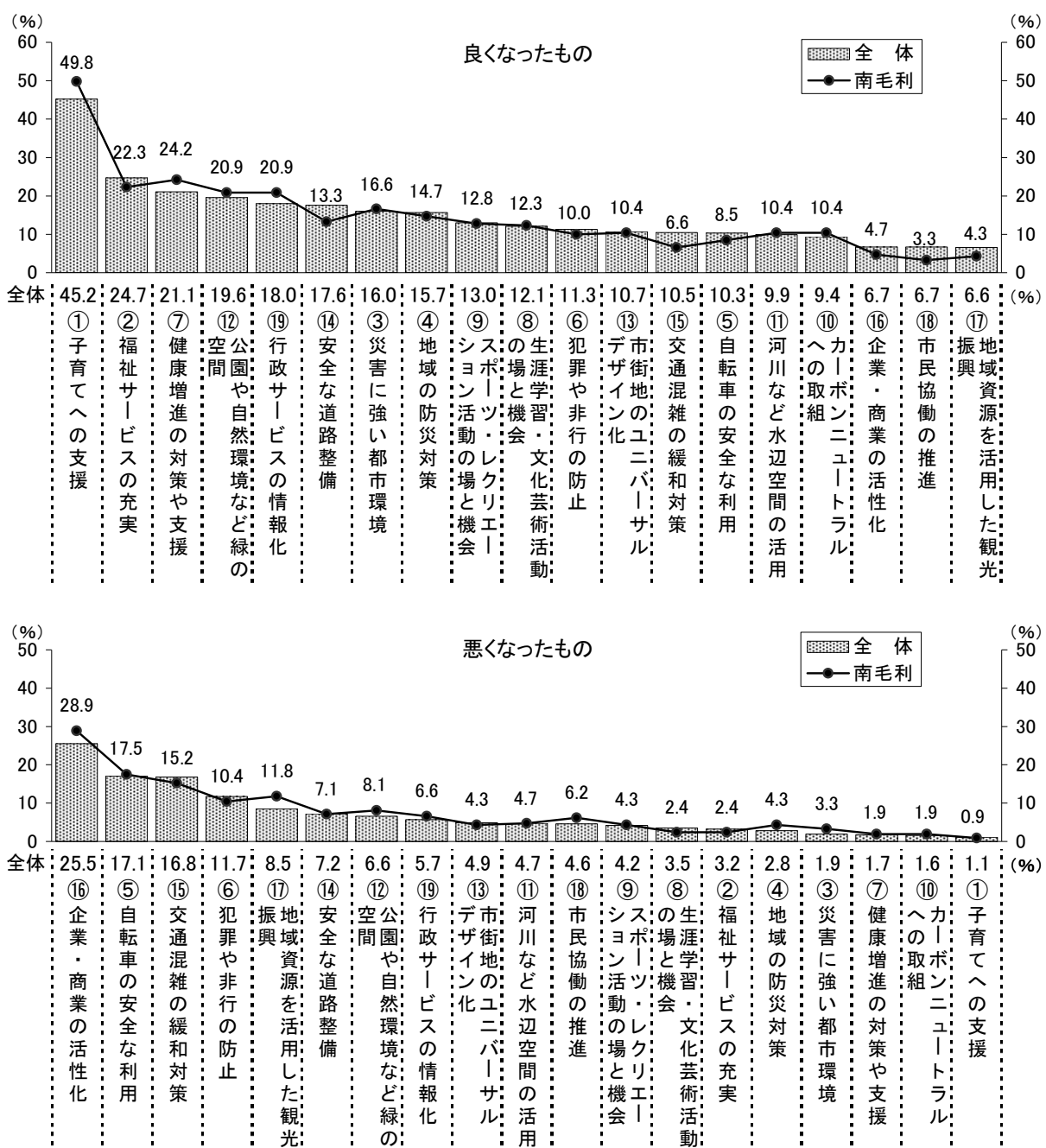


【地区ごとの傾向】〔南毛利地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(49.8%)が全体(45.2%)と比べて4.6ポイント高くなっている。一方、「⑭安全な道路整備」(13.3%)が全体(17.6%)と比べて4.3ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(28.9%)が全体(25.5%)と比べて3.4ポイント、 「⑰地域資源を活用した観光振興」(11.8%)が全体(8.5%)と比べて3.3ポイント高くなっている。

図11-1-29 まちづくり全般の変化－南毛利地区

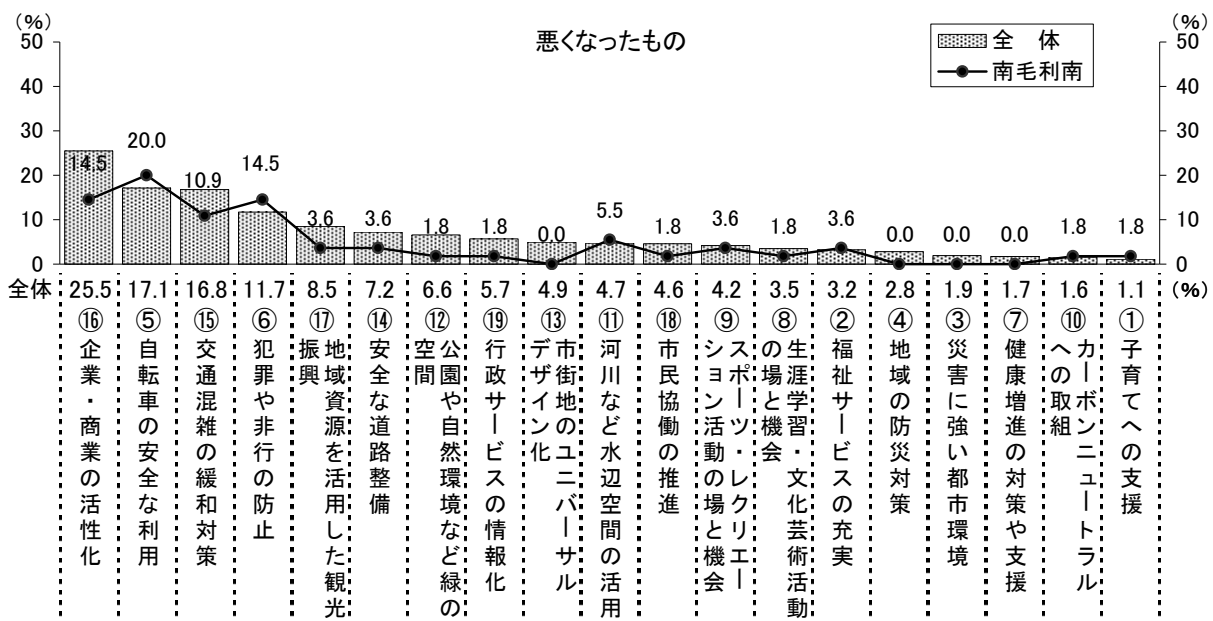
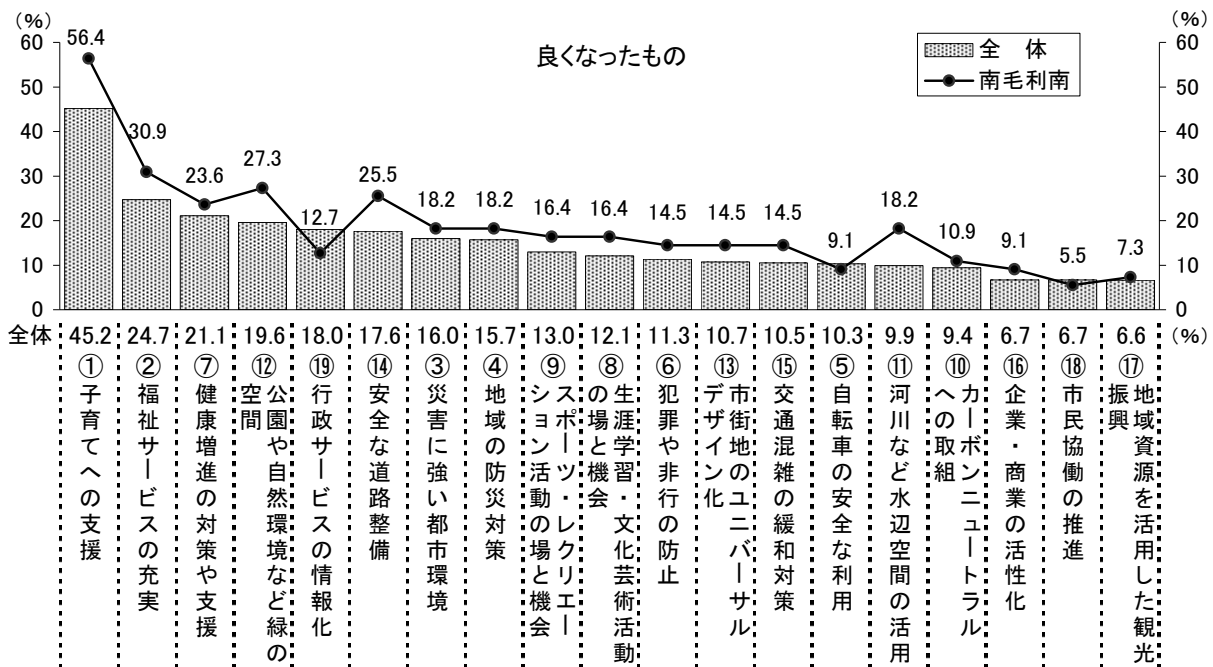


【地区ごとの傾向】〔南毛利南地区〕

「良くなったもの」では、「①子育てへの支援」(56.4%)が全体(45.2%)と比べて11.2ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(18.2%)が全体(9.9%)と比べて8.3ポイント、「⑭安全な道路整備」(25.5%)が全体(17.6%)と比べて7.9ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(27.3%)が全体(19.6%)と比べて7.7ポイント高くなっている。一方、「⑲行政サービスの情報化」(12.7%)が全体(18.0%)と比べて5.3ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(14.5%)が全体(25.5%)と比べて11.0ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(10.9%)が全体(16.8%)と比べて5.9ポイント低くなっている。

図11-1-30 まちづくり全般の変化—南毛利南地区

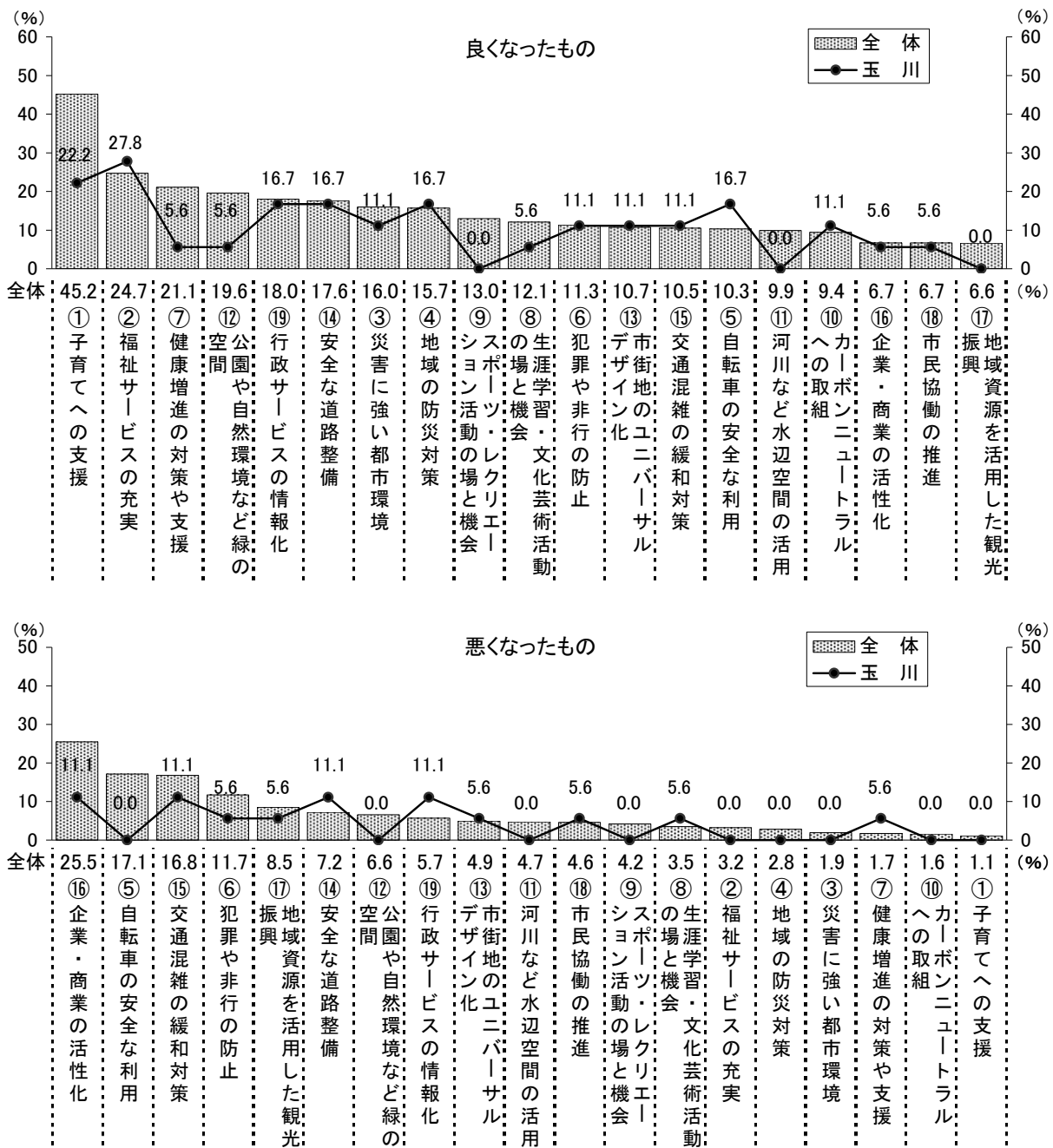


【地区ごとの傾向】〔玉川地区〕

「良くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(16.7%)が全体(10.3%)と比べて6.4ポイント高くなっている。一方、「①子育てへの支援」(22.2%)が全体(45.2%)と比べて23.0ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(5.6%)が全体(21.1%)と比べて15.5ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(5.6%)が全体(19.6%)と比べて14.0ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(0.0%)が全体(13.0%)と比べて13.0ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑱行政サービスの情報化」(11.1%)が全体(5.7%)と比べて5.4ポイント高くなっている。

図11-1-31 まちづくり全般の変化―玉川地区

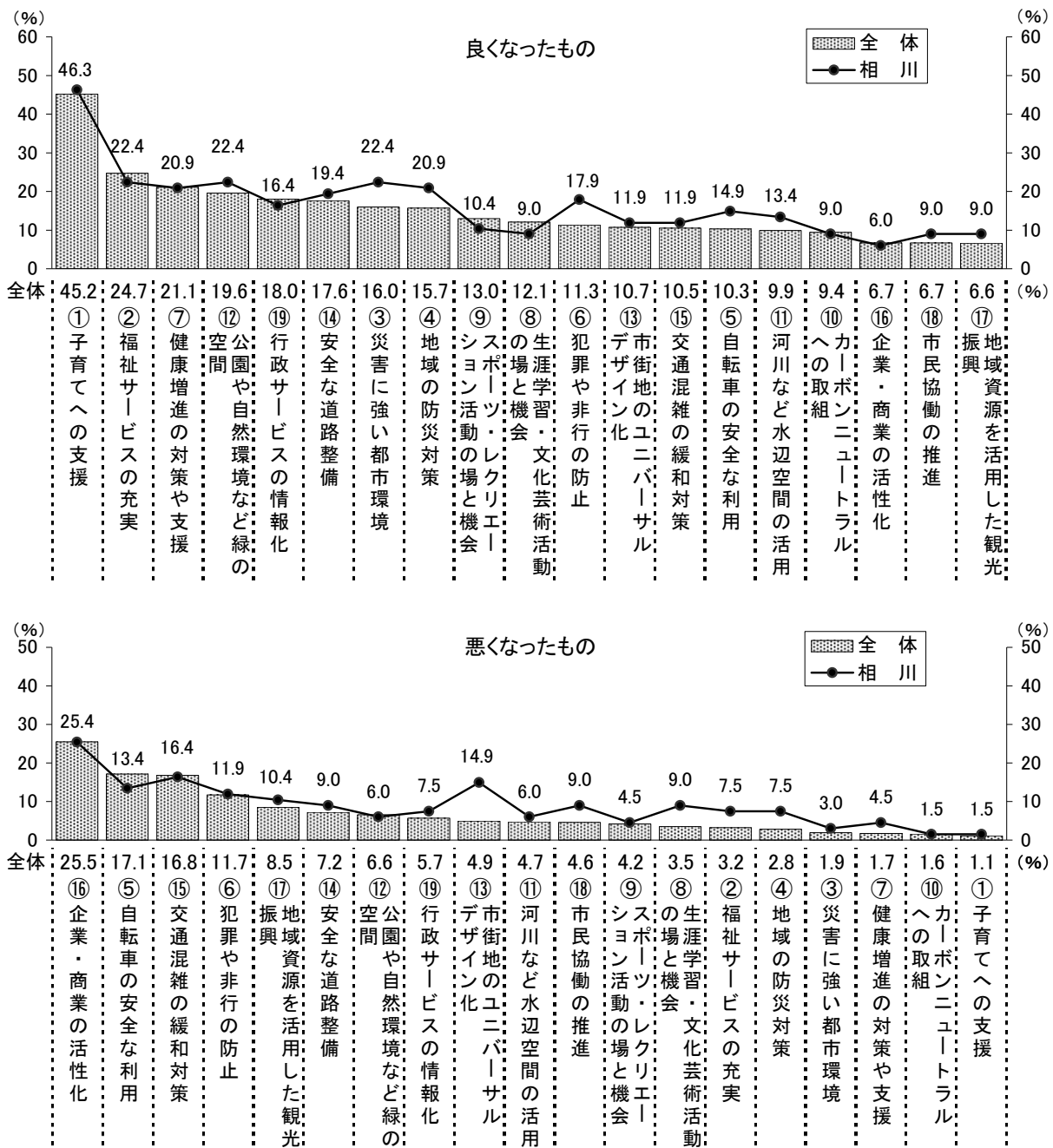


【地区ごとの傾向】〔相川地区〕

「良くなったもの」では、「⑥犯罪や非行の防止」(17.9%)が全体(11.3%)と比べて6.6ポイント、「③災害に強い都市環境」(22.4%)が全体(16.0%)と比べて6.4ポイント、「④地域の防災対策」(20.9%)が全体(15.7%)と比べて5.2ポイント、「⑤自転車の安全な利用」(14.9%)が全体(10.3%)と比べて4.6ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(14.9%)が全体(4.9%)と比べて10.0ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(9.0%)が全体(3.5%)と比べて5.5ポイント、「④地域の防災対策」(7.5%)が全体(2.8%)と比べて4.7ポイント高くなっている。

図11-1-32 まちづくり全般の変化—相川地区

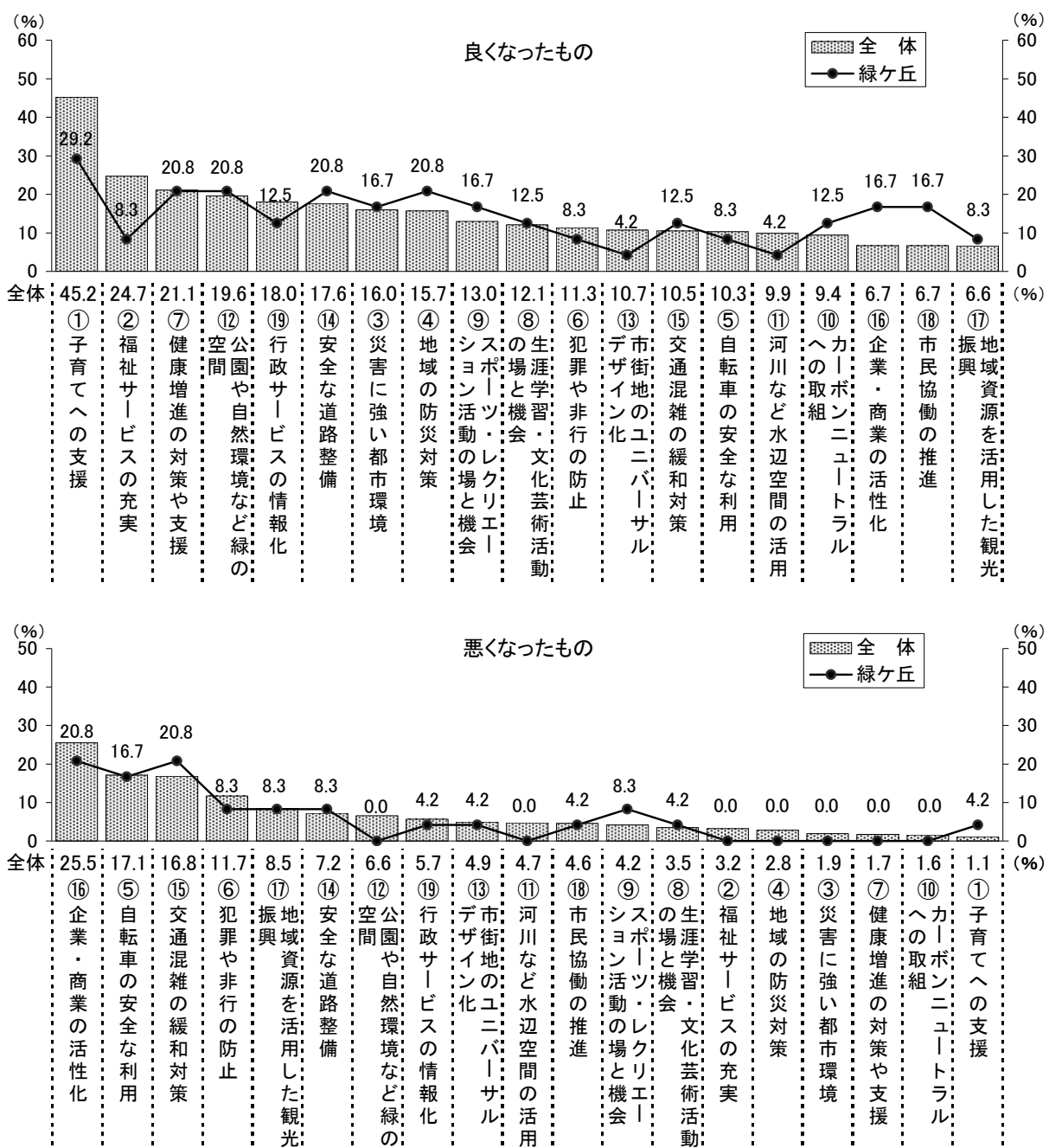


【地区ごとの傾向】〔緑ヶ丘地区〕

「良くなったもの」では、「⑩企業・商業の活性化」(16.7%)が全体(6.7%)と比べて10.0ポイント、「⑩市民協働の推進」(16.7%)が全体(6.7%)と比べて10.0ポイント、「④地域の防災対策」(20.8%)が全体(15.7%)と比べて5.1ポイント高くなっている。一方、「②福祉サービスの充実」(8.3%)が全体(24.7%)と比べて16.4ポイント、「①子育てへの支援」(29.2%)が全体(45.2%)と比べて16.0ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(4.2%)が全体(10.7%)と比べて6.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(8.3%)が全体(4.2%)と比べて4.1ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(20.8%)が全体(16.8%)と比べて4.0ポイント高くなっている。

図11-1-33 まちづくり全般の変化―緑ヶ丘地区

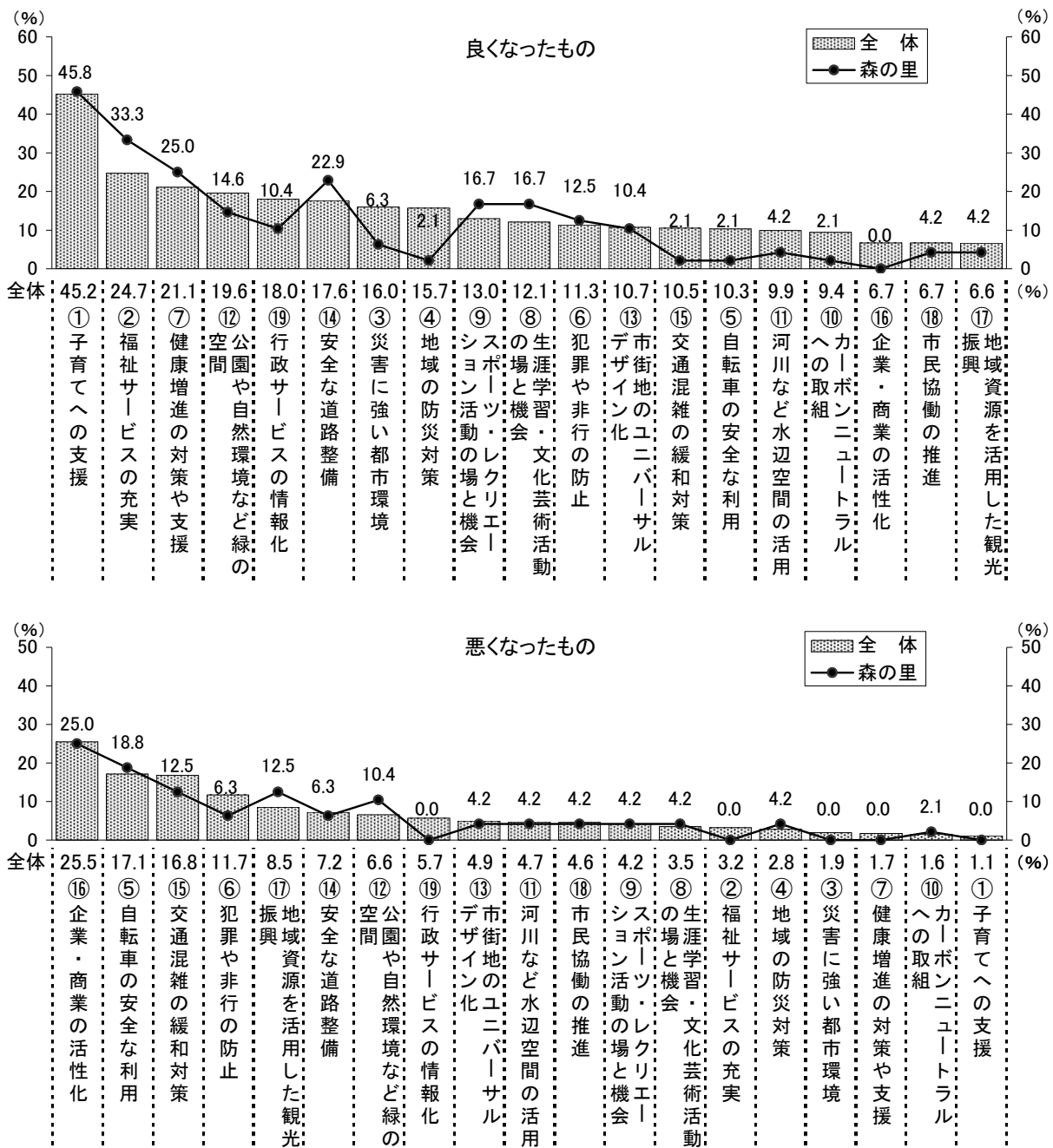


【地区ごとの傾向】〔森の里地区〕

「良くなったもの」では、「②福祉サービスの充実」(33.3%)が全体(24.7%)と比べて8.6ポイント、「⑭安全な道路整備」(22.9%)が全体(17.6%)と比べて5.3ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(16.7%)が全体(12.1%)と比べて4.6ポイント高くなっている。一方、「④地域の防災対策」(2.1%)が全体(15.7%)と比べて13.6ポイント、「③災害に強い都市環境」(6.3%)が全体(16.0%)と比べて9.7ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(2.1%)が全体(10.5%)と比べて8.4ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑰地域資源を活用した観光振興」(12.5%)が全体(8.5%)と比べて4.0ポイント高くなっている。

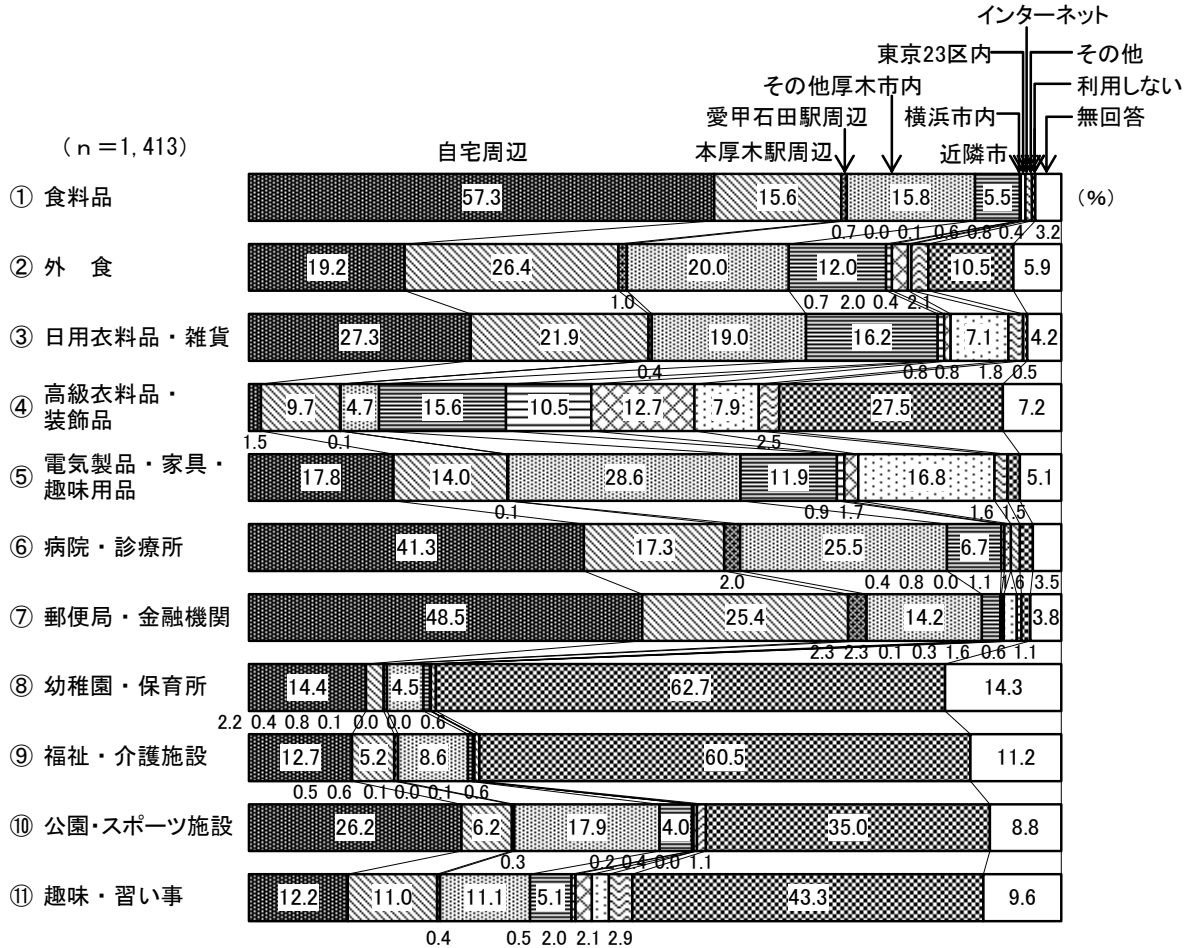
図11-1-34 まちづくり全般の変化―森の里地区



(2) 日常利用する施設の場所 (B: 問16)

問. 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。
 (①~⑪について、それぞれ1つだけ選んでください)

図11-2-1 日常利用する施設の場所



【全体】

日常利用する施設の場所について聞いたところ、①食料品では「自宅周辺」(57.3%)が5割半ばを超えて最も高く、次いで「その他厚木市内」(15.8%)、「本厚木駅周辺」(15.6%)となっている。

②外食では「本厚木駅周辺」(26.4%)が2割半ばを超えて最も高く、次いで「その他厚木市内」(20.0%)、「自宅周辺」(19.2%)、「近隣市」(12.0%)となっている。

③日用衣料品・雑貨では「自宅周辺」(27.3%)が2割半ばを超えて最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(21.9%)、「その他厚木市内」(19.0%)、「近隣市」(16.2%)となっている。

④高級衣料品・装飾品では「近隣市」(15.6%)が1割半ばで最も高く、次いで「東京23区内」(12.7%)、「横浜市内」(10.5%)となっている。

⑤電気製品・家具・趣味用品では「その他厚木市内」(28.6%)が3割近くで最も高く、次いで「自宅周辺」(17.8%)、「インターネット」(16.8%)、「本厚木駅周辺」(14.0%)となっている。

⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事の6項目ではいずれも「自宅周辺」が最も高くなっている。

【経年変化】①食料品、②外食、③日用衣料品・雑貨、④高級衣料品・装飾品

経年による変化を見ると、①食料品では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

②外食では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

③日用衣料品・雑貨では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

④高級衣料品・装飾品では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が過去と異なっているため、参考記載とする。

表11-2-1 日常利用する施設の場所—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和5年度 (n=1,413)		令和3年度 (n=1,672)		令和元年度 (n=1,538)		平成29年度 (n=1,550)		平成27年度 (n=1,417)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=815)		
① 食料品	1	自宅周辺	57.3	自宅周辺	57.7	自宅周辺	55.8	自宅周辺	56.3	その他厚木市内	55.4	その他厚木市内	52.0	その他厚木市内	56.8
	2	その他厚木市内	15.8	本厚木駅周辺	16.7	本厚木駅周辺	16.6	その他厚木市内	16.9	本厚木駅周辺	31.1	本厚木駅周辺	37.2	本厚木駅周辺	30.3
	3	本厚木駅周辺	15.6	その他厚木市内	13.0	その他厚木市内	16.3	本厚木駅周辺	16.1	愛甲石田駅周辺	4.0	愛甲石田駅周辺	2.6	愛甲石田駅周辺	3.1
	4	近隣市	5.5	近隣市	6.0	近隣市	5.5	近隣市	4.5	伊勢原駅周辺	1.6	海老名駅周辺	1.8	海老名駅周辺	1.0
	5	愛甲石田駅周辺	0.7	インターネット	1.0	愛甲石田駅周辺	1.3	愛甲石田駅周辺	1.2	相模原市内	1.3	伊勢原駅周辺	1.4	伊勢原駅周辺	0.7
② 外食	1	本厚木駅周辺	26.4	本厚木駅周辺	25.4	本厚木駅周辺	28.2	本厚木駅周辺	25.2	その他厚木市内	40.0				
	2	その他厚木市内	20.0	自宅周辺	19.9	その他厚木市内	23.2	その他厚木市内	22.0	本厚木駅周辺	31.2				
	3	自宅周辺	19.2	その他厚木市内	18.5	自宅周辺	17.4	自宅周辺	19.6	海老名駅周辺	3.9				
	4	近隣市	12.0	近隣市	11.7	近隣市	11.0	近隣市	12.8	東京23区内	2.6				
	5	東京23区内	2.0	東京23区内	1.4	東京23区内	3.6	東京23区内	2.5	横浜市内	2.4				
③ 日用衣料品・ 雑貨	1	自宅周辺	27.3	自宅周辺	27.6	自宅周辺	24.1	自宅周辺	26.9	その他厚木市内	36.6	本厚木駅周辺	38.8	本厚木駅周辺	38.2
	2	本厚木駅周辺	21.9	本厚木駅周辺	21.9	本厚木駅周辺	22.4	本厚木駅周辺	22.6	本厚木駅周辺	35.1	その他厚木市内	30.0	その他厚木市内	36.4
	3	その他厚木市内	19.0	その他厚木市内	18.5	その他厚木市内	21.2	その他厚木市内	22.1	海老名駅周辺	6.1	海老名駅周辺	8.0	海老名駅周辺	5.2
	4	近隣市	16.2	近隣市	16.6	近隣市	17.4	近隣市	13.5	インターネット	2.4	町田市内	5.0	町田市内	3.3
	5	インターネット	7.1	インターネット	6.5	インターネット	3.6	インターネット	3.2	相模原市内	2.2	インターネット	4.3	インターネット	2.1
④ 高級衣料品・ 装飾品	1	近隣市	15.6	近隣市	16.0	近隣市	19.6	近隣市	19.7	東京23区内	18.1	東京23区内	19.8	本厚木駅周辺	20.0
	2	東京23区内	12.7	東京23区内	9.9	東京23区内	14.9	東京23区内	13.3	本厚木駅 周辺 /横浜市内	15.6	横浜市内	18.1	横浜市内	15.5
	3	横浜市内	10.5	本厚木駅周辺	9.1	横浜市内	9.6	横浜市内	12.7			本厚木駅周辺	16.1	東京23区内	13.5
	4	本厚木駅周辺	9.7	横浜市内	8.7	本厚木駅周辺	9.3	本厚木駅周辺	10.2	海老名駅周辺	8.0	町田市内	12.3	町田市内	10.2
	5	インターネット	7.9	インターネット	8.7	インターネット	5.2	その他厚木市内	6.1	その他厚木市内	7.2	海老名駅周辺	7.4	その他厚木市内	8.6

(注1) 「③日用衣料品・雑貨」は、平成27年度調査以前では「日用衣料品」としていた。

(注2) 「インターネット」は、平成25年度調査以前では「インターネットショッピング」としていた。

(注3) 平成29年度調査以降では、「近隣市」の選択肢を追加している。

(注4) 平成29年度調査以前では、「ふだん、どこにある店舗・施設を利用していますか。」と質問していた。

(注5) 平成27年度調査以降では、「②外食」の選択肢を追加している。

(注6) 平成27年度調査以前では、「伊勢原駅周辺」、「海老名駅周辺」、「平塚駅周辺」の選択肢を追加していた。

(注7) 平成27年度調査では、「相模原市内」の選択肢を追加していた。

(注8) 平成25年度調査以前では、「町田市内」の選択肢を追加していた。

【経年変化】⑤電気製品・家具・趣味用品、⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、
⑧幼稚園・保育所

経年による変化を見ると、⑤電気製品・家具・趣味用品では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑥病院・診療所では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑦郵便局・金融機関では「本厚木駅周辺」(25.4%)が令和3年度調査(28.7%)より3.3ポイント減少している。

⑧幼稚園・保育所では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表11-2-2 日常利用する施設の場所—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)
⑤ 家具・ 電気製 品・趣 味・用 品	1 その他厚木市内 28.6	その他厚木市内 28.8	その他厚木市内 36.1	その他厚木市内 33.4
	2 自宅周辺 17.8	自宅周辺 19.3	自宅周辺 15.1	自宅周辺 17.5
	3 インターネット 16.8	インターネット 14.8	近隣市 12.7	近隣市 14.5
	4 本厚木駅周辺 14.0	近隣市 13.3	本厚木駅周辺 11.8	インターネット 11.1
	5 近隣市 11.9	本厚木駅周辺 11.8	インターネット 10.8	本厚木駅周辺 10.4
⑥ 病院・ 診療所	1 自宅周辺 41.3	自宅周辺 43.2	自宅周辺 38.3	自宅周辺 36.8
	2 その他厚木市内 25.5	その他厚木市内 22.8	その他厚木市内 28.3	その他厚木市内 26.3
	3 本厚木駅周辺 17.3	本厚木駅周辺 18.8	本厚木駅周辺 17.9	本厚木駅周辺 17.6
	4 近隣市 6.7	近隣市 6.1	近隣市 6.5	近隣市 9.7
	5 愛甲石田駅周辺 2.0	愛甲石田駅周辺 1.7	愛甲石田駅周辺 2.1	愛甲石田駅周辺 2.3
⑦ 郵便局 ・金融 機関	1 自宅周辺 48.5	自宅周辺 48.1	自宅周辺 42.7	自宅周辺 43.2
	2 本厚木駅周辺 25.4	本厚木駅周辺 28.7	本厚木駅周辺 29.5	本厚木駅周辺 30.5
	3 その他厚木市内 14.2	その他厚木市内 12.3	その他厚木市内 16.3	その他厚木市内 15.1
	4 愛甲石田駅周辺 /近隣市 2.3	愛甲石田駅周辺 2.0	愛甲石田駅周辺 2.7	愛甲石田駅周辺 2.7
	5 近隣市 1.9	近隣市 1.9	近隣市 1.9	近隣市 2.3
⑧ 幼稚園 ・保育 所	1 自宅周辺 14.4	自宅周辺 15.0	自宅周辺 17.5	自宅周辺 15.6
	2 その他厚木市内 4.5	その他厚木市内 4.2	その他厚木市内 5.9	その他厚木市内 5.7
	3 本厚木駅周辺 2.2	本厚木駅周辺 2.9	本厚木駅周辺 2.6	本厚木駅周辺 3.3
	4 近隣市 0.8	近隣市 0.7	近隣市 0.9	近隣市 1.1
	5 愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3	愛甲石田駅周辺 0.3

(注1)「⑦郵便局・金融機関」は、令和3年度調査以前では「⑦郵便局・銀行」としていた。

(注2) 令和3年度調査から、⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、⑧幼稚園・保育所の項目にも「インターネット」の選択肢を追加している。

【経年変化】⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事

経年による変化を見ると、⑨福祉・介護施設令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑩公園・スポーツ施設では「その他厚木市内」(17.9%)が令和3年度調査(14.2%)より3.7ポイント増加している。

⑪趣味・習い事では令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表11-2-3 日常利用する施設の場所—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)
⑨ 福祉・ 介護 施設	1 自宅周辺	12.7	自宅周辺 11.4	自宅周辺 12.4
	2 その他厚木市内	8.6	その他厚木市内 8.2	その他厚木市内 9.3
	3 本厚木駅周辺	5.2	本厚木駅周辺 5.7	本厚木駅周辺 6.2
	4 近隣市	0.6	近隣市 0.5	近隣市 1.1
	5 愛甲石田駅周辺	0.5	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3
⑩ 公園・ スポーツ 施設	1 自宅周辺	26.2	自宅周辺 28.3	自宅周辺 24.1
	2 その他厚木市内	17.9	その他厚木市内 14.2	その他厚木市内 20.1
	3 本厚木駅周辺	6.2	本厚木駅周辺 6.9	本厚木駅周辺 8.8
	4 近隣市	4.0	近隣市 4.2	近隣市 5.0
	5 東京23区内	0.4	愛甲石田駅周辺 0.4	東京23区内 0.4
⑪ 趣味・ 習い 事	1 自宅周辺	12.2	自宅周辺 13.7	自宅周辺 14.0
	2 その他厚木市内	11.1	本厚木駅周辺 11.7	その他厚木市内 13.7
	3 本厚木駅周辺	11.0	その他厚木市内 9.1	本厚木駅周辺 12.4
	4 近隣市	5.1	近隣市 3.8	近隣市 6.2
	5 インターネット	2.1	インターネット 2.4	東京23区内 2.5

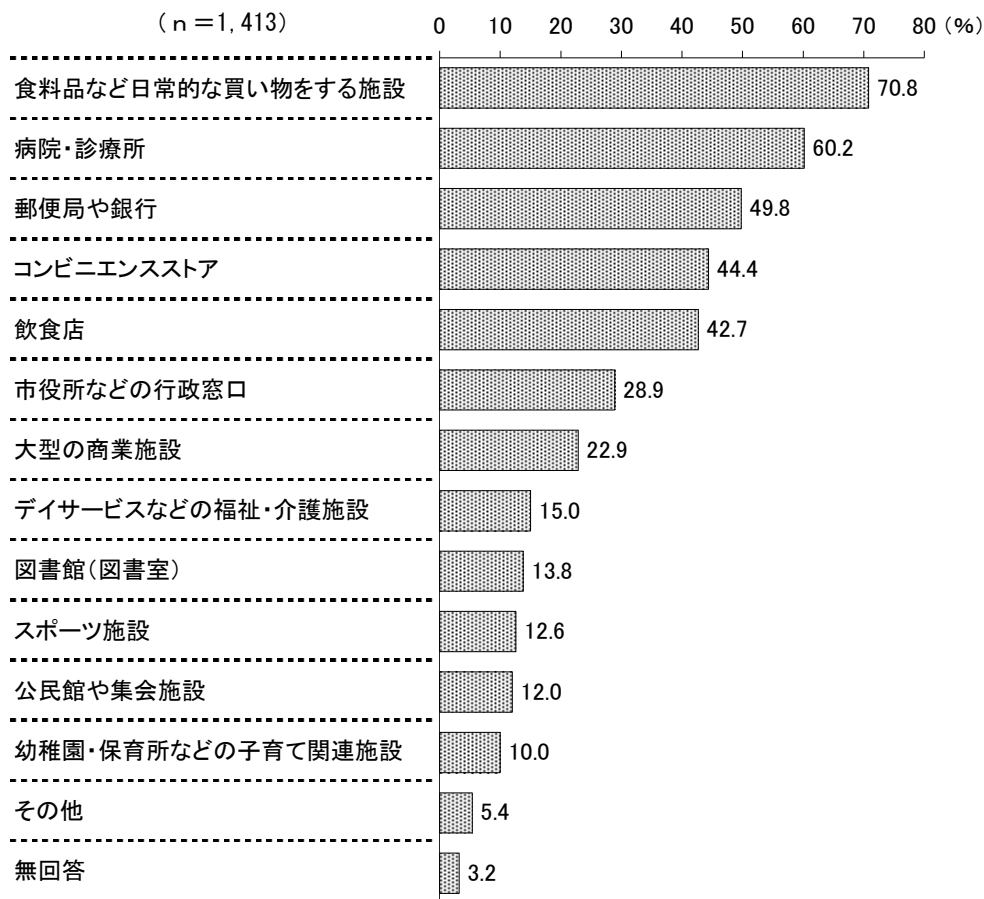
(注) 令和3年度調査から、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設の項目にも「インターネット」の選択肢を追加している。

(3) 自宅周辺に必要な施設 (B:問17)

問. 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください)

図11-3-1 自宅周辺に必要な施設



【全体】

自宅周辺に必要な施設について聞いたところ、「食料品など日常的な買い物をする施設」(70.8%)が約7割で最も高く、次いで「病院・診療所」(60.2%)、「郵便局や銀行」(49.8%)、「コンビニエンスストア」(44.4%)、「飲食店」(42.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「飲食店」(42.7%)は令和3年度調査(38.8%)より3.9ポイント、「食料品など日常的な買い物をする施設」(70.8%)は令和3年度調査(67.4%)より3.4ポイント増加している。

表11-3-1 自宅周辺に必要な施設—経年変化

調査年	n	(%)													
		食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	図書館(図書室)	スポーツ施設	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
令和5年度	1,413	70.8	60.2	49.8	44.4	42.7	28.9	22.9	15.0	13.8	12.6	12.0	10.0	5.4	3.2
令和3年度	1,672	67.4	58.3	47.9	42.5	38.8	30.4	23.2	13.9	14.1	14.2	12.8	11.1	6.3	4.1
令和元年度	1,538	70.4	64.0	54.5	40.8	38.8	32.8	23.9	17.2	16.9	16.9	15.7	12.1	5.6	3.1
平成29年度	1,550	58.7	48.1	42.8	30.5	37.0	27.5	26.5	18.3	16.5	20.7	10.9	10.8	8.6	5.0

【属性別】

性別で見ると、女性では「病院・診療所」（66.0％）が男性（53.2％）より12.8ポイント、「郵便局や銀行」（54.9％）が男性（43.9％）より11.0ポイント、「食料品など日常的な買い物をする施設」（74.6％）が男性（66.9％）より7.7ポイント高くなっている。一方、男性では「スポーツ施設」（16.4％）が女性（9.4％）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「食料品など日常的な買い物をする施設」は40～49歳（76.9％）で7割半ばを超えて高くなっている。「病院・診療所」は80歳以上（67.1％）で6割半ばを超えて高くなっている。「コンビニエンスストア」は20～29歳（57.0％）で5割半ばを超えて高くなっている。「飲食店」は20歳未満（65.0％）で6割半ばと高くなっている。

表11-3-2 自宅周辺に必要な施設—性別、年齢別

		(%)														
		n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	図書館（図書室）	スポーツ施設	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体		1,413	70.8	60.2	49.8	44.4	42.7	28.9	22.9	15.0	13.8	12.6	12.0	10.0	5.4	3.2
性別	男 性	622	66.9	53.2	43.9	45.8	44.7	30.7	23.5	12.7	12.4	16.4	10.8	8.0	6.3	4.0
	女 性	767	74.6	66.0	54.9	44.2	41.2	27.9	22.2	16.8	14.5	9.4	13.2	11.6	4.6	2.3
年齢別	20歳未満	20	60.0	50.0	35.0	50.0	65.0	10.0	30.0	0.0	30.0	15.0	0.0	5.0	10.0	5.0
	20～29歳	107	67.3	44.9	41.1	57.0	45.8	21.5	26.2	4.7	13.1	14.0	4.7	20.6	3.7	0.0
	30～39歳	148	73.6	52.0	39.9	53.4	50.7	24.3	22.3	5.4	11.5	8.8	5.4	23.0	5.4	1.4
	40～49歳	199	76.9	64.8	49.7	54.8	50.3	22.1	24.1	6.5	13.6	12.1	7.0	15.1	7.0	1.0
	50～59歳	258	73.3	61.2	54.3	45.3	40.3	34.5	21.3	14.0	14.7	13.2	9.7	7.0	6.6	1.2
	60～69歳	218	70.6	58.7	53.7	44.5	43.1	27.1	22.5	12.8	10.6	12.8	15.1	8.3	3.2	3.7
	70～79歳	284	70.8	64.4	52.5	34.2	36.6	35.9	22.5	23.2	14.8	13.0	20.8	4.2	6.3	4.9
80歳以上	164	62.2	67.1	50.0	32.9	34.1	31.1	20.7	31.1	15.2	12.2	15.2	3.0	3.0	9.1	

〔居住地区別の結果〕

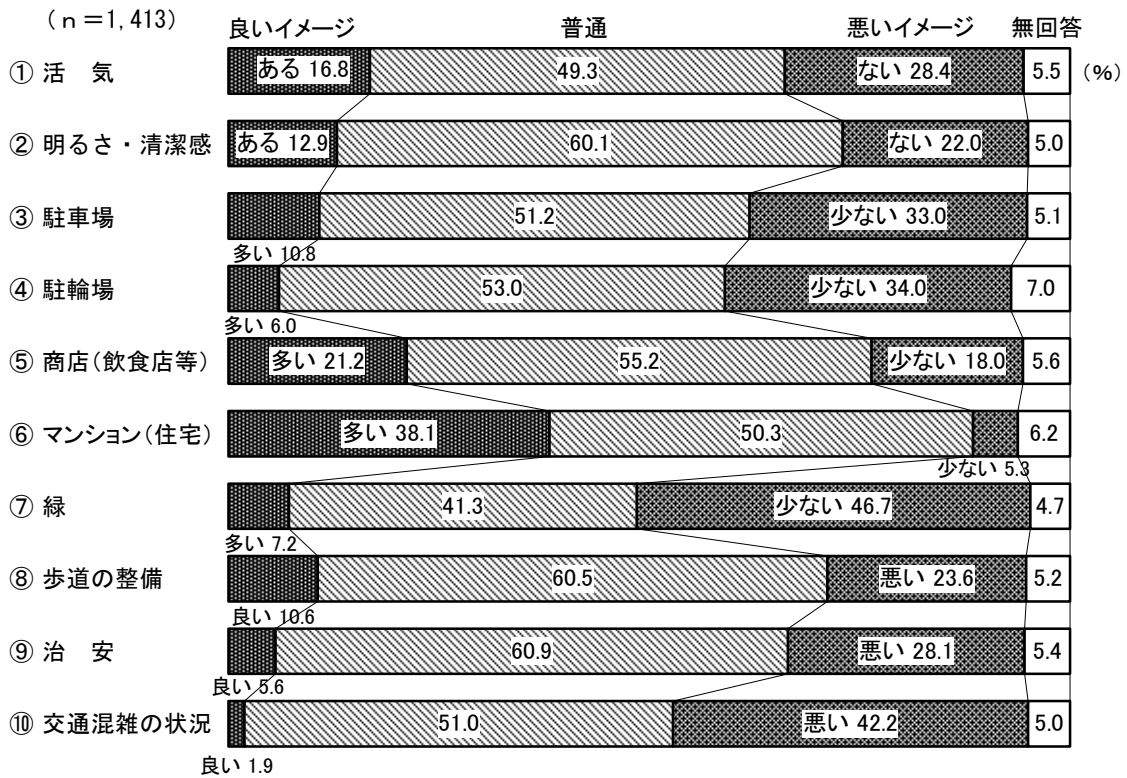
表11-3-3 自宅周辺に必要な施設—居住地区別

		(%)														
		n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	図書館(図書室)	スポーツ施設	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体		1,413	70.8	60.2	49.8	44.4	42.7	28.9	22.9	15.0	13.8	12.6	12.0	10.0	5.4	3.2
居 住 地 区 別	厚 木 北	166	74.7	61.4	51.8	45.2	47.0	31.9	28.9	15.1	15.7	10.2	9.6	7.2	6.0	3.6
	厚 木 南	102	71.6	59.8	49.0	46.1	41.2	36.3	20.6	10.8	15.7	10.8	5.9	7.8	3.9	3.9
	依 知 北	111	78.4	60.4	51.4	30.6	49.5	27.9	28.8	15.3	10.8	19.8	14.4	9.9	2.7	3.6
	依 知 南	75	88.0	52.0	40.0	38.7	53.3	14.7	29.3	12.0	8.0	16.0	9.3	6.7	6.7	2.7
	睦 合 北	68	66.2	63.2	47.1	44.1	42.6	22.1	16.2	14.7	11.8	8.8	11.8	8.8	5.9	4.4
	睦 合 南	115	59.1	55.7	42.6	46.1	36.5	32.2	24.3	14.8	15.7	15.7	10.4	12.2	4.3	2.6
	睦 合 西	56	67.9	67.9	57.1	50.0	35.7	25.0	14.3	12.5	19.6	12.5	12.5	17.9	1.8	1.8
	荻 野	146	70.5	63.7	49.3	41.8	41.8	32.9	23.3	15.8	8.9	9.6	11.6	7.5	6.2	4.8
	小 鮎	92	75.0	67.4	58.7	41.3	33.7	34.8	16.3	15.2	13.0	14.1	12.0	13.0	5.4	2.2
	南 毛 利	234	68.8	60.7	50.9	51.7	46.6	29.9	23.5	13.2	15.0	13.2	12.0	9.8	5.1	3.0
	南毛利南	61	70.5	45.9	44.3	37.7	41.0	21.3	19.7	13.1	16.4	14.8	13.1	6.6	9.8	3.3
	玉 川	20	60.0	65.0	30.0	55.0	35.0	15.0	10.0	30.0	5.0	5.0	30.0	25.0	5.0	5.0
	相 川	74	75.7	60.8	52.7	41.9	44.6	28.4	21.6	14.9	12.2	6.8	10.8	12.2	5.4	4.1
	緑ヶ丘	28	67.9	67.9	78.6	53.6	28.6	25.0	21.4	25.0	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1	0.0
森 の 里	50	58.0	50.0	46.0	54.0	28.0	24.0	14.0	22.0	22.0	14.0	28.0	10.0	8.0	0.0	

(4) 本厚木駅周辺のイメージ (B:問18)

問. 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、どのように感じますか。
 (①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください)

図11-4-1 本厚木駅周辺のイメージ



【全体】

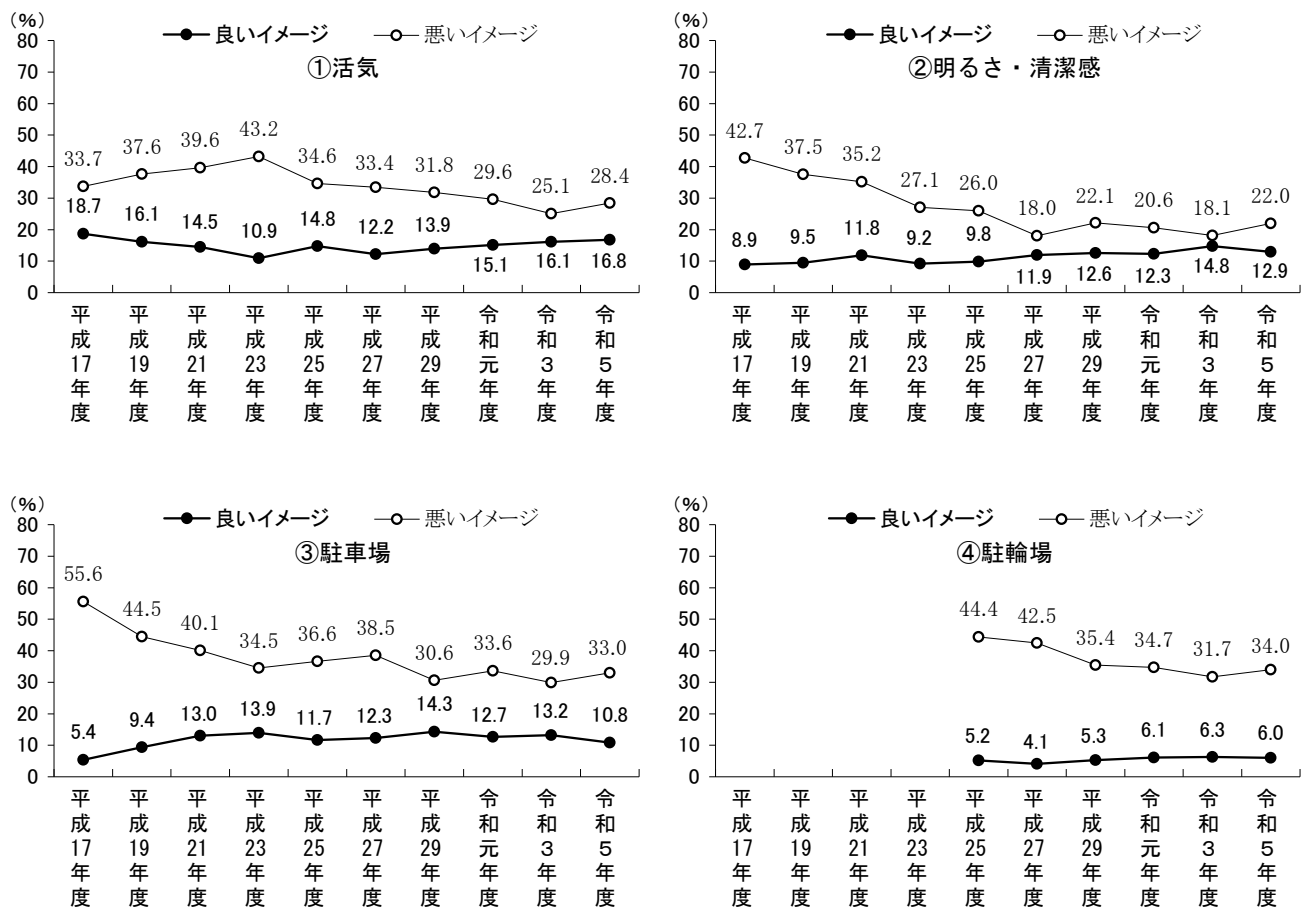
本厚木駅周辺のイメージについて10項目に分けて聞いたところ、良いイメージが最も高いのは「⑥マンション(住宅)」(38.1%)で4割近くとなっており、次いで「⑤商店(飲食店等)」(21.2%)となっている。一方、悪いイメージが最も高いのは「⑦緑」(46.7%)で4割半ばを超えており、次いで「⑩交通混雑の状況」(42.2%)、「④駐輪場」(34.0%)、「③駐車場」(33.0%)、「①活気」(28.4%)、「⑨治安」(28.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、良いイメージは、「⑥マンション（住宅）」（38.1%）が令和3年度調査（41.5%）より3.4ポイント減少している。

悪いイメージは、「⑤商店（飲食店等）」（18.0%）が令和3年度調査（13.5%）より4.5ポイント、「②明るさ・清潔感」（22.0%）が令和3年度調査（18.1%）より3.9ポイント、「①活気」（28.4%）が令和3年度調査（25.1%）より3.3ポイント、「③駐車場」（33.0%）が令和3年度調査（29.9%）より3.1ポイント増加している。

図11-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

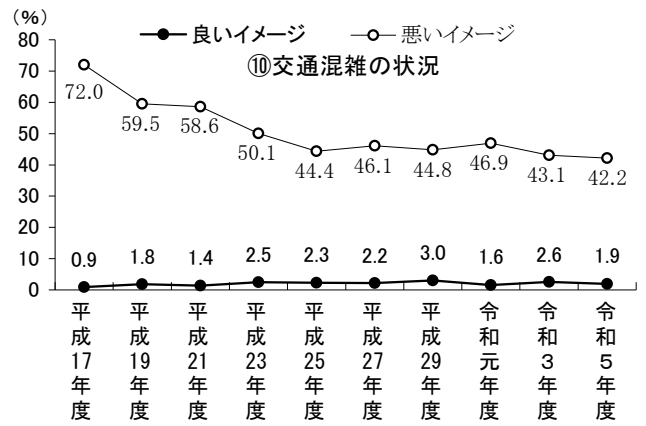
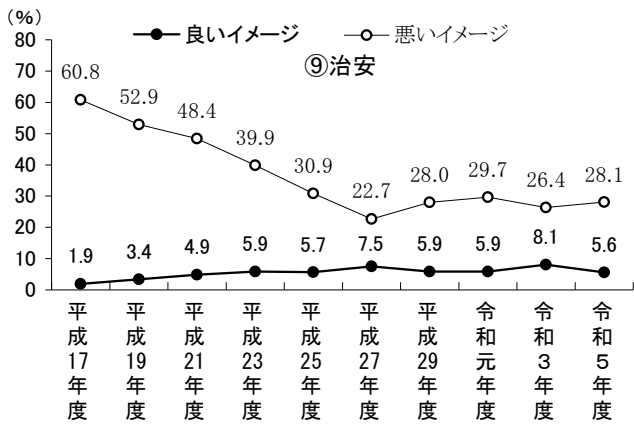
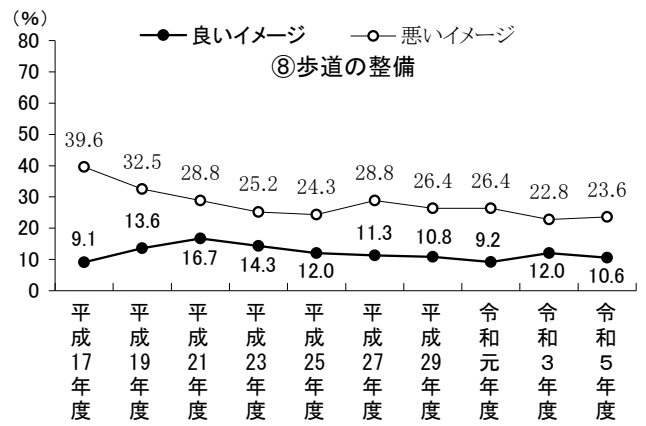
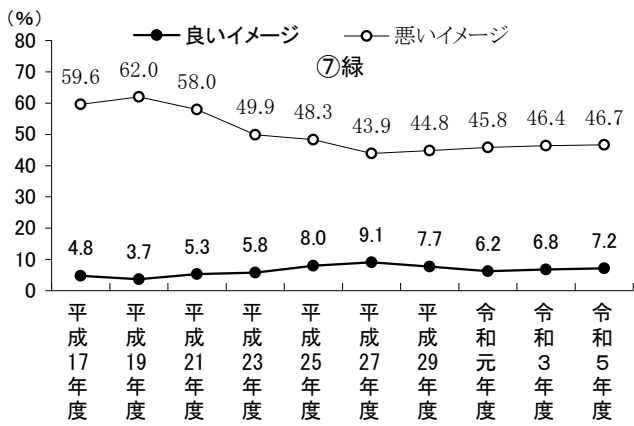
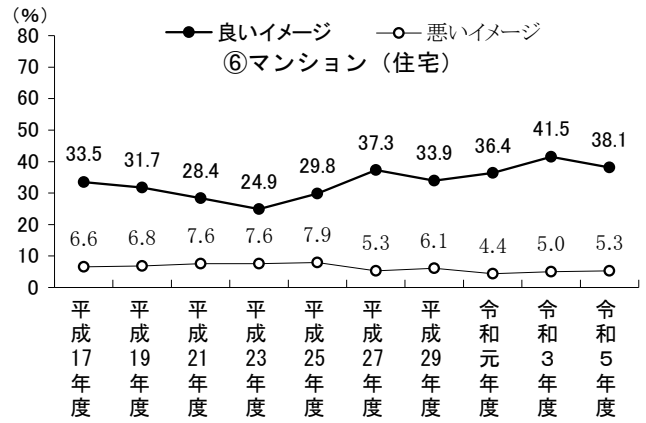
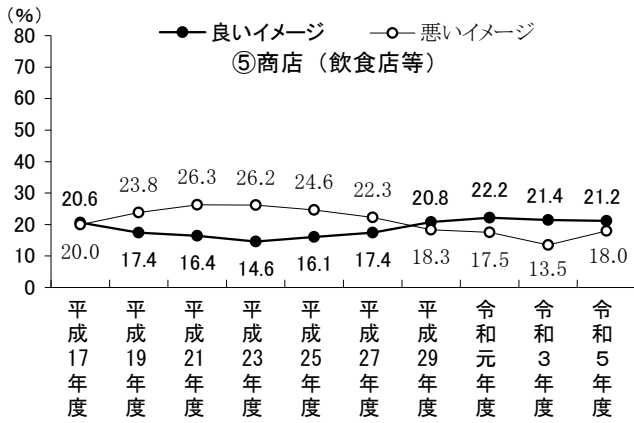


（注1）平成25年度調査以降では、「④駐輪場」の項目を追加している。

（注2）「⑩交通混雑の状況」は、令和元年度調査以前は「⑩交通渋滞の状況」としていた。

令和5年度 (n=1,413)
令和3年度 (n=1,672)
令和元年度 (n=1,538)
平成29年度 (n=1,550)
平成27年度 (n=1,471)
平成25年度 (n=1,270)
平成23年度 (n=814)
平成21年度 (n=1,610)
平成19年度 (n=1,506)
平成17年度 (n=1,008)

図11-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

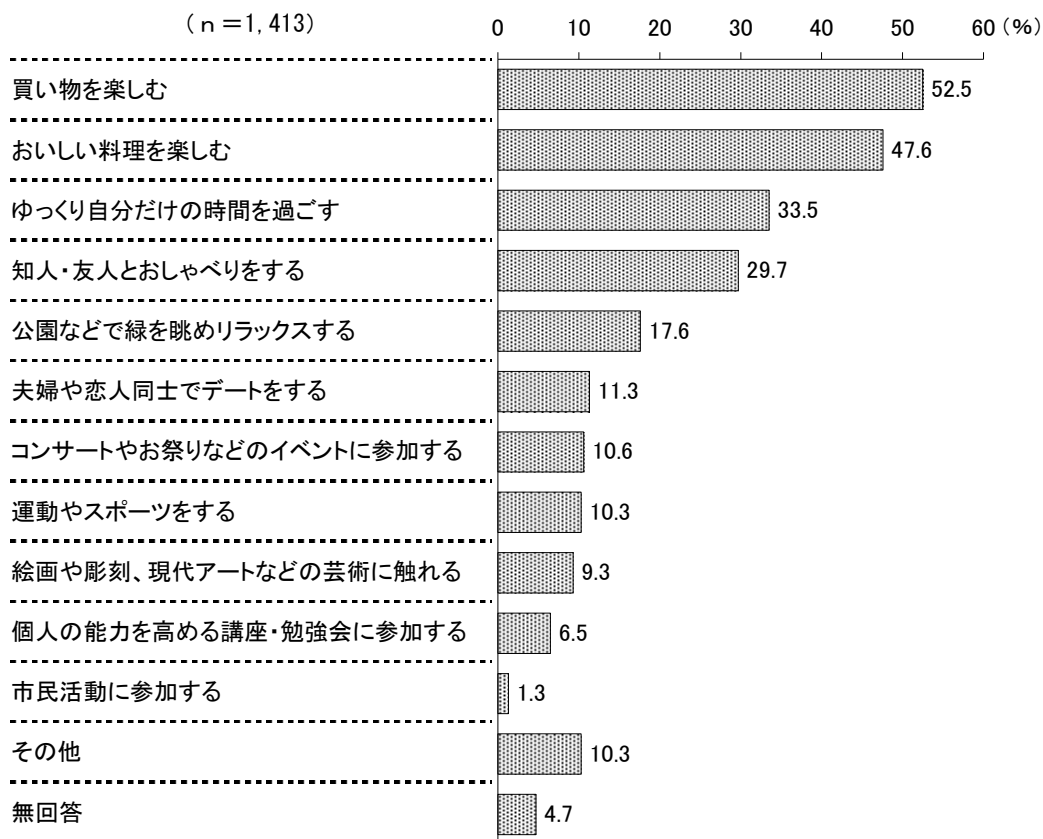


(5) 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと (B: 問19)

問. 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

(3つまで選んでください)

図11-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと



【全体】

仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいことについて聞いたところ、「買い物を楽しむ」(52.5%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「おいしい料理を楽しむ」(47.6%)、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(33.5%)、「知人・友人とおしゃべりをする」(29.7%)、「公園などで緑を眺めリラックスする」(17.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「おいしい料理を楽しむ」(47.6%)は令和3年度調査(42.9%)より4.7ポイント増加している。

表11-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと—経年変化

調査年	n	(%)												
		買い物を楽しむ	おいしい料理を楽しむ	ゆっくり自分だけの時間を過ごす	知人・友人とおしゃべりをする	公園などで緑を眺めリラックスする	夫婦や恋人同士でデートをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	運動やスポーツをする	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	市民活動に参加する	その他	無回答
令和5年度	1,413	52.5	47.6	33.5	29.7	17.6	11.3	10.6	10.3	9.3	6.5	1.3	10.3	4.7
令和3年度	1,672	54.7	42.9	31.1	31.6	17.3	11.1	10.0	11.5	9.2	7.0	2.1	9.6	5.5
令和元年度	1,538	54.6	43.3	34.5	27.5	18.2	10.6	11.1	16.3	10.5	9.3	2.3	9.5	6.8
平成29年度	1,550	-	47.7	35.3	35.3	26.3	11.8	17.7	18.0	12.8	13.3	3.1	12.4	7.7

(注1) 令和元年度調査から「買い物を楽しむ」の選択肢を追加している。

(注2) 「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」は、平成29年度調査では「一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす」としていた。

(注3) 「市民活動に参加する」は、平成29年度調査では「ボランティア活動をする」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知人・友人とおしゃべりをする」(38.1%)が男性(19.9%)より18.2ポイント、「買い物を楽しむ」(59.8%)が男性(43.7%)より16.1ポイント高くなっている。一方、男性では「運動やスポーツをする」(14.6%)が女性(6.5%)より8.1ポイント、「夫婦や恋人同士でデートをする」(13.7%)が女性(9.1%)より4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「買い物を楽しむ」は30～39歳(58.1%)で6割近くと高くなっている。「おいしい料理を楽しむ」は30～39歳(54.7%)で5割半ばと高くなっている。「知人・友人とおしゃべりをする」は20歳未満(70.0%)で7割と高くなっている。

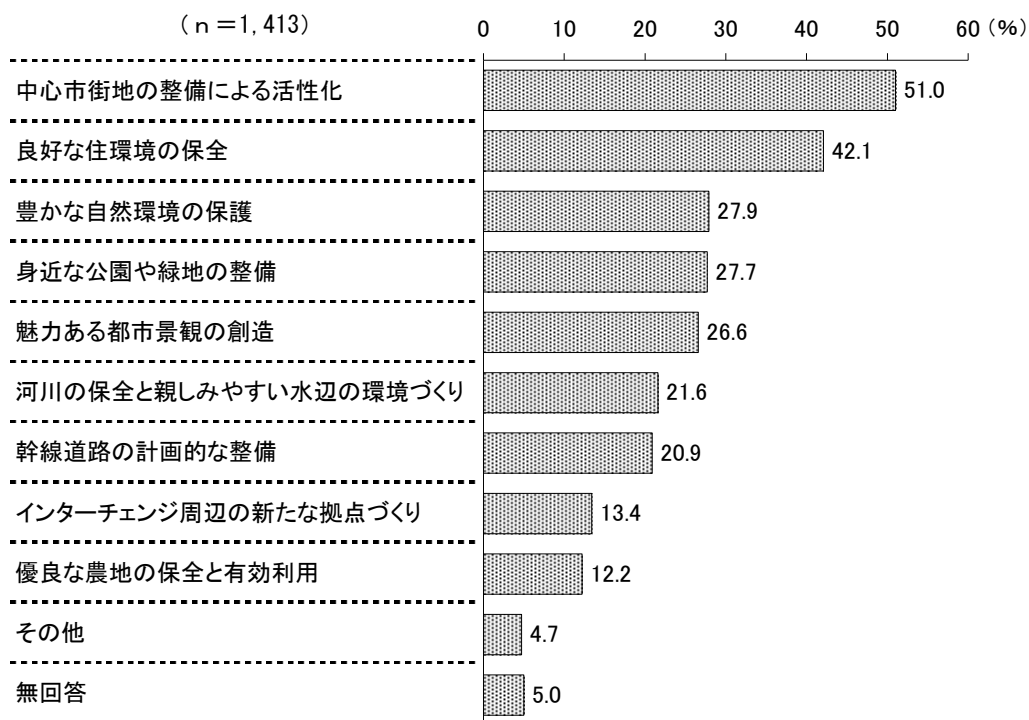
表11-5-2 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと一性別、年齢別

			買い物を楽しむ	おいしい料理を楽しむ	ゆっくり自分だけの時間を過ごす	知人・友人とおしゃべりをする	公園などで緑を眺めリラックスする	夫婦や恋人同士でデートをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	運動やスポーツをする	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	市民活動に参加する	その他	無回答
全 体		1,413	52.5	47.6	33.5	29.7	17.6	11.3	10.6	10.3	9.3	6.5	1.3	10.3	4.7
性別	男 性	622	43.7	46.6	35.0	19.9	18.2	13.7	10.6	14.6	8.7	6.9	2.1	12.9	5.8
	女 性	767	59.8	49.0	31.9	38.1	16.9	9.1	10.3	6.5	9.9	6.1	0.7	8.1	3.9
年齢別	20歳未満	20	55.0	45.0	20.0	70.0	10.0	15.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	20～29歳	107	52.3	47.7	39.3	38.3	8.4	29.0	10.3	14.0	4.7	1.9	0.0	5.6	0.9
	30～39歳	148	58.1	54.7	44.6	24.3	10.8	19.6	11.5	10.1	2.0	2.0	0.0	6.1	1.4
	40～49歳	199	55.8	52.8	39.2	29.6	13.6	14.6	10.1	13.6	4.5	6.0	0.5	8.5	0.5
	50～59歳	258	52.3	49.6	35.3	31.0	14.0	13.6	11.2	13.2	10.5	10.1	0.8	10.5	1.6
	60～69歳	218	53.7	46.8	33.0	27.1	18.3	8.3	10.1	6.9	8.7	8.7	1.4	11.9	3.2
	70～79歳	284	51.1	43.3	26.1	28.9	25.4	4.2	10.6	8.8	15.5	6.3	2.1	13.0	8.1
	80歳以上	164	43.9	42.7	25.0	27.4	26.2	1.2	10.4	5.5	14.6	6.1	3.7	10.4	16.5

(6) 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組 (B: 問20)

問. 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図11-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組



【全体】

将来的なまちづくりで優先的に必要な取組について聞いたところ、「中心市街地の整備による活性化」(51.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「良好な住環境の保全」(42.1%)、「豊かな自然環境の保護」(27.9%)、「身近な公園や緑地の整備」(27.7%)、「魅力ある都市景観の創造」(26.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「中心市街地の整備による活性化」（51.0％）は令和3年度調査（45.5％）より5.5ポイント増加している。一方、「豊かな自然環境の保護」（27.9％）は令和3年度調査（32.7％）より4.8ポイント減少している。

表11-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組—経年変化

調査年	n	(%)										
		中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	身近な公園や緑地の整備	魅力ある都市景観の創造	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	幹線道路の計画的な整備	拠点づくり	インターチェンジ周辺の新たな	優良な農地の保全と有効利用	その他
令和5年度	1,413	51.0	42.1	27.9	27.7	26.6	21.6	20.9	13.4	12.2	4.7	5.0
令和3年度	1,672	45.5	44.3	32.7	28.6	24.3	23.9	21.5	14.4	11.8	4.1	4.5
令和元年度	1,538	54.0	42.7	27.8	28.0	26.5	20.8	23.9	16.7	10.6	4.3	5.0
平成29年度	1,550	53.7	40.1	28.5	24.7	28.0	19.3	26.5	17.5	10.3	5.4	4.6

【属性別】

性別で見ると、男性では「幹線道路の計画的な整備」(28.9%)が女性(14.7%)より14.2ポイント、「河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり」(23.0%)が女性(19.7%)より3.3ポイント高くなっている。一方、女性では「魅力ある都市景観の創造」(28.7%)が男性(24.1%)より4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「中心市街地の整備による活性化」は50～59歳(56.6%)で5割半ばを超えて高くなっている。「良好な住環境の保全」は20～29歳(51.4%)と30～39歳(52.0%)で5割を超えて高くなっている。「魅力ある都市景観の創造」は20歳未満(40.0%)で4割と高くなっている。

表11-6-2 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組一性別、年齢別

		n	中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	身近な公園や緑地の整備	魅力ある都市景観の創造	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	幹線道路の計画的な整備	インターネットチェンジ周辺の新たな拠点づくり	優良な農地の保全と有効利用	その他	無回答
全 体		1,413	51.0	42.1	27.9	27.7	26.6	21.6	20.9	13.4	12.2	4.7	5.0
性別	男 性	622	49.7	41.0	29.3	26.4	24.1	23.0	28.9	14.8	12.4	5.0	4.0
	女 性	767	52.4	43.0	26.9	28.9	28.7	19.7	14.7	12.4	12.1	3.9	5.9
年齢別	20歳未満	20	50.0	35.0	35.0	15.0	40.0	20.0	20.0	5.0	20.0	10.0	0.0
	20～29歳	107	54.2	51.4	28.0	27.1	28.0	15.9	21.5	13.1	8.4	4.7	0.9
	30～39歳	148	49.3	52.0	22.3	28.4	31.1	17.6	15.5	14.9	12.2	5.4	1.4
	40～49歳	199	54.8	46.2	26.1	21.6	27.1	19.6	22.1	17.1	9.5	6.5	1.0
	50～59歳	258	56.6	42.6	25.6	26.7	24.4	22.5	23.3	15.1	12.4	4.3	1.6
	60～69歳	218	48.6	44.0	28.0	28.9	25.7	22.9	17.9	13.3	11.0	6.9	4.6
	70～79歳	284	46.8	34.5	29.6	31.0	25.0	24.6	25.7	10.6	17.3	2.5	10.9
80歳以上	164	48.2	32.9	34.1	30.5	26.8	22.0	17.1	9.8	9.8	2.4	12.2	

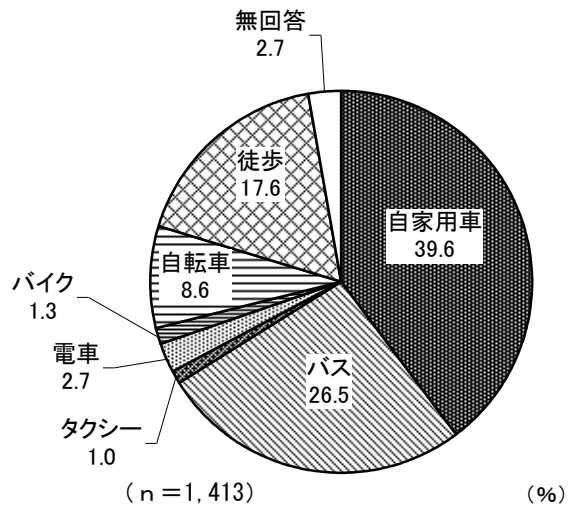
12 交通・道路

(1) 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段 (B:問21)

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

(1つだけ選んでください)

図12-1-1 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段



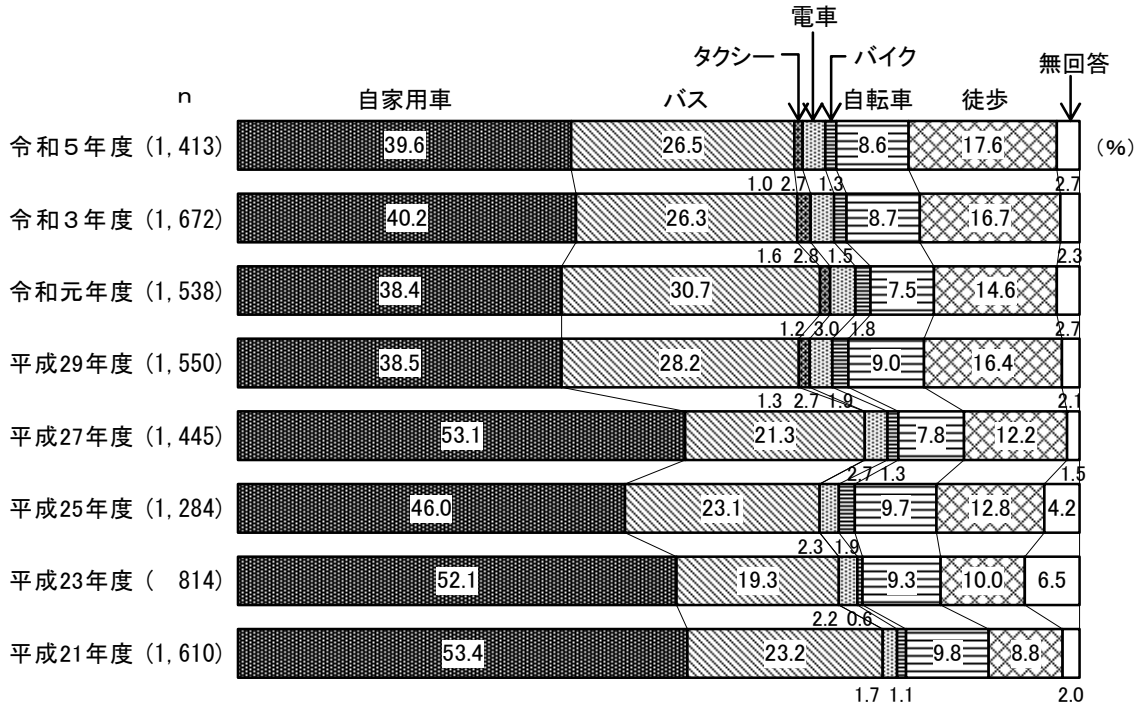
【全体】

本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(39.6%)が約4割で最も高く、次いで「バス」(26.5%)、「徒歩」(17.6%)、「自転車」(8.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図12-1-2 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—経年変化



(注1) 平成29年度調査以降では、「タクシー」の選択肢を追加している。

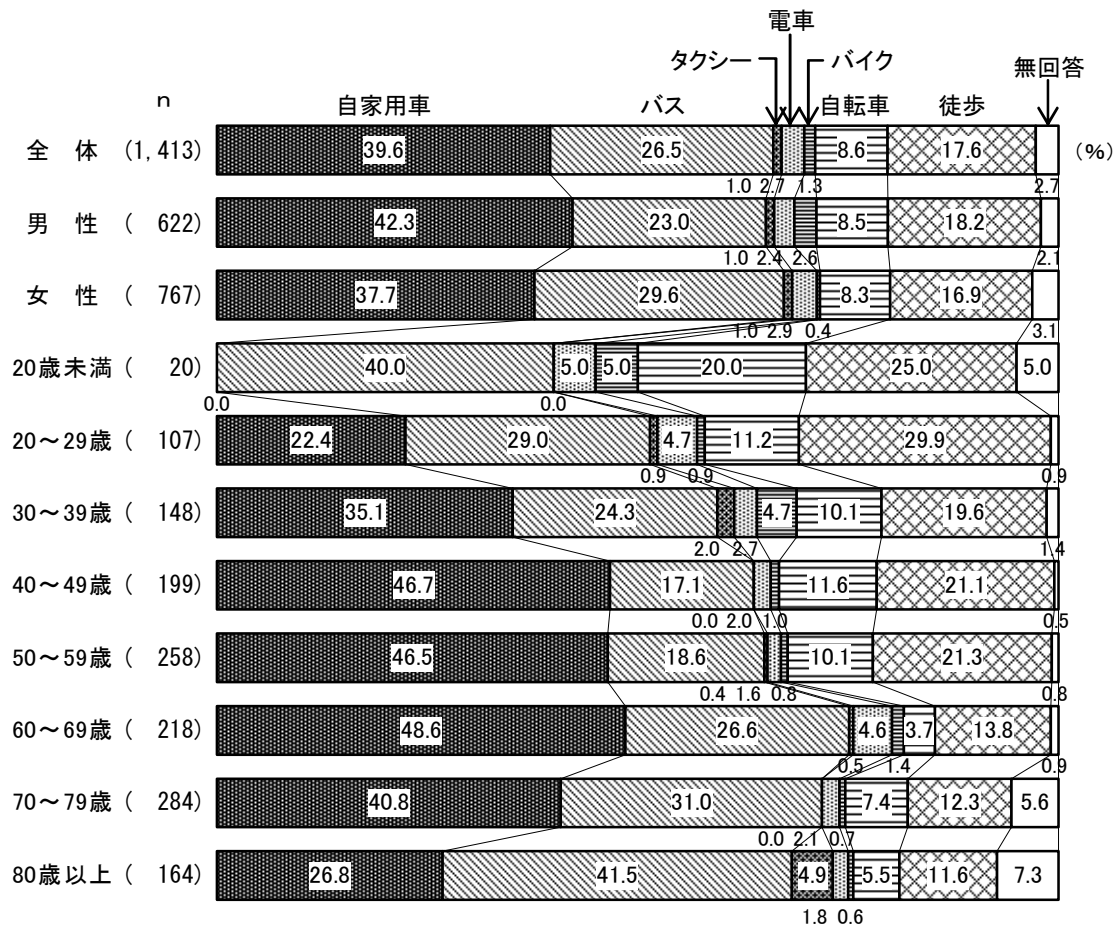
(注2) 平成27年度調査以前では、「本厚木周辺で買物をするとき、自宅からの主な交通手段は何ですか。」(1つだけ選んでください)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「バス」(29.6%)が男性(23.0%)より6.6ポイント高くなっている。一方、男性では「自家用車」(42.3%)が女性(37.7%)より4.6ポイント高くなっている。

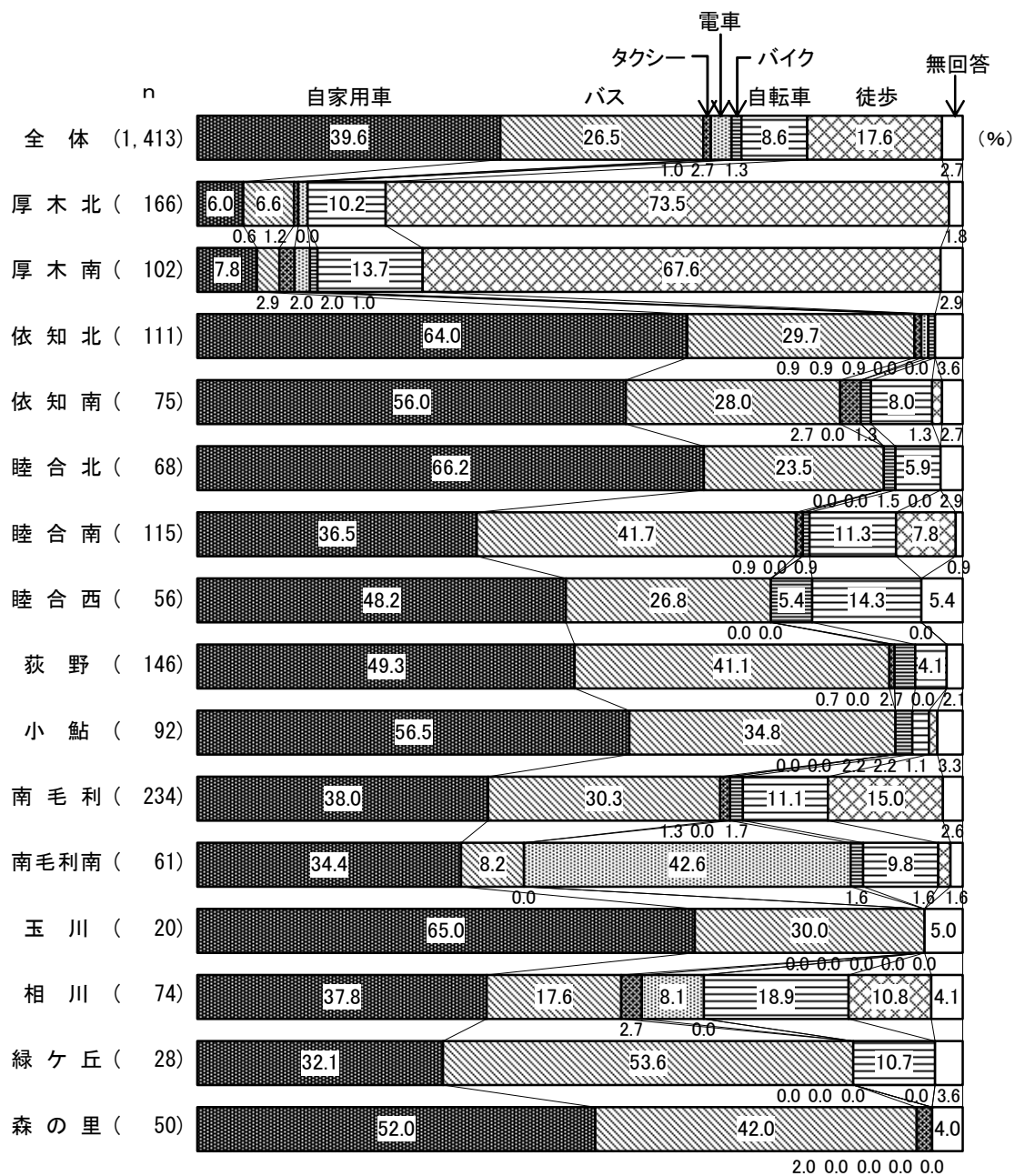
年齢別で見ると、「自家用車」は60～69歳(48.6%)で5割近くと高くなっている。「バス」は20歳未満(40.0%)と80歳以上(41.5%)で4割台と高くなっている。「徒歩」は20～29歳(29.9%)で約3割と高くなっている。

図12-1-3 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

図12-1-4 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—居住地区別

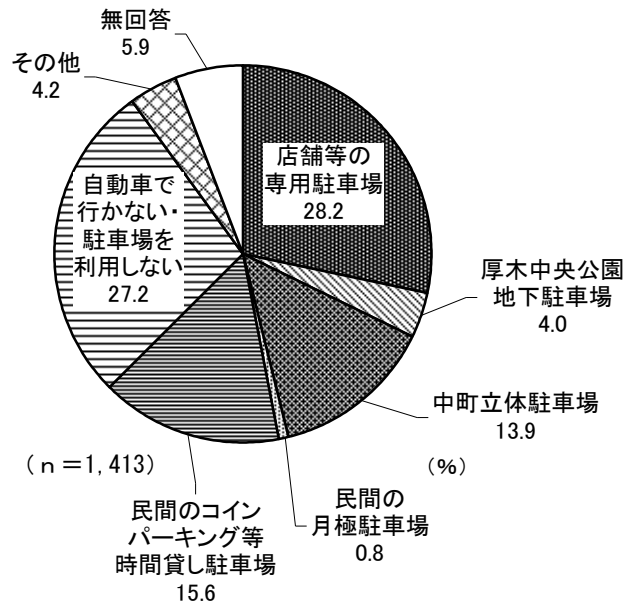


(2) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場 (B: 問22)

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

(1つだけ選んでください)

図12-2-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



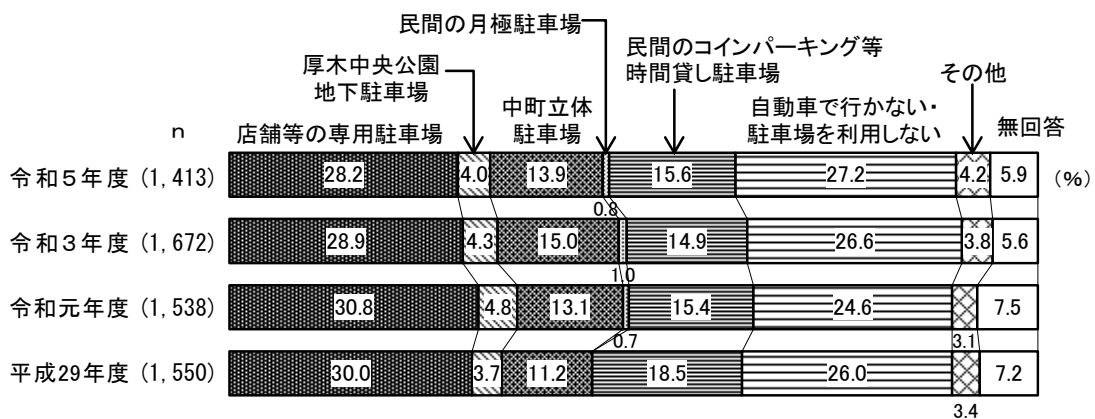
【全体】

本厚木駅周辺で主に利用する駐車場について聞いたところ、「店舗等の専用駐車場」(28.2%)が3割近くで最も高く、次いで「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」(15.6%)、「中町立体駐車場」(13.9%)、「厚木中央公園地下駐車場」(4.0%)となっている。また、「自動車で行かない・駐車場を利用しない」(27.2%)は2割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図12-2-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化



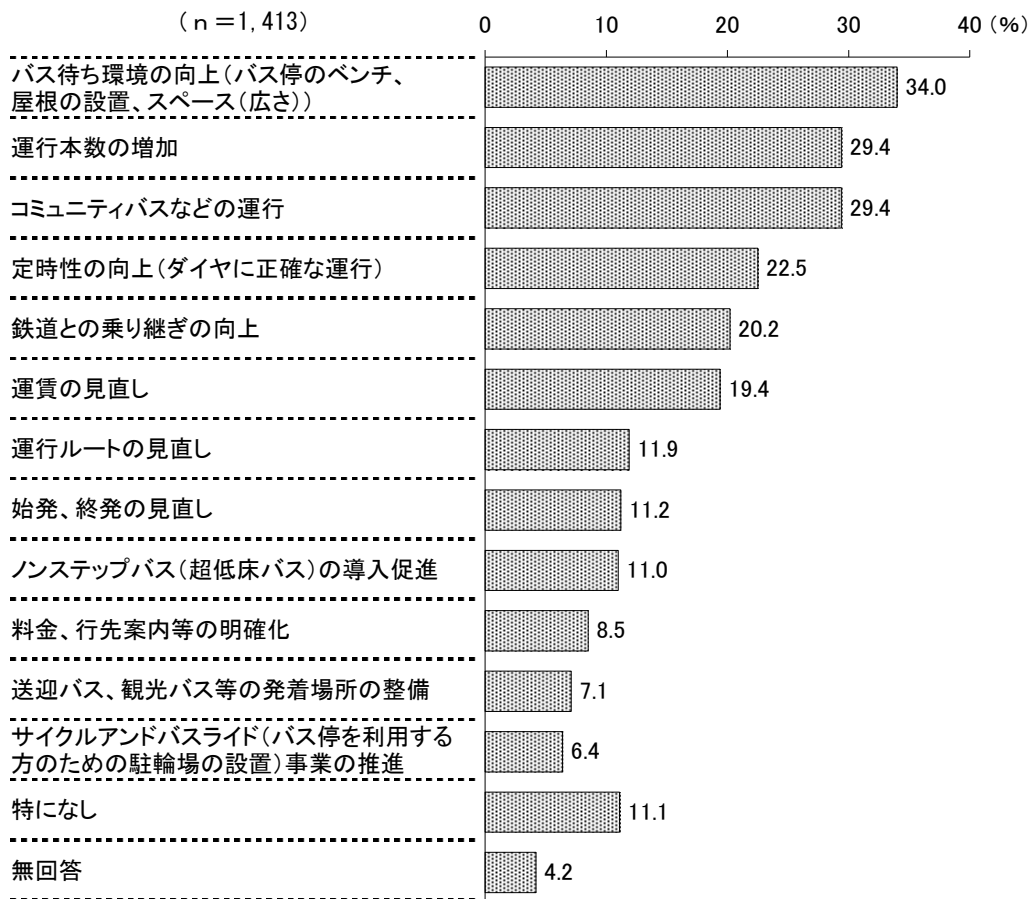
(注) 「民間の月極駐車場」と「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」の2つの選択肢は、平成29年度調査では1つの選択肢「本厚木駅周辺の民間駐車場」としていた。

(3) 市内のバス交通への取組 (B: 問23)

問. 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください)

図12-3-1 市内のバス交通への取組



【全体】

市内のバス交通への取組について聞いたところ、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(34.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「運行本数の増加」と「コミュニティバスなどの運行」(ともに29.4%)、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(22.5%)、「鉄道との乗り継ぎの向上」(20.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「鉄道との乗り継ぎの向上」(20.2%)は令和3年度調査(11.9%)より8.3ポイント、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(22.5%)は令和3年度調査(16.4%)より6.1ポイント、「始発、終発の見直し」(11.2%)は令和3年度調査(7.9%)より3.3ポイント増加している。一方、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(34.0%)は令和3年度調査(43.8%)より9.8ポイント減少している。

表12-3-1 市内のバス交通への取組—経年変化

調査年	n	(%)													
		バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	鉄道との乗り継ぎの向上	運賃の見直し	運行ルートの見直し	始発、終発の見直し	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	料金、行先案内等の明確化	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置)事業の推進	特になし	無回答
令和5年度	1,413	34.0	29.4	29.4	22.5	20.2	19.4	11.9	11.2	11.0	8.5	7.1	6.4	11.1	4.2
令和3年度	1,672	43.8	28.6	28.8	16.4	11.9	18.1	11.1	7.9	13.4	8.6	7.1	6.6	12.6	3.6
令和元年度	1,538	44.0	35.2	31.8	19.6	11.6	19.9	12.9	11.8	13.3	9.1	10.1	8.8	8.3	3.8
平成29年度	1,550	41.6	29.6	28.4	19.2	11.0	19.4	12.6	14.8	12.5	9.4	13.8	10.5	8.9	3.5
平成27年度	1,445	36.2	35.7	30.5	21.4	12.9	17.2	12.2	12.2	16.5	8.2	12.1	6.5	8.2	3.3

(注)「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」の選択肢は、平成29年度調査では「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「コミュニティバスなどの運行」(32.5%)が男性(25.9%)より6.6ポイント、「ノンステップバス(超低床バス)の導入促進」(14.2%)が男性(7.6%)より6.6ポイント、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(36.2%)が男性(31.4%)より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「鉄道との乗り継ぎの向上」(22.7%)が女性(18.1%)より4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」は80歳以上(45.7%)で4割半ばと高くなっている。「コミュニティバスなどの運行」は70~79歳(41.2%)で4割を超えて高くなっている。「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」は20歳未満(55.0%)で5割半ばと高くなっている。

表12-3-2 市内のバス交通への取組—性別、年齢別

			バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	鉄道との乗り継ぎの向上	運賃の見直し	運行ルートの見直し	始発、終発の見直し	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	料金、行先案内等の明確化	備送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	利用する方のための駐輪場の設置(事業の推進)	サイクルアンドバスライド(バス停を特になし)	無回答
		n	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		1,413	34.0	29.4	29.4	22.5	20.2	19.4	11.9	11.2	11.0	8.5	7.1	6.4	11.1	4.2
性別	男 性	622	31.4	29.6	25.9	24.9	22.7	17.2	12.5	11.6	7.6	8.0	7.9	6.6	13.3	3.7
	女 性	767	36.2	29.3	32.5	20.9	18.1	20.9	11.0	10.8	14.2	8.9	6.5	6.0	9.1	4.6
年 齢 別	20歳未満	20	30.0	35.0	0.0	55.0	20.0	30.0	15.0	20.0	5.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	20~29歳	107	31.8	38.3	11.2	32.7	16.8	29.0	6.5	11.2	5.6	9.3	4.7	4.7	15.9	0.9
	30~39歳	148	25.7	32.4	15.5	24.3	28.4	20.3	13.5	10.1	4.1	10.8	5.4	5.4	16.2	1.4
	40~49歳	199	30.2	36.2	21.6	19.6	21.1	19.6	16.1	10.1	5.0	13.6	5.5	8.0	12.1	2.0
	50~59歳	258	31.4	28.7	32.6	25.2	25.2	23.6	10.9	16.3	8.9	7.4	5.4	9.3	8.5	1.9
	60~69歳	218	34.9	32.6	37.2	23.4	18.3	17.4	13.8	12.4	14.2	6.9	9.6	5.5	9.6	2.3
	70~79歳	284	36.6	23.2	41.2	19.4	17.3	14.8	10.9	9.2	15.8	6.7	8.5	5.3	9.5	7.7
80歳以上	164	45.7	19.5	31.1	14.0	13.4	14.6	7.9	6.1	20.7	6.1	9.8	4.3	11.6	12.2	

〔居住地区別の結果〕

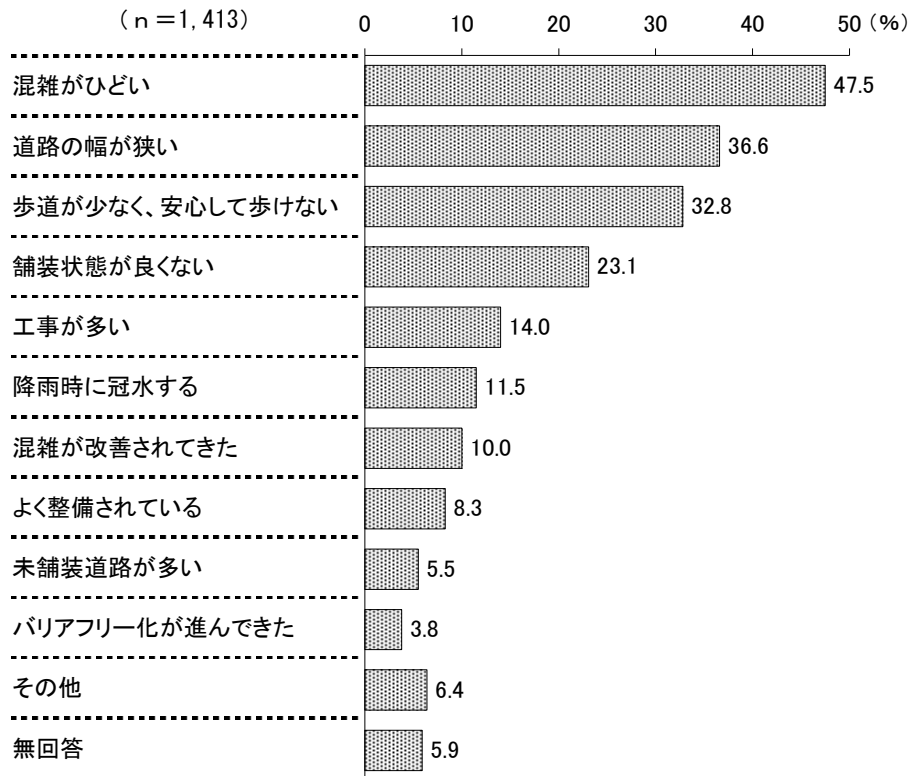
表12-3-3 市内のバス交通への取組—居住地区別

		(%)														
	n	バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	鉄道との乗り継ぎの向上	運賃の見直し	運行ルートの見直し	始発、終発の見直し	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	料金、行先案内等の明確化	備送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置)事業の推進	特になし	無回答	
全	体	1,413	34.0	29.4	29.4	22.5	20.2	19.4	11.9	11.2	11.0	8.5	7.1	6.4	11.1	4.2
居住地区別	厚木北	166	33.7	21.1	25.9	22.3	16.9	10.8	6.6	4.2	14.5	10.8	8.4	9.0	21.1	5.4
	厚木南	102	26.5	11.8	28.4	15.7	19.6	7.8	8.8	2.9	11.8	14.7	8.8	6.9	23.5	5.9
	依知北	111	33.3	33.3	36.9	17.1	19.8	24.3	13.5	12.6	8.1	3.6	4.5	8.1	8.1	4.5
	依知南	75	46.7	22.7	32.0	28.0	20.0	18.7	8.0	13.3	13.3	8.0	4.0	6.7	9.3	4.0
	睦合北	68	35.3	35.3	27.9	22.1	7.4	23.5	4.4	22.1	11.8	5.9	4.4	5.9	8.8	4.4
	睦合南	115	48.7	15.7	27.8	29.6	22.6	20.9	8.7	13.0	14.8	10.4	3.5	7.8	4.3	2.6
	睦合西	56	28.6	32.1	32.1	17.9	28.6	19.6	19.6	16.1	8.9	3.6	8.9	7.1	0.0	7.1
	荻野	146	36.3	32.9	15.8	23.3	17.1	38.4	17.1	12.3	11.6	6.8	8.2	5.5	9.6	4.8
	小鮎	92	27.2	44.6	42.4	22.8	22.8	28.3	17.4	15.2	9.8	3.3	6.5	1.1	5.4	4.3
	南毛利	234	33.8	32.9	27.4	29.1	19.2	15.0	10.7	11.1	8.5	12.4	6.0	6.8	11.5	2.6
	南毛利南	61	21.3	23.0	34.4	13.1	21.3	8.2	13.1	3.3	8.2	8.2	11.5	6.6	19.7	3.3
	玉川	20	30.0	45.0	10.0	15.0	15.0	30.0	15.0	5.0	20.0	10.0	15.0	0.0	10.0	0.0
	相川	74	33.8	28.4	39.2	18.9	25.7	14.9	14.9	8.1	9.5	4.1	12.2	4.1	8.1	5.4
	緑ヶ丘	28	25.0	32.1	46.4	39.3	28.6	14.3	14.3	17.9	10.7	3.6	7.1	7.1	3.6	3.6
森の里	50	32.0	62.0	26.0	10.0	30.0	20.0	12.0	22.0	10.0	6.0	6.0	6.0	6.0	4.0	

(4) 市内の道路の現状 (B: 問24)

問. 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。(いくつでも選んでください)

図12-4-1 市内の道路の現状



【全体】

市内の道路の現状について聞いたところ、「混雑がひどい」(47.5%)が5割近くで最も高く、次いで「道路の幅が狭い」(36.6%)、「歩道が少なく、安心して歩けない」(32.8%)、「舗装状態が良くない」(23.1%)、「工事が多い」(14.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「降雨時に冠水する」(11.5%)は令和3年度調査(15.8%)より4.3ポイント減少している。

表12-4-1 市内の道路の現状—経年変化

調査年	n	(%)											
		混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答
令和5年度	1,413	47.5	36.6	32.8	23.1	14.0	11.5	10.0	8.3	5.5	3.8	6.4	5.9
令和3年度	1,672	47.4	37.3	33.8	23.0	14.5	15.8	11.5	7.4	4.2	3.6	8.2	4.4
令和元年度	1,538	48.4	40.8	40.8	26.9	18.9	17.2	12.2	6.5	4.4	5.3	6.4	4.2
平成29年度	1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.0	18.3	14.4	5.9	5.0	5.1	6.1	3.9
平成27年度	1,445	45.1	35.7	39.3	21.6	19.4	17.0	12.9	4.8	2.8	6.7	7.2	4.4
平成25年度	1,284	43.0	33.2	31.6	17.5	19.9	14.5	17.6	6.5	3.7	10.0	6.5	6.9
平成23年度	814	44.7	32.9	32.6	17.8	28.5	16.2	18.6	4.9	2.6	16.2	6.0	5.3
平成21年度	1,610	51.1	31.3	35.2	18.6	29.0	18.4	14.7	5.3	3.7	15.9	5.0	5.3
平成19年度	1,506	52.7	33.9	31.5	17.9	32.0	19.7	12.9	4.3	3.7	17.3	4.4	5.8

(注1)「道路の幅が狭い」は、平成27年度調査以前では「道路幅員が狭い」としていた。

(注2)「降雨時に冠水する」は、平成25年度調査以前では「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」としていた。

(注3)「混雑がひどい」は、令和元年度調査以前では「渋滞がひどい」としていた。

(注4)「混雑が改善されてきた」は、令和元年度調査以前では「渋滞が改善されてきた」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「混雑がひどい」(50.8%)が女性(45.0%)より5.8ポイント、「道路の幅が狭い」(39.2%)が女性(34.3%)より4.9ポイント高くなっている。一方、女性では「降雨時に冠水する」(13.2%)が男性(9.3%)より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑がひどい」は30～39歳(53.4%)と40～49歳(53.3%)で5割半ば近くと高くなっている。「道路の幅が狭い」は70～79歳(39.1%)と80歳以上(39.6%)で約4割と高くなっている。「歩道が少なく、安心して歩けない」は60～69歳(39.4%)で約4割と高くなっている。

表12-4-2 市内の道路の現状－性別、年齢別

			混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答
		n												
全 体		1,413	47.5	36.6	32.8	23.1	14.0	11.5	10.0	8.3	5.5	3.8	6.4	5.9
性別	男 性	622	50.8	39.2	32.0	25.1	12.7	9.3	9.5	8.2	4.8	4.3	7.2	3.9
	女 性	767	45.0	34.3	33.2	21.3	15.0	13.2	10.3	8.3	5.9	3.5	5.6	7.7
年齢別	20歳未満	20	30.0	35.0	5.0	15.0	5.0	5.0	15.0	15.0	10.0	0.0	20.0	5.0
	20～29歳	107	47.7	33.6	26.2	19.6	6.5	17.8	4.7	13.1	8.4	1.9	10.3	0.9
	30～39歳	148	53.4	31.8	27.0	18.2	13.5	9.5	5.4	16.2	6.8	2.0	8.1	1.4
	40～49歳	199	53.3	35.2	28.1	21.1	11.1	10.1	6.5	9.0	8.0	0.5	8.5	2.0
	50～59歳	258	49.2	34.5	34.5	22.1	16.3	11.6	8.5	9.3	5.0	4.3	5.8	3.9
	60～69歳	218	47.2	38.5	39.4	31.7	21.1	15.1	13.3	4.1	6.4	4.1	4.1	3.7
	70～79歳	284	44.4	39.1	33.8	23.2	11.6	9.5	15.5	6.0	2.5	5.3	4.6	11.6
80歳以上	164	40.9	39.6	36.6	22.6	14.0	10.4	9.1	4.3	3.0	7.9	5.5	14.6	

〔居住地区別の結果〕

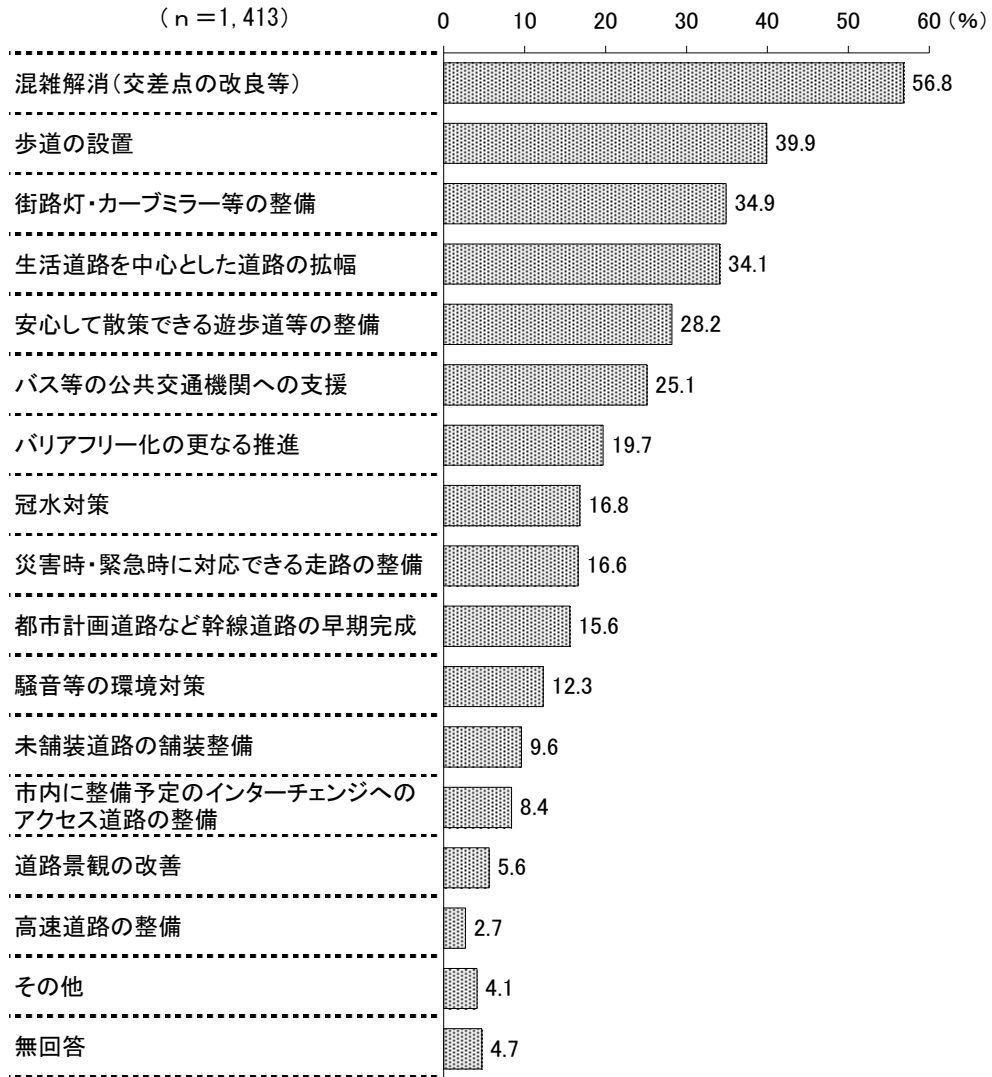
表12-4-3 市内の道路の現状－居住地区別

		(%)												
		n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	未舗装道路が多い	バリアフリー化が進んできた	その他	無回答
全 体		1,413	47.5	36.6	32.8	23.1	14.0	11.5	10.0	8.3	5.5	3.8	6.4	5.9
居 住 地 区 別	厚 木 北	166	42.2	29.5	31.3	24.7	12.0	16.9	7.8	9.0	4.2	5.4	7.8	6.0
	厚 木 南	102	31.4	29.4	26.5	19.6	11.8	7.8	9.8	13.7	4.9	6.9	10.8	6.9
	依 知 北	111	55.9	38.7	35.1	18.9	6.3	16.2	15.3	7.2	5.4	1.8	5.4	6.3
	依 知 南	75	42.7	52.0	52.0	33.3	17.3	2.7	14.7	5.3	10.7	4.0	4.0	8.0
	睦 合 北	68	41.2	30.9	38.2	29.4	20.6	8.8	4.4	10.3	5.9	2.9	5.9	2.9
	睦 合 南	115	37.4	40.0	39.1	26.1	11.3	19.1	13.0	9.6	7.0	2.6	7.0	4.3
	睦 合 西	56	44.6	37.5	28.6	26.8	8.9	12.5	8.9	5.4	7.1	0.0	3.6	7.1
	荻 野	146	55.5	36.3	30.1	19.2	24.0	10.3	7.5	8.2	7.5	4.8	7.5	5.5
	小 鮎	92	62.0	39.1	38.0	26.1	19.6	12.0	7.6	4.3	4.3	2.2	5.4	5.4
	南 毛 利	234	50.0	42.7	32.5	17.5	10.3	11.1	7.7	7.7	4.7	2.1	7.3	5.1
	南毛利南	61	47.5	24.6	21.3	23.0	14.8	11.5	13.1	8.2	6.6	4.9	3.3	6.6
	玉 川	20	45.0	30.0	10.0	20.0	10.0	5.0	15.0	20.0	5.0	5.0	0.0	15.0
	相 川	74	50.0	35.1	31.1	35.1	13.5	9.5	9.5	8.1	4.1	5.4	4.1	5.4
	緑ヶ丘	28	67.9	28.6	21.4	17.9	10.7	3.6	17.9	0.0	3.6	7.1	7.1	3.6
森の里	50	44.0	34.0	26.0	18.0	16.0	4.0	12.0	10.0	0.0	8.0	4.0	10.0	

(5) 道路整備への取組 (B:問25)

問. 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。
(いくつでも選んでください)

図12-5-1 道路整備への取組



【全体】

道路整備への取組について聞いたところ、「混雑解消(交差点の改良等)」(56.8%)が5割半ばを超えて最も高く、次いで「歩道の設置」(39.9%)、「街路灯・カーブミラー等の整備」(34.9%)、「生活道路を中心とした道路の拡幅」(34.1%)、「安心して散策できる遊歩道等の整備」(28.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「バス等の公共交通機関への支援」(25.1%)は令和3年度調査(20.0%)より5.1ポイント増加している。一方、「冠水対策」(16.8%)は令和3年度調査(21.3%)より4.5ポイント減少している。

表12-5-1 道路整備への取組一経年変化(上位8項目)

順位	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)
1	混雑解消 (交差点の改良等) 56.8	混雑解消 (交差点の改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の改良等) 60.3	渋滞解消 (交差点の改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の改良等) 55.4	渋滞解消 (交差点の改良等) 55.9	渋滞解消 (交差点の改良等) 54.9	渋滞解消 (交差点の改良等) 59.3
2	歩道の設置 39.9	歩道の設置 41.8	街路灯・ カーブミラー等 の整備 /歩道の設置	歩道の設置 43.9	歩道の設置 45.0	歩道の設置 39.3	街路灯・ カーブミラー等 整備 36.7	街路灯・ カーブミラー等 整備 39.6
3	街路灯・ カーブミラー等 の整備 34.9	街路灯・ カーブミラー等 の整備 37.5		街路灯・ カーブミラー等 整備 44.0	街路灯・ カーブミラー等 整備 40.1	街路灯・ カーブミラー等 整備 33.2	街路灯・ カーブミラー等 整備 35.0	歩道の設置 34.3
4	生活道路を 中心とした 道路拡幅 34.1	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.2	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.7	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 33.1	生活道路を 中心とした 道路拡幅 31.5	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 32.6	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 34.4
5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 28.2	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 29.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.7	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 30.5	生活道路を 中心とした 道路拡幅 32.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 32.3	バス等の 公共交通機関 への支援 30.7
6	バス等の 公共交通機関 への支援 25.1	冠水対策 21.3	バス等の 公共交通機関 への支援 28.2	バス等の 公共交通機関 への支援 24.5	バス等の 公共交通機関 への支援 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 29.7	バス等の 公共交通機関 への支援 28.4	バリアフリー化 の更なる推進 27.9
7	バリアフリー化 の更なる推進 19.7	バリアフリー化 の更なる推進 /バス等の 公共交通機関 への支援 20.0	バリアフリー化 の更なる推進 22.5	バリアフリー化 の更なる推進 23.5	バリアフリー化 の更なる推進 21.9	バス等の 公共交通機関 への支援 25.9	生活道路を 中心とした 道路拡幅 26.9	生活道路を 中心とした 道路拡幅 27.5
8	冠水対策 16.8	公共交通機関 への支援 20.0	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 21.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 21.1	バリアフリー化 の更なる推進 22.0	バリアフリー化 の更なる推進 25.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 26.6

(注1)「冠水対策」は、平成27年度調査では「道路冠水対策」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「混雑解消(交差点の改良等)」は、令和元年度調査以前では「渋滞解消(交差点の改良等)」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市計画道路など幹線道路の早期完成」(23.0%)が女性(9.8%)より13.2ポイント、「市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備」(12.4%)が女性(5.0%)より7.4ポイント高くなっている。一方、女性では「バリアフリー化の更なる推進」(23.3%)が男性(15.4%)より7.9ポイント、「歩道の設置」(42.5%)が男性(36.5%)より6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑解消(交差点の改良等)」は40～49歳(67.8%)で7割近くと高くなっている。「歩道の設置」は60～69歳(48.6%)で5割近くと高くなっている。「街路灯・カーブミラー等の整備」は60～69歳(45.0%)で4割半ばと高くなっている。

表12-5-2 道路整備への取組一性別、年齢別

			(%)																
		n	混雑解消 (交差点の改良等)	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	冠水対策	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	都市計画道路など幹線道路の早期完成	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,413	56.8	39.9	34.9	34.1	28.2	25.1	19.7	16.8	16.6	15.6	12.3	9.6	8.4	5.6	2.7	4.1	4.7
性別	男 性	622	60.1	36.5	32.3	37.1	26.2	24.4	15.4	14.5	15.4	23.0	10.6	8.8	12.4	8.7	3.9	5.3	3.7
	女 性	767	54.8	42.5	37.3	31.8	29.7	25.6	23.3	18.6	17.7	9.8	13.6	9.9	5.0	3.3	1.8	3.0	5.6
年齢別	20歳未満	20	30.0	35.0	35.0	25.0	5.0	25.0	15.0	10.0	20.0	20.0	30.0	10.0	5.0	10.0	5.0	5.0	0.0
	20～29歳	107	57.9	30.8	30.8	29.0	32.7	28.0	16.8	15.9	21.5	15.9	23.4	15.9	9.3	11.2	1.9	4.7	0.9
	30～39歳	148	62.2	33.8	31.8	35.1	26.4	28.4	12.2	17.6	14.9	14.2	17.6	16.2	6.8	6.8	3.4	6.8	0.7
	40～49歳	199	67.8	40.7	36.2	31.2	21.6	23.6	13.6	17.6	14.1	16.1	15.1	11.1	11.1	7.0	2.5	3.5	1.0
	50～59歳	258	62.8	45.7	38.4	32.6	26.0	25.6	20.2	17.1	18.2	13.6	11.2	9.3	9.7	7.0	5.0	4.7	2.7
	60～69歳	218	60.1	48.6	45.0	35.3	32.1	23.4	23.4	22.5	15.6	13.8	10.1	6.9	6.9	4.1	1.8	2.8	3.7
	70～79歳	284	49.6	35.6	33.8	38.7	30.6	25.0	20.1	13.0	17.3	18.0	6.7	4.9	8.1	2.5	1.4	4.2	8.5
	80歳以上	164	40.9	37.2	22.0	34.8	31.7	24.4	30.5	15.9	15.9	17.1	9.1	9.1	5.5	4.3	2.4	1.8	14.0

〔居住地区別の結果〕

表12-5-3 道路整備への取組—居住地区別

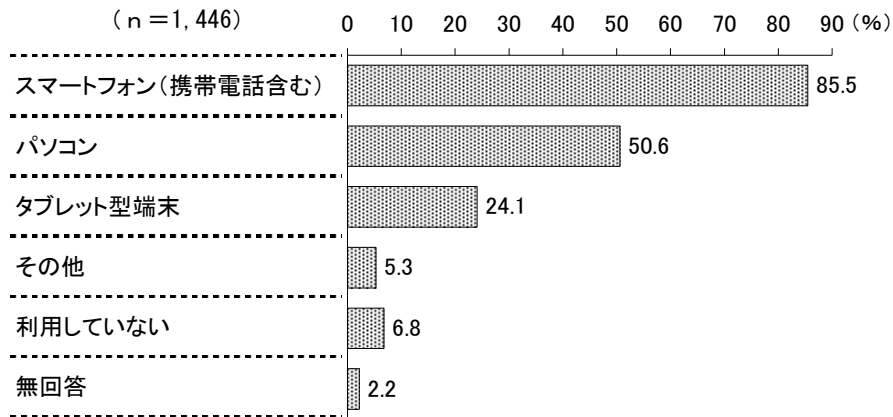
		(%)																	
		n	混雑解消 (交差点の改良等)	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	冠水対策	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	都市計画道路など幹線道路の早期完成	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,413	56.8	39.9	34.9	34.1	28.2	25.1	19.7	16.8	16.6	15.6	12.3	9.6	8.4	5.6	2.7	4.1	4.7
居 住 地 区 別	厚 木 北	166	48.8	37.3	27.1	25.9	27.1	17.5	26.5	22.9	16.9	10.8	22.9	11.4	9.0	10.2	0.6	3.0	6.0
	厚 木 南	102	44.1	33.3	33.3	35.3	28.4	17.6	14.7	15.7	16.7	10.8	13.7	10.8	6.9	6.9	3.9	5.9	3.9
	依 知 北	111	59.5	33.3	37.8	36.0	25.2	27.9	16.2	18.0	15.3	10.8	9.9	5.4	9.0	4.5	0.9	4.5	4.5
	依 知 南	75	56.0	54.7	40.0	40.0	33.3	26.7	22.7	13.3	22.7	24.0	13.3	16.0	8.0	4.0	1.3	5.3	4.0
	睦 合 北	68	55.9	38.2	33.8	38.2	32.4	29.4	19.1	7.4	17.6	16.2	8.8	5.9	4.4	0.0	1.5	2.9	4.4
	睦 合 南	115	47.8	42.6	33.9	40.9	25.2	17.4	20.0	27.8	16.5	8.7	9.6	11.3	4.3	2.6	0.0	7.0	3.5
	睦 合 西	56	60.7	41.1	26.8	33.9	25.0	21.4	12.5	14.3	1.8	14.3	5.4	14.3	5.4	1.8	5.4	3.6	5.4
	荻 野	146	65.1	39.0	39.7	34.9	26.0	30.1	19.9	13.7	17.8	20.5	13.7	10.3	8.2	5.5	4.1	2.7	3.4
	小 鮎	92	66.3	43.5	46.7	39.1	26.1	34.8	12.0	17.4	13.0	27.2	9.8	4.3	14.1	3.3	6.5	4.3	5.4
	南 毛 利	234	65.0	42.7	34.2	34.6	27.4	24.8	18.8	15.0	18.8	15.0	9.4	9.4	8.5	5.6	3.4	3.8	4.7
	南毛利南	61	47.5	36.1	37.7	21.3	29.5	13.1	21.3	24.6	23.0	14.8	11.5	8.2	8.2	3.3	4.9	3.3	4.9
	玉 川	20	65.0	15.0	30.0	25.0	5.0	30.0	15.0	10.0	25.0	30.0	10.0	5.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0
	相 川	74	51.4	40.5	39.2	33.8	37.8	29.7	27.0	18.9	20.3	13.5	16.2	12.2	9.5	12.2	4.1	4.1	5.4
	緑ヶ丘	28	75.0	39.3	25.0	46.4	39.3	39.3	21.4	7.1	7.1	10.7	14.3	10.7	7.1	10.7	0.0	3.6	3.6
森の里	50	50.0	44.0	26.0	24.0	32.0	38.0	26.0	8.0	10.0	24.0	8.0	2.0	10.0	6.0	2.0	6.0	8.0	

13 広報

(1) 家庭で利用する情報機器 (A: 問20)

問. 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。(いくつでも選んでください)

図13-1-1 家庭で利用する情報機器



【全体】

家庭で利用する情報機器について聞いたところ、「スマートフォン(携帯電話含む)」(85.5%)が8割半ばで最も高く、次いで「パソコン」(50.6%)、「タブレット型端末」(24.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「タブレット型端末」(24.1%)は令和3年度調査(19.1%)より5.0ポイント、「スマートフォン(携帯電話含む)」(85.5%)は令和3年度調査(81.5%)より4.0ポイント増加している。

表13-1-1 家庭で利用する情報機器—経年変化

調査年	n	(%)					
		スマートフォン (携帯電話含む)	パソコン	タブレット型 端末	その他	利用して いない	無回答
令和5年度	1,446	85.5	50.6	24.1	5.3	6.8	2.2
令和3年度	1,603	81.5	51.7	19.1	5.1	9.2	2.6
令和元年度	1,467	79.0	56.2	19.6	6.2	8.7	1.8
平成29年度	1,480	66.9	52.9	17.9	8.0	12.4	2.9
平成27年度	1,445	68.9	54.5	12.7	3.5	-	2.4
平成25年度	1,284	65.0	60.2	8.7	2.6	-	5.1

(注1)「タブレット型端末」は、令和3年度調査～令和元年度調査、平成27年度調査～平成25年度調査では「タブレット型パソコン」、平成29年度調査では「タブレット」としていた。

(注2)平成29年度調査以降では、「利用していない」の選択肢を追加している。

(注3)平成27年度調査以前では、「テレビ」、「インターネット」、「ラジオ」、「電子メール」、「ゲーム機」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコン」(58.9%)が女性(42.5%)より16.4ポイント、「タブレット型端末」(27.1%)が女性(21.4%)より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スマートフォン(携帯電話含む)」は20歳未満(100.0%)で10割と高くなっている。「パソコン」は20歳未満(85.0%)で8割半ばと高くなっている。「タブレット型端末」は20歳未満(40.0%)と30～39歳(40.8%)で4割台と高くなっている。

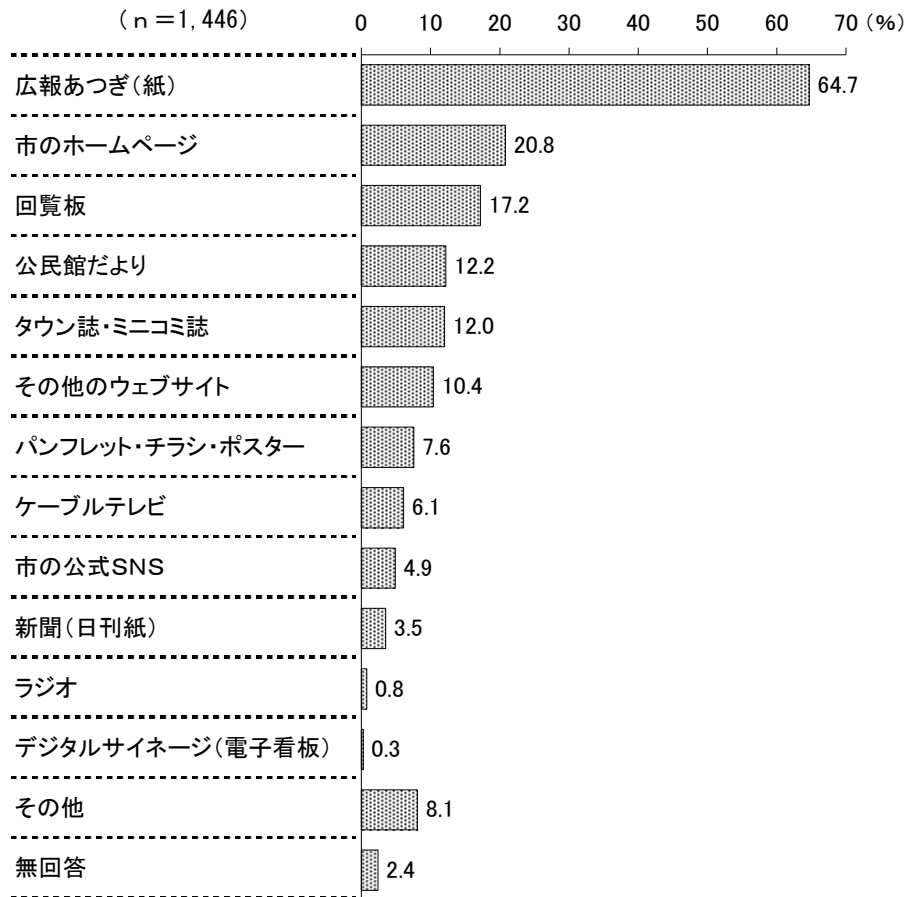
表13-1-2 家庭で利用する情報機器—性別、年齢別

		(%)						
		n	(スマートフォン 含む)	パソコン	タブレット 型端末	その他	利用して いない	無回 答
全 体		1,446	85.5	50.6	24.1	5.3	6.8	2.2
性 別	男 性	665	84.7	58.9	27.1	4.7	6.2	2.6
	女 性	748	86.9	42.5	21.4	5.6	7.0	1.9
年 齢 別	20歳未満	20	100.0	85.0	40.0	5.0	0.0	0.0
	20～29歳	113	97.3	64.6	35.4	1.8	0.9	0.9
	30～39歳	152	98.0	61.2	40.8	3.9	0.0	0.0
	40～49歳	215	94.0	60.0	34.0	1.4	2.8	1.4
	50～59歳	254	95.7	54.3	28.3	2.8	1.6	0.4
	60～69歳	229	89.1	55.5	21.4	4.8	3.5	2.6
	70～79歳	310	75.5	36.1	11.6	9.0	11.3	3.2
	80歳以上	140	50.0	26.4	5.7	12.1	28.6	7.1

(2) 市の情報の入手方法 (A: 問21)

問. 厚木市の情報を主に何から入手していますか。(2つまで選んでください)

図13-2-1 市の情報の入手方法



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ(紙)」(64.7%)が6割半ばで最も高く、次いで「市のホームページ」(20.8%)、「回覧板」(17.2%)、「公民館だより」(12.2%)、「タウン誌・ミニコミ誌」(12.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「市のホームページ」(20.8%)が令和3年度調査(24.0%)より3.2ポイント減少している。

表13-2-1 市の情報の入手方法—経年変化

調査年	n	広報あつぎ(紙)	市のホームページ	回覧板	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	その他のウェブサイト	パンフレット・チラシ・ポスター	ケーブルテレビ	市の公式SNS	新聞(日刊紙)	ラジオ	デジタルサイネージ(電子看板)	その他	無回答	本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)	市の携帯版ウェブサイト
令和5年度	1,446	64.7	20.8	17.2	12.2	12.0	10.4	7.6	6.1	4.9	3.5	0.8	0.3	8.1	2.4	-	-
令和3年度	1,603	67.3	24.0	17.2	13.3	12.0	7.6	5.9	6.4	-	5.4	0.9	0.8	7.2	2.6	-	-
令和元年度	1,467	70.1	16.7	20.7	16.4	14.0	5.5	10.2	5.5	-	4.0	1.4	1.9	5.1	3.6	-	-
平成29年度	1,480	75.4	13.0	19.6	19.7	16.0	2.2	7.0	4.8	-	5.8	1.3	-	5.5	2.7	4.3	-
平成27年度	1,471	85.9	20.9	10.0	38.4	22.6	-	15.5	6.9	-	8.8	0.5	-	5.7	1.3	9.6	2.2
平成25年度	1,270	82.0	22.8	10.8	33.1	21.7	-	6.6	8.7	-	11.6	0.7	-	5.6	3.3	7.8	2.4
平成23年度	814	77.8	22.5	4.5	21.6	12.0	-	2.5	3.8	-	8.2	0.1	-	3.6	4.1	4.7	1.6
平成21年度	1,610	83.7	13.1	4.0	27.1	15.8	-	2.4	6.0	-	8.6	0.6	-	1.5	1.7	-	1.0
平成19年度	1,506	83.2	11.0	3.1	25.6	13.1	-	2.3	8.6	-	11.5	0.4	-	7.0	2.1	-	0.7
平成17年度	1,008	84.9	12.3	9.6	28.8	8.3	-	0.2	2.2	-	2.6	5.8	-	0.7	15.3	-	0.7

- (注1)「デジタルサイネージ(電子看板)」は、令和元年度調査では「駅前電子看板(デジタルサイネージ)」としており、令和元年度調査から選択肢を追加している。
- (注2)平成29年度調査以降では、「その他のウェブサイト」の選択肢を追加している。
- (注3)平成29年度調査～平成23年度調査では、「本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)」の選択肢を追加していた。
- (注4)平成27年度調査～平成23年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。
- (注5)「広報あつぎ(紙)」は、平成27年度調査以前では「広報あつぎ」としていた。
- (注6)「市のホームページ」は、令和3年度調査～平成29年度調査では「市のホームページ(携帯サイト含む)」、平成27年度調査以前では2つの選択肢「市のホームページ」、「市の携帯版ウェブサイト」としていた。
- (注7)「パンフレット・チラシ・ポスター」は、平成27年度調査以前では「パンフレット・チラシ」としていた。
- (注8)「回覧板」は、令和3年度調査～平成29年度調査では「広報板・回覧板」、平成27年度調査以前では「掲示板やポスター」としていた。
- (注9)今回調査から、「市の公式SNS」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「市のホームページ」(24.5%)が女性(17.6%)より6.9ポイント、「その他のウェブサイト」(12.2%)が女性(8.6%)より3.6ポイント高くなっている。一方、女性では「広報あつぎ(紙)」(67.9%)が男性(61.7%)より6.2ポイント、「公民館だより」(14.3%)が男性(9.6%)より4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「広報あつぎ(紙)」は70～79歳(84.2%)で8割半ばと高くなっている。「市のホームページ」は50～59歳(31.9%)で3割を超えて高くなっている。「その他のウェブサイト」は20歳未満(30.0%)で3割と高くなっている。

表13-2-2 市の情報の入手方法—性別、年齢別

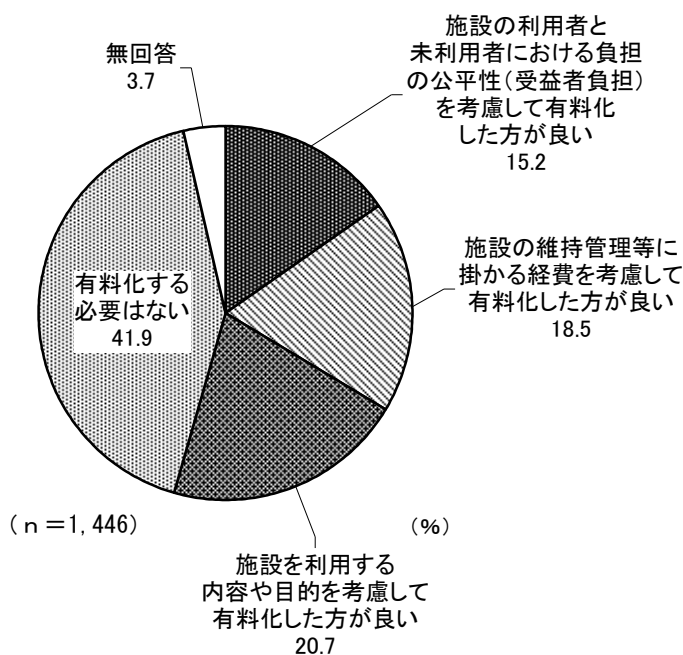
		n	広報あつぎ(紙)	市のホームページ	回覧板	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	その他のウェブサイト	パンフレット・チラシ・ポスター	ケーブルテレビ	市の公式SNS	新聞(日刊紙)	ラジオ	デジタルサイネージ(電子看板)	その他	無回答
全 体		1,446	64.7	20.8	17.2	12.2	12.0	10.4	7.6	6.1	4.9	3.5	0.8	0.3	8.1	2.4
性別	男 性	665	61.7	24.5	16.7	9.6	13.1	12.2	7.4	4.5	4.2	3.9	1.4	0.5	8.3	2.9
	女 性	748	67.9	17.6	17.8	14.3	11.4	8.6	7.8	7.5	5.6	3.1	0.3	0.1	7.4	2.0
年 齢 別	20歳未満	20	20.0	5.0	15.0	5.0	10.0	30.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
	20～29歳	113	25.7	22.1	8.8	3.5	2.7	22.1	16.8	3.5	10.6	2.7	0.9	1.8	22.1	1.8
	30～39歳	152	44.7	28.9	13.2	5.9	2.6	23.7	5.9	3.9	7.9	2.0	0.0	0.0	14.5	1.3
	40～49歳	215	59.5	24.7	12.6	6.0	12.1	14.0	10.7	4.2	7.4	0.9	0.5	0.5	10.7	0.9
	50～59歳	254	55.9	31.9	16.5	4.7	12.2	13.4	8.3	10.2	6.3	1.6	2.0	0.4	6.7	0.8
	60～69歳	229	79.0	23.1	23.1	12.7	10.9	6.6	5.2	5.7	3.9	2.2	0.9	0.0	3.9	3.1
	70～79歳	310	84.2	10.3	21.3	23.2	19.0	1.3	6.5	8.4	1.3	5.2	0.3	0.0	3.2	2.9
	80歳以上	140	81.4	7.9	17.9	22.9	16.4	0.0	2.9	2.1	0.7	12.1	1.4	0.0	2.1	7.1

14 行政

(1) 市の施設の利用料 (A:問22)

問. 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設（公民館など）がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。（1つだけ選んでください）

図14-1-1 市の施設の利用料



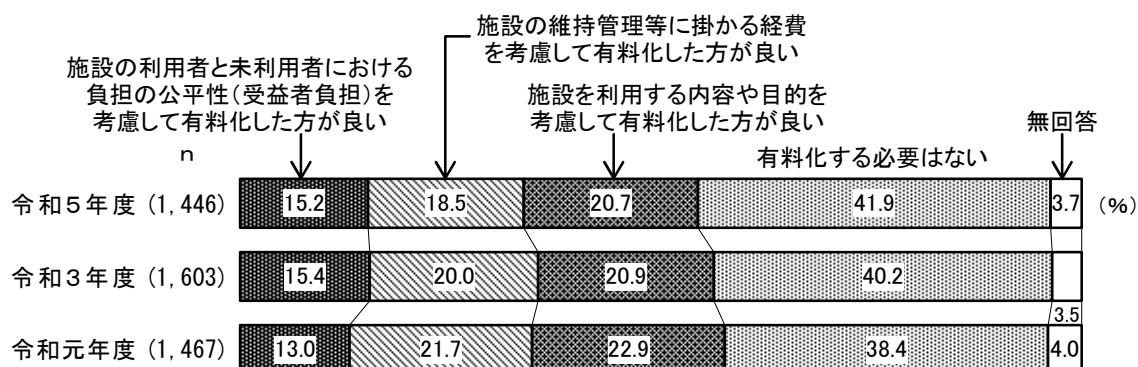
【全体】

使用料が無料の市の施設の利用料について聞いたところ、「施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）を考慮して有料化した方が良い」（15.2%）、「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」（18.5%）、「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」（20.7%）の3つを合わせた『有料化した方が良い』（54.4%）が5割半ばとなっている。一方、「有料化する必要はない」（41.9%）は4割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図14-1-2 市の施設の利用料—経年変化

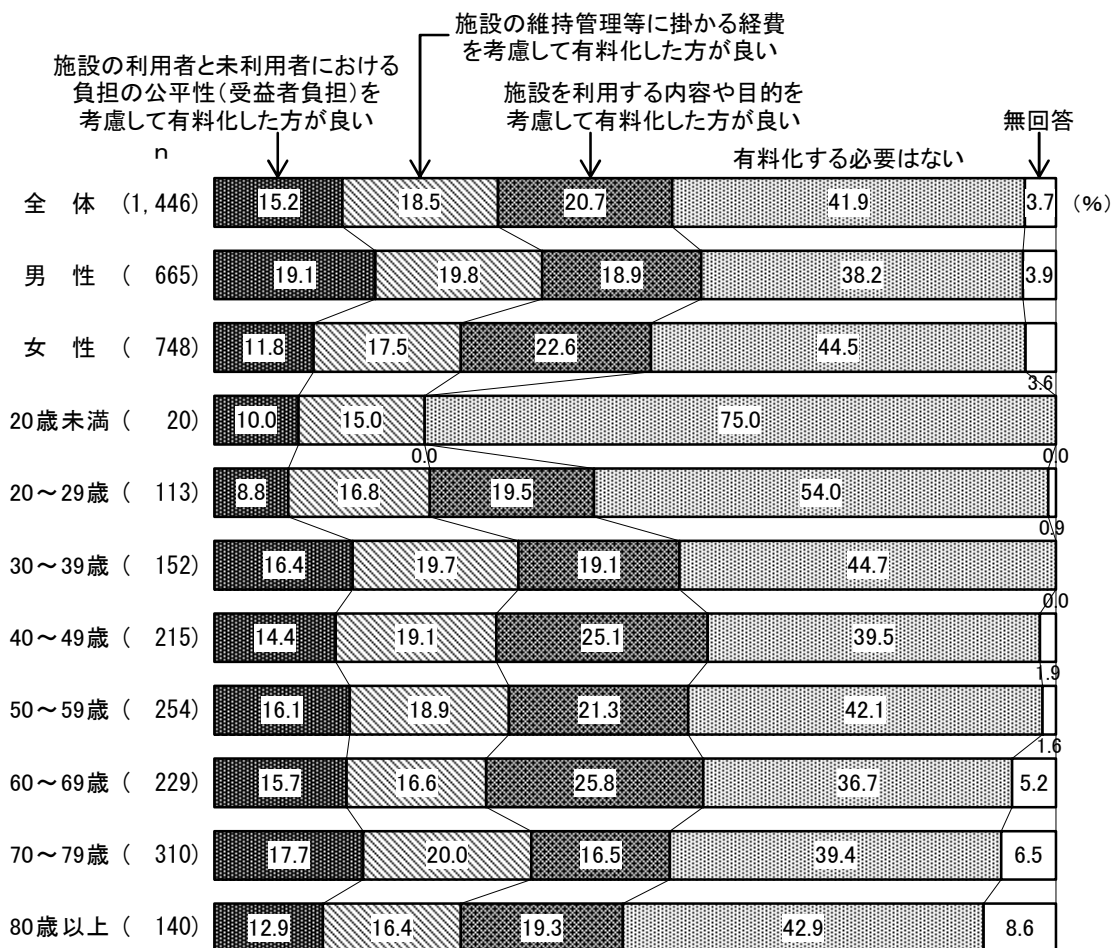


【属性別】

性別で見ると、男性では「施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）を考慮して有料化した方が良い」（19.1%）が女性（11.8%）より7.3ポイント高くなっている。一方、女性では「有料化する必要はない」（44.5%）が男性（38.2%）より6.3ポイント、「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」（22.6%）が男性（18.9%）より3.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」は70～79歳（20.0%）で2割と高くなっている。「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」は40～49歳（25.1%）と60～69歳（25.8%）で2割半ばと高くなっている。「有料化する必要はない」は20歳未満（75.0%）で7割半ばと高くなっている。

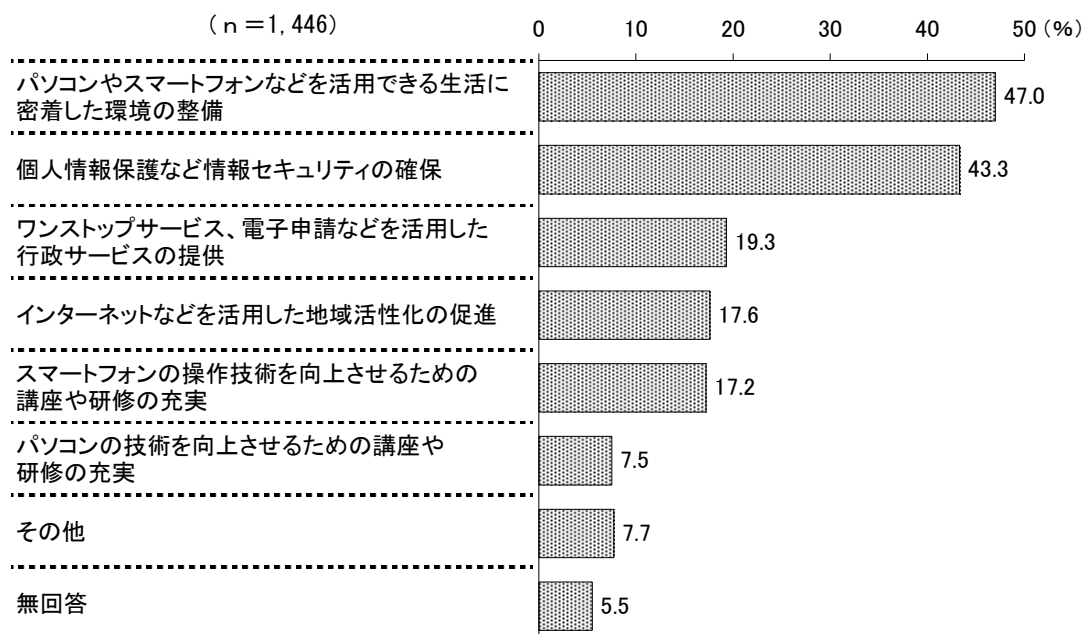
図14-1-3 市の施設の利用料—性別、年齢別



(2) 行政サービスの情報化推進への取組 (A: 問23)

問. 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図14-2-1 行政サービスの情報化推進への取組



【全体】

行政サービスの情報化推進への取組について聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(47.0%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(43.3%)、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(19.3%)、「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」(17.6%)、「スマートフォンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実」(17.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「パソコンの技術を向上させるための講座や研修の充実」（7.5％）は令和3年度調査（14.7％）より7.2ポイント、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」（47.0％）は令和3年度調査（52.2％）より5.2ポイント減少している。

表14-2-1 行政サービスの情報化推進への取組—経年変化

調査年	n	(%)							
		パソコンの技術を向上させる生活に密着した環境の整備	個人情報の保護など情報セキュリティの確保	申請などの提供	ワンストップサービス、電子	インターネットの促進	スマートフォンなどの操作技術の向上	パソコンの講座や研修の充実	その他
令和5年度	1,446	47.0	43.3	19.3	17.6	17.2	7.5	7.7	5.5
令和3年度	1,603	52.2	41.9	18.5	19.8	-	14.7	8.6	6.2
令和元年度	1,467	49.4	43.0	15.5	25.4	-	14.5	10.1	6.7
平成29年度	1,480	50.6	42.9	13.9	12.6	-	17.1	10.1	11.2
平成27年度	1,445	42.8	41.6	9.8	10.7	-	12.0	7.7	8.4
平成25年度	1,284	36.8	35.9	12.7	11.0	-	14.9	7.6	11.4
平成23年度	814	22.0	34.0	17.0	9.1	-	17.7	9.5	13.3
平成21年度	1,610	8.0	29.4	23.1	-	-	13.4	3.2	15.7
平成19年度	1,506	7.1	26.6	16.4	-	-	14.3	2.7	18.6

(注1)「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」は、平成29年度調査～平成23年度調査では「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」としていた。また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「パソコンの技術を向上させるための講座や研修の充実」は、令和3年度調査～平成29年度調査では「パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実」、平成27年度調査以前では「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」としていた。

(注3)今回調査から、「スマートフォンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(52.8%)が女性(43.0%)より9.8ポイント、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(23.5%)が女性(15.6%)より7.9ポイント、「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」(21.5%)が女性(14.0%)より7.5ポイント高くなっている。一方、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(46.7%)が男性(39.5%)より7.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」は20歳未満(65.0%)で6割半ばと高くなっている。「個人情報保護など情報セキュリティの確保」は20～29歳(48.7%)で5割近くと高くなっている。「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」は30～39歳(30.3%)で約3割と高くなっている。

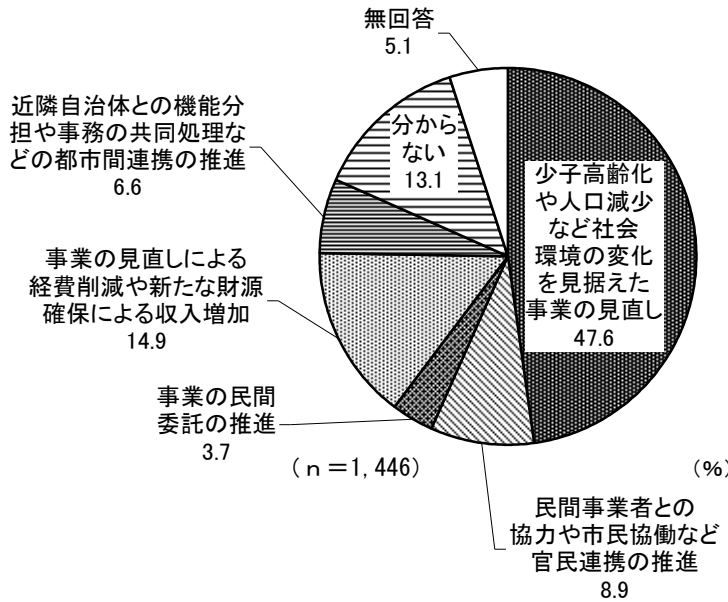
表14-2-2 行政サービスの情報化推進への取組—性別、年齢別

		n	た 環 境 の 整 備	リ 個 人 情 報 保 護 な ど 情 報 セ キ ュ	ビ 申 請 な ど を 活 用 し た 行 政 サ ー ビ ス	た 地 域 活 性 化 の 促 進	の 充 実	向 上 さ せ る た め の 講 座 や 研 修	た め の 講 座 や 研 修 を 向 上 さ せ る	そ の 他	(%) 無 回 答
全 体		1,446	47.0	43.3	19.3	17.6	17.2	7.5	7.7	5.5	
性 別	男 性	665	52.8	39.5	23.5	21.5	15.8	7.4	6.6	3.9	
	女 性	748	43.0	46.7	15.6	14.0	18.7	7.6	8.2	6.7	
年 齢 別	20歳未満	20	65.0	35.0	5.0	10.0	20.0	15.0	0.0	0.0	
	20～29歳	113	52.2	48.7	23.9	21.2	10.6	5.3	5.3	1.8	
	30～39歳	152	53.9	44.7	30.3	15.1	7.9	6.6	7.2	0.7	
	40～49歳	215	53.5	41.4	28.8	20.5	6.5	4.7	10.7	2.3	
	50～59歳	254	51.2	46.5	23.6	19.7	14.6	8.7	7.1	0.8	
	60～69歳	229	46.3	46.3	17.5	19.7	19.7	7.9	3.5	5.2	
	70～79歳	310	40.6	43.5	9.4	14.2	28.1	7.7	7.1	10.3	
	80歳以上	140	31.4	31.4	10.0	13.6	26.4	9.3	15.0	16.4	

(3) より良い市民サービスを維持していく取組 (A: 問24)

問. 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。(1つだけ選んでください)

図14-3-1 より良い市民サービスを維持していく取組



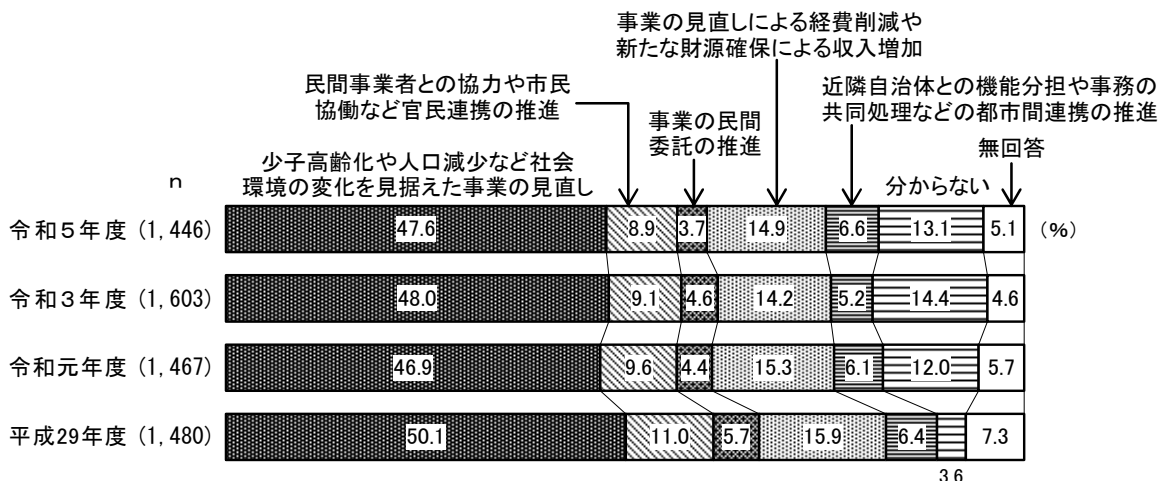
【全体】

より良い市民サービスを維持していく取組について聞いたところ、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」(47.6%)が5割近くで最も高く、次いで「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」(14.9%)、「民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進」(8.9%)、「近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進」(6.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図14-3-2 より良い市民サービスを維持していく取組—経年変化



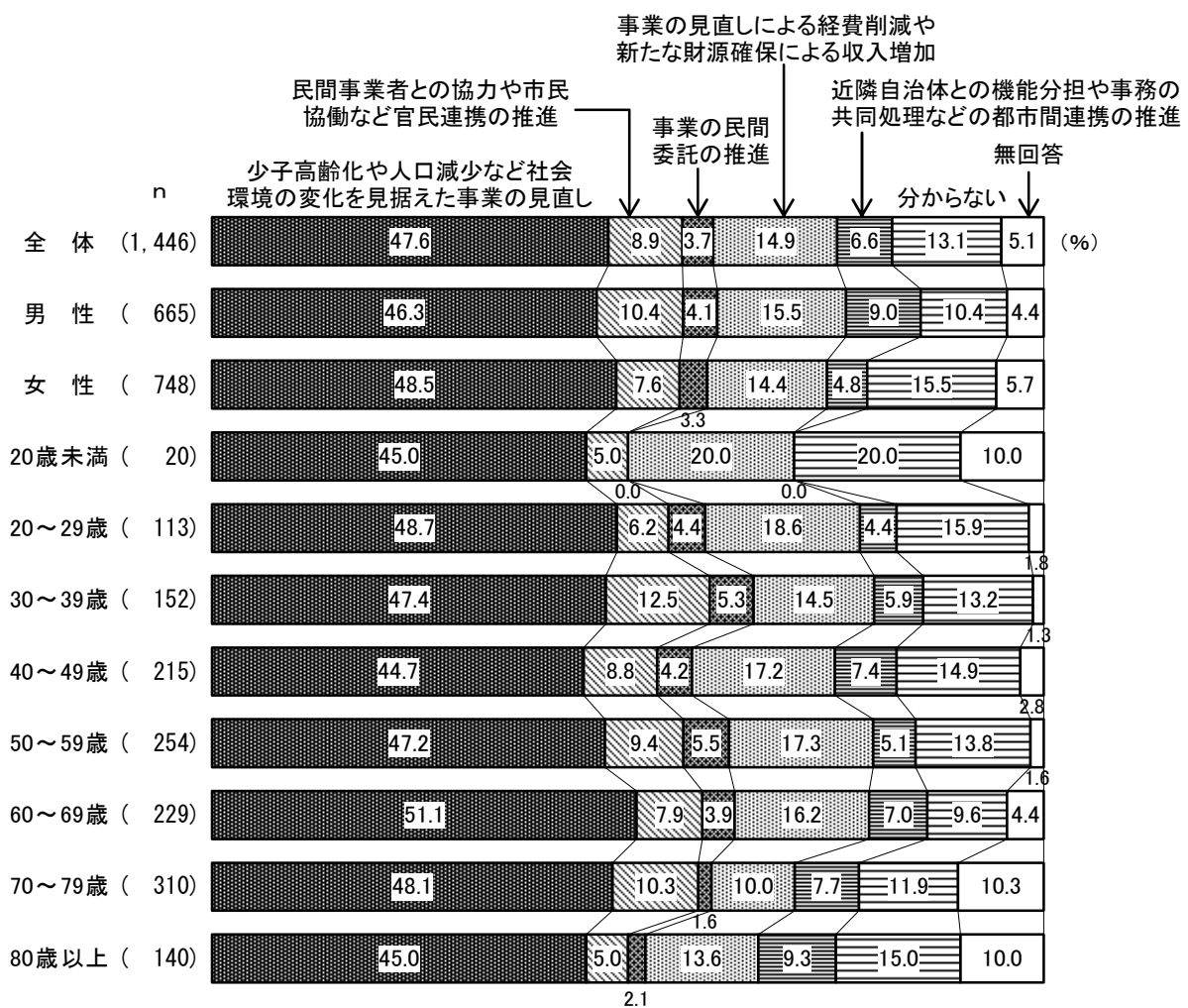
(注)「分からない」は、平成29年度調査では「その他」の選択肢であった。

【属性別】

性別で見ると、男性では「近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進」(9.0%)が女性(4.8%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」は60～69歳(51.1%)で5割を超えて高くなっている。「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」は20歳未満(20.0%)で2割と高くなっている。

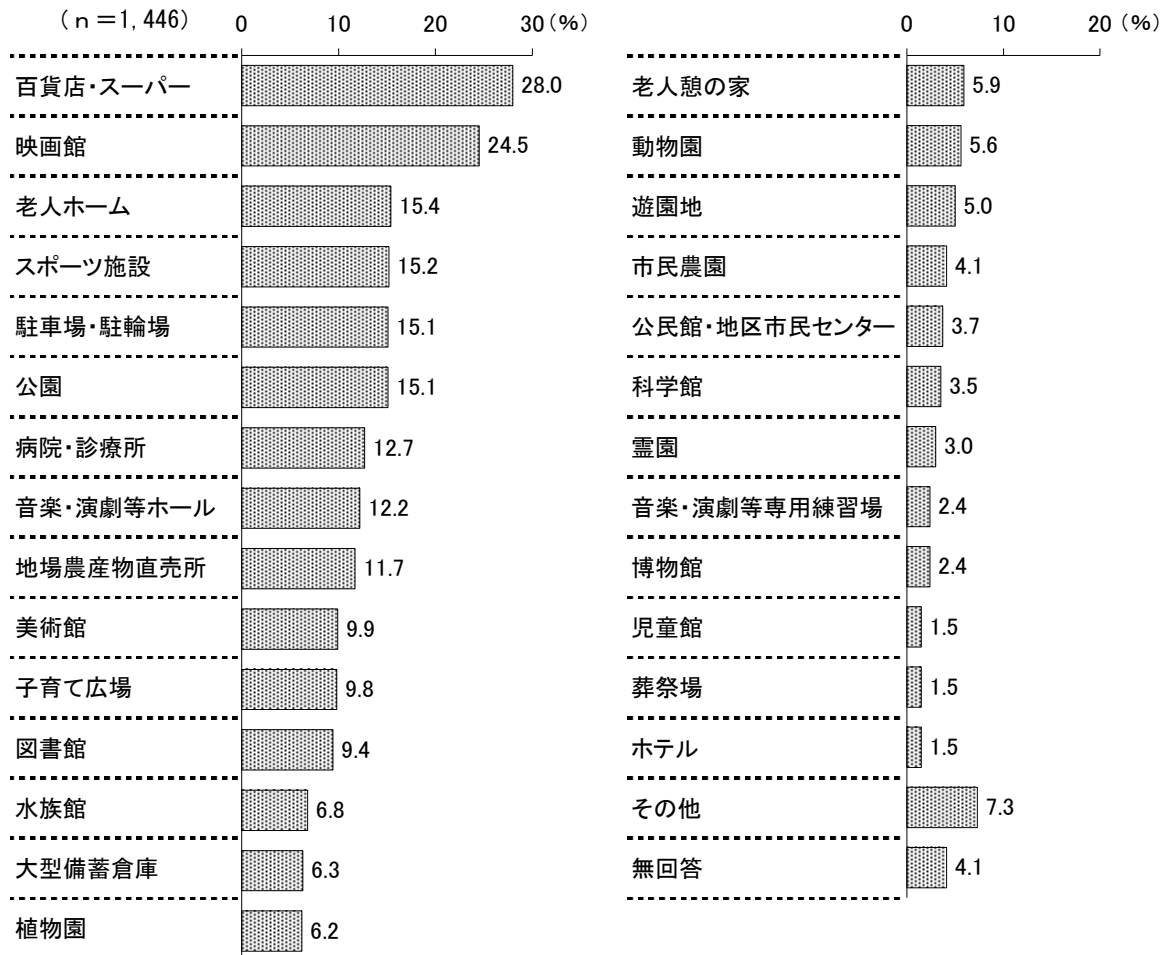
図14-3-3 より良い市民サービスを維持していく取組一性別、年齢別



(4) 市に必要な施設 (A: 問25)

問. 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図14-4-1 市に必要な施設



【全体】

市に必要な施設について聞いたところ、「百貨店・スーパー」(28.0%)が3割近くで最も高く、次いで「映画館」(24.5%)、「老人ホーム」(15.4%)、「スポーツ施設」(15.2%)、「駐車場・駐輪場」と「公園」(ともに15.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和3年度調査と同じ順位になっている。

なお、平成27年度以前の調査は、「生活をする上で、特に必要な施設」について聴いていたため、参考記載とする。

表14-4-1 市に必要な施設—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,506)
1	百貨店・スーパー 28.0	百貨店・スーパー 28.8	百貨店・スーパー 30.4	百貨店・スーパー 32.8	病院・診療所 64.9	病院・診療所 60.7	病院・診療所 66.6	病院・診療所 54.7	病院・診療所 50.9
2	映画館 24.5	映画館 24.0	映画館 22.6	映画館 24.3	百貨店・スーパー 58.7	百貨店・スーパー 54.8	百貨店・スーパー 57.7	百貨店・スーパー 35.7	百貨店・スーパー 37.5
3	老人ホーム 15.4	公園 16.7	老人ホーム 18.0	老人ホーム 16.1	公園 20.9	公園 22.8	公園 25.1	公園 30.4	公園 32.3
4	スポーツ施設 15.2	駐車場・駐輪場 14.7	駐車場・駐輪場 16.8	スポーツ施設 15.7	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 21.9	駐車場・駐輪場 17.5	駐車場・駐輪場 17.3
5	駐車場・駐輪場 / 公園 15.1	老人ホーム 14.5	スポーツ施設 14.7	駐車場・駐輪場 15.6	公民館・地区市民センター 16.4	公民館・地区市民センター 13.7	公民館・地区市民センター 15.5	公民館・地区市民センター 17.1	公民館・地区市民センター 15.7

(注) 平成27年度調査以前では、「生活をする上で、特に必要な施設は何だと思えますか。(3つまで選んでください)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男女ともに「百貨店・スーパー」が第1位、「映画館」が第2位となっている。

年齢別で見ると、「映画館」は20歳未満から30～39歳の年代と60～69歳で第1位、40～49歳と50～59歳で第2位、70～79歳で第3位となっている。「百貨店・スーパー」は40～49歳と50～59歳、70～79歳で第1位、20～29歳と30～39歳、60～69歳、80歳以上で第2位となっている。「老人ホーム」は80歳以上で第1位、70～79歳で第2位、60～69歳で第3位となっている。

表14-4-2 市に必要な施設一性別、年齢別（上位3項目）

(%)

順位	男性 (n=665)		女性 (n=748)	
1	百貨店・スーパー	26.6	百貨店・スーパー	29.1
2	映画館	24.4	映画館	25.3
3	スポーツ施設	18.3	老人ホーム	16.6

(%)

順位	20歳未満 (n=20)		20～29歳 (n=113)		30～39歳 (n=152)		40～49歳 (n=215)	
1	映画館	45.0	映画館	32.7	映画館	27.0	百貨店・スーパー	27.0
2	スポーツ施設	30.0	百貨店・スーパー	28.3	百貨店・スーパー	26.3	映画館	26.0
3	遊園地	20.0	公園	24.8	公園	21.1	駐車場・駐輪場	19.1

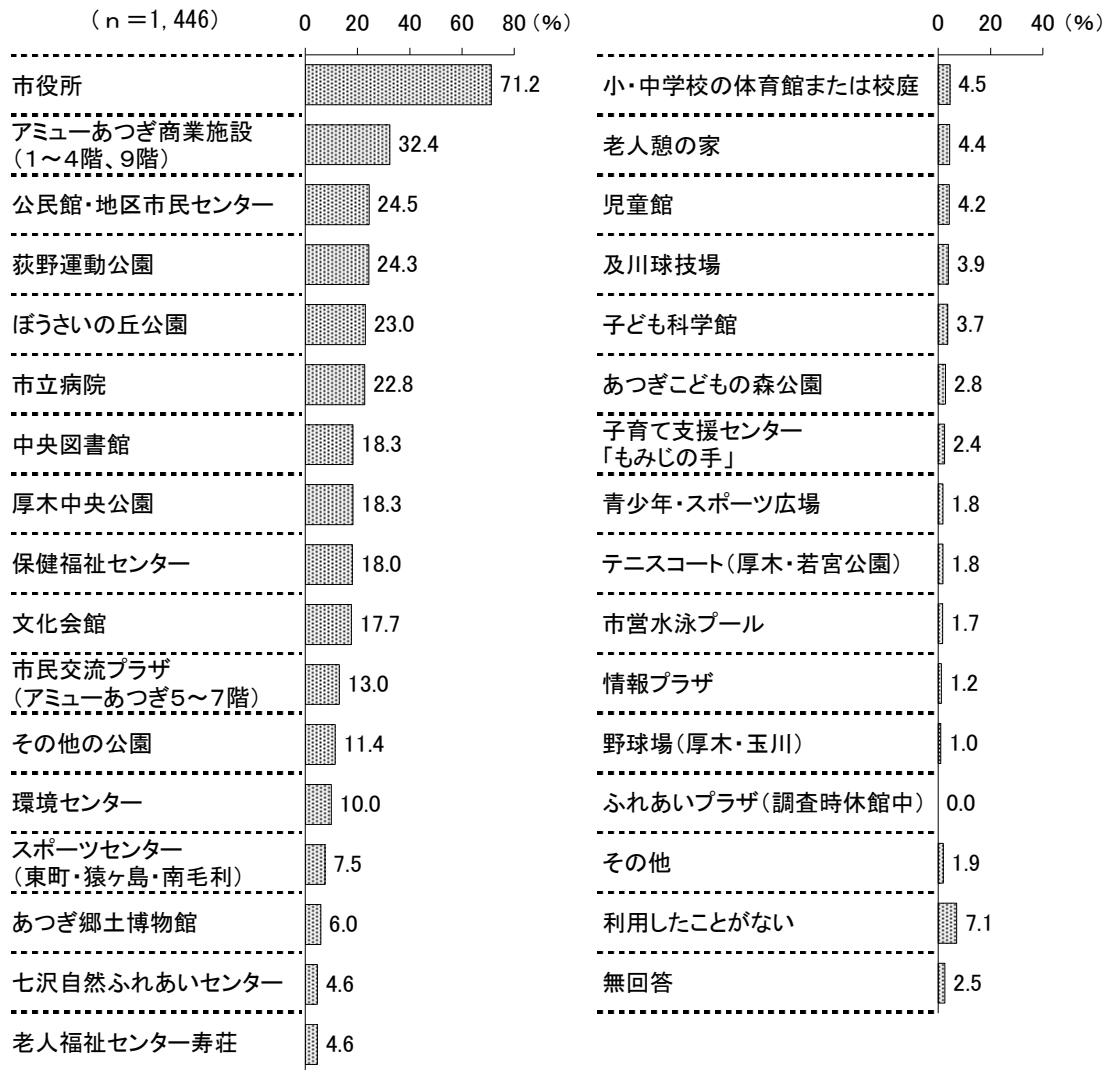
(%)

順位	50～59歳 (n=254)		60～69歳 (n=229)		70～79歳 (n=310)		80歳以上 (n=140)	
1	百貨店・スーパー	39.4	映画館	27.9	百貨店・スーパー	25.5	老人ホーム	25.7
2	映画館	30.3	百貨店・スーパー	27.1	老人ホーム	20.6	百貨店・スーパー	19.3
3	スポーツ施設 ／駐車場・駐輪場	16.1	老人ホーム	20.1	映画館	17.7	老人憩の家	17.9

(5) 市の施設の利用状況 (A:問26)

問. この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。(いくつでも選んでください)

図14-5-1 市の施設の利用状況



【全体】

市の施設の利用状況について聞いたところ、「市役所」(71.2%)が7割を超えて最も高く、次いで「アミュあつぎ商業施設(1~4階、9階)」(32.4%)、「公民館・地区市民センター」(24.5%)、「荻野運動公園」(24.3%)、「ぼうさいの丘公園」(23.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和3年度調査と同じ順位となっている。「市役所」(71.2%)は令和3年度調査(62.9%)より8.3ポイント、「荻野運動公園」(24.3%)は令和3年度調査(21.1%)より3.2ポイント、「アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)」(32.4%)は令和3年度調査(29.3%)より3.1ポイント増加している。

表14-5-1 市の施設の利用状況—経年変化(上位5項目と「利用したことがない」)

順位	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,500)
1	市役所 71.2	市役所 62.9	市役所 63.0	市役所 62.7	市役所 67.5	市役所 62.8	ぼうさいの丘公園 33.5	中央図書館 31.4	荻野運動公園 36.9
2	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階) 32.4	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階) 29.3	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階) 41.1	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階) 42.9	アミューあつぎ市民交流プラザ 37.7	中央図書館 29.1	中央図書館 29.2	文化会館 31.1	中央図書館 34.2
3	公民館・地区市民センター 24.5	公民館・地区市民センター 24.3	公民館・地区市民センター 31.0	荻野運動公園 30.1	公民館・地区市民センター 34.4	ぼうさいの丘公園 26.8	文化会館 26.8	ぼうさいの丘公園 30.7	文化会館 33.3
4	荻野運動公園 24.3	荻野運動公園 21.1	文化会館 26.0	文化会館 27.2	ぼうさいの丘公園 29.2	荻野運動公園 25.7	荻野運動公園 26.3	荻野運動公園 25.7	ぼうさいの丘公園 28.1
5	ぼうさいの丘公園 23.0	ぼうさいの丘公園 20.3	荻野運動公園 24.9	厚木中央公園 26.4	文化会館 28.2	文化会館 25.6	厚木中央公園 24.0	市立公民館・地区市民センター 22.4	厚木中央公園 24.1
	利用したことがない 7.1	利用したことがない 9.0	利用したことがない 5.7	利用したことがない 5.9	利用したことがない 6.3	利用したことがない 7.6	利用したことがない 15.6	利用したことがない 16.6	利用したことがない 12.7

- (注1)「保健福祉センター」は、平成29年度調査では「保健福祉センター(旧総合福祉センター・保健センター)」としていた。また、平成27年度調査以前では2つの選択肢「総合福祉センター」と「保健センター」としていた。
- (注2)「スポーツセンター(東町・猿ヶ島・南毛利)」は、平成29年度調査以前では3つの選択肢「東町スポーツセンター」、「猿ヶ島スポーツセンター」、「南毛利スポーツセンター」としていた。
- (注3)「野球場(厚木・玉川)」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「厚木野球場」と「玉川野球場」としていた。
- (注4)「青少年・スポーツ広場」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「青少年広場」と「スポーツ広場」としていた。
- (注5)「小・中学校の体育館または校庭」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「小・中学校の体育館」と「小・中学校の校庭」としていた。
- (注6)「テニスコート(厚木・若宮公園)」は、平成29年度調査以前は2つの選択肢「厚木テニスコート」と「若宮公園テニスコート」としていた。
- (注7)「市民交流プラザ(アミューあつぎ5~7階)」は、平成27年度調査では「アミューあつぎ市民交流プラザ」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。
- (注8)平成29年調査では「ちびっこ広場」の選択肢を追加していた。
- (注9)平成29年度調査以降では「アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)」、「市立病院」、「環境センター」、「あつぎこどもの森公園」、「その他の公園」の選択肢を追加している。
- (注10)平成25年度調査以降では「市役所」の選択肢を追加している。

15 自由意見

(1) 本調査や市に関する意見

最後に、本調査や市に関するご意見等がありましたら、お書きください。

市民の皆様からいただいた貴重な御意見を、できる限り掲載しました。

内容については原文を重視しておりますが、文意を損なわない範囲で、個人的な内容などを一部削除・修正しています。

【暮らしの状況】

- 都会と田舎の両方のバランスが良い厚木市にずっと住みたいです。
- 程良く栄えていて都内へのアクセスもしやすいので、住みやすいと思います。

【市の現状と将来】

- 緑が多く、大きなイベントもある、厚木が好きです。これからも維持して行って頂きたいです。
- 厚木は物流の町ですか？倉庫、トラックなどが多すぎます。住み始めた30年前は、そうではなかった。市民生活のための施設（総合スーパー、図書館など）を充実してほしい。

【子育て・福祉・健康】

- 子育て世帯にもっと支援をお願いします。
- 子育て支援はとても充実していて良いと思う。
- 子育て世帯に対する、更なる市独自の支援を期待しています。物価高によるベビー用品の購入支援、教育費無償化、保育士の給与アップ、休みの確保、減税、妊娠期の各種税金の免除、経済的支援。
- 子どもの居場所づくりに力を入れてほしいです。例えば、民間で子ども食堂等をやっている所がありますが、民間に任せるのではなく、市を挙げて、児童館や憩の家などを活用し、居場所として不登校児童、生徒が安心して過ごせる場所（学習支援なども場合によっては行う）、食事と団らんができる場所を作ってほしいです。そのための予算と人員を確保してください。
- 高齢化が進むので、安心して集まる施設を作ってほしい。
- 高齢化に向けて介護施設や住宅等の斡旋、介護している人へのフォロー等。
- 年金生活で将来への不安があるので、老人に優しい事を願う。かなちゃん手形の無料等、小田急電鉄の協力を得て小学生並の料金にして欲しい。
- 就職氷河期世代（非正規雇用者）の支援もしてほしい。高い税金を払っている割にはその恩恵を受けていない感じがする。
- 駅周辺バリアフリー化が遅れていると思います。どうか障がい者にやさしい街づくりを考慮してください。
- 医療体制を充実してほしい。

【安全・防災】

- 風俗店の削減を希望。
- 夜街灯が少ないため怖いです。
- 田んぼや畑の道を通学路として使っています。夜暗くなってからの帰宅は街灯が少なく暗く危険なので、通学路で使う道はできるだけ街灯をつけて頂きたい。
- 防犯カメラをもっと多くの場所に付けて欲しい。
- 厚木市は治安が悪い。安心安全で暮らせる街づくりを希望します！
- 本厚木駅前、一番街周辺、夜になると呼び込みの男性が多く、通行の妨げになっています。
- 空き家が多すぎる。雑草や不法投棄も多く、田畑を整備している人たちは良いとしても、ボロボロの家がそのままであったり、活用されていない場所が多すぎる。よって、町は暗く治安の悪さにも影響すると思う。
- 防犯、防災に関するメールが来ても、「どのようにどうなったか」犯人は逮捕されたとか結果メールがない。“ご協力ありがとうございました”ではないと思う。青のパトロール車に意味があるのか？実際に話をしても、乗車のみでPM5：15には市役所へ戻り、何を目的としているのかわからない。
- 災害時の支援の充実。
- 防災無線による放送が多すぎると思います。防災と人命保護のために、必要な場合に限って放送して欲しいです。
- 防犯、防災関係。非常時の対策。防災無線放送は、自宅（木造）在宅中全く聞き取れない。非常災害時など強風雨などの場合も含め放送は聞き取れない。個々の受信装置設置が必要です。
- 駅周辺に住んでいますが、ハザードマップにもある通り冠水してしまうのが懸念されます。最近、想像できないような自然災害が起きているので対応を検討していただきたいです。

【教育・生涯学習・文化・スポーツ】

- 部活動の朝練習を全校禁止してほしいです（中学生の睡眠時間確保の為）。中学校の給食がおいしくない、毎日しんどいと言っている。業者やレシピを変えて欲しいです。
- とりあえず全小学校、放課後に校庭を解放して下さい。それだけで子どもがあつまれる場所、あそべる場所ができて安心です。
- 学校への登校時に夏場は大きな水筒を持たせています。飲みきってしまったら冷たくない水道の水を入れるのが嫌というからです。なかなかの重さです。公立の小中学生は自販機で買うこともできないのでウォーターサーバーや製氷機などの導入を検討して欲しいです。
- 無料の語学講座などがあるといいなと思います。
- 広報に掲載されている催しや講座は、親子向けや平日開催の大人向けが多い。社会人対象に土日開催の講座があったらいいのにといいながらチェックしています。
- 厚木は他市と比べて、文化施設が不足しているように思う。図書館や美術館など文化交流を図れ、また、観光拠点になるような場所が駅の周辺に必要である。図書館を市役所

の方へ移設するという案も聞いたが、駅から離れるのは不便。今の場所で充実させてほしい。

- 映画館が欲しい。
- 若者が集まる町にしないと発展していかない。本厚木駅から徒歩で行ける多目的ホールや埼玉や横浜アリーナの様な施設を作って欲しい。格闘技や音楽ライブのビッグイベントをやって面白い町にしないとダメです。
- 現在プールの施設が少なすぎる。
- スポーツ施設が中途半端だと思う。国際レベルの競技会が出来ない。平塚や相模原まで行く必要がある。

【環境】

- 本厚木駅前に集まる鳥をどうにかしてほしい。
- 歩きタバコの取り締まりや注意喚起を強化してほしい。
- 公園でたばこを吸う大人と、遊ぶ子どもが混在している環境が気になる。
- 吸い殻やゴミ等が道端に捨てられており、土日など休みの日に外に出るとかなり目立ち、町の景観も損なっている。これらの対策を講じていただきたい。他都市では条例で禁止、罰金刑を科すなど例があるため参考にされたし。
- せっかくの道もポイ捨てのゴミが多く歩きにくかったり治安悪化などにもなるので罰則を強化してほしい。市民の皆さんにも持ち帰りの気持ちをしっかり身につけてほしい。
- 町の木々、緑を切り過ぎないでほしいです。街路樹は必要です。
- まだ緑が少ないので、緑を植えて、美しい町作りで空気が美味しい町であってほしいです。
- 自然は豊かであるが、雑草による花粉症の誘発もあり、可能な範囲で手入れを増やしていただくとありがたい。
- 公園、花壇の手入れが悪い。植え替えするだけで放りっぱなしなので草ボウボウ。
- 川沿いの草木が道をふさいでしまい散歩しにくい。
- 川沿いの道路脇の雑草の放置が酷く、視界が悪くなり事故の原因になりそうなところが多くあります。
- 河川増水時のあとの川の整備が不十分。ゴミ、石、砂、植物を取り除き増水をできるだけ避ける。下水道整備を。
- 本下水道への移行促進（浄化槽から流れる悪臭）。
- ごみ袋有料化反対。
- ごみの戸別収集促進。
- 資源センターへのゴミの持込を再開してほしい。
- 外国人移住者に対する住むための情報提供の充実。主に自治会の件やゴミ出しのルールなど。増えてきた外国人のゴミの不法行為が気になっています。
- 野良猫ゼロを目指して、地域猫にも優しい町づくりを。
- ペットブームなので、しつけ教室や散歩のマナー講座を開いたり、市民の交流の機会にもなる。ペットに優しい街というのもまちの魅力のひとつになると思います。

【観光】

- 七沢温泉があるが、日帰り温泉施設ではなく、食事も個人的には魅力的ではない。厚木市で七沢、飯山温泉があるが、集客力はどの程度なのだろうか？近いけどあまり行かない。箱根などに行くので、七沢なども充実していればもっと行きたい！
- 海老名は商業都市化していますが、逆に厚木は自然を生かした街にして誰でもホっとするような自然豊かな街をめざして下さい。週末は厚木で森林浴をして遊んでお風呂に入って帰る等、最高ではないでしょうか？
- もっとイベント的なこと（お祭り）など増やした方が良い。

【まちづくり】

- 本厚木駅周辺の商業施設の衰退が残念です。
- 本厚木駅周辺のビルやマンションの老朽化が目立つ。
- 本厚木駅前の遊興施設や客引きある飲食業はイメージとして良くないので規制すべきです。
- 駅前をロータリー化して、バス停があると良い（始発・終点がなゼイオン横なのか）。駅周辺がさみしい。映画館もない。
- 駅前を整備することは良いですが、マンションが多すぎです。住民としても、それによって経済が潤うかはわからないかと。
- 本厚木駅周辺の再開発について、バスセンターと駅前が遠すぎる。駅前の明るさや環境が良くない（パチンコ店やピンク産業の店ばかり）と考える。より良い再開発を望みます。
- 町の活性化を進める為、百貨店やデパートの誘致に力を入れていただきたいと思います。
- 買い物不便。駐車場に停めたら全ての買い物が済むショッピングモールが厚木にはない。市外に買い物に出ってしまうのは厚木市の経済的にもったいない気がします。パチンコ店が多いのもイメージが悪い。最近は倉庫ばかり建設されていて、ショッピングモールの建設を検討してほしい。
- アミューあつぎは立地の割に利用者が少ない認識。市で運用するより小田急電鉄などに任せの方が市民により良いサービスを提供できると思います。
- 厚木市には多々大学がありますが、なかなか卒業後厚木に住み続けてくれる学生が少ない様に感じます。今現在若い人達が遊べる場所や買物する場所が無い様に感じます。4年間で楽しかったと感じる事が出来ればもっと厚木に住みたいと思ってくれるのではと思います。
- 本厚木駅前再開発は、事業者ごと（建物単位）に行うのではなく、広範囲に一体性をもって行うこと（大型商業施設化）。本厚木駅前再開発は、高層マンションでなく商業施設を誘致すること。本厚木駅南口の一般車用ロータリー拡充。特に夕刻にあふれた車両が一般道内に待機しているため。
- 今の時代にあった街づくりを期待します。
- 厚木市にはレトロな部分も残して欲しい。味わいのある街であって欲しい。
- 学生街として、アカデミックな街並み作り、学生を主役とした生活感のある環境づくり、誘致等。

- ・厚木市は、自然豊かで飲食店が多いという、海老名市にはないよさがあると思います。そのよさを活かすまちづくりを期待しています。
- ・サイクリングコースなどもっと増やして明るい住みやすい街にしてほしいです。そうすればずっと住みたい街になるかもしれません。

【交通・道路】

- ・駐車がなすすぎ（有料高すぎ）。
- ・市役所移転に伴い本厚木駅前の駐輪場（バイク・自転車）の台数が不足しているので、代替場所を拡充すること。
- ・中央図書館に無料駐車場が無く、駅前以外に住む住民が気軽に図書館に行けない。車社会の住民が多いと思うので、整えて欲しいです。
- ・自転車走行に対しての指導を設ける機会があると嬉しい（子供から大人にかけて）。
- ・高齢者や児童の交通安全対策として、電動自転車やキックボードの走行ルールを見直して規制してほしい。一番街の歩行者天国の自転車通行は取り締まるべきです。
- ・土日のバスの終発を遅くして欲しい。
- ・厚木市内巡回バスが出来たらありがたいと思っています。
- ・バスが無ければ生活（通勤）できないのに便が悪くなる一方で困っています。本数の減少、混雑、運賃の大幅な値上げ。
- ・老人にバス無料券を発行してほしい。
- ・市内を歩く高齢者の為に、ベンチなど置いて欲しい。町の中にあると休めるという事を、よく耳にします。
- ・かなちゃん手形のICカード化（全国自治体の6割が高齢者カードをICカード化）。神奈中の子供ICカードを参考に行ってほしい。
- ・通勤時間帯の電車本数を増やす。相鉄線の本厚木乗り入れ。
- ・本厚木駅を中心にした放射状のバス路線だけでなく横の点を結んだバス路線（コミュニティバス）を充実して欲しい。
- ・横断歩道を増やしてもらいたい。歩行者を中心にした道路作りをお願いしたいです。
- ・道路の見直し、白線、道路表示が消えている場所がある。自転車など走りやすい町にしてほしい。
- ・歩道の幅を広くしてほしい。車イス等と人がすれちがえる位に。歩道の急な傾斜をなくしてほしい。車イス、ベビーカー、歩行補助用手押し車等が倒れそうになって危ない。
- ・歩道を整備（ガードレールの設置や街路灯の設置など）し、子供達が安全に通学できる道路を増やして欲しい。交通量が激しいところや暗い箇所などを見ると、不安を感じる時がある。
- ・交通混雑の解消に取り組んでほしい。
- ・厚木高校から水引交差点にかけての混雑が30年以上解消されていない。2車線化やバス専用レーンなど対策をしてほしい。
- ・街路樹が大きくなり、歩道が（木の根）ぼこぼこで歩きづらい。歩道に大きい木を植えないでほしい。毎年植木の剪定枝処分、厚木市経費のむだ使い。もっと節約して歩道の整備をして下さい。

- 物流が増え大型車輛が盛んに通行する様になり道路も傷諸々の問題がある。
- 自転車専用道路を整備してほしい。

【広報】

- 広報あつぎと公民館だよりは全戸に配布してほしい。
- ホームページが他の市に比べて見にくい。

【行政・その他】

- 市役所など、1ヶ所で全て済むような施設にしてほしい。厚木市はバラバラすぎて使いづらい。
- 市役所の移転に反対します。
- 公民館の有料化について、必要なことだと感じています。100～300円の少額でもいいので徴収することで、施設費の一部費用負担することで運営費の赤字補填につながれば良いと思う。固定費以上に活用してもらって環境整備も必要だが、公民館の体育館など、活用してきた人間として公民館は残してもらっていい方法を検討頂きたい。
- 中央図書館の本をキレイにしてトイレもキレイにしてほしいです。
- 小さな集まりで、部屋の予約が必要なく使えるフリースペースが公民館等にあると嬉しい。
- ドッグランのある公園を作ってもらいたい。
- 市民に平等に物価高騰に向けて補助金をお願いしたい。
- 市役所の待ち時間が長い。もう少し電子化や効率を上げてほしい。
- 住民票などの書類を時間外（20時頃まで）でも取れるようにしてほしい。
- 中心部から離れている人々に対する、行政サービスをもっと考えて欲しい。
- スマートフォンで市役所の待ち時間が確認できると良い。書類仕事はコンビニに移行して町づくり。
- 子育てに力を入れるのはもちろん重要ですが、経済的な理由で結婚できない、子供を持ってないといった課題があると聞いています。厚木で就労する若い方の所得が増えるような施策を期待します。まずは市役所の任用職員の方などで始められたらいかがですか。
- 企業誘致で法人税の確保。
- 住民税が高いが、何も恩恵を感じません。
- 議員の削減、あらゆる選挙資料のデジタル化。
- 選挙の際の投票所をできるだけ近い所に見直しを。
- 厚木市は選挙の投票率がきわめて低い。これは市政の今後を考えると危機的であると思われる。市民の政治参加を促すために、積極的な施策を求めたい。
- 市役所の職員に対して、対応の仕方が愛想の無い人がいたり、対応がきつい人がいる。わからない事だらけで役所に行くんだから、もう少し笑顔でやさしく教えて下さい！
- 市役所の対応への人材教育。
- 自治会脱会が多いので対策をお願い致します。
- 回覧板は廃止してほしいです。あまり意味なくムダです。自治会の集金もなくしてほしいです。

IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査 調査票（A）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n = 1, 446）

1 男性	46.0	3 その他	0.1
2 女性	51.7	4 答えたくない	1.3
		無回答	0.9

② 年齢を教えてください。（n = 1, 446）

1 20歳未満	1.4	4 40～49歳	14.9	7 70～79歳	21.4
2 20～29歳	7.8	5 50～59歳	17.6	8 80歳以上	9.7
3 30～39歳	10.5	6 60～69歳	15.8	無回答	0.9

③ 家族構成を教えてください。（n = 1, 446）

1 夫婦	28.1	4 親子孫（三世代）	4.5
2 親子（親との二世代）	12.7	5 単身	24.4
3 親子（子との二世代）	25.2	6 その他	3.5
		無回答	1.7

④ お住まいの地区はどちらですか。（n = 1, 446）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	11.3
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	6.2
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	7.4
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.5
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	3.7
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	8.9
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	3.9
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.3
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	5.7
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	17.9
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	4.6
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.4
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.6
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	1.9
15 森の里	3.5
	無回答 1.1

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,446)

1 持ち家(分譲マンション含む)	70.1	5 社宅・寮・官舎	2.6
2 民営借家	1.7	6 間借り	0.8
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	19.2	7 その他	1.7
4 公営住宅	2.7	無回答	1.3

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,446)

1 20年以上(生まれてからずっと)	23.2	5 5~9年	7.7
2 20年以上(移り住んで以来)	42.0	6 3~4年	4.5
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.8	7 2年以下	7.1
4 10~19年(移り住んで以来)	12.7	無回答	1.0

⑦ 職業を教えてください。(n=1,446)

1 会社員・公務員	33.9	4 パート・アルバイトなど	16.3	7 無職	23.5
2 自営業	6.1	5 学生	2.4	8 その他	3.7
3 農林業	0.3	6 専業主婦(主夫)	12.7	無回答	1.2

▶⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=851)

1 厚木市内	53.2	4 東京23区内	6.8	7 その他	5.6
2 横浜・川崎市内	6.3	5 その他の都内	1.1	無回答	1.6
3 その他の県内	22.3	6 自宅	2.9		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,446)

1 本厚木駅	77.7	3 海老名駅	6.0	5 その他	2.1
2 愛甲石田駅	10.0	4 厚木駅	0.7	無回答	3.5

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1	住み続けたい	47.0		
2	できれば住み続けたい	30.2		
3	できれば市外に移りたい	5.7		
4	市外に移りたい	2.6		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	12.9	無回答	1.6

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,117)

1	自然環境が良い	30.9	8	交通の便が良い	16.3
2	教育環境が良い	0.6	9	人間関係が良い	3.8
3	子育て環境が充実している	5.7	10	生まれ育ったところである	11.6
4	保健福祉施策が充実している	3.3	11	住み慣れて愛着がある	33.6
5	自分の家や土地がある	43.6	12	通勤・通学に便利である	4.3
6	仕事や学校の関係がある	10.2	13	その他	3.7
7	買物が便利である	13.0		無回答	0.1

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=120)

1	自然環境が良くない	5.8	7	買物が不便	34.2
2	教育環境が不十分	2.5	8	交通の便が悪い	44.2
3	子育て環境が不十分	5.0	9	人間関係が希薄である	7.5
4	保健福祉施策が不十分	8.3	10	通勤・通学に不便である	21.7
5	自分の家や土地でない	15.0	11	その他	22.5
6	仕事や学校の関係がない	8.3		無回答	0.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～⑩について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,446)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットエンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	44.6	31.4	26.2	33.6	4.7	22.6	8.0	3.0	12.1	4.6	25.2	6.1
②あなたが望む将来の厚木市	18.4	30.8	36.2	11.0	32.0	32.2	5.7	18.7	42.3	11.3	7.8	6.6

問5 感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。また、新たに取り組んだことはありますか。(それぞれ3つまで選んでください) (n=1,446)

① 心配・不安に思うこと		② 新たに取り組んだこと	
1	買い物や会食による感染リスク	41.1	
2	電車やバスの混雑による感染リスク	48.1	
3	変わらない働き方による感染リスク	9.9	
4	スポーツやイベントへの参加による感染リスク	17.8	
5	雇用や経済的なこと	31.2	
6	人との関わりが少なくなること	37.8	
7	その他	4.4	
8	特になし	15.4	
	無回答	1.5	
1	本格的な趣味(芸術・料理等)	12.6	
2	オンラインでの情報発信や交流	13.8	
3	資格取得やスキルアップの勉強	7.3	
4	日常生活に関わること(家の修繕等)	18.4	
5	キャッシュレス決済やネットショッピング	31.1	
6	自宅でのエクササイズやジョギングなど	19.4	
7	その他	8.8	
8	特になし	36.4	
	無回答	3.0	

問6 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n=1,446)

1	産前産後の育児や家事などの支援の充実	49.7
2	親のリフレッシュの場や機会の提供	27.7
3	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	13.5
4	子育て支援センター「もみじの手」の充実	14.3
5	子育て相談体制の充実	28.0
6	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	42.5
7	新たな認可保育所の整備	18.0
8	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	33.9
9	特別支援教育・保育の充実	18.8
10	事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	29.5
11	放課後児童クラブ(学童保育)の充実	32.3
12	子どもの貧困対策の充実	36.9
13	その他	9.3
	無回答	6.6

問7 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会(地域包括ケア社会)の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n=1,446)

1	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	10.2
2	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	34.4
3	住民が気軽に集える居場所づくり	24.3
4	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	12.9
5	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	65.0
6	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	44.6
7	介護や福祉の公的サービスの充実	43.8
8	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	27.0
9	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	24.3
10	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	22.8
11	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	25.4
12	病院や介護施設などの充実	34.2
13	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	12.1
14	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	30.9
15	その他	3.5
	無回答	1.6

問 8 がん検診を受診していますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1 厚木市のがん検診を受診している	28.6
2 人間ドックで「がん検診」を受診している	9.6
3 職場や学校の健康診査で「がん検診」を受診している	14.9
4 受診していない	45.6
無回答	1.3

問 9 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1 積極的な相談事業の展開	31.5
2 啓発事業の推進 (広報・キャンペーン)	5.9
3 自殺のサインに気付く役割を担う人材 (ゲートキーパー) の育成	24.8
4 関係機関等との連携の強化	13.3
5 特に有効な対策はない	21.5
無回答	2.9

問 10 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1 かかりつけの医院や診療所	65.4	3 特に決まっていない	27.7
2 総合病院などの大きな病院	6.1	4 その他	0.4
		無回答	0.3

問 11 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1 ある	20.5	2 ない	78.0	無回答	1.5
------	------	------	------	-----	-----

問 12 どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 446)

1	女性	28.4
2	子ども	20.4
3	高齢者	29.0
4	障がいのある人	44.2
5	同和問題(部落差別)	7.7
6	アイヌの人々	5.4
7	外国人	18.0
8	感染症	17.1
9	ハンセン病患者等	4.8
10	刑を終えて出所した人	10.2
11	犯罪被害者等	12.0
12	インターネットによる人権侵害	39.1
13	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	13.6
14	ホームレス	12.2
15	性的少数者(恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)	15.1
16	人身取引	8.9
17	震災等に起因する人権問題	13.1
18	関心が無い	10.4
	無回答	5.1

問 13 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 446)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	33.2	7	海外友好都市等との交流	11.1
2	外国籍市民との交流促進	21.2	8	外国の大学・企業等の誘致	7.6
3	青少年海外研修の推進	9.0	9	多文化理解を推進する講座等の開催	6.7
4	学校・社会教育での意識の醸成	36.2	10	市内企業の国際活動の支援	6.2
5	多言語による行政情報等の提供	11.7	11	新たな海外友好都市の締結	2.5
6	外国籍市民との活動場所の提供	12.9	12	その他	6.4
				無回答	5.7

問 14 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 446)

1	家庭・学校・地域との連携に向けた取組	15.5	6	教員の働き方改革に向けた取組	15.2
2	家庭での教育力の向上に向けた取組	4.7	7	教員の指導力向上に向けた取組	10.4
3	学力の向上に向けた取組	4.6	8	いじめ、暴力行為などの対応	22.8
4	体力の向上に向けた取組	3.6	9	不登校などの対応	5.7
5	子どもの規範意識の醸成に向けた取組	10.0	10	その他	3.5
				無回答	4.0

問 15 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 446)

1	文化会館での鑑賞機会の充実	26.6
2	活動発表の機会の充実	17.6
3	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	31.5
4	施設の整備	26.5
5	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	27.0
6	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	11.5
7	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	12.7
8	その他	4.6
	無回答	5.3

問 16 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 446)

1	参加する時間がない	28.0	5	参加したい講座等がない	16.9
2	学習機会に関する情報がない	15.2	6	特に支障はない	14.0
3	学習しても成果をいかす場がない	5.7	7	その他	9.4
4	一緒に学ぶ仲間がいない	5.7		無回答	5.0

問 17 運動（スポーツ）をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。

(①～⑤について、それぞれ1つだけ選んでください) (n = 1, 446)

	ほぼ毎日	週 3～4回	週 1～2回	月 1～3回	して いない	その他	無回答
(記入例) ① 健康管理	1	2	③	4	5	6	
① 健康管理	14.2	10.7	20.1	11.1	33.2	2.8	7.9
② 趣味	5.7	6.0	12.9	14.0	45.3	2.6	13.4
③ 競技	0.7	0.8	2.6	3.6	74.7	1.9	15.7
④ 習い事	0.7	1.1	3.9	4.3	73.2	2.1	14.7
⑤ ①～④以外の目的	2.6	1.5	2.7	3.4	58.3	5.1	26.3

問 18 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 446)

1	個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室	30.8
2	有名選手の講演会	17.4
3	スポーツ観戦	37.5
4	参加・体験型	30.6
5	競技型	5.3
6	パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験	8.5
7	その他	12.1
	無回答	8.2

問 19 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 446)

1	駐車場の整備などの交通利便性の向上	35.6
2	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	22.1
3	食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成	28.1
4	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	12.4
5	四季折々のイベントの開催	18.9
6	温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備	17.4
7	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	20.8
8	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	4.7
9	スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	5.8
10	外国人旅行客向け観光プランの充実	5.1
11	観光ガイドなどの人材の育成	3.0
12	その他	4.0
	無回答	3.7

問 20 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 446)

1	パソコン	50.6	4	その他	5.3
2	スマートフォン（携帯電話含む）	85.5	5	利用していない	6.8
3	タブレット型端末	24.1		無回答	2.2

問 21 厚木市の情報を主に何から入手していますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 446)

1	広報あつぎ(紙)	64.7	8	回覧板	17.2
2	市のホームページ	20.8	9	ラジオ	0.8
3	その他のウェブサイト	10.4	10	ケーブルテレビ	6.1
4	市の公式 SNS	4.9	11	新聞(日刊紙)	3.5
5	デジタルサイネージ(電子看板)	0.3	12	タウン誌・ミニコミ誌	12.0
6	公民館だより	12.2	13	その他	8.1
7	パンフレット・チラシ・ポスター	7.6		無回答	2.4

問 22 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設(公民館など)がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 446)

1	施設の利用者と未利用者における負担の公平性(受益者負担)を考慮して有料化した方が良い	15.2
2	施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い	18.5
3	施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い	20.7
4	有料化する必要はない	41.9
	無回答	3.7

問 23 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 446)

1	パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備	47.0
2	個人情報保護など情報セキュリティの確保	43.3
3	パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実	7.5
4	スマートフォンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実	17.2
5	インターネットなどを活用した地域活性化の促進	17.6
6	ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	19.3
7	その他	7.7
	無回答	5.5

問 24 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,446)

1	少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し	47.6
2	民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進	8.9
3	事業の民間委託の推進	3.7
4	事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加	14.9
5	近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進	6.6
6	分からない	13.1
	無回答	5.1

問 25 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,446)

1	公園	15.1	15	美術館	9.9
2	子育て広場	9.8	16	博物館	2.4
3	スポーツ施設	15.2	17	科学館	3.5
4	公民館・地区市民センター	3.7	18	植物園	6.2
5	児童館	1.5	19	動物園	5.6
6	図書館	9.4	20	水族館	6.8
7	老人憩の家	5.9	21	遊園地	5.0
8	老人ホーム	15.4	22	市民農園	4.1
9	病院・診療所	12.7	23	地場農産物直売所	11.7
10	霊園	3.0	24	百貨店・スーパー	28.0
11	葬祭場	1.5	25	ホテル	1.5
12	音楽・演劇等ホール	12.2	26	駐車場・駐輪場	15.1
13	音楽・演劇等専用練習場	2.4	27	大型備蓄倉庫	6.3
14	映画館	24.5	28	その他	7.3
				無回答	4.1

問 26 この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 446)

1	市役所	71.2	17	ぼうさいの丘公園	23.0
2	文化会館	17.7	18	厚木中央公園	18.3
3	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)	32.4	19	荻野運動公園	24.3
4	市民交流プラザ(アミューあつぎ5~7階)	13.0	20	あつぎこどもの森公園	2.8
5	子育て支援センター「もみじの手」	2.4	21	その他の公園	11.4
6	市立病院	22.8	22	スポーツセンター(東町・猿ヶ島・南毛利)	7.5
7	保健福祉センター	18.0	23	野球場(厚木・玉川)	1.0
8	子ども科学館	3.7	24	及川球技場	3.9
9	中央図書館	18.3	25	青少年・スポーツ広場	1.8
10	老人福祉センター寿荘	4.6	26	小・中学校の体育館または校庭	4.5
11	あつぎ郷土博物館	6.0	27	市営水泳プール	1.7
12	公民館・地区市民センター	24.5	28	テニスコート(厚木・若宮公園)	
13	老人憩の家	4.4	29	環境センター	10.0
14	児童館	4.2	30	ふれあいプラザ	0.0
15	七沢自然ふれあいセンター	4.6	31	その他	1.9
16	情報プラザ	1.2	32	利用したことがない	7.1
				無回答	2.5

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査 調査票（B）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n=1,413）

1 男性	44.0	3 その他	0.1		
2 女性	54.3	4 答えたくない	0.6	無回答	1.0

② 年齢を教えてください。（n=1,413）

1 20歳未満	1.4	4 40～49歳	14.1	7 70～79歳	20.1
2 20～29歳	7.6	5 50～59歳	18.3	8 80歳以上	11.6
3 30～39歳	10.5	6 60～69歳	15.4	無回答	1.1

③ 家族構成を教えてください。（n=1,413）

1 夫婦	29.9	4 親子孫（三世代）	4.2		
2 親子（親との二世代）	13.0	5 単身	24.3		
3 親子（子との二世代）	24.6	6 その他	2.8	無回答	1.1

④ お住まいの地区はどちらですか。（n=1,413）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	11.7
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	7.2
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	7.9
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.3
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.8
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	8.1
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	4.0
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	10.3
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.5
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.6
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	4.3
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.4
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.2
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.0
15 森の里	3.5
	無回答 1.1

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,413)

1 持ち家(分譲マンション含む)	73.6	5 社宅・寮・官舎	2.0
2 民営借家	1.8	6 間借り	0.7
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	17.6	7 その他	1.5
4 公営住宅	1.8	無回答	1.1

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,413)

1 20年以上(生まれてからずっと)	24.7	5 5~9年	6.9
2 20年以上(移り住んで以来)	43.9	6 3~4年	3.8
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.9	7 2年以下	6.7
4 10~19年(移り住んで以来)	11.2	無回答	0.8

⑦ 職業を教えてください。(n=1,413)

1 会社員・公務員	33.1	4 パート・アルバイトなど	16.3	7 無職	25.5
2 自営業	6.2	5 学生	2.5	8 その他	2.5
3 農林業	0.3	6 専業主婦(主夫)	12.7	無回答	0.9

▶⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=825)

1 厚木市内	55.8	4 東京23区内	9.0	7 その他	4.1
2 横浜・川崎市内	5.8	5 その他の都内	1.2	無回答	1.5
3 その他の県内	19.4	6 自宅	3.3		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,413)

1 本厚木駅	76.5	3 海老名駅	6.9	5 その他	2.7
2 愛甲石田駅	11.2	4 厚木駅	0.5	無回答	2.3

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1	住み続けたい	50.1		
2	できれば住み続けたい	27.3		
3	できれば市外に移りたい	5.6		
4	市外に移りたい	2.8		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	13.0	無回答	1.2

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,094)

1	自然環境が良い	28.0	8	交通の便が良い	15.6
2	教育環境が良い	0.6	9	人間関係が良い	5.0
3	子育て環境が充実している	5.2	10	生まれ育ったところである	11.6
4	保健福祉施策が充実している	3.4	11	住み慣れて愛着がある	33.9
5	自分の家や土地がある	47.8	12	通勤・通学に便利である	4.6
6	仕事や学校の関係がある	10.0	13	その他	3.6
7	買物が便利である	11.3		無回答	0.3

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=119)

1	自然環境が良くない	3.4	7	買物が不便	30.3
2	教育環境が不十分	2.5	8	交通の便が悪い	42.0
3	子育て環境が不十分	1.7	9	人間関係が希薄である	8.4
4	保健福祉施策が不十分	7.6	10	通勤・通学に不便である	15.1
5	自分の家や土地でない	13.4	11	その他	22.7
6	仕事や学校の関係がない	1.7		無回答	0.8

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～⑩について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,413)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	43.7	30.7	27.4	36.4	4.5	23.5	9.0	4.2	13.7	3.8	24.5	5.9
②あなたが望む将来の厚木市	18.0	33.0	38.2	10.3	31.8	32.8	5.7	18.2	43.2	11.0	8.0	6.2

問5 感染症の影響下において、心配・不安に思うことはありますか。また、新たに取り組んだことはありますか。(それぞれ3つまで選んでください) (n=1,413)

③ 心配・不安に思うこと		④ 新たに取り組んだこと	
1	買い物や会食による感染リスク	41.6	
2	電車やバスの混雑による感染リスク	47.1	
3	変わらない働き方による感染リスク	11.7	
4	スポーツやイベントへの参加による感染リスク	16.9	
5	雇用や経済的なこと	30.6	
6	人との関わりが少なくなること	36.9	
7	その他	4.4	
8	特になし	15.6	
	無回答	1.7	
1	本格的な趣味(芸術・料理等)	13.1	
2	オンラインでの情報発信や交流	12.7	
3	資格取得やスキルアップの勉強	7.2	
4	日常生活に関わること(家の修繕等)	18.9	
5	キャッシュレス決済やネットショッピング	27.7	
6	自宅でのエクササイズやジョギングなど	23.0	
7	その他	9.1	
8	特になし	35.7	
	無回答	3.1	

問6 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1 大変良くなった	2.8	4 悪くなった	13.2
2 良くなった	19.3	5 大変悪くなった	2.5
3 変わらない	29.4	6 分からない	31.5
		無回答	1.2

問7 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	30.1
2 防犯カメラの設置	42.1
3 道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす	18.4
4 地域住民等によるパトロール	4.4
5 広報等により市民に防犯を呼びかける	0.7
6 その他	2.5
	無回答 1.8

問8 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに、関心がありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1 とても関心がある	12.3	4 関心がない	5.2
2 少し関心がある	41.0	5 どちらともいえない	22.0
3 あまり関心がない	17.2	無回答	2.3

問9 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加したいと思いませんか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1 すでに参加している	6.5	3 将来的には参加したい	17.1
2 機会があれば参加したい	19.4	4 参加は考えていない	55.2
		無回答	1.8

問 10 いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。
また、どのような応急手当ができますか。

(①～②について、いくつでも選んでください) (n=1,413)

	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	AED(自動体外式除細動器)の使用	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
(記入例) ① 身に付ける必要がある応急手当	①	2	③	4	⑤	6	<input checked="" type="checkbox"/>	
① 身に付ける必要がある応急手当	54.9	53.9	55.8	62.7	32.5	4.7	<input checked="" type="checkbox"/>	7.1
② 実行できる応急手当	33.4	15.9	26.8	27.9	15.4	3.5	35.3	7.7

問 11 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,413)

1 再生可能エネルギーの普及拡大	55.1	5 森林等の保全・創出	40.9
2 省エネルギーの推進	31.5	6 情報提供と環境教育の充実	12.0
3 自動車の利用抑制	9.3	7 その他	4.3
4 循環型社会の構築	22.4	無回答	2.5

問 12 資源とごみの分別を意識していますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1 意識している	68.2	3 あまり意識していない	2.5
2 おおむね意識している	27.7	4 意識していない	0.7
		無回答	0.9

問 13 ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要であると思いますか。
 (2つまで選んでください) (n = 1, 413)

1	家庭での資源とごみの分別の徹底	59.3
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	31.1
3	販売店の過剰包装の削減	35.0
4	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	20.3
5	小・中学校における環境学習の充実	11.1
6	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	7.9
7	生ごみ処理機等の購入	10.2
8	出前講座等の実施	0.6
9	その他	4.3
	無回答	2.1

問 14 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。
 (1つだけ選んでください) (n = 1, 413)

1	自然環境に配慮した河川整備	41.6
2	水辺の自然を楽しめる親水施設の整備	18.1
3	河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組	16.9
4	河川堤防を活用した遊歩道の整備	17.4
5	その他	3.3
	無回答	2.7

問 15 まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑱について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。(n=1,253)

	5年前と比べ			
	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
(記入例) ① 子育てへの支援	①	2	3	
① 子育てへの支援	45.2	38.2	1.1	15.5
② 福祉サービスの充実	24.7	57.7	3.2	14.4
③ 災害に強い都市環境	16.0	67.5	1.9	14.5
④ 地域の防災対策	15.7	67.3	2.8	14.2
⑤ 自転車の安全な利用	10.3	59.4	17.1	13.2
⑥ 犯罪や非行の防止	11.3	63.1	11.7	13.9
⑦ 健康増進の対策や支援	21.1	62.4	1.7	14.8
⑧ 生涯学習・文化芸術活動の場と機会	12.1	69.0	3.5	15.4
⑨ スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	13.0	67.2	4.2	15.6
⑩ カーボンニュートラルへの取組	9.4	71.3	1.6	17.6
⑪ 河川など水辺空間の活用	9.9	70.2	4.7	15.2
⑫ 公園や自然環境など緑の空間	19.6	59.6	6.6	14.1
⑬ 市街地のユニバーサルデザイン(※)化 (※)誰もが使いやすい機能や空間にすること	10.7	68.9	4.9	15.6
⑭ 安全な道路整備	17.6	61.8	7.2	13.4
⑮ 交通混雑の緩和対策	10.5	59.3	16.8	13.4
⑯ 企業・商業の活性化	6.7	53.6	25.5	14.2
⑰ 地域資源を活用した観光振興	6.6	69.4	8.5	15.4
⑱ 市民協働の推進	6.7	72.1	4.6	16.5
⑲ 行政サービスの情報化	18.0	61.8	5.7	14.5

問 16 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ1つだけ選んでください) (n = 1, 413)

		自宅周辺	本厚木駅周辺	愛甲石田駅周辺	その他厚木市内	近隣市	横浜市内	東京23区内	インターネット	その他	利用しない	無回答
(記入例) ① 食料品		1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	
店舗	① 食料品	57.3	15.6	0.7	15.8	5.5	0.0	0.1	0.6	0.8	0.4	3.2
	② 外食	19.2	26.4	1.0	20.0	12.0	0.7	2.0	0.4	2.1	10.5	5.9
	③ 日用衣料品・雑貨	27.3	21.9	0.4	19.0	16.2	0.8	0.8	7.1	1.8	0.5	4.2
	④ 高級衣料品・装飾品	1.5	9.7	0.1	4.7	15.6	10.5	12.7	7.9	2.5	27.5	7.2
	⑤ 電気製品・家具・趣味用品	17.8	14.0	0.1	28.6	11.9	0.9	1.7	16.8	1.6	1.5	5.1
施設	⑥ 病院・診療所	41.3	17.3	2.0	25.5	6.7	0.4	0.8	0.0	1.1	1.6	3.5
	⑦ 郵便局・金融機関	48.5	25.4	2.3	14.2	2.3	0.1	0.3	1.6	0.6	1.1	3.8
	⑧ 幼稚園・保育所	14.4	2.2	0.4	4.5	0.8	0.1	0.0	0.0	0.6	62.7	14.3
	⑨ 福祉・介護施設	12.7	5.2	0.5	8.6	0.6	0.1	0.0	0.1	0.6	60.5	11.2
	⑩ 公園・スポーツ施設	26.2	6.2	0.3	17.9	4.0	0.2	0.4	0.0	1.1	35.0	8.8
	⑪ 趣味・習い事	12.2	11.0	0.4	11.1	5.1	0.5	2.0	2.1	2.9	43.3	9.6

問 17 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n = 1, 413)

1 飲食店	42.7	8 市役所などの行政窓口	28.9
2 食料品など日常的な買い物をする施設	70.8	9 郵便局や銀行	49.8
3 コンビニエンスストア	44.4	10 図書館(図書室)	13.8
4 大型の商業施設	22.9	11 スポーツ施設	12.6
5 病院・診療所	60.2	12 公民館や集会施設	12.0
6 デイサービスなどの福祉・介護施設	15.0	13 その他	5.4
7 幼稚園・保育所などの子育て関連施設	10.0	無回答	3.2

問 18 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どのように感じますか。

（①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください）（n = 1, 413）

（記入例）① 活気	ある	普通	ない	無回答
① 活気	ある 16.8	普通 49.3	ない 28.4	5.5
② 明るさ・清潔感	ある 12.9	普通 60.1	ない 22.0	5.0
③ 駐車場	多い 10.8	普通 51.2	少ない 33.0	5.1
④ 駐輪場	多い 6.0	普通 53.0	少ない 34.0	7.0
⑤ 商店（飲食店等）	多い 21.2	普通 55.2	少ない 18.0	5.6
⑥ マンション（住宅）	多い 38.1	普通 50.3	少ない 5.3	6.2
⑦ 緑	多い 7.2	普通 41.3	少ない 46.7	4.7
⑧ 歩道の整備	良い 10.6	普通 60.5	悪い 23.6	5.2
⑨ 治安	良い 5.6	普通 60.9	悪い 28.1	5.4
⑩ 交通混雑の状況	良い 1.9	普通 51.0	悪い 42.2	5.0

問 19 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

（3つまで選んでください）（n = 1, 413）

1 知人・友人とおしゃべりをする	29.7
2 夫婦や恋人同士でデートをする	11.3
3 ゆっくり自分だけの時間を過ごす	33.5
4 おいしい料理を楽しむ	47.6
5 買い物を楽しむ	52.5
6 コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	10.6
7 個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	6.5
8 市民活動に参加する	1.3
9 公園などで緑を眺めリラックスする	17.6
10 運動やスポーツをする	10.3
11 絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	9.3
12 その他	10.3
	無回答 4.7

問 20 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,413)

1	中心市街地の整備による活性化	51.0	6	身近な公園や緑地の整備	27.7
2	魅力ある都市景観の創造	26.6	7	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	21.6
3	インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり	13.4	8	優良な農地の保全と有効利用	12.2
4	良好な住環境の保全	42.1	9	幹線道路の計画的な整備	20.9
5	豊かな自然環境の保護	27.9	10	その他	4.7
				無回答	5.0

問 21 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1	自家用車	39.6	3	タクシー	1.0	5	バイク	1.3	7	徒歩	17.6
2	バス	26.5	4	電車	2.7	6	自転車	8.6		無回答	2.7

問 22 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,413)

1	店舗等の専用駐車場	28.2	5	民間のコインパーキング等時間貸し駐車場	15.6
2	厚木中央公園地下駐車場	4.0	6	自動車で行かない・駐車場を利用しない	27.2
3	中町立体駐車場	13.9	7	その他	4.2
4	民間の月極駐車場	0.8		無回答	5.9

問 23 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n=1,413)

1	鉄道との乗り継ぎの向上	20.2
2	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	22.5
3	バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))	34.0
4	運行本数の増加	29.4
5	コミュニティバスなどの運行	29.4
6	運賃の見直し	19.4
7	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	11.0
8	始発、終発の見直し	11.2
9	運行ルートの見直し	11.9
10	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	7.1
11	料金、行先案内等の明確化	8.5
12	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置)事業の推進	6.4
13	特になし	11.1
		無回答 4.2

問 24 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 413)

1	混雑がひどい	47.5	7	歩道が少なく、安心して歩けない	32.8
2	混雑が改善されてきた	10.0	8	未舗装道路が多い	5.5
3	バリアフリー化が進んできた	3.8	9	舗装状態が良くない	23.1
4	よく整備されている	8.3	10	降雨時に冠水する	11.5
5	道路の幅が狭い	36.6	11	その他	6.4
6	工事が多い	14.0		無回答	5.9

問 25 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 413)

1	混雑解消（交差点の改良等）	56.8
2	バリアフリー化の更なる推進	19.7
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	15.6
4	生活道路を中心とした道路の拡幅	34.1
5	歩道の設置	39.9
6	未舗装道路の舗装整備	9.6
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	28.2
8	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	16.6
9	街路灯・カーブミラー等の整備	34.9
10	騒音等の環境対策	12.3
11	高速道路の整備	2.7
12	バス等の公共交通機関への支援	25.1
13	道路景観の改善	5.6
14	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	8.4
15	冠水対策	16.8
16	その他	4.1
	無回答	4.7

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査報告書

令和6年1月

発行 厚木市

企画・編集 厚木市広報課

〒243-8511 厚木市中町三丁目17番17号

電話 046(225)2043

調査協力 株式会社エスピー研

工事請負契約の締結について

番 号	1
契 約 の 目 的 (工 事 名)	都市計画道路酒井長谷線街路整備工事 (継続費)
工 事 場 所	厚木市愛甲東3丁目及び酒井地内
契 約 の 相 手 方 (請 負 人)	厚木市飯山南5-18-3 愛甲建設(株) 代表取締役 井上 敏郎 様
契 約 金 額	97,735,000 円
契 約 日	令和5年12月5日
履 行 期 限	令和6年11月29日

番号：1

1 契約の目的（工事名）
都市計画道路酒井長谷線街路整備工事（継続費）

2 工事概要

工事延長	L=193.8m
(1) 土工	一式
(2) 舗装工（車道）	A=1,970m ²
(3) 舗装工（歩道）	A=936m ²
(4) 擁壁工	L=290.2m
(5) 排水工	一式
(6) 管布設工	L=160.2m
(7) 組立1号マンホール工	N=4箇所
(8) 付帯工	一式

3 契約方法

条件付一般競争入札

4 開札結果（開札日：令和5年11月22日）

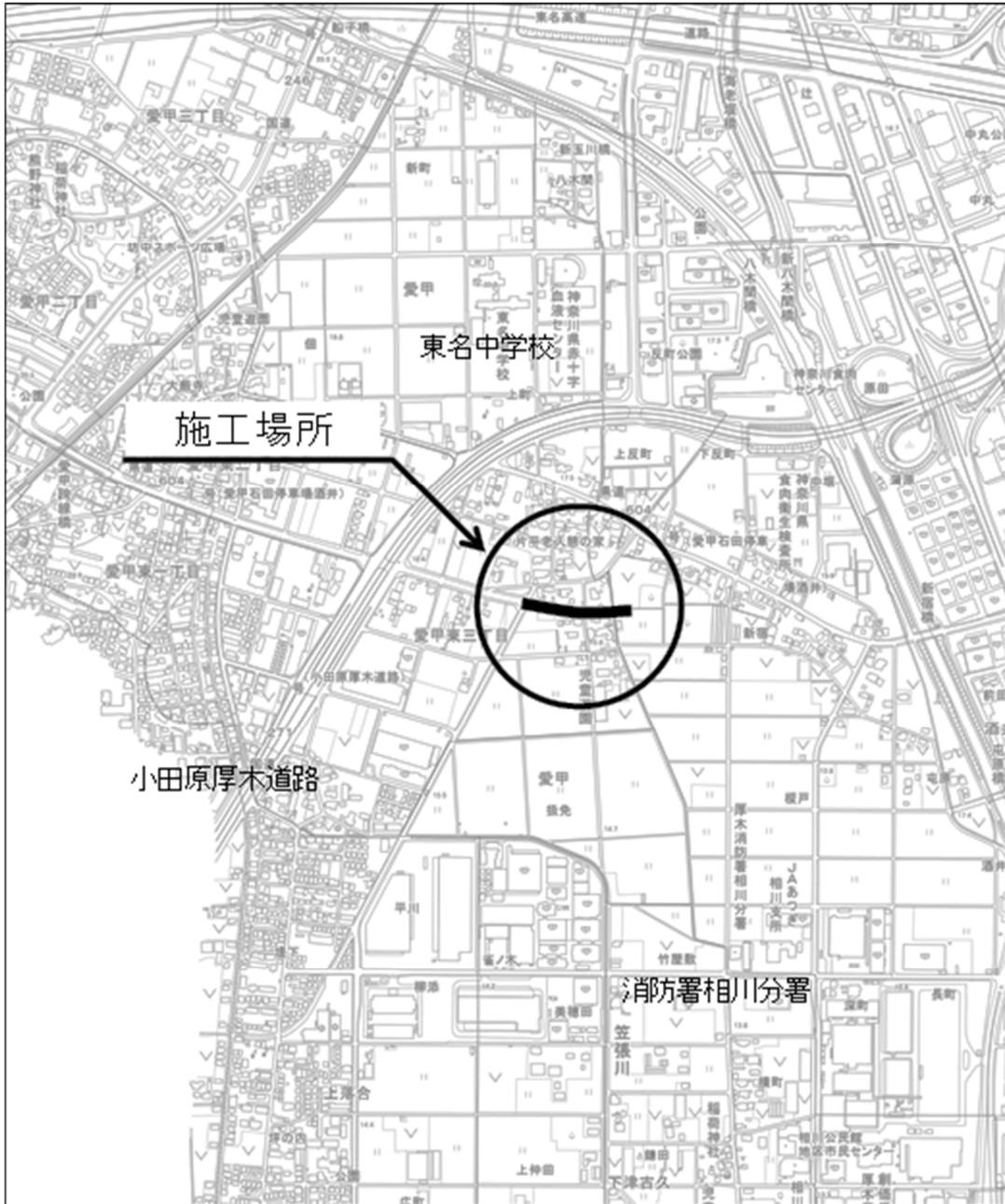
番号	業者名	入札価格（単位：円）		備考
		第1回目	第2回目	
1	愛甲建設（株）	88,850,000		落札 97,735,000
2	（株）成和	88,850,000		
3	（株）清川産業	88,850,000		
4	（株）安藤組	辞退		
5	国土開発工業（株）	辞退		
6	（株）厚木植木	不参		
7	（株）前里興業	不参		

※ 予定価格（消費税抜き）は、97,350,000円。最低制限価格（消費税抜き）は、88,850,000円。落札価格（97,735,000円）は、入札価格（88,850,000円）に消費税額（8,885,000円）を加算した金額です。

※ 入札価格が3者同額のため、くじ引きにより決定しました。

都市計画道路酒井長谷線街路整備工事（継続費）

位置図



E V（電気自動車）及びE Vインフラ普及促進に係る協定の締結について

1 概要

自動車による二酸化炭素排出量の削減に向けて、E V関連充電インフラを整備し、市内へのE V普及を促進するため、民間・公共を問わず、市内の施設に対し無償でE V充電器を設置する協定を Terra Motors 株式会社と締結しました。

2 協定締結日

令和6年1月16日

3 事業内容

市が市内に向けてE V充電器の設置を希望する民間施設を募るとともに、設置に適した公共施設を選定し、民間施設及び市は Terra Motors 株式会社と個別に設置に係る契約を締結します。

E V充電器は、国補助金を活用し、無償で設置され、充電費用は利用者（充電者）が負担します。施設や店舗等は来場、来店者へのサービス向上につながるができるほか、市全体としてE V充電器の設置数を増やすことでE V利用者の利便性の向上を図ります。

4 対象施設

- (1) 設置を希望する民間施設（スーパー、ホテル、旅館、ゴルフ場等）
- (2) 公共施設（利用者が長時間滞在する施設を対象として検討）

5 事業のメリット

E V充電器設置に対する国の補助金が充実し、無償設置のサービスが展開されている現在が設置の好機ですが、設置希望者が自ら設置事業者を探し、又はサービスの比較をすることはハードルが高く、設置の阻害要因になっています。

そのため、市が基本的なサービスの仕組みを周知し、Terra Motors 株式会社につなぐことで、設置を検討している事業者の負担を軽減することができるほか、新たに設置を検討する事業者が連鎖的に増えることを期待しています。

【イメージ図】

(1) 民間施設に設置する場合



(2) 公共施設に設置する場合



EVをもっと身近に



EV充電インフラ導入実績No.1 完全無料のEV充電インフラ設置

<Terra Charge の強み>

**完全無料で
EV充電インフラ設置**

→導入もランニングコストも無料！※実質電気代も還元させていただきます

導入実績No.1で安心

→自宅で使えるマンション、商業施設、オフィス、ホテルなど全方位で導入が進んでいます

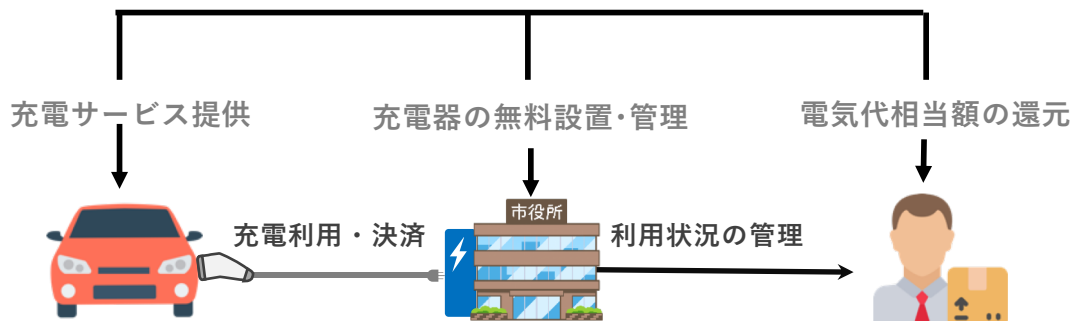
補助金取得率No.1で安心

→補助金申請において圧倒的なシェアを獲得！
補助金専属チーム・全国工事ネットワークにより申請取得率が非常に高いです

サービス提供イメージ



TERRA MOTORS



導入実績例



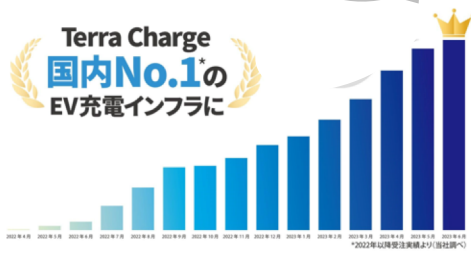
自治体様



実績

受注実績

受注数
約5,000基
突破

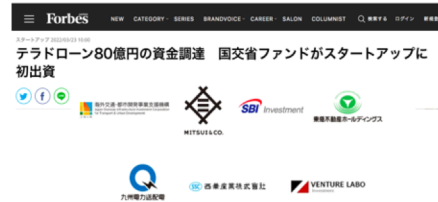


資金調達



地方自治体での導入実績も多数

47都道府県252自治体で導入予定



グループ創業者 徳重徹



1970年生まれ山口県出身、九州大学工学部卒。住友海上火災保険株式会社(当時)にて商品企画・経営企画に従事。退社後、米Thunderbird経営大学院にてMBAを取得し、シリコンバレーにてコア技術ベンチャーの投資・ハンズオン支援を行う。2010年にEV事業を展開するテラモーターズを起業、アジアを中心に年間3万台のEVを販売する事業に育て上げる。その後、2016年にはドローン事業を展開するテラドローンを設立し、世界で勝てる事業の創出へ挑んでいる。

Terra Motors株式会社

設立 2010年4月
資本金 32億円(資本準備金含む)
事業内容 EV充電インフラ事業
e-Mobility事業
金融サービス事業
Connected e-Mobilityプラットフォーム事業
従業員数 220名(2022年10月時点)
海外拠点 インド、ネパール、台湾



株主



村井 勝
元初代コンパック社長
COMPAQ



辻野 晃一郎
Google日本法人
元代表取締役社長
Google



山元 賢治
アップル・ジャパン
元代表取締役社長
Apple



Terra Motors株式会社
お問い合わせはこちら➡



080-3476-7294(担当:酒井)
jichitai@terramotors.co.jp



あつぎ郷土博物館 開館5周年記念

令和6年

1/28日～2/25日

会場 / あつぎ郷土博物館

問合せ

あつぎ郷土博物館

【開館時間】9:00～17:00 (16:30以降は入館できません)

【休館日】1月29日◎

〒243-0206 神奈川県厚木市下川入1366番地4 TEL.046-225-2515 e-mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp



あつぎ郷土博物館 開館5周年記念

令和6年 1/28(日)～2/25(日)

1 5周年記念セレモニー

申込み不要
当日先着順

令和6年 1月28日(日) 10:45～

内容 相模里神楽垣澤社中の公演

演目 寿式三番叟、寿獅子等



2 渡辺華山講座

要予約
抽選

令和6年 1月28日(日) 13:30～15:30

題目 渡辺華山ベスト10

一饒舌館長口演すー

講師 河野 元昭 氏

(静嘉堂文庫美術館館長、東京大学名誉教授)



3 夕闇ミュージアム

申込み不要
当日先着順

令和6年 2月3日(土) 16:30～18:00

内容 企画展「火の用心」の解説と
灯火具への点灯と説明

講師 加藤 芳明 氏 (厚木市史編さん委員会委員、
担当学芸員)

※当日博物館の見学は19:00まで



4 触れて感じる新しい博物館体験講座

要予約
抽選

令和6年 2月10日(土) 14:00～15:30

題目 (仮題)「ユニバーサルミュージアム」と
「ハンズオン展示」

講師 広瀬 浩二郎 氏 (国立民族学博物館教授)

※当日は実際にさわられる資料を展示します。

5 考古学お菓子作りワークショップ

要予約
抽選

令和6年 2月12日(月祝)

10:00～12:00 / 14:00～16:00

内容 考古学を題材としたお菓子作り体験

講師 ヤミラ 氏 (お菓子作り考古学者)

6 博物館資料上映会

申込み不要

令和6年 2月17日(土)

11:00～12:00 / 14:00～15:00

内容 厚木市制10周年記念映像や
令和3年度寄贈資料であるJR相模線及び
三保ダムの動画上映会

7 毛利氏講座

要予約
抽選

令和6年 2月25日(日) 14:00～16:00

題目 (仮題) 鎌倉時代毛利氏を中心に

講師 岩田 慎平 氏 (愛川町郷土資料館学芸員)

●会場：あつぎ郷土博物館 体験学習室 ほか

●定員：60人、5は8組

●申込方法

1 3 6 は、事前申込み不要、当日先着順になります。

2 4 5 7 は、講座の10日前までに、あつぎ郷土博物館の窓口、
電話又は講座予約システムにお申し込みください。抽選になります。
受講の可否は、回ごとに受付を締め切った後にご連絡いたします。



交通

神奈中バス 本厚木駅北口1番のりば
「あつぎ郷土博物館」行き
終点下車 目の前すぐ

利用案内

開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)
入館：無料
休館日：毎月最終月曜日

問合せ

あつぎ郷土博物館

住所：〒243-0206 神奈川県厚木市下川入1366番地4
電話：046-225-2515 Eメール：8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp



2月17日 (土)

主催：厚木市

10:00~16:00

アウトドアギア・グッズ展示販売会
トークショー、お楽しみ抽選会なども♪

詳しくはHPをチェック!!

入場無料!





Outdoor Gear アウトドア製品の展示・販売&デモ

販売ブース

アウトドアメーカー・販売店のブースではテントやタープなど、見ただけではわからない実際の大きさや、ギアの質感・使い勝手、ウェアのサイズ感など実物を見て、触れて確認できます。



Mobility 移動するだけじゃない！ Car & Bicycle

スタイルカー展示

アウトドアフィールドで様々なアクティビティを楽しむ人達に向けてカスタムされたスタイルカーを展示。フィールドや遊びの種類を問わず使いやすいクルマは、移動手段ではなくひとつの「ギア」としてあなたのアウトドアライフをより充実させる♪



自転車で楽しむ新しいアウトドア

椅子だけをもって外に出る手軽なアウトドアアクティビティ「チェアリング」と、もっとも手軽なモビリティである自転車を使った新しいアウトドアの楽しみ方。ブースでは焼きたての焼き芋とマシュマロをプレゼント！※数量限定



チャイルドトレーラー体験

自転車用ベビーカー、チャイルドトレーラーを取り付けた自転車をご試乗いただけます。風を切って走る爽快感をお子様と一緒に共有してみたいはいかがでしょうか？



Food あつぎOECフードや人気のフードトラック&試食

あつぎOECフード&フードトラック

厚木市にはコンテストで入賞した食品や、古くから市民に愛され続ける食品がたくさん。厚木市が認定した食品「あつぎOEC(おいしい)フード」から、厚木市名産のお酒や鮎の塩焼きなどをご堪能ください。



絶品ガーリックライス試食

絶品のガーリックライスを手軽に作れる噂の調味料「G飯の素」で作られたガーリックライスをご試食。香りも、味も、ビジュアルも存分に堪能してください。



スウェーデンキャンドルで焼くマシュマロ体験

ヤマザクラを使った香り高いスウェーデンキャンドルを使ってマシュマロを焼いてみませんか？火が広がりにくいスウェーデンキャンドルはお子様でも安全です。



Special Contents



あすわ たいぎ キャンプ芸人の阿諏訪 泰義さん トークショー

焚火会のメンバーでキャンプ芸人のあすわ たいぎ 阿諏訪 泰義さんによるトークショーを開催！自身のブランド「BlueMoment」も出店！キャンプの楽しみやソト飯の美味しさなど、アウトドアの魅力を語っていただきます。

お楽しみ 抽選会

来場アンケートに答えると抽選会に参加できます。当選すると各ブースからの景品をプレゼント！



Instagram



X

